

The background features several overlapping green diamond shapes of varying sizes and orientations. Some are solid green, while others are outlined in green. The diamonds are positioned in the corners and along the sides of the page, creating a modern, geometric design.

令和 8 年度 知財力開発校支援事業

実践内容に関する報告書
(実践事例集)

目次

令和 7 年度「知財力開発校支援事業」実践内容に関する報告書

第1章 事業概要.....	3
第1節 事業目的及び本報告書について	3
1-1-1. 目的及び経緯.....	3
1-1-2. 本報告書の内容	6
1-1-3. 参加学校数の推移.....	6
第2節 参加校の指導対象・取組内容.....	9
第2章 参加校の活動内容とその結果.....	21
第1節 活動の概要	21
2-1-1. 初参加校と参加経験校の学校数	21
2-1-2. 指導対象について	22
第2節 参加校における活動内容とその成果	23
2-2-1. 指導法とその成果.....	23
2-2-2. 新たに開発または導入した指導方法及び他校と連携した取組.....	35
第3節 学習用資料の活用状況	36
2-3-1. 本年度参加校で使用されたテキスト等の種類と利用状況と指導効果	36
2-3-2. 補助学習用資料の活用法	37
2-3-3. 学習用資料の改良・新しい学習用資料の開発	37
第4節 学習用資料の活用状況	39
2-4-1. 知的財産委員会等の知財人材育成の推進組織の設置と活動	39
2-4-2. 知的財産関連学校行事の実施.....	40

I. 令和 7 年度 アドバイザーによる講評

(1)令和 7 年度アドバイザー一覧.....	I-1
(2)アドバイザーからの講評	I-2

II. 令和 7 年度 参加校実践事例集(年間指導報告書の要約書)

各校の取組の関連法.....	II-1
普通.....	II-5
農業.....	II-39
工業.....	II-51
商業.....	II-91
水産.....	II-111
家庭.....	II-115

情報.....	Ⅱ-119
福祉.....	Ⅱ-127
高等専門学校.....	Ⅱ-131

Ⅲ. 令和 7 年度 年間活動概要

1-1. 年間活動概要.....	Ⅲ-1
1-2. 第1回事業運営連絡会.....	Ⅲ-2
1-3. 事業説明会.....	Ⅲ-4
1-4. 研究会事前調整会議.....	Ⅲ-6
1-5. 研究会.....	Ⅲ-8
1-6. 年次報告会事前調整会議.....	Ⅲ-10
1-7. 年次報告会.....	Ⅲ-12

第1章 事業概要

第1節 事業目的及び本報告書について

1-1-1. 目的及び経緯

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで「知的財産推進計画第1期(2003～2005年度)、第2期(2006～2008年度)」の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20(2008)年度計画では、知的財産推進計画2008の「第5章4.国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進すること」、(2)「地域における知的財産教育を推進すること」、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実することが述べられ、同じく、「第5章5.(6)専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21(2009)年度からの「知的財産推進計画第3期」の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のII-1-(3)-②において、「地域における知的財産教育を推進すること」が謳われている。

平成22(2010)年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中核に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」、「専門学校や大学と産業界等の連携によるプログラム開発の拡大」、「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等の連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23(2011)年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力的に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人材の育成・確保」も挙げられている。

平成24(2012)年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新

たな挑戦の中の「3. 新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦」においては、「知財イノベーションのための総合戦略を協力を推進する。」とし、更に「最先端の知財マネジメント人材を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人材を加速的に育成・確保する「知財人材育成プラン」を強力に実行する。」とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、「1. ③次世代の知財人材を育成し確保する。」として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人材(知財マネジメント人材)」にまで、知財人材の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25(2013)年の知的財産推進計画2013では、「3. グローバル知財人材の育成・確保が上げられており、更に平成26(2014)年の知的財産推進計画2014では、「6. 政府が中心となった人材育成の場の整備」として、政府が主導的な役割を果たして知財人材の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27(2015)年の知的財産推進計画2015では、「8. 知財人材の戦略的な育成・活用」のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28(2016)年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材” を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働(産学官連携による支援体制構築)の実現

平成29(2017)年の知的財産推進計画2017では、「Ⅱ. 知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進 3. 「国民一人ひとりが知財人材」を目指した知財教育・知財人材育成の推進」の項目が掲げられ、その項目における現状と課題として「発達の段階に応じて、新たな発見や思考の源泉となる創造性を育むとともに、知的財産の保護・活用の重要性に対する理解の増進と態度形成を図り、もって知的財産の創造に始まり、保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出すための人材を育む教育(知財創造教育)」の全国的な普及を推進することが求められている。

平成30(2018)年の知的財産推進計画では、「2. 知的財産推進計画2018重点事項 (1)これからの時代に対応した人材・ビジネスを育てる ④知財創造教育・知財人材育成の推進」において、「イノベーションの創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり他の様々なものと組み合わせたりして、新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要である。」「今後は、知財創造教育を一層教育現場に浸透させるための取組を行うとともに、高等学校における知財創造教育の体系化や、現場の教職員が知財創造教育を実践できるようにするための支援方策について検討することが求められる。」とされている。

その他教育現場においては、高等学校における新学習指導要領が平成30(2018)年3月に公示され、同要領において、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが急速に変化し予測不可能な社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する」ことが基本的な考え方の一つとされている。「高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められる」として、「①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等」の「資質・能力の三つの柱が、偏りなく実現されるよう、…授業改善を図ること」とされ、例えば、理数教育においては、「将来、学術研究を通じた知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、新たな探究的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」が新設された。この新高等学校学習指導要領は令和4年(2022)年4月1日以降の「第1学年に入学した生徒(略)に係る教育課程及び全課程の修了の認定から適用」されることとなっており、今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されると考えられる。

このような流れに先立ち、「知財力開発校支援事業(以下、「本事業」という。)」の前身となる事業として、平成12(2000)年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」が開始された。平成12年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校(平成13(2001)年度から実施)、商業高等学校(平成14(2002)年度から実施)、農業高等学校(平成15(2003)年度から実施)においても順次実施された。その後、平成20(2008)年度より全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成12(2000)年度から平成22(2010)年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財人材の育成(知財教育)の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成23(2011)年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業(以下、「開発事業」という。)」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家(弁理士等)とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取組を行うことを支援している。また、平成26(2014)年度からは、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、既に知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大3年間支援することを目的とした「展開型」に区分して事業が実施された。

令和2(2020)年度からは、全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校を対象に、生徒・学生が、身の回りのアイデアが社会では知的財産権として保護されていることや、ビジネスの中で権利として活用さ

れていることの実態に触れながら、知的財産の保護や権利の活用についての知識や情意、態度を育む特色ある学校の知財学習の取組を支援する「知財力開発校支援事業」が「開発事業(令和3年度迄をもって終了)」の後身の事業として新たに実施されている。

令和6(2024)年度からは、「知財力開発校支援事業」の参加校の対象が普通科高校にも拡大された。

1-1-2. 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程について分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この報告書は、参加校からの年間指導報告書や教員に対するアンケート結果等を元に作成している。

1-1-3. 参加学校数の推移

前身の事業となる「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」(平成19年度以前)、「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」(平成20～22年度)及び「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」(平成23～令和3年度)も含めた参加校数(延べ数)は、下記の表およびグラフのとおりである。

表1-1-1 参加校数の推移

実施年度	H17以前	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	合計 (延べ数)
普通	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	17	31
農業	46	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	9	3	1	3	3	5	4	4	6	218
工業	295	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	36	25	22	21 (6)	16 (4)	17	22	16	20	930
商業	68	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	21	12	10	7 (1)	7	6	4	4	10	359
水産	—	—	—	—	—	2	3	5	5	7	7	5	8	5	5	5 (1)	6	5	6	3	2	79
家庭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	1	2	4
情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	2	4	10
福祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	3
高等学校 合計	409	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	74	45	38	37	34	34	37	45	63	1634
高等 専門学校	65	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	8	7	4	4	4	4	5	3	2	261
全合計	474	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	82	52	42	41	38	38	42	48	65	1895

※令和2・3年度の()内の数字は、開発事業参加校の参加校数を内数として示している。

図1-1-1 令和7年度参加校の分布

令和7年度 採択校の校種・地区

普通 17校	農業 6校	工業 20校
商業 10校	水産 2校	家庭 2校
情報 4校	福祉 2校	高専 2校
計：65校		



中国地区——5校

- 野田学園中学・高等学校
- 岡山県立岡山芳泉高等学校
- 広島工業大学高等学校
- 山口県立徳山商工高等学校
- 山口県立田布施農工高等学校

四国地区——3校

- 徳島市立高等学校
- 香川県立多度津高等学校
- 愛媛県立松山商業高等学校

九州地区——11校

- 長崎総合科学大学附属高等学校
- 大分県立日出総合高等学校
- 熊本県立熊本農業高等学校
- 開新高等学校
- 大分県立鶴崎工業高等学校
- 熊本県立熊本工業高等学校
- 大分県立大分工業高等学校
- 大分県立中津東高等学校
- 鹿児島県立鹿児島工業高等学校
- 熊本県立天草拓心高等学校
- 大分県立情報科学高等学校

北海道地区——3校

- 札幌日本大学高等学校
- 東海大学付属札幌高等学校
- 北海道更別農業高等学校

東北地区——11校

- 宮城県松島高等学校
- 秋田県立大曲農業高等学校
- 山形県立鶴岡工業高等学校
- 宮城県工業高等学校
- 秋田県立湯沢翔北高等学校
- 宮城県大河原産業高等学校
- 宮城県南三陸高等学校
- 山形県立天童高等学校
- 山形県立鶴岡中央高等学校
- 東奥学園高等学校
- 一関工業高等専門学校

関東地区——15校

- サレジオン国際学園高等学校
- 立花学園高等学校
- 東海大学付属市原望洋高等学校
- 玉川学園高等部
- 東海大学付属高輪台高等学校
- 聖学院中学校高等学校
- 東海大学付属相模高等学校
- 長野県佐久平総合技術高等学校
- 群馬県立前橋工業高等学校
- 東京都立芝商業高等学校
- 神奈川県立小田原東高等学校
- 東京都立第五商業高等学校
- 千葉県立佐倉東高等学校
- 千葉県立袖ヶ浦高等学校
- 千葉県立柏の葉高等学校

中部地区——6校

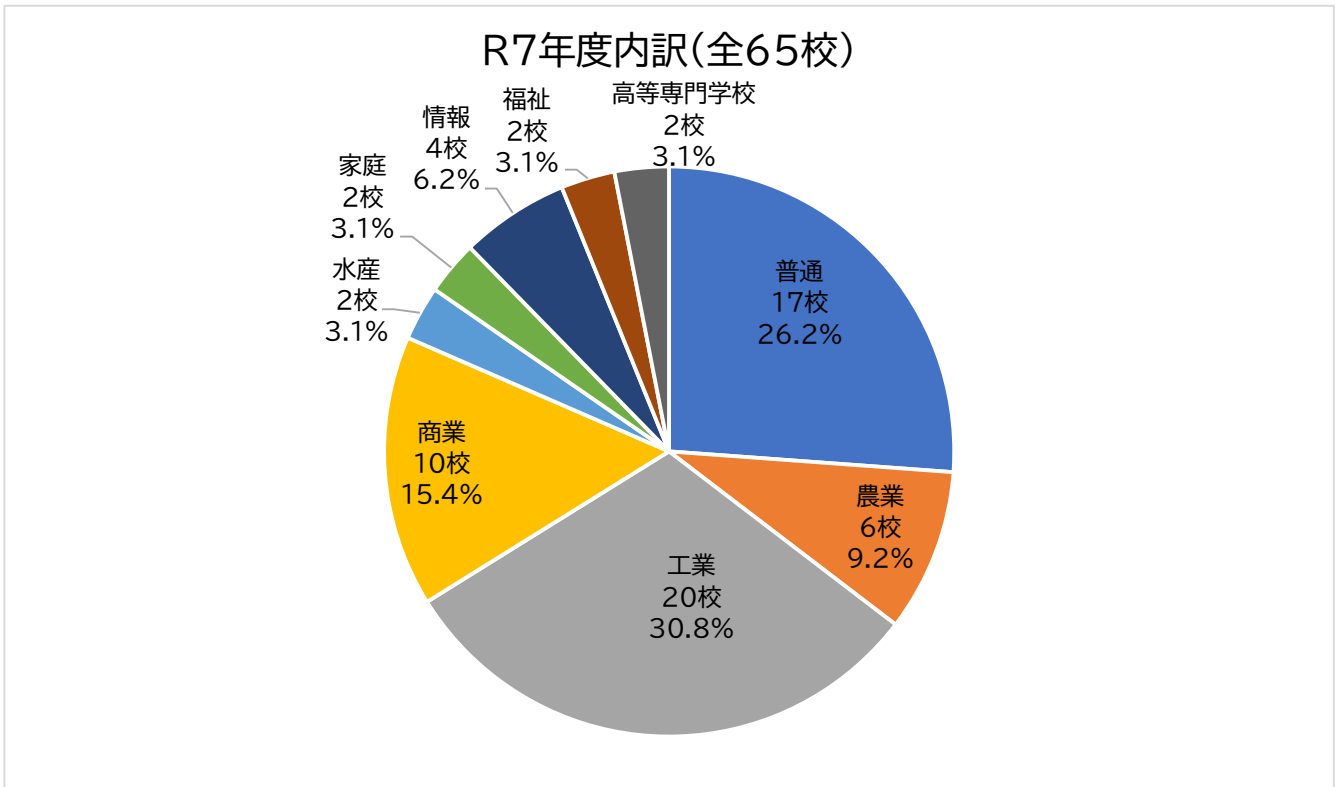
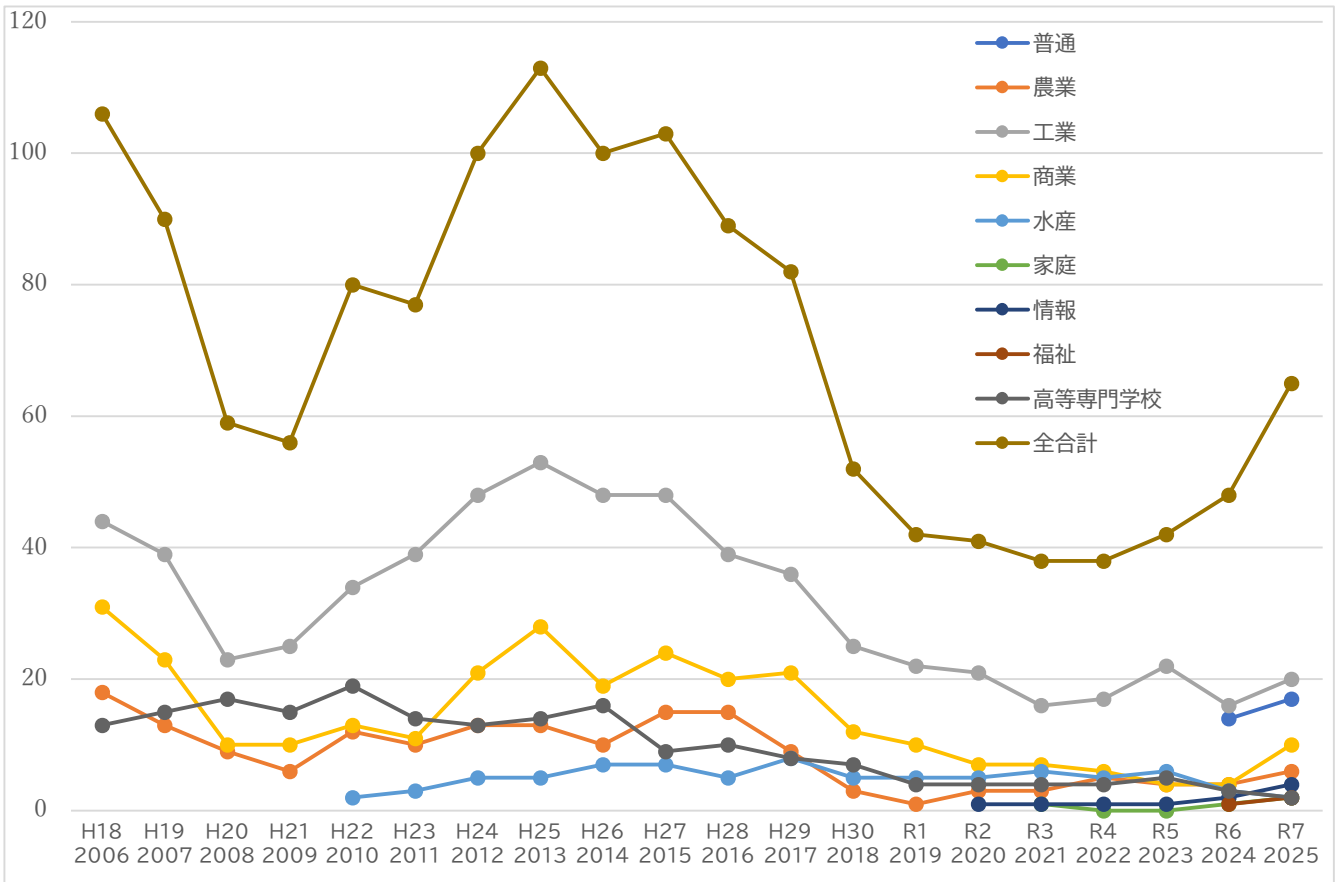
- 三重県立津西高等学校
- 岐阜県立岐阜農林高等学校
- 三重県立津工業高等学校
- 岐阜県立岐阜工業高等学校
- 岐阜県立岐南工業高等学校
- 富山高等専門学校

近畿地区——11校

- 福井県立高志高等学校
- 大阪府立農芸高等学校
- 大阪府立東淀工業高等学校
- 大阪府立堺工科高等学校
- 大阪府立工芸高等学校
- 大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校
- 大阪府立淀商業高等学校
- 兵庫県立長田商業高等学校
- 兵庫県立香住高等学校
- 和歌山県立熊野高等学校
- 京都府立京都すばる高等学校

(○印は、令和7年度新規参加校)

図1-1-2 校種別参加校数の推移



第2節 参加校の指導対象・取組内容

令和7年度参加校(普通17校、農業6校、工業20校、商業10校、水産2校、家庭2校、情報4校、福祉2校、高等専門学校2校 合計65校)の指導対象・取組内容(取組の目的・目標の要約)を記す。

表1-2-1各校の指導対象・取組内容

普通

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	・取組内容(目的・目標要約)
普 01	札幌日本大学 高等学校	1	普通科	ST 未来 創造 I、II /クラス別	<ul style="list-style-type: none"> ・ パテントコンテストにつながる取組 ・ 知財学習プログラムの充実と改善(教員向け)
		2			
普 02	東海大学付属 札幌高等学校	1	普通	現代文明 論(総合的 な探究)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉に貢献する発明品を考えよう ・ 知的財産権に関する講演 ・ 教員対象知的財産教育セミナー ・ 実践先進校訪問 ・ 指導教員による指導(中津東 佐藤先生)
		3	普通	LHR	
普 03	宮城県松島 高等学校	1	普通科	情報 I / 必修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産について学び、情報を発信しよう(ポスター製作) ・ プロモーションコンテンツ(動画・音声)製作・発信 ・ DX活動 Webコンテンツ製作・Webアプリ製作・発信 ・ データサイエンス「RESAS・白書等のデータを使用したデータ分析と課題解決にむけた取り組み」 ・ 情報セキュリティ・モラル研修 知的財産権について
		1	普通科	情報 II / 選択	
		1~3	普通科/ 観光科	特別活動 「LHR」	
		1~3	課外活動	部活動	
普 04	東海大学付属 市原望洋 高等学校	1	普通科	高校現代 文明論/ 授業形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な便利なグッズ(商品)から、知的財産を知ろう。 ・ アイデア商品を提案しよう。 ・ 起業家精神を理解する。 ・ 知的財産教育についての研究
		2	普通科	総合的な 探究の 時間/ 授業形態	
		3	普通科	総合的な 探究の 時間/ 授業形態	
普 05	玉川学園 高等部	3	普通科	SDGs 演習/授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンガポール南洋理工大学佐藤教授による講義 ・ 情報の授業における『閃きの番人』の教材利用 ・ シンガポール南洋理工大学佐藤教授の研究室訪問 ・ 探究スタートアップポスターセッション企画 ・ パテントコンテストへの挑戦 ・ その他コンテストに向けた取り組み ・ 3D プリンタの活用講座 ・ 工具の使い方・加工方法等の講義 ・ ビジネスプラン講座
		1~3	普通科	総合的な 探究の 時間/授業	
		1~3	普通科	課外活動	

普 06	サレジアン 国際学園 中学校 高等学校	中 2,3	本科 コース	ゼミ ナール (entrep reneur 養成講座)	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産に関する講義 研究と知的財産の繋がりを知る、石垣島の知的財産を知る 知的財産に関する動画上映
		高 1,2			
普 07	東海大学 付属高輪台 高等学校・ 中等部	1	普通科	高校現代 文明論(総 合的な学 習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産の尊重に関するレクチャー 知的財産の尊重に関するワークショップ 知的財産の尊重に関する生徒研修(東京税関羽田税関支署) 知的財産の尊重に関するディベート 知的財産の創造に関する往訪型の教員研修 知的財産の創造に関する内化 知的財産の創造に関する生徒研修(丸増園ほか)
		2	普通科	総合的な 探究の 時間	
		3	普通科	総合的な 探究の 時間	
		1~3	普通科	特別活動 ほか	
普 08	聖学院 中学校 高等学校	1	普通科	教科 「情報 I」	<ul style="list-style-type: none"> 3D プリンタ活用ワークショップ(基礎・マインドセット) 企業連携・専門家講義(著作権・肖像権) 高大連携 3D スキャン技術講座(大正大学) オリジナル入力デバイス開発と先行技術調査 対外成果発表と社会発信(サイエンスアゴラ・学会) サイエンスアゴラ 2025、4DFF、大阪研究会 生徒講師による小学生向け 3D モデリング講座
		2	普通科	授業 「STEAM」	
		1	普通科	探究活動 (有志)	
		1~2	普通科	特別活動・ 講演会	
普 09	東海大学 付属相模 高等学校	1	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産とその権利について学ぶ 既製品からアイデアを学ぶ 問題を解決する商品を開発する 開発した新商品の説明資料をまとめる グループ単位での学級内プレゼン 著作物について学ぶ 引用のしかたについて学ぶ
		2	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	
		3	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	
普 10	立花学園 高等学校	2	普通	総合的な 探究の 時間	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産の基礎講座 地域課題を見つけるフィールド調査 アイデア検証ワークショップ(住民・外部向け) 実装アイデアのブラッシュアップ講座 盛り上げ隊による地域活性アイデア発表ワーク 地域連携による商品開発 「たちばニヤン」商標登録プロジェクト 3D プリンタを活用した「まずやってみる」創造力育成プログラム
		1~2	普通	課外活動	
		1~2	普通	課外活動	
普 11	福井県立 高志 高等学校	1	探究 創造科	課題研究/ 課内授業	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権とはなにか？ 企業・研究機関研修 (核融合科学研究所・トヨタ会館・名古屋大学) 知的財産権はどのように守られているか？ 分かりやすく説明しよう① 分かりやすく説明しよう②
		1	探究 創造科	美術/ 課内授業	
		1	探究 創造科	校外学習/ 課外活動	
		2	理数 創造科	校外学習/ 課外活動	
		2	人文 創造科	校外学習/ 課外活動	
		2	人文 創造科	課題研究/ 課外活動	
		1	探究 創造科	全国規模大 会への参加 /課外活動	

		2	理数創造科	全国規模大会への参加/課外活動	
		2	人文創造科	全国規模大会への参加/課外活動	
普 12	三重県立津西高等学校	1	国際科学科・普通科	総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> 知財入門講演会 プレゼン講演会 「知財を知る」ための企業見学会 弁理士によるパテコンガイダンス パテントコンテストへの応募 地元の技術系企業との連携 地元企業との商品開発
		1	国際科学科	「知財を知る」ための企業見学会	
		2	国際科学科・普通科	課題研究(探究学習)	
普 13	岡山県立岡山芳泉高等学校	2	普通科	総合的な探究の時間/一斉	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究ガイダンス ポスターセッション 成果物作成 企業訪問(校外:内山工業株式会社赤坂研究所) 企業訪問(校外:季譜の里) パテントコンテスト応募準備、知的財産関連の法について学ぶ(山口大学講師による知的財産の講座)
		1	普通科	総合的な探究の時間/一斉	
		1~3	普通科	課外活動	
普 14	広島工業大学高等学校	2	K-STEAM 類型	STEAM II (総合的探究の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 発想法ワークショップおよび知財面を意識した新規性の検証方法 ものづくり関連コンテスト参加への取り組み ノベルティグッズを作ろう(校内コンテスト実施)
普 15	野田学園中学・高等学校	4~5	探究コース	総合的な探究の時間/講義 校外学習	<ul style="list-style-type: none"> 大学教員による出前講義① 大学教員による出前講義② 発明体験ワークショップ DXスペース書架への知財学習コーナーの設置 大学知的財産センター及び関連企業訪問 ものづくりDX探究塾
		4~5	医進コース	特別活動/講義	
		—	インフォメーションデザイン部	部活動/ワークショップ	
普 16	徳島市立高等学校	1	理数科	理数探究 I	<ul style="list-style-type: none"> 理数科セミナー(京都) 理数探究 II 徳島 innovation
		2	理数科	理数探究 II	
		2	普通科	総合的な探究の時間	
普 17	長崎総合科学大学附属高等学校	全	全	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産セミナー(講演会) 教職員研修・環境整備 道の駅弁当試作 高校生ビジネスプラン・グランプリ応募 三和酒類株式会社に学ぶ、企業見学・知財学習セミナー(大分県日田市:いいちこ日田蒸留所) パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト応募 文化祭でのオリジナルキーホルダー等製作・販売 ロボコン大会にむけて部品製作 情報教育コンテスト応募
		1~2	地域ビジネス	コース科目	
		2~3	文理ハイブリッド	コース科目	
		全	美術部・科学技術部	部活動	
		全	科学技術部	部活動	

農業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
農 01	北海道更別農業高等学校	1	農業科 生活科学科	農業と情報	<ul style="list-style-type: none"> • スパルト小麦の栽培と加工特性の研究 • スパルト小麦の栽培と加工特性の研究 • 本校で今後実施していく小麦の残渣物ふすまを用いたきこ栽培方法が知的財産に抵触していないか群馬県立利根実業高校に先進地視察を行う。 • 高齢者に特化した食品の開発と知財教育をテーマに株式会社石屋製菓様を通して学習を深める予定でした。事前に立案した計画とは違うが、株式会社石屋製菓主催「食の学校祭」に参加し、知的財産学習を実施した。 • 三菱みらい育成財団主催高校生MIRAI万博の参加と知財教育 • 知的財産の基礎・基本を理解する • 発明とは何か、パテントコンテストは何かを理解する
		2~3	農業科 生活科学科	総合実習 課題研究 /分会活動	
農 02	秋田県立大曲農業高等学校	2	農業科学科	課題研究 野菜	<ul style="list-style-type: none"> • 実験圃場の選定 • 下水汚泥コンポストの散布・栽培試験 • 完成製品の普及啓発 • キイチゴの栽培種と野生種の比較試験 • 果樹の施設栽培の可能性 • キイチゴ類やブルーベリーの代替資材試験 • 大阪関西万博での成果発表
		2	農業科学科	課題研究 果樹	
		3	農業科学科	課題研究 野菜	
		3	農業科学科	課題研究 果樹	
農 03	岐阜県立岐阜農林高等学校	1	流通科学科	食品流通 座学	<ul style="list-style-type: none"> • ペーパーブリッジの作成 • マーケティング • 知財セミナーと振り返り • KJ法による創造性の学習 • 商品や社会、情報活用 • 商品や社会、情報活用 • 商品や社会、情報活用 • 商品や社会、情報活用 • ブランディングと商標登録の方法 • 創造性を鍛える演習 • 紙飛行機を遠くまで飛ばす • 課題研究の取組と知的財産 • 知財学習と他校の取組 • 知財に関する特別授業 • 知財研修会 • 知財セミナー
		1~3	園芸科学科	総合実習、 課題研究 実習	
		1~3	動物科学科	総合実習、 課題研究 実習	
		1~3	森林科学科	総合実習、 課題研究 実習	
		1~3	環境科学科	総合実習、 課題研究 実習	
		1~3	食品科学科	総合実習、 課題研究 実習	
		1~3	生物工学科	総合実習、 課題研究 実習	
農 04	大阪府立農芸高等学校	2~3	ハイテク農芸科	総合実習・ 課題研究・ 園芸流通・ 農業経営	<ul style="list-style-type: none"> • 新商品のレシピ開発を行い、Seed様やフランシーズ様と一緒に商品化にこぎつけた • 自分たちで作成した商品のマーケティングを行う中で、著作権や商標権の重要性についてより深く学ぶ。特に、学んだことを有形化し、外部への報告などを行う。 • 全国の知的財産を学んでいる生徒同士での交流やディスカッションを通じて知財マインドを醸成する。また、教員同士でのグループディスカッションや情報共有の場を設ける。
		1~3	ハイテク農芸科	部活動	
		2~3	資源動物科	総合実習・ 課題研究	
農 05	熊本県立熊本農業高等学校	3	畜産科	課題研究/ 座学	<ul style="list-style-type: none"> • 畜産科「知的財産学習」セミナー • 牛肉加工・店舗型販売先進地視察研修 • 大阪・関西万博における知財学習成果発表 • 畜産に生きる会議 • 知財学習の視点を加えた課題研究発表会 • 佐賀県立有田工業高等学校デザイン科課題研究発表会
		2	畜産科	課題研究/ 座学	
		1	畜産科	農業と環境 /座学・実習	
農 06	大分県立日出総合高等学校	3	農業経営科	総合実習・ 課題研究	<ul style="list-style-type: none"> • 原木シイタケ栽培の課題調査 • 栽培棚製作 • 発明体験ワークショップ参加 • ブランド化へ向けた栽培方法調査 • 課題研究発表会 • 課題研究発表会
		3	機械電子科	総合実習・ 課題研究	
		2	農業経営科	総合実習	
		1	機械電子科	総合実習	

工業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 01	宮城県工業高等学校	3	情報技術科	課題研究(総合的な探究の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の「困った」を自分の課題とする明確な課題意識の育成(知財担当教員による知財講話) ものづくり(総合的な探究の時間(課題研究)) 「探究とは何か」の明確化、テーマ設定のコツ、 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成
		2	情報技術科	情報技術実習	<ul style="list-style-type: none"> (知財担当教員による知財講話) ものづくり・研究(化工部) 学都「仙台・宮城」サイエンスデイ出展(東北大学)
		1	情報技術科	工業技術基礎	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり・研究(情報研究部) 第63回技能五輪全国大会 ウェブデザイン職種 銀賞(2年連続) →台湾・台北で開催の第3回技能五輪アジア大会のウェブデザイン職種に高校生として唯一日本代表選手として出場
		3	機械科	課題研究(総合的な探究の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 第20回若年者ものづくり競技大会若年者ものづくり競技会 業務用 IT ソフトウェアソリューションズ職種 銀賞 WRO 全国大会出場 プログラミングコンテスト準優勝
		3	化学工業科	課題研究(総合的な探究の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり・研究(自動車部) ソーラーラジコンカーコンテスト in 白山参加 新潟大学 三俣哲教授による講話 ものづくり・研究(化学工業科)
		2	化学工業科	化学工業実習	<ul style="list-style-type: none"> 高校生ものづくりコンテスト宮城県大会化学分析部門において第二位、三位に入賞 製品開発の成功の鍵(問題解決の糸口を知る) 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 知財担当教員および外部講師による講話
		1	化学工業科	化学工業実習	<ul style="list-style-type: none"> ソリューション提案 地元企業との連携(出前授業) AI を利用した社会課題の解決と社会実装するための考え方
		全	情報技術研究部	部活動	<ul style="list-style-type: none"> 発明体験ワークショップ参加 パテントコンテストへの布石
		全	自動車部	部活動	<ul style="list-style-type: none"> コンテスト応募 パテントコンテストへの応募 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 知財担当教員による講話および授業展開
		全	化工部	部活動	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒への技術的な新聞記事の紹介 河北新報の技術的記事の特集、編集し配付、あらゆる技術で「何ができるか」を知る、技術による社会課題の解決、進路選択への一助
		全	図書部	LHR	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション能力向上のための特別授業 スマート農業を通じた情報技術を活用したソリューション提案 QR コードを活用したソリューション提案
		3	国語科(図書部)	論理国語	<ul style="list-style-type: none"> 校内教員研修 岐阜農林高校知財担当者との知財学習討議
工 02	秋田県立湯沢翔北高等学校	1	専攻科生産技術科	産業社会学	<ul style="list-style-type: none"> 弁理士を招いた特別授業① 調査, 研究, 構想, 設計(福祉機器コンテスト) 試作, 改良, 応募(福祉機器コンテスト)
		2	専攻科生産技術科	産業社会学、RP 実習、CAD/CA M 実習	<ul style="list-style-type: none"> 調査, 研究, 構想, 設計(パテントコンテスト) 試作, 改良(パテントコンテスト) 弁理士を招いた特別授業② ハート形の型の設計と試作
工 03	山形県立鶴岡工業高等学校	3	情報通信科	工業/課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究により自動養蚕工場の研究 国際弁護士・弁理士による知的財産権についての講話
		全	全5学科	全校集会	<ul style="list-style-type: none"> 国際弁護士・弁理士による知的財産権についての研修会 アドバイザーによる商標申請書類作成の指導
		2~3	全5学科	生徒会理事+有志生徒	<ul style="list-style-type: none"> 先進校視察(東海大学付属高輪台高等学校・聖学院高等学校) 発明体験ワークショップ参加・パテントコンテスト応募(仙台) 学校オリジナルロゴデザインの制作

工 04	群馬県立 前橋工業 高等学校	1	機械科	工業技術 基礎	<ul style="list-style-type: none"> 「工業情報数理」、「工業技術基礎」での授業 J-PlatPat(特許情報プラットフォーム)を活用した講習 弁理士や知財に携わる方による特別授業 製品作りのいろはを学ぶ 社会における知財の現状について学ぶ 建築研究部員への知財活用の意識づけ
		2	機械科	機械工作、 製図	
		3	機械科	機械工作	
		1~3	建築科	部活動	
工 05	長野県 佐久平 総合技術 高等学校	3	機械 システム 科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 地元弁理士との都合が付かず急遽長野県知財総合支援窓口の支援担当者に来校いただきセミナーを実施した。 創作活動における企業連携として地元企業 2 社へ訪問を実施した 創作活動として EV バイクを製作し三重県鈴鹿市で おこなわれる全国大会へ出場した
		3	電気 情報科	課題研究	
工06	岐阜県立 岐阜工業 高等学校	3	航空機械 工学科	課題研究/ グループ 毎	<ul style="list-style-type: none"> インターステラテクノロジス(株)の見学 ヒット商品はこうして生まれた(岐阜版) 税関見学 メカトロテックジャパン 2025 見学 パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの参加・応募 パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの参加・応募 モノづくり教室、ワークショップの実施 ソリューションシステムを構成する機器などについて学ぶ 校種間連携と技術的ブレイクスルーをテーマとした新規マーケティング参入 研究会・報告会への参加
		2	航空機械 工学科	実習/ クラス	
		3	設備シス テム工学 科	課題研究/ グループ 毎	
		全	岐阜エテ クノLAB	部活動	
工07	岐阜県立 岐南工業 高等学校	3	自動車 工学科	課題研究/ グループ 学習	<ul style="list-style-type: none"> 企業で活用されている知的財産の講演 企業で活用されている知的財産の講演 パテコン・デザインパテコンへの取組 商品化への取組 学科エンブレムの作成(トヨタ博物館、デザイン事務所)
		1~3	電気 工学科	部活動	
		1	電子 工学科	工業情報 数理/講演	
工08	三重県立 津工業 高等学校	1~3	機械・ 電気・ 電子	部活動(機 械研究部)	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権とは何かを知る 知的財産権とは何かを知る 地域企業の知的財産権について知る 地域企業の知的財産権について知る
		3	機械	課題研究	
		1~3	機械・ 電気・ 電子・ 建設	学校行事	
工09	大阪府立 東淀工業 高等学校	1	全	キャリア ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産制度の意義についての学習 企業技術者による講演会 弁理士による 3 年生対象校内セミナーの開催 特許申請や商標登録を視野に入れた試作品の製作 知的財産管理技能検定受検のための学習 CUBIS を使用しての知財学習 教員の知的財産に関わる各種研修会への参加
		2	全	総合的な 探究の 時間	
		3	全	課題研究	
		1~3		有志生徒	

工10	大阪府立 工芸 高等学校	1~3	インテリア デザイン科		<ul style="list-style-type: none"> • ロゴデザインに関わる知的財産権(ビジュアルデザイン科) • ロゴデザインに関わる知的財産権(映像デザイン科) • 実習作品での知的財産権の利用(プロダクトデザイン科) • 美術科の実習における模倣と自主制作についての知識・技能を養う • デザイン思考で共同的なものづくりを行う課題解決型学習(PBL 型学習) • 「インテリアデザイン実習」における作品制作と知的財産力の育成 • 工業情報数理「知的財産学習」への取り組み
		3	ビジュアル デザイン科		
		2~3	映像 デザイン科		
		2	プロダクト デザイン科		
		2~3	美術科		
工11	大阪府立 堺工科 高等学校	2	全学科	総合的な 探究の 時間	<ul style="list-style-type: none"> • 弁理士による知的財産に関する講義 • 日本 IBM との共同学習 • 大学教授からの講演(大阪工業大学) • 生徒がオリジナル作品の製作
		3	全学科	課題研究	
工12	山口県立 田布施農工 高等学校	1	全学科	産業基礎	<ul style="list-style-type: none"> • 知財学習会(1年生) • デザインパテントコンテストへの参加 • モノづくりフェア事前指導 • モノづくりフェア参加 • 中学校連携 • 農工祭 • ティーチャーズものづくりー • ロボット製作
		2	機械制御科	機械工作	
		3	機械制御科	課題研究	
工13	山口県立 徳山商工 高等学校	1	機械科	工業情報 数理	<ul style="list-style-type: none"> • 教室に知財文庫設置 • 知的財産の基礎 • 個人で創造 • J-PlatPat の使い方 • パテントコンテスト資料作成指導 • 外部講師講演会(マツダ株式会社様) • TRIZ の活用法(指導途中) • 知財創造実践甲子園事前講習会参加 • 知的財産教育研究会 in 九州 参加 • パテントコンテスト参加 • 地域・学校に必要なものづくり(課題研究) • 地域産業の研究・企業連携(課題研究) • ものづくりと関連付けた知財学習(課題研究) • 中学生向け知財学習会開催(体験入学) • MakerFair 研修に参加 • 周南 MakersLab.(工作教室・おもちゃ病院) • 知財力開発事業年次報告会参加 • 先進校視察(山口大学)
		2	機械科	機械設計	
		3	機械科	機械設計	
		1~3	機械科・ 商業科	周南 Makers Lab.(自 由参加)	
工14	香川県立 多度津 高等学校	3	機械科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産基礎と発想力を鍛える(紙で高いタワーを創り発想力を高める訓練) • 競技用ロボットや小型船舶等製作とその技術を活用した便利器具の考案 • 企業講師による鋼材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創造セミナー(創造作品製作) • 問題発見・改善シート活用による地域貢献できる装置・器具の発想(アイデア作品の開発) • 「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成(探究と知財の関係)
		2	機械科	造船工学	
		1	機械科	工業技術 基礎	
		1~3	溶接部	課外活動	
工15	開新 高等学校	1	機械科	工業技術 基礎/工場 見学・講話	<ul style="list-style-type: none"> • 知財学習協力企業(金剛株式会社)への工場見学と講話 • 外部講師によるマシニングセンタの実習 • ロボットの機能・機構についての学習 • 校内傘立ての改良
		3	機械科	課題研究/ 実習	
工16	熊本県立 熊本工業 高等学校	2	情報 システム科	課題研究・ 専門科目	<ul style="list-style-type: none"> • 知財基礎講座(村川教授による J-PlatPat 活用) • 発想力育成ワーク(TRIZ・SCAMPER の導入) • J-PlatPat 検索演習とアイデア差別化の実践 • パテント(デザイン)コンテスト応募準備 • 中間発表会(フィードバックによる改善) • 弁理士による出願書類作成講座(高宮弁理士) • 成果発表会(外部講師・弁理士による講評) • 知財リテラシーの定着と振り返り • ブランディング講義(古家氏によるデザイン思考)
		3	情報 システム科	課題研究	
		2	建築科	課題研究	

		1	情報システム科	専門科目(合同授業)	・知的財産教育研究会 in 九州(福岡県福岡市)
E17	大分県立大分工業高等学校	全	機械・電気・電子	課題研究/DAIKO水車プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド発電装置の研究 ハイブリッド発電装置の改良 ハイブリッド発電装置の実証実験 各種大会への参加(大阪・関西万博) 各種大会への参加(ボランティアアワード) 科目「工業技術基礎」における探究学習で知的財産を学ぶ 他校との教材の共同研究(松江高専との共同研究) 他校との教材の共同研究(函館工業高校への視察)
		1	全	工業技術基礎/探究学習	
E18	大分県立鶴崎工業高等学校	3	機械科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産についての学習 農作物栽培 校内講演会 無人販売所作成(移動式) 盗難防止装置作成 無人販売体験 課題研究発表会
		1~2	機械科	講義	
		1~3	機械科	研究発表会	
E19	大分県立中津東高等学校	3	生産システム科	課題研究(授業)	<ul style="list-style-type: none"> エコデンカーの製作 地域での困りごと解決 風力発電 廃油で発電 外部講師招聘 紙タワー・ブリッジ TRIZを用いた問題解決 知的財産教育研究会 in 九州 の開催
		3	機械科	課題研究(授業)	
		全	生産システム科	外部講師招聘	
		2	生産システム科	地域産業技術(授業)	
		2	生産システム科	実習(授業)	
E20	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	1	全クラス	総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> 工業技術基礎 知的財産教育出前授業 知的財産教育講演会 知的財産推進委員会(学校・東京) 課題研究での取り組み(学校・県民交流センター) パテントコンテストへの挑戦(学校・東京) 技術アイデアコンテストへの応募 ロボット競技大会へ参加(学校・川内・福島)
		1	I類6クラス	工業技術基礎	
		3	電子機械系	課題研究	
		1	電気技術系	機械部, メカトロ部	

商業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商01	宮城県大河原産業高等学校	1	企画デザイン科	商業デザイン実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 「デザイン」する上での心構え 商標権を取得する意義や目的 商標登録について 知財学習先進校の取り組み 商標権を取得するメリット
		2	企画デザイン科	商業デザイン実習Ⅱ	
		3	企画デザイン科	商業デザイン実習Ⅲ	
商02	宮城県南三陸高等学校	1~3	商業科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 「知的財産」について知ろう 高校生が地域の魅力を発信しよう 地域の魅力をみつけよう 地域の課題を解決しよう 指導力向上
		1~3	商業・普通科	部活動	
		2	普通科	地域学	
		3	普通科	地域探究学	
商03	山形県立天童高等学校	3	総合学科(ビジネス総合)	課題研究/系列選択者	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府立高校2校(淀商業・大阪ビジネスフロンティア) アドバイザーによる出前講座(相談) スクールキャラクターの創作 INPIT 山形窓口による商標権に関する講話

		3	総合学科(福祉総合)	生活支援技術/系列選択者	<ul style="list-style-type: none"> 商標権登録の相談 米粉を使った商品開発
商 04	東京都立芝商業高等学校	3	ビジネス科	商品開発と流通、ビジネス法規/講演	<ul style="list-style-type: none"> 企業の事例に学ぶ産業財産権の活用についての講演 本校オリジナル商品の商標についての調査研究 本校オリジナルキャラクターの商標についての調査研究
		3	ビジネス科	課題研究/講演、調査、報告	
商 05	東京都立第五商業高等学校	2	ビジネス科	学校設定科目「ビジネスアイデア」	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会社経営等により知財力の視点から商品・サービスについてアイデアを学ぶ 地域の会社経営等により知財力の視点から SDGs の課題解決についてアイデアを学ぶ
商 06	神奈川県立小田原東高等学校	3	総合ビジネス科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> BYD 株式会社様協力の下、オリジナルカレーの考察を行うとともにパッケージデザインについての考察を行い、知財についても触れた。 産業能率大学の先生と学生に協力していただきグリコのパッケージデザインについて考察するとともに、Well being を踏まえたパッケージを考察した。また J-platPat を活用し、製品の所有する知的財産を調べた。製品はロッテからグリコへ変更した。 おだりんピック開催に向けオリジナルキャラクターの制作を行った。制作時にはグラフィックイメージパークを活用し著作権等への配慮と考察を行った。また小田原市へのプレゼンを実施し、外部への発表の機会となった。発表資料作成時も著作権等を考えながら制作した。 小田原市の小田原提灯、箱根の寄木細工の伝統工芸に触れるとともに、その付加価値について考察し、新たな価値の創造について産業能率大学の学生とともに取り組んだ。(取組継続中) 高校生によるロックイベント「ODAROCK」の開催にあたり、小田原市にプレゼンを行った。プレゼン資料作成に際して著作権等を考慮し作成した。企画が採択され、実施の運びとなった。普段使用している楽曲についての著作権について考察するとともに JASRAC への利用申請等を行う機会となった。また著作権についての考察を深めるため、地域の企業と作曲家に協力いただき DTM のワークショップを開催していただいた。
		1	総合ビジネス科	ビジネス基礎	
		1	普通科・総合ビジネス科	総合的な探究の時間	
		1	商業研究部	部活動	
商 07	大阪府立淀商業高等学校	1	商業科	ビジネス基礎	<ul style="list-style-type: none"> 発明工作授業(マシュマロチャレンジ) 日本人の発明と世界の発明品について調べ学習を行う。どのような特許を取得しているか J-PlatPat で調べ学習を行い、サイトの使い方を学ぶ。 インスタントラーメンの発明秘話の DVD の視聴と発明記念館の社会見学 知的財産権の基礎知識について学ぶ デザイン思考ワークショップ 小学生に知的財産についての関心を持ってもらうイベントを開催(8月8日(金)実施) 生成 AI を使った創作物 防災備蓄パンのパッケージ開発 パテントコンテスト発明体験ワークショップ 第11回淀翔モールオリジナル商品の開発と開催 コクヨ株式会社より特別講演 万博会場で創作ワークショップ メタバース淀翔モールの開発 全国産業教育フェア福島県大会の参加 万博で未来を体験しよう！ビジネス技術アイデアコンテスト 知財力開発支援事業 教員研修 AKINDO SPARKLE 株式会社の商標登録を行うための出願申請相談
		2	商業科	情報処理	
		3	商業科	マーケティング	
		3	商業科	アントレプレナーチャレンジ I	
商 08	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校	1	グローバルビジネス	ビジネス基礎	<ul style="list-style-type: none"> IP ePlat を利用した e ラーニング(主体的な学習) 担当教員研修 発想体験ワーク 知的財産教育学習 SocialDreamContest への取り組み 弁理士を招いての特別講義 関西 NBC B-hack High school 日本弁理士会主催ビジネスコンテストへの取り組み
		2	グローバルビジネス	ビジネス・マネジメント	
		3	グローバルビジネス	グローバル経済	
商 09	兵庫県立長田商業高等学校	1	創造ビジネス科	地域創造	<ul style="list-style-type: none"> 自動水やり装置と水耕栽培を利用した自立型農園の開発 弁理士 弁理士 産業財産権の講義と商標登録 商品開発 企業訪問
		2	創造ビジネス科	地域創造	

		3	創造 ビジネス科	地域創造 課題研究	
		4	創造 ビジネス科	地域創造	
商 10	愛媛県立 松山商業 高等学校	2	流通経済科	商品開発 と流通	<ul style="list-style-type: none"> • 担当教員研修 • 県内におけるヒット商品の誕生背景 • ヒット商品に関連する知財の保護・活用 • 商品開発協力企業による講演会(有限会社ホクコ) • 商品開発協力企業による講演会(有限会社大西陶芸) • 全国的に有名なお土産商品についての調査・研究 • 知的財産に関する講義(各クラスの担当教員による) • 県内の特産品・伝統工芸品についての調査 • 商品コンセプトの策定 • 商品企画書の作成 • 開発商品についての PR 活動 • 開発商品の販売活動(本校の文化祭バザーで実施) • 開発商品の改善

水産

学校 番号	学校名	学年	学科	科目/形 態	取組内容(目的・目標要約)
水 01	兵庫県立 香住 高等学校	1	海洋 科学科	水産海洋 基礎	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産に関する出前授業・(商標について) • 知的財産に関する出前授業(J-PlatPat の使い方) • 知的財産に関する基礎学習(ペーパータワー)
		2	海洋 科学科	総合実習	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産に関する基礎学習 場所:水族館二フレルを訪問しウェブウォール構造に関する知財について学習 • 研究活動(課題研究)・未利用低利用水産物の商品開発 • 研究活動(総合実習)・水産食品の商品化 場所:角屋食品、安藤百福発明記念館
		3	海洋 科学科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> • 研究活動(総合実習)・海洋資源の開発 場所:沼津港深海水族館(職員研修) 深海生物を中心とした深海資源の探索に関わる知財の研修を実施 産業技術総合研究所 関西センター(職員研修) バッテリー教育講座を受講しバッテリーと知財に関する研修を実施
		1~3	全校生徒	総合実習	<ul style="list-style-type: none"> • 研究活動(総合実習)・漁具の開発 場所:ハヤブサ • 研究発表会
水 02	熊本県立 天草拓心 高等学校 マリン校舎	1	海洋 科学科	総探・海洋 情報技術	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産権についての基礎学習 • 知的財産についての基礎学習
		2	海洋 科学科 (食品)	課題研究・ 総合実習	<ul style="list-style-type: none"> • 知的財産についての講演会 • 弁理士による講演会 • 指導者研修 • 指導者研修
		3	海洋 科学科 (食品)	課題研究・ 総合実習・ 特産品 開発	<ul style="list-style-type: none"> • 商品開発研究 • デザイン講習会(写真講座) • デザイン講習会(長崎市視察研修) • 探究成果発表会

家庭

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
家 01	千葉県立佐倉東高等学校	3	服飾デザイン科	ファッションデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 著作権講習会 衣装の検討 ショー構成の発案・課題検討 成果発表 弁理士による知的財産権についての講習会 商品開発 商品の検討・試作および製作 成果発表
		2	服飾デザイン科	ファッションデザイン	
		1	服飾デザイン科	生活産業基礎	
家 02	和歌山県立熊野高等学校	1	総合学科	家庭基礎	<ul style="list-style-type: none"> 特許や著作権、商標、意匠などの知的財産権に関する知識を学び、その適切な活用や保護について理解を深める
		2	看護科	家庭基礎	
		3	総合学科	家庭科探究	
		3	総合学科	ライフII	

情報

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
情 01	千葉県立柏の葉高等学校	3	情報理数科	情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> デザインので千葉県の銭湯を救え！ BASIC ゲームを作ってペーマガに応募しよう！ 生成 AI 時代の"創作"を問い直す！それは"模倣か？創造か？" 自分らしさの溢れる名刺を作成しよう！
		3	情報理数科	情報システムのプログラミング	
		3	情報理数科	情報セキュリティ	
		3	情報理数科	コンテンツの制作と発信	
情 02	千葉県立袖ヶ浦高等学校	3	情報コミュニケーション科	情報実習	<ul style="list-style-type: none"> 3D プリンタを使用したオリジナルグッズ制作
情 03	京都府立京都すばる高等学校	1	情報科学科	情報科科目	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権の基礎 書籍『楽しく学べる「知財」入門』 ドローンショー開催に向けての研究 プロジェクションマッピングショー開催に向けての研究 舞台照明ライティングオペレータの研究 情報デザインにおける知的財産権 株式会社「天下一品」商事とのパッケージコラボレーション
		2	情報科学科	情報科科目	
		3	情報科学科	情報科科目	
情 04	大分県立情報科学高等学校	1	デジタル創造科	工業技術基礎	<ul style="list-style-type: none"> 大分県版かりゆしウェアの開発 大分県の魅力発信や学校マスコットのグッズ開発 大人対象生成 AI 体験講座 工業技術基礎「知財学習」
		1・3	-	部活動「未来創造部」	
		2	デジタル創造科	課題研究	
		3	デジタル創造科	課題研究	

福祉

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
福 01	東奥学園高等学校	3	福祉科	介護総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による知財学習セミナー ユニバーサルデザインを考える・作る ユニバーサルデザインを考える・作る
福 02	山形県立鶴岡中央高等学校	1	総合学科 社会福祉 系列	介護福祉 基礎 他	<ul style="list-style-type: none"> 社会が知的財産により豊かになっていることに気づき、それらがどのように継承され、普及してきたのかを知り、その保護や活用することの意義について専門家による講義を通し、理解を深める。 本校社会福祉系列の学びには強みがあり、強みを見える化(ブランディング)し、行動・実践することで地域に貢献できる力を育成する。また、交流や実習で訪れた福祉・介護現場には、バリアや不便といった課題があり、適切な観察力を身につけることが大切である。
		2	総合学科 社会福祉 系列	介護福祉 基礎 他	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者への介護予防体操・レクリエーション活動を通じたフレイル予防のための取り組み～フレイル予防体操の歌、作詞作曲を通じた知財学習 ②地域高齢者が介護予防・フレイル予防を自ら継続していけるように動機づけ支援、意欲を高める支援を高めるための制作物を通じた知財学習 ③小学生への福祉学習を実践する際に作成した資料(スライド)には、著作権があることを意識した知財学習
		3	総合学科	産業社会と 人間	<ul style="list-style-type: none"> 介護の魅力発信事業に参加し、介護の魅力を伝える動画を作成し、肖像権、著作権に配慮しながら進める知財学習 認知症のVR体験は、援助者の視点を学ぶ上で有意義であるとともに福祉を学ぶ生徒が今後働いていくうえで、このような気づきや発見を大切に、行動に移す「新しい創造をする」「創造されたものを尊重する」といった知財創造マインドを養う上で効果的である。 発明体験ワークショップ(仙台会場)への参加、パテントコンテストへの応募

高等専門学校

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
専 01	一関工業高等専門学校	1~5	未来創造 工学科	なし	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産管理技能検定3級対策講座の実施 パテントコンテスト応募支援 知財講演会
		5	未来創造 工学科	実践技術Ⅱ	
		3	未来創造 工学科	知財講演会 (HRの時間 を利用して 実施)	
専 02	富山高等専門学校	2	全学科	キャリアデザイン 研修	<ul style="list-style-type: none"> 企業調査「Ti-TEAM」等における知財学習 探究科目における知財的アプローチの学習・演習(1-1と連携) 他高専の事例調査(一関高専, 函館高専, 北九州高専) 低学年におけるスタートアップ・知財講義の実施(1-1と連携) 課題発見型インターンシップの過去事例の整理, 教材開発 課題発見型インターンシップの実施および現地での調査(北九州高専他) 同好会での知財学習 コンテスト応募者によるものづくりチャレンジ
		4	全学科	課題発見型 インターンシ ップ	
		全	全学科	同好会活動	

第2章 参加校の活動内容とその結果

第1節 活動の概要

2-1-1. 初参加校と参加経験校の学校数

令和7年(2025)年度の初参加校と参加経験校の学校数を表2-1-1に示す。

本年度はそれぞれの校種において初参加校が一定数見られる一方で、複数回の参加実績を持つ学校も広く確認されており、知財教育に対する取組が継続的に定着しつつあることがうかがえる。

表2-1-1 令和7年度参加校の参加回数（単位：校）

	合計参加校	H23～R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2～R7 知財力開発校支援事業 参加経験					
		R7 初参加校 (通算 1 回)	H23-R6 の うち 1 回 及び R7 参加 (通算 2 回)	H23-R6 の うち 2 回 及び R7 参加 (通算 3 回)	H23-R6 の うち 3 回 及び R7 参加 (通算 4 回)	H23-R6 の うち 4 回 及び R7 参加 (通算 5 回)	H23-R6 の うち 5 回 及び R7 参加 (通算 6 回)
普通	17	7	10				
農業	6	2	3		1		
工業	20	7	2	3	1	1	1
商業	10	5	4				
水産	2	1	1				
家庭	2	1	1				
情報	4	2	1		1		
福祉	2	1	1				
高等専門学校	2	1		1			
合計	65	27	23	4	3	1	1
		H23～R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2～R7 知財力開発校支援事業 参加経験					
		H23-R6 の うち 6 回 及び R7 参加 (通算 7 回)	H23-R6 の うち 7 回 及び R7 参加 (通算 8 回)	H23-R6 の うち 8 回 及び R7 参加 (通算 9 回)	H23-R6 の うち 9 回 及び R7 参加 (通算 10 回)	H23-R6 の うち 10 回 及び R7 参加 (通算 11 回)	
普通							
農業							
工業		1	1		1	2	
商業				1			
水産							
家庭							
情報							
福祉							
高等専門学校							
合計		1	1	1	1	2	

2-1-2. 指導対象について

学校種別ごとに指導対象をまとめると、表2-1-2のとおりである。

どの校種でも1年生から3年生まで全学年にわたって広く指導対象としていることが分かる。

表2-1-2 学校種別ごとにみた指導対象

学校種別	1年	2年	3年	4年	5年	課外活動等
普通(17校)	16校	16校	7校	-	-	7校
農業(6校)	4校	6校	6校	-	-	1校
工業(20校)	16校	16校	19校	-	-	8校
商業(10校)	6校	7校	8校	1校	-	2校
水産(2校)	2校	2校	2校	-	-	0校
家庭(2校)	2校	2校	2校	-	-	0校
情報(4校)	2校	2校	4校	-	-	1校
福祉(2校)	1校	1校	2校	-	-	0校
高等専門学校(2校)	2校	2校	2校	2校	2校	0校

第2節 参加校における活動内容とその成果

2-2-1. 指導法とその成果

採用された指導法と採用数を表2-2-1に、またその成果についてのアンケート結果を図2-2-2に示す。表中の水色の網掛けは全体で50%以上採用されている指導法、赤色の網掛けは全体で30%以下の採用の指導法である。

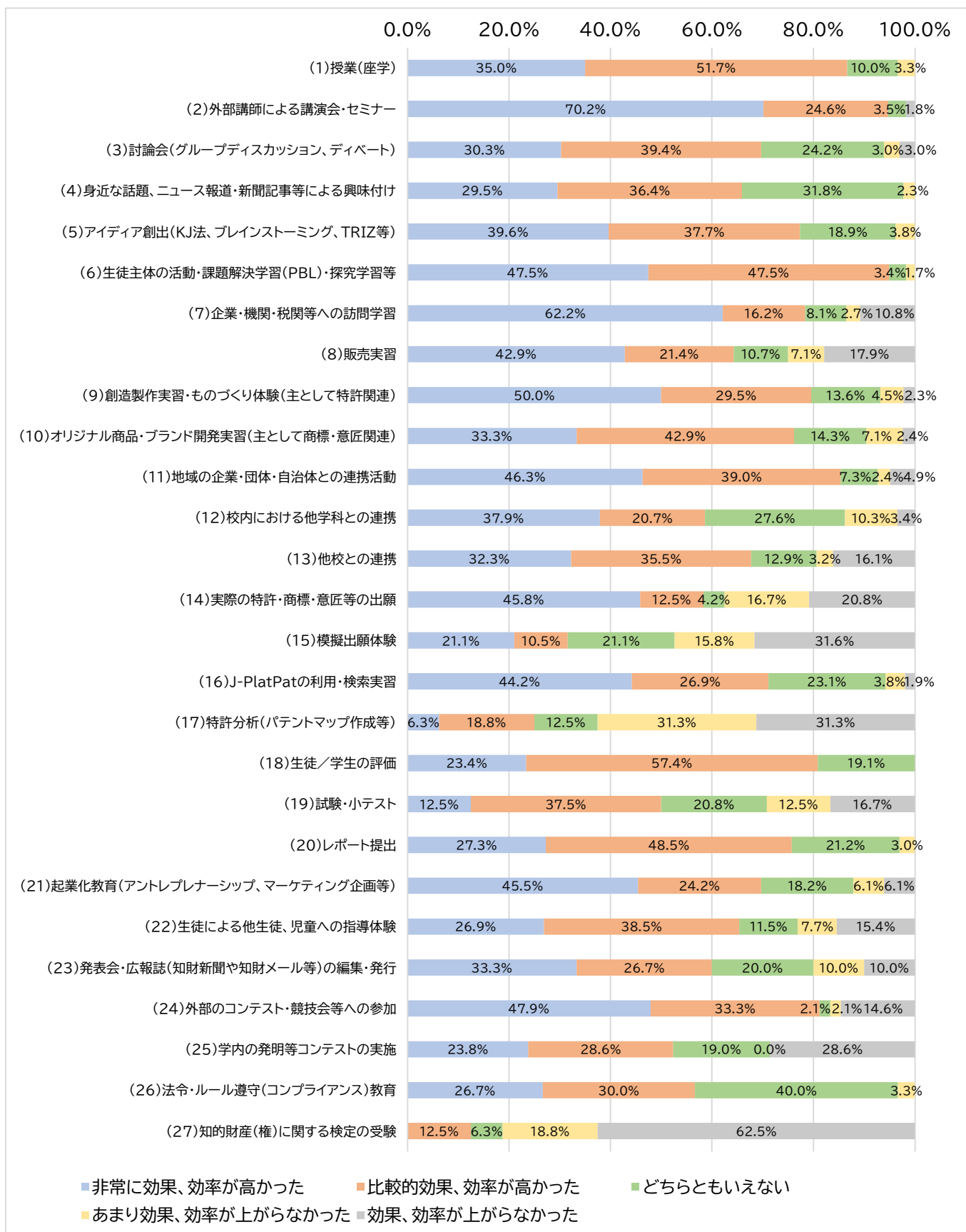
表2-2-1 採用された指導法と採用数(R7年度 アンケートより)(単位:校)

項目	普通 (17校)	農業 (6校)	工業 (20校)	商業 (10校)	水産 (2校)	家庭 (2校)	情報 (4校)	福祉 (2校)	高専 (2校)	全体 (65校)
(1)授業(座学)	16	6	19	9	2	2	3	2	1	60
	94%	100%	95%	90%	100%	100%	75%	100%	50%	92%
(2)外部講師による講演会・セミナー	16	4	18	10	2	2	1	1	2	56
	94%	67%	90%	100%	100%	100%	25%	50%	100%	86%
(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)	8	5	10	4	1	2	1	0	2	33
	47%	83%	50%	40%	50%	100%	25%	0%	100%	51%
(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け	8	5	14	8	2	2	3	1	1	44
	47%	83%	70%	80%	100%	100%	75%	50%	50%	68%
(5)アイデアアイデア創出(KJ法、ブレインストーミング、TRIZ等)	13	5	17	9	2	2	3	0	2	53
	76%	83%	85%	90%	100%	100%	75%	0%	100%	82%
(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)・探究学習等	15	6	18	9	2	2	4	1	2	59
	88%	100%	90%	90%	100%	100%	100%	50%	100%	91%
(7)企業・機関・税関等への訪問学習	13	5	10	4	2	1	2	0	0	37
	76%	83%	50%	40%	100%	50%	50%	0%	0%	57%
(8)販売実習	8	4	6	5	2	2	1	0	0	28
	47%	67%	30%	50%	100%	100%	25%	0%	0%	43%
(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)	10	3	16	6	2	2	3	1	1	44
	59%	50%	80%	60%	100%	100%	75%	50%	50%	68%
(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)	12	6	11	6	2	2	3	0	0	42
	71%	100%	55%	60%	100%	100%	75%	0%	0%	65%
(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動	10	4	13	7	2	1	3	1	0	41
	59%	67%	65%	70%	100%	50%	75%	50%	0%	63%
(12)校内における他学科との連携	6	5	12	3	0	1	0	0	2	29
	35%	83%	60%	30%	0%	50%	0%	0%	100%	45%
(13)他校との連携	8	5	10	4	1	2	1	0	0	31
	47%	83%	50%	40%	50%	100%	25%	0%	0%	48%

項目	普通 (17校)	農業 (6校)	工業 (20校)	商業 (10校)	水産 (2校)	家庭 (2校)	情報 (4校)	福祉 (2校)	高専 (2校)	全体 (65校)
(14)実際の特許・商標・意匠等の出願	7	2	11	2	1	1	0	0	0	24
	41%	33%	55%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	37%
(15)模擬出願体験	5	3	7	2	1	1	0	0	0	19
	29%	50%	35%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	29%
(16)J-PlatPat の利用・検索実習	11	6	19	10	2	1	2	0	1	52
	65%	100%	95%	100%	100%	50%	50%	0%	50%	80%
(17)特許分析(パテントマップ作成等)	4	2	6	2	1	1	0	0	0	16
	24%	33%	30%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	25%
(18)生徒／学生の評価	10	6	16	7	1	2	3	1	1	47
	59%	100%	80%	70%	50%	100%	75%	50%	50%	72%
(19)試験・小テスト	6	3	8	2	2	1	1	1	0	24
	35%	50%	40%	20%	100%	50%	25%	50%	0%	37%
(20)レポート提出	7	3	9	7	2	2	3	0	0	33
	41%	50%	45%	70%	100%	100%	75%	0%	0%	51%
(21)起業家教育(アントレプレナーシップ、マーケティング企画等)	11	4	8	6	1	1	1	0	1	31
	65%	67%	40%	60%	50%	50%	25%	0%	50%	51%
(22)生徒による他生徒、児童への指導体験	7	2	8	3	1	2	2	0	1	26
	41%	33%	40%	30%	50%	100%	50%	0%	50%	40%
(23)発表会・広報誌(知財新聞や知財メール等)の編集・発行	8	5	7	4	2	2	2	0	0	30
	47%	83%	35%	40%	100%	100%	50%	0%	0%	46%
(24)外部のコンテスト・競技会等への参加	13	4	18	6	1	2	1	1	2	48
	76%	67%	90%	60%	50%	100%	25%	50%	100%	74%
(25)学内の発明等コンテストの実施	6	2	9	2	1	1	0	0	0	21
	35%	33%	45%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	32%
(26)法令・ルール遵守(コンプライアンス)教育	7	5	10	4	1	1	1	0	1	30
	41%	83%	50%	40%	50%	50%	25%	0%	50%	46%
(27)知的財産(権)に関する検定の受験	4	2	6	1	1	1	0	0	1	16
	24%	33%	30%	10%	50%	50%	0%	0%	50%	25%

図2-2-2 採用された指導法の成果(R7年度 アンケートより)

(注1)小数点第二位で四捨五入しているため、指導方法の各項目の合計は100.0%にならない場合がある。



アンケート結果によれば、よく採用されている方法(全体の50%以上)には、(1)授業(座学)、(2)外部講師による講演会・セミナー、(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)、(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け、(5)アイデア創出(KJ法、ブレインストーミング、TRIZ等)、(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)・探究学習等、(7)企業・機関・税関等への訪問学習、(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)、(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)、(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動、(16)J-PlatPatの利用・検索実習、(18)生徒/学生の評価、(20)レポート提出、(21)起業家教育(アントレプレナーシップ、マーケティング企画等)、(24)外部のコンテスト・競技会等への参加等が挙げられている。この結果から、座学から体験・探究・外部連携・創造活動までを組み合わせた、知識のインプットのみならず討論や探究を主とする課題解決型学習やアイデア創出、実習・制作・コンテスト参加体験といった実践的で能動的な学びが広範囲で行われており、生徒の主体性と実践力を高める参加型の知財学習が主流になっていることが読み取れる。このうち、いくつかの取組について、その取組の傾向と具体的な取組内容を述べる。

(2)外部講師による講演会・セミナー

外部講師による講演会・セミナーも広く行われており、指導効果の評価も高い。その内容として、以下のような例が挙げられる。

- 一般社団法人北海道発明協会、北海道経済産業局、講師 細木萌 弁理士(弁理士法人 IPX 所属)、理研興業(株)代表取締役社長 柴尾幸弘 氏(東海大学付属札幌高等学校)
- ①科目「情報Ⅱ」(普通科3年)講話「知的財産権～松島町と知的財産権～」講師:一般社団法人松島観光協会会長 志賀寧 氏
- ②【情報科・生徒指導部】講話:「情報セキュリティ・モラル研修 ～守ろう知的財産権～」講師:弁理士 日本弁理士会東海会 教育機関支援機構 機構長 伊藤正典 氏
- ③科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「コンテンツ(動画・VR・AR、チャットボット(生成AI)の制作と、それに係わる知的財産権の紹介について」講師:東北工業大学 准教授 八巻俊輔 氏
- ④科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「コンテンツにおけるウェブプログラミング・ウェブデザインと、それに係わる知的財産権の紹介について」講師:宮城大学 事業構想学群 准教授 長崎智宏 氏
- ⑤科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「松島に関わる環境の現状と知的財産権」講師:NPO 法人 環境生態工学研究所 理事 佐々木久雄氏、主任研究員 大谷孝一 氏
- ⑥科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)講話:「情報の基礎と知的財産」講師:東京 IT プログラミング&会計専門学校仙台校 菊池貴也 氏
- ⑦科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)・課外活動 講話:「松島町の抱える課題を解決する特許と知的財産権」講師:一般社団法人 松島観光協会 会長 志賀寧 氏
- ⑧科目「情報Ⅰ」(普通科1学年) 講話:「松島町の観光と生成AIを活用したチャットボットと知的財産権」講師:松島町産業観光課 主事 小幡華稟 氏
- ⑨科目「情報Ⅱ」(普通科3学年)講話:「SNSを活用したコンテンツ制作と知的財産権」講師:公益財団法人 国際エメックスセンター 総務 大輪のり子 氏、一般社団法人 日本ペップトーク普及協会 認定講師 おやのめぐみ 氏特定非営利活動法人 環境生態工学研究所 主任研究員 大谷孝一 氏、特定非営利活動法人 環境生態工学研究所 研究員 齊藤愛実 氏
- ⑩科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)・課外活動 講話:「松島の歴史と産業の知的財産権との関わり」講師:円通院 住職 天野氏、株式会社 利久 営業第一部 五大堂店店長 佐藤誠 氏、みどり会農産加工株式会社 専務 鳥海靖隆 氏 松島町農業 Aile(エール) 只木誠 氏、株式会社松島蒲鉾本舗 企画・営業課 課長 葛西 健太郎 氏 (宮城県松島高等学校)

- 弁理士(知的財産入門)、文具王(アイデア商品開発のヒント)、起業家(アントレパートナーシップ)(東海大学付属市原望洋高等学校)
- シンガポール南洋理工大学の昆虫サイボーグ研究の佐藤教授によるエンジニア視点でのアイデアや知財に関する講義(玉川学園高等部)
- リストにあった明治様をお招きし、特許と商標のご担当者様から出張講義を受けました。基本的な事項の説明についても、具体的な事例を用いて説明して下さいましたので、生徒の理解度は高かったと思います。(サレジアン国際学園中学校高等学校)
- ユカイ工学(株)((独行)中小企業基盤整備機構による事業)「アイデア創出・プロトタイプング」、日本弁理士会「パテントコンテスト事前セミナー」(東海大学付属高輪台高等学校・中等部)
- コクヨさんの講演については事例を交えながらの説明でしたので、非常にわかりやすかった。(聖学院中学校高等学校)
- サンコー株式会社による商品開発についての講座、キャノン株式会社による知財関係の仕事の紹介(東海大学付属相模高等学校)
- 横浜弁理士事務所 佐々木先生:知財を題材にした動画を用いた基礎知識の講話(立花学園高等学校)
- 福井大学客員教授・弁理士 樋口人志 氏:知財制度のしくみや弁理士の仕事内容、知財にかかるアイデア発案ワークショップ(探究創造科1年 236 人対象)
弁理士 丸山明夫 氏:パテントコンテスト応募にかかる出前授業(探究創造科1年美術選択者 66 人対象)
(福井県立高志高等学校)
- ①5/2:2学年の課題研究で著作権やパテントコンテストをテーマに活動した4名対象;弁理士による講演会(丸山明夫さん)
- ②7/14:1学年全員320名対象;知財入門講演会(INPIT 三重・村上一仁さん)
- ③9/19・11/7:1学年全員320名対象;プレゼン講演会(FM 三重・清田のぞみさん)
(三重県立津西高等学校)
- 山口大学知的財産センター木村真二講師「世界は知財でできている」(岡山県立岡山芳泉高等学校)
- 【講演①】ディスプレイ株式会社 代表取締役社長 桑原 良弘 様
内容:ものづくりにおいて必要となる発想法を学び、試作品およびアイデアに対する先行事例の有無について、J-PlatPat などを用いて検証する方法を学んだ。これらの内容を含んだ講演を通じて生徒の発想力を高め、そのアイデアの新規性を調べる客観的な方法を身につけることを目的として実施した。
【講演②】埼玉工業大学 山路 康文 様
内容:グッズ製作現場の様子や権利関係等で注意してきたこと、発想したアイデアから知財を意識した上で製品開発を行った経験について講演をしていただいた。
(広島工業大学高等学校 全日制課程)
- 山口大学 知的財産センター 陳内秀樹先生「知的財産入門講座」
山口大学国際総合学部 足立勝先生「医療分野の知的財産」
(野田学園中学・高等学校)
- 鳴門教育大学 准教授 寺島幸生氏「探究における課題設定と先行研究の活用について」、dwarf スタジオ プロデューサー 西山佳菜子 氏「キャラクター作成からその権利について」(徳島市立高等学校)
- 全校生徒対象 コクヨ株式会社・弁理士 黒田智子様 「知的財産権について～生み出す人?真似る人? あなたの未来を変える 知的財産のルール～」,教職員対象 親泊寛昌アドバイザー 「高校生を『想像する側』にする知財教育」
(長崎総合科学大学附属高等学校)

- つじのか国際商標事務所杉田基子氏、宮城県工業高等学校若松英治氏を招聘した知財学習を実施した(北海道更別農業高等学校)
- 秋田県弁理士会、日本弁理士会(秋田県立大曲農業高等学校)
- ○山口大学研究推進機構知的財産センター 准教授 陳内秀樹 先生:全校集会 生物工学科担当 全校集会:「総合的な探究の時間を活用した地域連携への取組について」
○宮城県工業高等学校 教諭 若松英治 先生:動物科学科、環境科学科担当(本事業の本校アドバイザー)
○大阪府立農芸高等学校 首席 烏谷直宏 先生:園芸科学科、森林科学科担当
○岐阜県立飛騨高山高等学校 教頭 中野輝良 先生:流通科学科、食品科学科担当
(岐阜県立岐阜農林高等学校)
- 国立大学法人山口大学研究推進機構知的財産センター陳内秀樹准教授・畜産科「知的財産学習」セミナー(熊本県立熊本農業高等学校)
- 依頼先:あきた知的財産事務所 齋藤博子先生 セミナーの内容:特許制度、パテントコンテストについて(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 明倫国際法律事務所 田中雅敏 氏「技術と ICT の世界で、もっと活躍するための「知財」の使い方」(山形県立鶴岡工業高等学校)
- 日本弁理士会:概要説明と検索体験、発想体験ワークショップ(群馬県立前橋工業高等学校)
- INPIT 長野県知財総合支援窓口の支援員の方による知財の基礎知識及び J-Plait 利用講座(長野県佐久平総合技術高等学校)
- 松井特許事務所「パテコン関係」「アイデアだし」「商標権について」「権利移譲について」、セントラル法律事務所「特許で儲けるには」(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 三重県産業支援センター(三重県立津工業高等学校)
- 3年生(全) 依頼先 弁理士法人 NT 代表弁理士 中村忠則 様 内容:弁理士から学ぶアイデアを出す方法セミナー
2年生(全)依頼先 株式会社パソナ日本総務部 西日本BPO第一事業本部 西三荘エリアサービス部にぎわい創出チーム TOMO~NI ロボットプログラミング教室 教室長 金本秀勝 様 内容:発明や知的財産に関する体験型学習
1年生(全) 依頼先 アドバイザー 茨城県立那珂湊高等学校 教諭 成富雅人 様 内容:知的財産教育に関するセミナー
(大阪府立東淀工業高等学校)
- 大阪工業大学「知的財産入門」「知的財産の活用」、(株)TCD ロゴデザインに関わる知的財産権 I・II、大阪大学大学院法学研究科・知的基盤総合センター 著作権と私たち I・II(大阪府立工芸高等学校)
- 大阪工業大学:日常生活における「知的財産」とは、日本弁理士協会:知的財産についての基本的な講演(大阪府立堺工科高等学校)
- マツダ株式会社 メカトロニクス講演会:高卒技術者に求められる力と企業の知的財産権に関する活動について(山口県立徳山商工高等学校)
- タダノコアテックセンター、企業講師による鋼材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創造セミナー(創造作品製作)(香川県立多度津高等学校)
- 金剛株式会社にて知的財産にはどんな種類があるのか、どうやって守られるのか、どのように活用されているかを話していただいた。(開新高等学校)
- 大阪工業大学大学院・村川教授による「知財基礎演習」、(株)フィールドワークス・古家氏による「ブランディングとデザイン思考」、高宮弁理士による「出願書類作成講座」(熊本県立熊本工業高等学校)
- 科目:工業技術基礎(探究学習)にて、生成 AI 講習会を実施(KCS 大分情報専門学校)(大分県立大分工業高等学校)
- 自動車における先端技術の紹介、アームロボット講習会、先輩による企業説明会(大分県立中津東高等学校)

- ・株式会社明治:講演会、東罐興業株式会社厚木工場:出前授業(鹿児島県立鹿児島工業高等学校)
- ・「デザインをする上での心構え」Plica.netarai 荒井氏、「商標に関する講義」3 回弁理士丸林氏、アドバイザー(宮城県大河原産業高等学校)
- ・国分東北株式会社 株式会社ケーエス・フーズ(宮城県南三陸高等学校)
- ・アドバイザーによる教員対象の後援。INPIT 山形知財総合支援窓口による生徒対象の知的財産に関する説明と商標権登録の相談。(山形県立天童高等学校)
- ・株式会社明治、「企業の事例に学ぶ産業財産権の活用について」(東京都立芝商業高等学校)
- ・知的財産教育学習:(講師)アドバイザーの親泊先生と大高先生(東京都立第五商業高等学校)
- ・大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社 リスクマネジメント本部 法務部知的財産ユニット(大阪府立淀商業高等学校)
- ・アドバイザー 那珂湊高校 成富先生/大阪大学 Iprism 准教授 岡本教授 ⇒知的財産講義およびワーク(大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校)
- ・INPIT 兵庫県知財総合支援窓口:知財の説明・商標の登録方法・商品サービスの分類、海岸通特許事務所 弁理士 是枝洋介 様:実用新案登録と意匠権の申請について(兵庫県立長田商業高等学校)
- ・依頼先:有限会社ホクヨ、有限会社大西陶芸 内容:企業における商品開発過程についての講演(愛媛県立松山商業高等学校)
- ・元但馬水産技術センター主任研究員、アドバイザー(兵庫県立香住高等学校)
- ・身近な知的財産についての講演(アドバイザー)、商標についての講演(株式会社フィールドワーク)(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- ・濱田事務所:著作権講習会 亀山特許商標事務所:知的財産権講習会(千葉県立佐倉東高等学校)
- ・山口大学知的財産センター 陣内先生による『著作権を知らう!』スライドを用いたのオンラインで、ワークシート『家庭基礎 知的財産の基礎と探究学習への誘い』に記入しながら5クラス(50 分×5)の講演と振り返り小テストを実施(和歌山県立熊野高等学校)
- ・大阪工業大学知的財産学部知的財産学科長杉山典正教授による講演「知的財産制度概要」「知財戦略ワークショップ」(京都府立京都すばる高等学校)
- ・発明協会(東奥学園高等学校)
- ・①「初めての知的財産」講話 講師 INPIT 山形県知財総合支援窓口担当 渋江尚子 氏
- ・②「知的財産の基礎と探究学習」オンライン講話 講師 山口大学大学研究推進機構 知的財産センター 木村真二 氏
- ・③「ブランディングの基本」講座 講師 准認定ファンドレイザー 小口貴幸 氏
(山形県立鶴岡中央高等学校)
- ・知的財産管理技能検定3級試験対策講座第(たかお IP ワークス)(一関工業高等専門学校)
- ・【キャリアビジョン・キャリアプラン・知的財産を学ぶ講演会】
開催日程:2025 年 9 月 26 日(金)、2026 年 1 月 14 日(水)それぞれ授業一コマ分(90 分)以内での実施
対象:2 学年全学科 240 名の参加
内容:キャリアプラン、アントレプレナーシップ、知財に関する基本的な知識に関して連続性のある内容で指導を行ったことで、これらの内容に対する学生の関心を高めることができた。
・起業時点では、何か独自のモノやサービスが手元にあるということだが、それらを知的財産で守るという認識の重要性や、キャリアの考え方として「攻めと守りの適切なバランス」についての気づきを促す機会、および、既存カリキュラム内では提供しきれない知識を学ぶ機会を創出した。

・夏季実施の集会では、「先輩に学ぶキャリア講演会」と題し、起業したOB2名と富山高専技術振興会の会員企業の一社（フォーステックさま）から一名を招き、それぞれの企業にまつわる体験談と学生の時の学びがどのように生きているかなどを講演したうえで、学生も交えたクロストークセッションの時間をもった。

・冬季実施の集会では、2025年12月に新採用となったスタートアップ・コーディネーターが、夏季の講演内容との連続性をもたせて、「キャリア形成を知財戦略的視点から考える」という趣旨で講演を実施した。同学年のビジネスプランコンテストでの実績を紹介しながら、新しい独自のアイデアやプロダクト制作をする際には、他者に奪われないための公的な権利の保護をするという、知財戦略的な思考回路・知識体系を備えておく必要があるということを、いくつかの実例を交えて講演し、多角的な物事の捉え方を学ぶ機会とした。（富山高等専門学校）

(7) 企業・機関・税関等への訪問学習

主な訪問先として、地元企業や大学・研究機関へ訪問している例が多く、各校ともに特許・商標などの知的財産が実際の研究開発や商品づくりでどのように活用されているかを現場で学ぶ取組が中心となっている。また、地元産業や農業分野のブランド化・技術開発を知財の視点で理解する学習も多く見られた。

- ・千葉工業大学、東北工業大学、宮城大学、京セラ株式会社（宮城県松島高等学校）
- ・荏原製作所（藤沢工場）：研究施設・工場見学および知財部の取り組みの紹介、ソニー本社：生徒の研究発表（玉川学園高等部）
- ・ユーグレナ様の先端技術研究所を訪問させていただき、施設を見せていただくだけでなく、ユーグレナ様にとっての特許について具体的なお話をいただいた。（サレジアン国際学園中学校高等学校）
- ・丸増園、茶室&工房 Saika-en、JX 金属（株）、東京税関羽田税関支署（東海大学付属高輪台高等学校・中部部）
- ・核融合科学研究所、トヨタ会館、名古屋大学（福井県立高志高等学校）
- ・12/15：1学年国際科学科80名対象：「知財を知るための企業見学会」→貸切バスを使って、地元の知財に関わりのある企業2社（「ヤマモリ株式会社」「太陽化学株式会社」）を一日がかりで訪問し、知財に関する独自の技術（特許取得）やその権利保護などについて企業の担当者の方からご講演頂いた。（三重県立津西高等学校）
- ・内山工業株式会社 赤坂研究所（特許利用事例学習）、季譜の里（商標利用事例学習）（岡山県立岡山芳泉高等学校）
- ・山口大学知的財産センター UBE株式会社：知的財産センターにおいて、研究成果が「保護（権利化）」から「活用（技術移転・社会実装）」へ至る流れと、知財部門の役割を具体的に学ぶため。企業訪問を通して、知財が研究開発・製造・事業活動の各段階でどのように扱われ、競争力や品質・信頼性の確保に結び付いているかを現場で理解するため。講義で得た基礎知識を、実社会の運用と結び付けて理解を深め、生徒の知財への関心と主体的な学び（探究への接続）を促すため。（野田学園中学・高等学校）
- ・東京大学地震研究所・理化学研究所・JAMSTEC・日立システムズ・東京証券取引所（徳島市立高等学校）
- ・三和酒類株式会社 いいちこ日田蒸留所「三和酒類株式会社に学ぶ、企業見学・知財学習セミナー」（長崎総合科学大学附属高等学校）
- ・株式会社石屋製菓主催の学校祭に参加した（北海道更別農業高等学校）
- ・山梨県葡萄研究所、地元農事組合法人、JA、秋田高専との連携。（秋田県立大曲農業高等学校）
- ・農林水産省輸出・国際局知的財産課知的財産戦略班（岐阜県立岐阜農林高等学校）
- ・訪問先：エシカルチーズケーキ専門店 seed、フランシーズ、高島屋泉北店 訪問目的：生徒たちが考案したアイデアレシビを形にするために訪れ、助言や共同制作を行った。（大阪府立農芸高等学校）
- ・大分県農林水産部林業研究部きのこグループ・・・栽培方法で差別化を図りブランド化を目指すための栽培技術調査（大分県立日出総合高等学校）

- カップヌードルミュージアム横浜、横浜税関(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 特許庁、東京税関:知財制度や水際対策について学習する(群馬県立前橋工業高等学校)
- インターステラテクノロジス、大樹町宇宙交流センター、メカトロテックジャパン 2025、名古屋税関(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- トヨタ博物館(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 株式会社光機械製作所(三重県立津工業高等学校)
- 連携校との協働授業(東淀工業・淀商業)(大阪府立工芸高等学校)
- タダノコアテクセンターへ訪問し、最先端の溶接技術、技能について学習した。(香川県立多度津高等学校)
- 金剛株式会社にて知財に関する講和の後、製品に活用されている特許・意匠とその技術開発に至った経緯などを製品展示場でしていただく(開新高等学校)
- 企業見学・上級学校(短大、4年制大)見学(大分県立中津東高等学校)
- 株式会社カネタ・ツーワン:課題解決学習におけるフィールドワーク(宮城県南三陸高等学校)
- チキンラーメン発明記念館(大阪府立淀商業高等学校)
- 富士電機:知的財産に関わる取組み・知的財産の具体的な活用事例・ビジネスグローバル化を踏まえた国際ルール対応・形成の取組み他
特許庁①知的財産権制度の概要 ②公報閲覧 ③審判廷見学・記念撮影(兵庫県立長田商業高等学校)
- ニフレル、ハヤブサ、安藤百福発明記念館、角屋食品、産業技術総合研究所 関西センター、沼津港深海水族館(兵庫県立香住高等学校)
- 長崎県庁、かもめ市場、長崎市水産センター(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- JR 西日本紀伊田辺駅は毎月廃棄傘の譲渡式に訪問、JR 西日本天王寺 MIO は AED シート 24 個納品、よって上富田店へ AED シート納品、いわぐろハートクリニックへ AED シート納品(和歌山県立熊野高等学校)
- Audi 京都南ショールーム・立体プロジェクションマッピング制作について(京都府立京都すばる高等学校)

(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動

地域の企業や自治体、大学、NPO などの幅広い団体と協働しながら、農業・工業・観光など地元の特色を生かした商品開発やデザイン制作等の取り組みが行われていることが分かる。また、特許・著作権の学習などの知財の専門性を直接扱う活動と、探究学習の一環として地域課題解決に取り組む活動が自然に組み合わせられている点も特徴的と言える。

- 松島町、円通院「円通院紅葉ライトアップ」、株式会社利久、松島直秀こけし製造元 二八屋物産店(宮城県松島高等学校)
- 起業家教育として、株式会社フィルカンパニーから講師派遣(東海大学付属市原望洋高等学校)
- 沖縄久米島町との連携:サンゴの移植活動(玉川学園高等部)
- 単発ではあったが、「小学生向け講座」や「大正大学との連携」を実現することができた。(聖学院中学校高等学校)
- 株式会社茶来未との丹沢大山茶を題材にした地域活性化プロジェクト。松田町と連携したその他様々な活動(立花学園高等学校)
- 2年生の課題研究において、岡三証券、野村証券、日本政策金融公庫、サンユー技研、光機械製作所、カイダ建築事務所、ミエデン、パナック、リクシル、伊勢村田製作所、産業支援センター、津市役所、亀山市役所等、多くの企業・自治体と連携することができたが、知財を強く意識して取り組めた訳ではなかった。(三重県立津西高等学校)
- 連携先:岡山市立南公民館 連携内容:企業について探究し、企業広告を成果として発表(岡山県立岡山芳泉高等学校)
- NPO 法人びざん大学・PRIAMLAB・徳島市民病院・アワガミファクトリー(徳島市立高等学校)
- 帯広畜産大学と連携し、スパルト小麦を用いたあんぱん作りを行った。(北海道更別農業高等学校)

- 秋田県農林水産部、大仙市(秋田県立大曲農業高等学校)
- 連携先:有限会社 NEEDs 訪問目的:生徒たちが考えた成果カードや POP を形にするために共同制作を行った。(大阪府立農芸高等学校)
- どっこいしょニッポン presents 畜産に生きる会議 2025、(株)アクティブラーニング・大阪・関西万博における知的財産学習成果発表会(熊本県立熊本農業高等学校)
- 連携先:湯沢市立稲川中学校 連携内容:リンゴの型の設計・製作(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 鶴岡シルク(株)大和匡輔 氏、クリエイティブディレクター 佐藤成美 氏、デザイナー 奥泉なぎさ 氏:学校オリジナルロゴデザイン制作と、知的財産権についての学習(山形県立鶴岡工業高等学校)
- 株式会社エンドレスアドバンスによる企業活動における知財の活用と製作におけるアドバイス、株式会社ミネバアミツミ製作活動における実践的なアドバイスと知財、特許の活用について(長野県佐久平総合技術高等学校)
- 笠松町と連携したモノづくり教室を実施した。(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- 西淀川区役所、公益財団法人校外地域再生センター あおぞら財団主催「西淀川芸術祭 みてアート」参加(大阪府立東淀工業高等学校)
- 大阪府木材連合会主催 講義 木材に関わる知的財産(大阪府立工芸高等学校)
- 田布施小学校、近隣の小学生(山口県立田布施農工高等学校)
- タダノコアテクセンターへ訪問し、最先端の溶接技術、技能について学習した。(香川県立多度津高等学校)
- 株式会社池松機工に年5回出張授業にて技術指導をしていただき、オリジナル作品制作に取り組んだ。(開新高等学校)
- JR九州熊本支社。「九州レイルウェイフェス 2025」にて、生徒が製作した自作自動券売機や発車標を出展。(熊本県立熊本工業高等学校)
- 日本文理大学、山口大学(大分県立鶴崎工業高等学校)
- 地元こども園(大分県立中津東高等学校)
- 行政(大河原町役場)→町制 70 周年記念ロゴ、国分東北株式会社→ゆず缶酎ハイ、ネーミングとデザイン(宮城県大河原産業高等学校)
- 株式会社カネタ・ツワン、khb東日本放送、課題解決学習におけるフィールドワーク(宮城県南三陸高等学校)
- 東北芸術工科大学(山形県立天童高等学校)
- 国立市商工会、立川法人会(東京都立第五商業高等学校)
- 産業能率大学、小田原市(おだわら若者応援コンペティション)、小田原観光協会、小田原箱根伝統寄木協同組合、BYD 株式会社(神奈川県立小田原東高等学校)
- シノブフーズ 新商品開発 上穂川フィールド再生・活用ネットワーク 放置竹林を活用した商品作り(兵庫県立長田商業高等学校)
- 連携先:有限会社ホクヨ、有限会社大西陶芸 内容:新商品の企画・開発(愛媛県立松山商業高等学校)
- 兵庫県水産技術センター、但馬漁協(兵庫県立香住高等学校)
- 天草漁協五和支所、クリナムハウス:原材料の提供、子ども食堂への参加。(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- 白浜温泉組合様に麦わらストロー1000 本納品、JR きのくに線紀伊田辺駅周辺と忘れ物の傘で持ち主が表れず廃棄処分となった傘の譲渡連携、傘をアップサイクルして製作した AED ハートフルシートの設置連携(上富田町 75 カ所・白浜町 32 カ所等)、JR 天王寺駅天王寺 MIO に 24 個納品(和歌山県立熊野高等学校)
- 千葉県公衆浴場業生活衛生同業組合(千葉県立柏の葉高等学校)
- 東洋音響株式会社・ドローンショー開催のための機器操作やプログラム作成、株式会社天下一品・持ち帰りラーメン、杏仁豆腐のコラボレーションパッケージ製作(京都府立京都すばる高等学校)
- デジタル絵本制作:宇佐みんなのおうち、コープ、元編集長(大分県立情報科学高等学校)

- 株式会社ニッシリ(東奥学園高等学校)

(24)外部のコンテスト・競技会等への参加

各校が参加したコンテストや競技会として、以下のものが挙げられる。

- 異能 vation ジェネレーションアワード
- 東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」
- ISEF2025
- GLS2025
- 高校生ビジネスプラン・グランプリ
- 4DFF2025
- 全国高校生情報コンテスト
- 広島市・広島県児童生徒発明のくふう展
- 第 82 回科学作品展・科学体験発表会
- 第 64 回日本薬師会 中国四国支部学術会
- サイエンスメンタープログラム研究発表会
- 京都大学ポスターセッション 2025
- 山口大学 知財創造実践甲子園
- 福祉機器コンテスト
- 日本工業大学プロダクトデザインコンテスト
- Ene-1challengeSUZUKA KV-Moto 競技出場
- 秋田県立大学 スマホスタンドコンテスト
- ビジネス技術アイデアコンテスト
- 毎日 DAS デザインコンテスト
- 大阪成蹊大学アート&デザインコンテスト
- ウッドクラフト展
- ものデザインコンテスト
- 高校生椅子デザインコンテスト
- 全日本ロボット相撲大会中四国選手権大会
- 高校生ものづくりコンテスト全国大会
- 四国地区高校生溶接競技会
- ロボットアイデア甲子園
- エコデンレース全国大会
- 高校生技術・アイデアコンテスト全国大会
- 高等学校ロボット競技大会
- 鹿児島県探究コンテスト
- SDGs QUEST みらい甲子園
- おだわら若者応援コンペティション
- ビジネスアイデア甲子園
- 全国高等学校フードグランプリ
- クリエイティブコンテスト・ホームソーイング

- 高校生ボランティア・アワード 2025 サイネージ発表部門
- NICT 主催ネクストアントレプレナーズピッチ supported by スタートアップチャレンジ甲子園×高校生ビジネスプラン・グランプリ
- 第 15 回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会口頭発表部門
- 高校生ビジネスプランコンテスト 関西 NBC B-hack High school2025 in 関西万博
- 第 14 回イオンエコワングランプリ
- 第 11 回元気わかやまビジネスプランコンテスト 実践・実行部門
- 第 13 回環境省 グッドライフアワード
- 第 15 回クボタ・毎日地球未来賞
- 令和7年度 1.17 防災未来賞ぼうさい甲子園
- Oita AI Challenge 2026
- 第 3 回高専起業家サミット
- 第 12 回マイナビキャリア甲子園

2-2-2. 新たに開発または導入した指導方法及び他校と連携した取組

新たに開発または導入した指導方法や学校間連携の実践に関して、参加校から以下のような事例が示されている。

新たに開発または導入した指導方法

- ビジネスアイデア起業シミュレーション、AIを活用したアイデア出し（札幌日本大学高等学校）
- デジタルコンテンツ制作実習における、プロジェクションマッピングコンテンツと生成AIを活用したチャットボット制作実習（宮城県松島高等学校）
- アイデア創出ワークショップ（SCAMPER 法）（東海大学附属高輪台高等学校・中等部）
- 自作サイト：<https://yamashu00.github.io/>（知財を軸とした Unity ゲーム開発のために開発）
知財図鑑：テクノロジーを活用して、新たなアイデアを創出するツール（生徒のアイデアブレストや発想の壁に当たった際）（聖学院中学校高等学校）
- 対抗される既製品2品を実際に用意し、生徒に比較調査させて、ポスターにまとめ発表させました。（東海大学附属相模高等学校）
- 本校マスコットキャラクターを用いた知財学習の動画（立花学園高等学校）
- 企業・研究機関研修（福井県立高志高等学校）
- メンタープログラム（徳島市立高等学校）
- 農業知財基礎セミナー（岐阜県立岐阜農林高等学校）
- KJ 法やブレインストーミングなどを活用した新レシピの考案、アイデアレシピの考案と PDCA サイクルによるブラッシュアップ（大阪府立農芸高等学校）
- 工業系生徒研究成果発表会に参加し、学習した知的財産について学習した内容について発表できる資料を作成した。（香川県立多度津高等学校）
- 昨年度に申請した内容に加えて、課題研究ではロボット製作、校内備品の改良などに取り組んだ。（開新高等学校）
- 生成 AI 講習会の初導入（大分県立大分工業高等学校）
- 大学教授 知財講習（大分県立鶴崎工業高等学校）
- 知財創造・紙タワー・TRIZ による問題解決（大分県立中津東高等学校）
- 実際に企業の担当者の方に来校していただき、商標登録、デザインについて講義していただいた。（宮城県南三陸高等学校）
- 生成 AI を活用した DX 知的財産教育学習（東京都立第五商業高等学校）
- キャリアから学ぶ知的財産に関するお仕事（コクヨ株式会社リスクマネジメント本部による講話）（大阪府立淀商業高等学校）
- 訪問先企業の新規開拓を行った。（兵庫県立香住高等学校）
- 商品開発に関する実践的な学習の一環として、長崎市視察研修を実施した。はじめに、長崎県庁や長崎駅かもめ市場、長崎市水産センターにおいて知的財産に関する講座を受講した。講師には、青森県でカキ養殖事業を立ち上げた起業家（水産高校出身）を迎え、特許や商標等の知的財産を活用することで、水産物の付加価値を高める取組について学んだ。（熊本県立天草拓心高等学校（マリノ校舎））

第3節 学習用資料の活用状況

2-3-1. 本年度参加校で使用されたテキスト等の種類と利用状況と指導効果

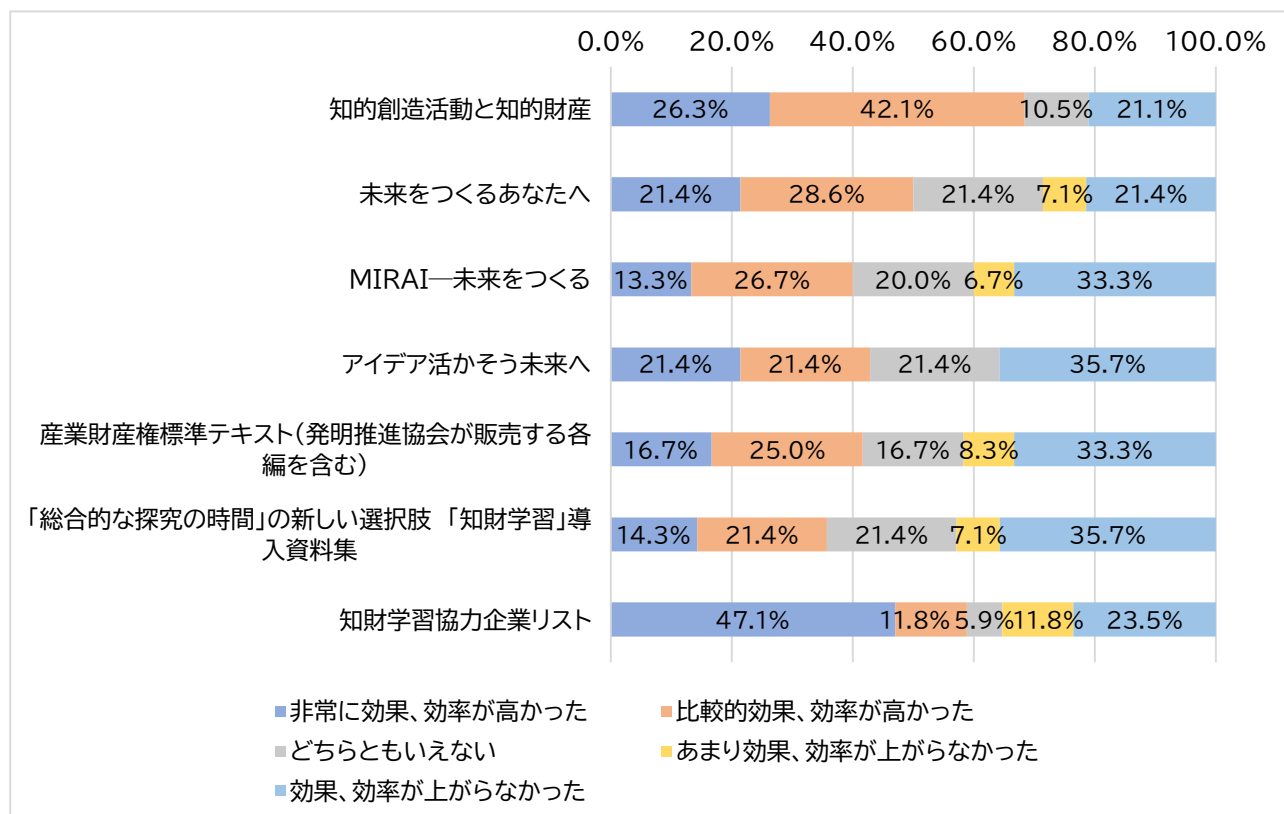
(1)使用されたテキスト等と学校区分による使用状況

参加校においては、「知的創造活動と知的財産」が多く活用されているが、その他のテキストについても活動内容に合わせて効果的に使用されている。また、本年度から導入された「知財学習協力企業リスト」については、導入校のうち47.1%が「非常に効果・効率が良かった」と回答しており、全体として高い評価を得ている。

表2-3-1 テキスト等の使用状況(令和7年度アンケートより)(単位:校)

項目	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	高専	全体
	(17校)	(6校)	(20校)	(10校)	(2校)	(2校)	(4校)	(2校)	(2校)	(65校)
知的創造活動と知的財産	7	2	7	2	0	1	0	0	0	19
	41%	33%	35%	20%	0%	50%	0%	0%	0%	29%
未来をつくるあなたへ	6	1	5	1	0	1	0	0	0	14
	35%	17%	25%	10%	0%	50%	0%	0%	0%	22%
MIRAI—未来をつくる	7	1	5	2	0	0	0	0	0	15
	41%	17%	25%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	23%
アイデア活かそう未来へ	6	2	4	2	0	0	0	0	0	14
	35%	33%	20%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	22%
産業財産権標準テキスト(発明推進協会が販売する各編を含む)	5	2	4	1	0	0	0	0	0	12
	29%	33%	20%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	18%
「総合的な探究の時間」の新しい選択肢「知財学習」導入資料集	7	1	5	1	0	0	0	0	0	14
	41%	17%	25%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	22%
知財学習協力企業リスト	7	1	6	2	1	0	0	0	0	17
	41%	17%	30%	20%	50%	0%	0%	0%	0%	26%

図2-3-2 テキスト等の指導効果【年間報告会時】(令和7年度アンケートより)



2-3-2. 補助学習用資料の活用法

年間アンケートや年間指導報告書によると、補助学習用資料については動画やWebサイトなどのデジタル教材の活用が多く、特に日本弁理士会公式チャンネルの「知的財産ってなんだろう」や中国経済産業局「もうけの花道」、INPITのIP ePlatなどのオンライン教材が多く挙げられている。加えて、『閃きの番人』や『14歳からの知的財産入門』、実教出版の工業・農業系教科書など書籍・冊子教材も併用されており、動画・Web教材を中心に書籍や学校独自のワークシートを組み合わせた多様な媒体が活用されている傾向が見られる。

2-3-3. 学習用資料の改良・新しい学習用資料の開発

教員が指導しながら新しい学習用資料を開発した事例や、学習用資料を改善した主な事例を以下にあげる。

学習用資料の開発等

- 地元の資源を学習素材として捉え、RESASを活用した調査を実施し、ナイトタイムエコノミーの充実を図るデジタルコンテンツ製作を通して知的財産権を学習。(宮城県松島高等学校)
- 自作サイト:<https://yamashu00.github.io/>(知財を軸としたUnityゲーム開発のために開発)(聖学院中学校高等学校)
- クラスTシャツを作成する際に利用するGoogleレンズ使用の手引き(東海大学付属相模高等学校)
- 商標出願を前提にした知財学習(立花学園高等学校)

- Google ドキュメントやスライド, スプレッドシートなどを用いて授業資料を作成している。昨年度の反省を活かし, アイデア出し段階で知財権を意識できるよう J-PLATPAT などの検証用 URL を掲載するなど, 生徒が自ら知財権に関して調べられるよう, 情報提供を強化することを意識した。(学校法人鶴学園広島工業大学高等学校 全日制課程)
- 生徒に商標や意匠デザインを見せ、なぜこのような商品名やデザインが考案されたか、問を持たせるよう心掛けた。(熊本県立熊本農業高等学校)
- 各種指導用パワーポイントは、適宜改良中。デザインパテントコンテスト指導書も内容を一部変更。テスト用プリントは新たに作成。(山口県立徳山商工高等学校)
- 本校では、機械科の機械コースと造船コースの生徒を中心に知財学習を行っている。生徒が興味関心を持てる指導資料を改良している。例えば、マイコン実習における指導教材、溶接に関する水密装置(香川県立多度津高等学校)
- 山口大学のワークショップを参考に、NotebookLM を活用した情報整理・発想支援手法を導入。(熊本県立熊本工業高等学校)
- アイデアの発想法などを説明するための「授業スライド」を作成した。(大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校)

第4節 学習用資料の活用状況

2-4-1. 知的財産委員会等の知財人材育成の推進組織の設置と活動

(1) 委員会の設置

知財マインドを持った人材の育成の取組は、特定の限られた教員のみでの活動では困難であり、参加校では校内に知的財産委員会などの委員会を設置して、組織的にその推進に当たるようになっている。

なお、現状の校内での推進委員会の設置状況は、表2-4-1のとおり、参加校の約30%に当たる19校に設置されている。そのうち、令和7年度に委員会を新規設置した学校は5校ある。

表2-4-1 校内推進委員会の設置年度(年間指導報告書より)(単位:校)

年度	R7	R6	R5	R4	R3	H27	未回答	未設置
合計 65校	5	4	4	1	1	1	3	46

(2) 推進委員会の体制

委員の人数については、表2-4-2に示すように、10~14人が最も多く、次いで7~9人が多いという結果となっている。この中には学校の管理職も委員として就任しているケースも複数校存在する。

表2-4-2 校内推進委員会の委員数(年間指導報告書より)(単位:校)

人数	3人以下	4~6人	7~9人	10~14人	15~19人	20人以上	未回答
合計 19校	0	2	5	6	3	2	1

また、実際に指導にあたる教員・教官の人数は、表2-4-3のとおりとなっている。

表2-4-3 知的財産指導教員の人数(年間指導報告書より)(単位:校)

人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	教員 合計	1校あたり 平均人数
合計 65校	0	6	4	8	4	5	3	8	1	25	700	10.94人

2-4-2. 知的財産関連学校行事の実施

知的財産に関する学校行事の実施状況は表2-4-2に示している。

学校行事の中では、発表会や展示会(文化祭など)での取組が最も多く、さらには校内向けの講演会も校種を問わず幅広い学校で実施されていることが分かる。

表2-4-2 学校行事(年間指導報告書より)(単位:件)

行事	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	高専	全体
a)校内向けの講演会	13	3	11	0	1	1	0	0	2	18
b)企業・機関・税関等への訪問学習	5	0	3	1	1	0	0	0	0	10
c)発表会・展示会(文化祭等)	15	2	7	1	1	1	0	0	0	27
d)アイデアコンテスト(パテントコンテスト等)	2	1	4	3	0	0	0	0	0	10
e)商品販売実習	0	0	1	3	0	1	0	0	0	5
f)対外的に開かれたセミナー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
g)職員向けの研修・セミナー	3	1	4	1	0	0	0	0	0	9
h)生徒自身による児童・生徒への知的財産指導	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4

I. 令和7年度 アドバイザーによる講評

今年度の参加校の取組内容について、改めてアドバイザーの方々から講評をいただきました。今後の知財学習に大変参考になる内容となっております。

今後、知財学習を深化させていく上でも大変有益な内容となっておりますので、ご一読いただければ幸いです。

(1) 令和7年度アドバイザー 一覧

		学校名	役職	氏名
1	統括アドバイザー	都築教育学園第一工科大学	工学部長 教授	満丸 浩 氏
2	アドバイザー	秋田県立男鹿海洋高等学校	教諭	大高 英俊 氏
3	アドバイザー	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校	教授	大津 孝佳 氏
4	アドバイザー	東京都立橘高等学校	副校長	親泊 寛昌 氏
5	アドバイザー	大分県立中津東高等学校	指導教諭	佐藤 新太郎 氏
6	アドバイザー	茨城県立那珂湊高等学校	教諭	成富 雅人 氏
7	アドバイザー	東海大学付属高輪台高等学校	教諭	野口 大輔 氏
8	アドバイザー	静岡県立浜松工業高等学校	教諭	藤田 祐二 氏
9	アドバイザー	宮城県工業高等学校	教諭	若松 英治 氏

(2)アドバイザーからの講評

① 統括アドバイザー 満丸 浩 氏

今回、各学校からの年間活動報告書をテキストマイニングによる共起ネットワーク図で整理し、生成 AI での分析を試みました。その結果、普通科では「実践的なビジネスへの展開」が重視され商業科との親和性が高いこと、工業科では「ものづくり教育」を中心とした知財教育が確立されていること、商業科では教育開発・運営・知的財産など方向性が多様化していることが明確になりました。

知財学習は国家戦略として位置づけられています。「知的財産推進計画2025」においては、本事業が「知的創造教育の理念は学習指導要領における資質・能力の三つの柱に対応している」と明記されました。すなわち、知財学習は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に直結する教育活動であることが国の方針として明確化されました。

これまでの事業参加校数は1,895校に達し、特に工業高校では設置校数の約50%が参加する状況となりました。一方で課題も見えてきました。工業高校の参加247校のうち、約47%が1～2年で終了しており、継続的な取り組みへの支援やフォローアップ体制の強化が求められます。

知財学習を通じて育成される力について、自信をもって説明できることが重要です。経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の3つの能力——「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」——が確実に身につきます。これらは国際競争力を支える基盤となる力です。さらに、キャリア教育の観点からは、「人間関係形成力」「情報活用力」「将来設計力」「意思決定力」といった力が育成されます。

知財学習は、これらの力を直接的かつ効果的に育成できる教育プログラムです。管理職や同僚から知財教育の意義を問われた際には、学習指導要領の三つの柱や社会人基礎力との対応を明確に説明し、本事業の教育的価値を共有していただければと思います。今後も、全国の先生方とともに知財学習のさらなる発展に尽力してまいります。1年間、ありがとうございました。

② アドバイザー 大高 英俊 氏

～知的財産学習の定着に向けて～

「3年間でどのような力を生徒に身につけさせるか」支援事業に参加している先生方には、3年間を見据えた計画的な取り組みをお願いしたい。何を教えればよいのか？どんな教材をテーマにすればよいのか？知財学習を担当する先生方の負担は大きいかもしれません。

日常生活で、普段使っているモノや商品をよく観察してみてください。商品の特徴やデザインから「なぜ？」「どうして？」を大切に、様々な角度から商品进行分析できれば「知財」を学習していることとなります。【観察力・情報収集能力】の向上を目指してください。

成功例として

- | |
|---|
| 1年生： 基礎的な産業財産権やアイデア発想法などの『創造』を中心に学習
「知財は楽しい」と思わせること、主体的に取り組む態度を育成 |
| 2年生： 『保護』『活用』『知識』を含めた知財の「制度」に関すること、知的財産権の重要性・必要性の学習、「J-platPatの検索」などを中心に「パテントコンテスト」「各種コンテスト」に取り組みせ、思考力・判断力・表現力を育成 |
| 3年生： 知財で学んだことを武器として「知財を使って社会に貢献できる」生徒を育成 |

知財を担当されている先生方は、授業の中で知財の魅力や重要性を伝えてほしい。「なぜ、知的財産を学ぶのか?」、「何のために?」、「誰のために?」を意識させる指導をお願いしたい。知財学習を推進することが生徒・教職員・学校にとって有益であること、「社会や産業の発展に寄与できる人材を育成している」という信念を強く持ち続けて欲しい。

③ アドバイザー 大津 孝佳 氏

「イノベーションのジレンマ」という本をご存じでしょうか? 『遺伝の研究者は30年に一度起こるかどうかわからない人間を研究対象にせず、1日でわかるショウジョウバエを使う。産業界で何かが起きる理由を理解したいのなら、ディスクドライブ業界を研究すると良い。技術、市場構造、世界の構造、垂直統合がこれほど広範囲に渡って急速に進化した業界は他に無い。』

私はこの業界で磁気ヘッドの開発を25年していました。技術は毎年2倍に進歩していました。開発をする中で、大切なことは、①パテント、②ペーパー、③プロダクトの3つのPです。特許が出ていなければ、論文発表も製品発表も出来ません。特許が全てにおいて優先順位1番でした。その後、その思いで高専での知財教育の現場に向かいましたが、多くの学生達も教員の皆さんもこの特許の位置づけをイメージすることが難しいようでした。そこで、特許分析から生まれた発想法TRIZをベースに技術課題からでなく、一般的な課題、特に、身の回りの課題に目を向け、人々を笑顔にするモノやコトには価値があると言った観点での知財教育にしたところ、多くの共感が得られました。サメ、百人一首、伊豆ジオパーク、卓球、自転車、航空機など身の回りにある40の発明原理探しから始めましょう。身の回りのものが発想の武器になります。本知財力開発校支援事業の支援期間は4年、生徒の在学は3年です。限られた時間の中で、創造、保護、活用の実践的プログラムをどのようにして立ち上げ、支援終了後も継続できるようにする為の、組織、人、仕組みを是非、一緒に考えましょう。まずは、地域特性や人の持つ「リソース」の分析と理解です。何を強みとするかが継続への鍵となります。次に課題発見や解決の「武器」が必要です。TRIZの発明原理、IFQCDSEC分析、9画面法、ビジネスモデルキャンパスなどのフレームワークは、AIとの相性も良く、強い味方になります。TRIZを用いて「課題の本質を見出す力」を育みましょう。各学校の特性に合わせた活用方法の支援を致しますので、お気軽にご相談ください。

④ アドバイザー 親泊 寛昌 氏

令和7年度の本事業は、生徒の創造性を育み、学校教育の中に知的財産の視点を根づかせるという目標に向け、極めて実りの多い一年となった。芝商業高校における知財学習では、キャラクター「マリンちゃん」誕生の実例や、商標・著作権の基本を生徒の学習活動と結び付けて紹介することで、知財が身近なものであるという認識を自然に引き出す内容となった。このように、生徒自身が「創り手」として知財に向き合う学習は、探究活動やキャリア形成にもつながる重要な教育的意義を持つ。

教員向けの研究会(8/27)では、著作権セミナーが最も高い評価を受け、企業講演や生成AI・ブランディングなど多様なテーマ別分科会が教員の知識更新と授業改善の意欲を高めたことが、アンケート結果から明らかになった。特に、教員同士が悩みを共有し助言し合うユニット別分科会が高く支持されており、教員研修における対話の価値が再確認された。一方で、「議論の時間をもっと増やしてほしい」「より深く踏み込んだ内容が聞きたい」といった意見も寄せられ、本事業への教員の期待が一段と高まっていることがうかがえる。

松田町活性化アイデアの分類からは、生徒が地域資源を題材にし、商標・著作権など知財の視点を取り入れたアイデアを多数提案していることが確認できる。地域特産品のブランド化、イベントの名称やロゴの知

財保護、空き店舗活用と地域ブランド形成など、知財を“地域づくりの道具”として使いこなす発想は、学習を実社会に結びつける優れた学びとなっている。生徒の創造力の発揮だけでなく、地域の魅力向上にも寄与する、教育と地域連携の好循環が生まれている点は、本事業の重要な成果である。

さらに、長崎総合科学大学付属高校の研修案では、著作権トラブルの疑似体験や、現場でそのまま活用できる教材紹介が盛り込まれ、教員が“明日からできる知財指導”を身につけられる内容となっている。こうした実践的研修は、知財教育へのハードルを下げ、広い教科領域での導入につながる点で非常に意義深い。

これらの成果を総合すると、本事業は「生徒の創造性」「教員の指導力」「地域連携」の3つを有機的に結びつけ、知財教育の新たなモデルを着実に築きつつある。しかしながら、今後の大きな課題として、**普通科を中心とした他教科での知財学習の普及、そして教員全体の知財教育に対する関心の向上**が挙げられる。商業科や専門学科では取り組みが進む一方、普通科では「自分の授業とのつながりが見えない」という声も根強く、知財が情報・国語・公民・美術など多様な教科と関連することを明確に示す工夫が必要である。また、教員研修においては、成功事例の共有、短時間で学べる教材パッケージ、生成AI時代の著作権対応など、現場が“知りたい・使いたい”と思えるテーマ設定が鍵となる。

総じて、令和7年度の実績は、知財教育の可能性を強く示した一年であった。次年度は、普通科を含む全教科で知財学習を浸透させるための支援と、教員が知財を教育の重要テーマとして主体的に扱える環境づくりを進めることで、より持続可能で普遍性ある知財教育モデルの確立が期待される。

⑤ アドバイザー 佐藤 新太郎 氏

本事業の締めくくりにあたり、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」に含まれる三つの力のうち、とりわけ「前に踏み出す力」について触れた。この力は、未知の領域に勇気をもって挑戦する姿勢を表しており、しばしば「ファーストペンギン」に例えられる。すなわち、最初の一步を踏み出す存在の重要性を示す概念である。しかしながら、近年の実践や議論を重ねる中で、私はこの「ファーストペンギン」だけでは十分ではないと考えるようになった。

新たな挑戦が社会に定着し、広がっていくためには、その一步に呼応し、ともに行動する「セカンドペンギン」、さらにはそれに続く仲間の存在が不可欠である。挑戦は個人の勇気から始まるが、それを価値ある成果へと昇華させるのは、共感し、支え合い、共に進む仲間づくりである。本事業を通して見られた多くの実践は、まさにその重要性を示していた。

特に昨年末には、九州・中国地方の関係者が一堂に会し、地域や校種の枠を越えて研究協議を重ねてきた。そこでは、先行事例の共有にとどまらず、課題を率直に出し合い、互いに学び合う関係性が築かれていた。このような横のつながりこそが、個々の挑戦を孤立させず、持続可能な取り組みへと発展させる原動力になると確信している。

本事業で得られた成果と気づきが、ぜひ他地域にも波及し、それぞれの現場において「前に踏み出す力」と「仲間と共に進む力」の両輪が育まれることを期待し、講評としたい。

⑥ アドバイザー 成富 雅人 氏

今年度、全9校を担当し、知財学習が単なる知識習得の枠を超え、学校の特色ある活動と深く融合して「文化」へと昇華していることを強く実感しました。各校の実践は、工業・商業といった教科各分野の専門性と知財が理想的に融合した、非常に質の高いものでした。

特筆すべきは、大阪府立工芸高校のようにJ-PlatPat検索を「デザインの前提」とする仕組みや、淀商業高校のメタバース運用に見る最先端の権利課題への挑戦です。これらは知財教育を切り拓く先駆的

なモデルと言えます。また、東淀工業高校や松山商業高校が示した「不安が自信に変わるプロセス」や「理解度の大幅な向上」という成果は、知財を学ぶことが生徒の自己肯定感を育む強力なツールであることを証明しました。一方で、昨年度からの課題である「実務的な活用力」については、さらなる深化が求められます。宮城県大河原産業高校や南三陸高校、あるいは天童高校や長田商業高校で見られた地域連携・ブランド構築の実践において、生徒が「契約の基礎知識」や、特許と商標を組み合わせた「知財ミックス」を学ぶ機会を増やすことは、学びをより本物(リアル)にするための鍵となります。大阪ビジネスフロンティア高校のように、コンテストの落選結果すら「なぜ権利化が難しかったか」と分析する姿勢こそが、思考の解像度を高める糧となるのです。

これから参加を考えている学校の皆様、知財学習に完成形はありません。生徒の「これ、面白いかも！」という芽を社会のルールと繋げ、その価値を守る伴走者になってください。自分のアイデアが権利として尊重される喜びを知った生徒は、驚くほど主体的に成長します。各校が知財という武器を携え、失敗を恐れず創造的な挑戦を継続されることを願っております。

⑦ アドバイザー 野口 大輔 氏

小泉純一郎首相(当時)が「知的財産立国」宣言を行った平成14(2002)年、私はそのころまだ大学院生でした。その後、旧逓信省の技官として通信機器の国産化に寄与した人物が創立した学校に職を得たものの、「普通科でできる知財学習なんてコンテンツ作成ぐらいでは？」と思いながら細々と知財学習を続けていたものです。

あれから四半世紀が経ち、普通科の学校でも地元企業と協働しながら新商品の開発に携わったり(福井県立高志)、自身が考案したアイデアをOEM(Original Equipment Manufacturing)製品として世に送り出したり(聖学院)する活動が当たり前のように(?)行われるようになりました。これには「総合的な探究の時間」の創設や高等教育における総合型選抜の拡充といった背景もありますが、何よりも現場の先生方が旧来型の教育に限界を感じ、現状を打破するために不断の努力を重ね続けた結果に他ならないと考えています。

普通科における知財学習では、まだまだ一部の生徒しかその対象となっていないこともありますし、必ずしも通年で実施しているとは限りません。しかし、それでも構わないのです(専門高校でもそうした学校は珍しくありません)。また、年間を通して全校体制でプログラムを展開している学校も徐々に増えつつあります。ぜひ、ご自身の勤務校が掲げている教育目標や建学の精神をご確認いただき、そこに知財学習を据えることができないかご検討ください。知財学習を通して生徒たちが自己効力感を高めていく様子をご覧になれば、きっと皆さまも知財学習を推進したいとお考えになると思います。

⑧ アドバイザー 藤田 祐二 氏

一年間の取り組み、お疲れ様でした。本事業には、知財学習を始めたばかりの学校から、何年も継続されている学校まで、幅広く参加いただいています。経験の浅い学校や先生方は、先進的な取り組みを実践している学校の発表を聞くと、次の2つの思いを抱くのではないのでしょうか。

- ① 「この取り組みは素晴らしい。ぜひ自校でも取り入れたい」
- ② 「しかし、ここまで凄いことはできない。自分たちには無理だ」

経験豊富な学校は、素晴らしい内容と成果を上げておられます。引き続き新たなチャレンジを続けていただくと共に、ぜひ経験の少ない学校へ「私たちも最初はこうしてスタートした」といったアドバイスをいただければ幸いです。また、経験の浅い学校の皆様は、高い目標を掲げるのは良いことですが、1、2年でそこ

に到達しようと焦る必要はありません。学校の実情(生徒の様子、教員の意識や体制)に合わせ、歩幅は小さくとも着実に一歩ずつ進めていく計画で十分です。

各校の報告書を拝見すると、多くの現場で「協力してくれる先生が見つからず、少人数で指導している」という悩みがうかがえます。知財学習は、あらゆる教科・科目で実践可能です。知財というフィルターを通して今の教育活動を再評価し、「知財は難しい」という先入観を「実はすでに知財学習をしていたのだ」という気付きに転換できれば、共に推進する仲間が増えていくはずです。取り組まれるすべての先生や生徒の皆様にとって、楽しく有意義な知財学習となることを願っております。

⑨ アドバイザー 若松 英治 氏

私が所属している情報技術科では、昨年度から「スマート農業」を実践している農家さんから出張講義をしていただいております。

出張講義は「情報技術を他の産業分野に活用できないか？」という視点で他産業に目を向け、その産業における困りごとを探し、それを自分の課題として捉え、解決しようとするマインドの醸成を目的としています。

講義後、生徒たちは一様に「今までは“これまで学んできた情報技術をいかに工業分野で活用するか”ということしか考えていませんでした。しかし、実際に農地で情報技術を駆使することで課題としていたものが劇的に解決に向かった事例を知り、視野が広がりました」と振り返っていました。

農業に限らず水産業、林業と、たくさんの産業現場に触れ、各分野における困りごとに対して自分の専門性を駆使してどうアプローチするかを真剣に考える機会を高校時代に得ることは貴重な経験なのではないでしょうか。これまでは何となく他分野と連携してもものづくりができないか、と安直に考えておりましたが、スマート農業の実践講義を受けるにつれ、その目的を深く考えるようになりました。

今では産業高校も普通科高校も関係なく連携し、互いの得意分野を持ち出し合うことで今まで知らなかった世界を垣間見る刺激的な機会にもなり、同じ課題を共有し、課題解決まで協力して取り組む活動が活発になれば、互いの専門性の活用法を学ぶことができるため、知識の深まりを期待できるのではないかと考えるようになりました。

これからは失敗しても良いので積極的に他校、他学科と連携するような活動をしていきたいと思っています。皆様もいかがでしょうか？

II. 令和7年度 参加校実践事例集

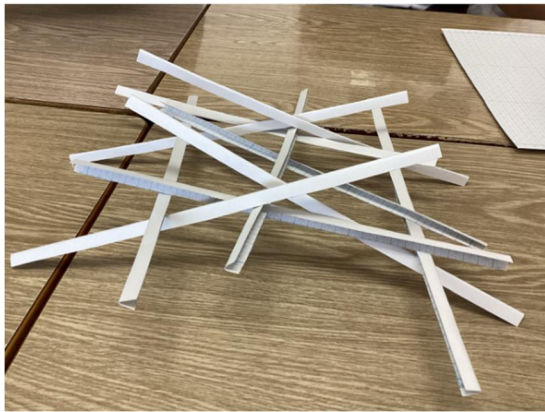
各校の取組のねらいと関連法

学校 番号	学校名	ねらい							関連する法律			
		体験 キャリア教育・ビジネス	知的財産や社会制度への理解促進	生徒の能力育成(創造性・主体性・表現力等)	産業界との連携強化・地域への理解促進	外部との連携強化・地域	指導体制の構築・教員のスキル向上	学校の特徴や専門性の強化・生徒募集	その他(著作権等)	特許・実用	意匠	商標
普01	札幌日本大学高等学校	○	○	○		○			○	○		
普02	東海大学付属札幌高等学校		○	○	○				○		○	
普03	宮城県松島高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	著作権法
普04	東海大学付属市原望洋高等学校		○	○				○	○			
普05	玉川学園高等部		○	○	○	○	○		○			
普06	サレジアン国際学園高等学校	○	○	○	○	○			○	○	○	
普07	東海大学付属高輪台高等学校	○	○	○	○	○			○	○	○	
普08	聖学院中学校高等学校	○	○	○	○			○	○	○		
普09	東海大学付属相模高等学校	○	○	○				○	○	○		著作権法
普10	立花学園高等学校		○	○	○			○			○	著作権法
普11	福井県立高志高等学校		○	○				○	○			
普12	三重県立津西高等学校		○	○	○				○			
普13	岡山県立岡山芳泉高等学校	○	○	○	○	○			○		○	
普14	広島工業大学高等学校		○	○				○	○			
普15	野田学園中学・高等学校		○	○	○	○			○	○		
普16	徳島市立高等学校			○	○					○	○	
普17	長崎総合科学大学附属高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
農01	北海道更別農業高等学校		○	○					○			
農02	秋田県立大曲農業高等学校	○	○	○	○	○	○		○			
農03	岐阜県立岐阜農林高等学校		○	○					○	○	○	種苗法
農04	大阪府立農芸高等学校	○	○	○	○	○	○			○	○	
農05	熊本県立熊本農業高等学校		○	○	○	○	○					地理的表示保護制度

学校 番号	学校名	ねらい							関連する法律			
		キャリア教育・ビジネス 体験	知的財産や社会制度への 理解促進	生徒の能力育成(創造 性・主体性・表現力等)	外部との連携強化・地域 産業への理解促進	指導体制の構築・教員の スキル向上	学校の特色や専門性の 強化・生徒募集	その他(著作権等)	特許・実用	意匠	商標	その他(著作権等)
農06	大分県立日出総合高等学校			○	○				○		○	
工01	宮城県工業高等学校		○	○	○	○	○	アントレプレナーシップ(起業家精神)教育との連携	○			
工02	秋田県立湯沢翔北高等学校		○	○		○			○			
工03	山形県立鶴岡工業高等学校		○	○	○	○	○		○			
工04	群馬県立前橋工業高等学校	○	○	○	○				○	○	○	
工05	長野県佐久平総合技術高等学校	○		○	○				○			
工06	岐阜県立岐阜工業高等学校	○	○	○	○	○	○	研究倫理	○	○	○	
工07	岐阜県立岐南工業高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
工08	三重県立津工業高等学校	○	○	○	○				○		○	
工09	大阪府立東淀工業高等学校		○	○	○	○			○	○	○	
工10	大阪府立工芸高等学校		○	○		○	○		○	○	○	
工11	大阪府立堺工科高等学校		○	○		○			○	○	○	
工12	山口県立田布施農工高等学校		○	○	○				○	○	○	
工13	山口県立徳山商工高等学校		○	○	○	○	○		○	○		
工14	香川県立多度津高等学校	○	○	○	○		○		○	○		
工15	開新高等学校		○	○	○	○	○		○	○		
工16	熊本県立熊本工業高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
工17	大分県立大分工業高等学校		○	○		○	○		○	○		
工18	大分県立鶴崎工業高等学校	○		○					○			
工19	大分県立中津東高等学校	○	○	○	○	○	○	アイデア発見、創造性の育成				
工20	鹿児島県立鹿児島工業高等学校		○	○	○	○			○	○	○	
商01	宮城県大河原産業高等学校		○	○	○	○					○	
商02	宮城県南三陸高等学校	○		○	○		○		○	○	○	

学校 番号	学校名	ねらい							関連する法律			
		体験 キャリア教育・ビジネス	知的財産や社会制度への 理解促進	生徒の能力育成(創造 性・主体性・表現力等)	外部との連携強化・地域 産業への理解促進	指導体制の構築・教員の スキル向上	学校の特色や専門性の 強化・生徒募集	その他(著作権等)	特許・実用	意匠	商標	その他(著作権等)
商03	山形県立天童高等学校	○	○	○	○	○					○	
商04	東京都立芝商業高等学校		○		○				○		○	
商05	東京都立第五商業高等学校			○	○				○		○	
商06	神奈川県立小田原東高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	著作権法
商07	大阪府立淀商業高等学校	○	○	○	○	○			○	○	○	
商08	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校	○	○	○	○	○	○		○		○	
商09	兵庫県立長田商業高等学校		○	○	○		○		○	○	○	
商10	愛媛県立松山商業高等学校		○	○	○				○		○	
水01	兵庫県立香住高等学校	○	○	○	○	○	○		○		○	
水02	熊本県立天草拓心高等学校			○	○					○	○	
家01	千葉県立佐倉高等学校		○	○			○			○	○	著作権法
家02	和歌山県立熊野高等学校	○	○	○	○		○				○	
情01	千葉県立柏の葉高等学校	○	○	○	○	○	○			○	○	
情02	千葉県立袖ヶ浦高等学校		○	○						○		
情03	京都府立京都すばる高等学校	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
情04	大分県立情報科学高等学校		○	○		○			○	○	○	
福01	東奥学園高等学校	○	○	○	○		○		○	○	○	著作権法
福02	山形県立鶴岡中央高等学校	○	○	○	○				○	○	○	著作権法
専01	一関工業高等専門学校			○					○			
専02	富山高等専門学校	○	○									

※ 各事例中で実施されている販売に係る取組については、本事業の活動経費支援外で行われています。



【写真1】ワーク(ダビンチ橋の作成1)



【写真2】ワーク(ダビンチ橋の作成2)



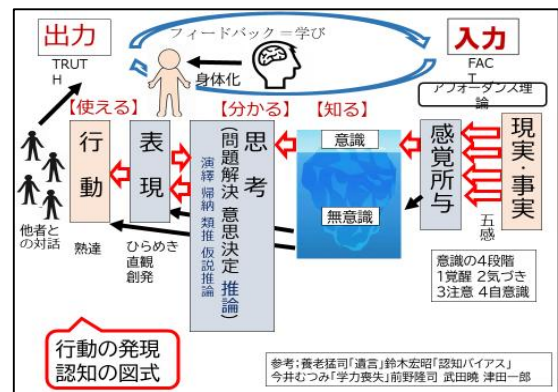
【写真3】ワーク(アイデア出しの様子)



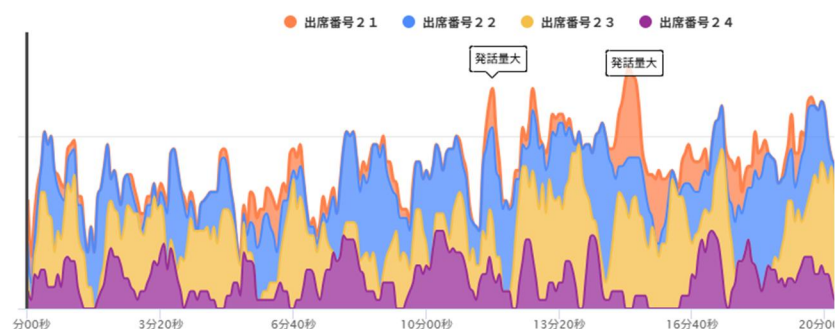
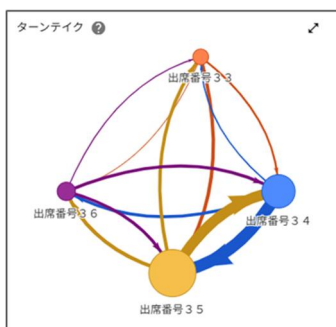
【写真4】ワーク(サイエンスチャレンジ)

班	自社株 購入額	自社株 投資総計	自社株 倍率	自社株 現在値	投資1		投資2		投資3		残金	合計		
					現 在 値	倍 率	現 在 値	倍 率	現 在 値	倍 率				
例	700万	1800万	x1.8	700x 1.8 = 1260万	3	400万	1.3	520万	9	300万	0.8	240万	100万	1260+220 +240+100 = 2120万
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														

【表1】ビジネスアイデア起業コンテスト集計表



【図1】情報から創造が生まれる仕組みの仮説



【図2】対話の可視化 対話のスパイダー分析(左) 対話の重なり度のデータ(右) (ハイラブル社製機器を使用)

写真1



写真2 & 写真3



福祉に関する講演（佐藤氏）

高校生向け知財教室 弁理士 大窪氏、理研興業 柴尾氏



知的財産セミナー（11月実施）

①の生徒によるイメージ図

（株）岩谷技研 代表取締役 岩谷 圭介 氏

高校生による知的財産教室（試行授業）

当初、秋に本校生徒が小学生に知的財産について教える出張授業を計画していた。しかし、小学生への授業に関する安全性、準備の問題、会場の問題などにより、今年度、実施することを断念し、来年度以降に行うこととなった。

ただし高校生に知的財産教室についてイメージを沸かせるために教員による試行授業を行った。参加した生徒はボランティア同好会の生徒15名。内容は、知的財産クイズや新商品を考えるワークショップ、発明カルタ、知的財産「魔改造」のワークショップを行った。合計3時間の試行授業を実施した。生徒はアイデア出しのワークショップやディスカッションだ。今後は来年度の実際の実施に向けて、生徒とミーティングを行っていく予定である。



（例）取組の様子の写真

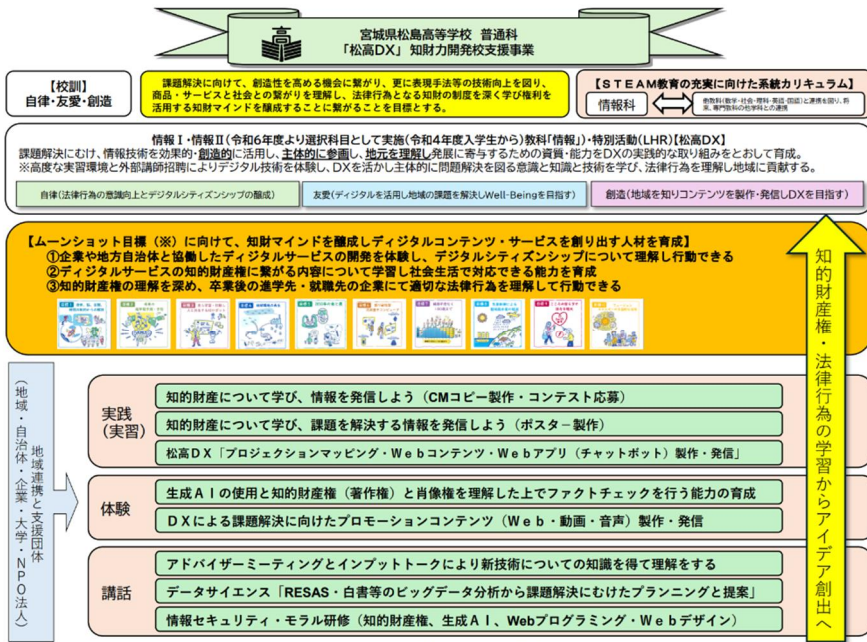
令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 03	学校名	宮城県松島高等学校	担当教員名	森 友寿
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> その他（地域連携）		<input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集		
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input checked="" type="checkbox"/> その他（著作権法）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産について学び、情報を発信しよう（ポスター制作）	情報Ⅱ・課外活動(4,5,6,7,8)	2,3,4,7,10	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	プロモーションコンテンツ（動画・音声）製作・発信	情報Ⅱ・課外活動(6,7,8,9,10,11)	12,3,4,5,6,7,8,9,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	DX活動 Webコンテンツ製作・Webアプリ制作・発信	情報Ⅱ・課外活動(10,11,12,13)	12,3,4,5,6,7,8,9,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	データサイエンス（RESAS・自署のデータを使用したデータ分析と課題解決に向けた取り組み）	情報Ⅱ(6,7,12,13)	2,3,4,5,6,7,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	情報セキュリティ・モラル研修 知的財産権について	全校生徒(4,5,7,12,13)	6,7,8,9,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	情報セキュリティ・モラル研修において弁理士から知的財産権の講話を実施し、ポスター制作・啓発を行うことで内容の理解度が44.2%から72.5%に上昇した。また、地元の課題解決を目的にデジタルコンテンツを制作し、町内の観光イベントと連動して発信した。そして、地元の放置竹林とインバウンド体験を解決する2件の案をパテントデザインコンテストに応募した。	
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	弁理士の講話を受けて、全校生徒が知的財産権に関する法律行為の理解を深め、全体の9割の更なる学習意欲に繋がった。（表1）講話後に科目「情報Ⅱ」にて講話後に啓発のポスターを制作し発信した。また、データサイエンスにて「RESAS」を活用して調査した人口減少の影響と、移住・定住促進と地元の観光の課題となる「ナイトタイムエコノミー」を解決する方法としてデジタルコンテンツ「プロジェクションマッピング」制作と、地元の関係者の理解と支援により、松島町で開催されたイベント期間中に投影と発信を行った。課外活動では、地元の観光協会長を招き観光に関する知的財産権の重要性について講演を受けて、パテントデザインコンテストへ2作品を応募した。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②				
成果内容	地元松島町の課題である人口減少や、交流人口増加と経済活性化に向けた「ナイトタイムエコノミー」を充実しDX化に繋がることを目的に、情報技術を活用したデジタルコンテンツの制作と発信を実施した。そこで「情報モラル・セキュリティ」だけではなく「知的財産権・著作権」についての法律行為を理解し、「デジタルシティズンシップ」を意識したDX（観光DX）の学習内容の充実と技術向上を図ることができた。				
生徒・学生に見られた変化	講話や実習での取組を通して、デジタルコンテンツ制作やレポート作成をする際に、著作権や肖像権と出典の掲載の確認を行う生徒が増加し法律行為の理解による意識の向上が見られた。また、デジタルコンテンツ制作におけるコンセプト設定を思考する際に、データサイエンスにおけるRESASを活用した地元松島の調査を通して、普通科においても地域資源を理解し経済活動における知的財産権との関わりへの意識を高めた。				
その根拠	教科「情報」の単元にて知財教育を実施していたが、本事業でのデジタルコンテンツ制作をテーマにした教材により、情報教育を通して知的財産権の尊重と経済社会との関わりを意識し理解を深めた生徒が、事前アンケートと事後アンケートの結果を比較し約20%から約60%に増加した。				
課題・反省点	デジタルコンテンツの制作にあたり、地元資源に関する知識や理解を深め、生徒の創造性を育む取組を通して、学習活動における引き出しを増やす必要がある。また、情報事業者だけではなく、地元の行政や名所・史跡の関係者ならびに観光関係者との普段からの連携が重要である。				
今後の展望	地元の産業を学習素材として、課題解決に向けた情報技術の活用の一つに、顧客満足の充実とナイトタイムエコノミーの促進を目標に、移住・定住と観光客を対象にしたデジタルコンテンツ制作の学習を通してDXにおける知的財産権とデジタル活用を理解しつつ技術向上を目指す。				

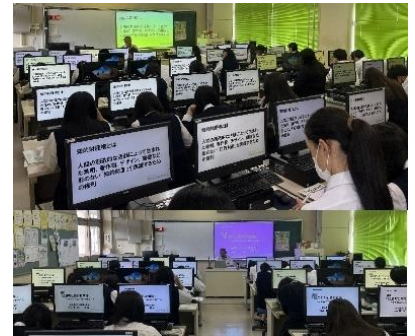
本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 弁理士による講話



(写真2) 観光と知的財産権に関する講話

(図1) 本校の「松高DX」の取組(ポンチ)絵

知的財産権について

項目	割合
ぜひ学習したい	10.9%
学習したい	28.9%
どちらでも良い	53.9%
学習したくない	6.3%

(表1) 講話・授業後の知的財産権についての意識

知的財産権の目的について

項目	割合
権利を保護する	47.2%
経済社会の活性化	29.9%
新しいアイデアを出す	12.9%
お金持ちになる	10.0%

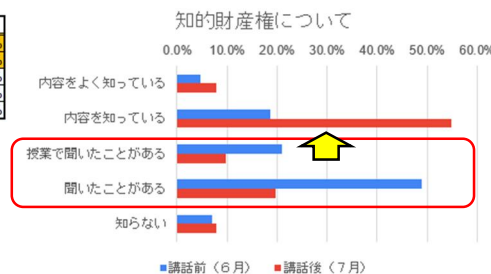
(表2) 講話・授業後の知的財産権の目的の理解状況



(写真3) 生成AIと知的財産権に関する講話

知的財産権を知っていますか?

項目・時期	講話前(6月)	講話後(7月)
内容をよく知っている	4.7%	7.8%
内容を知っている	18.6%	54.9%
授業で聞いたことがある	20.9%	9.8%
聞いたことがある	48.8%	19.6%
知らない	7.0%	7.8%



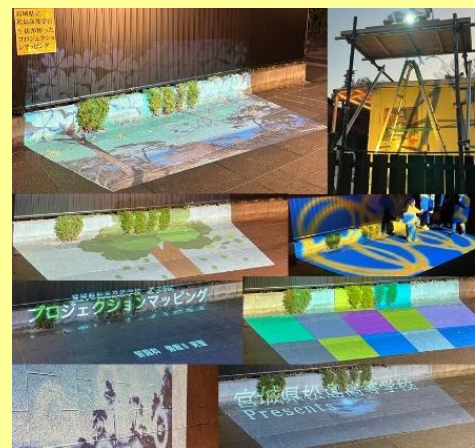
(表3) ・(グラフ1) 知的財産権に関する講話・授業を受けて(指導前後の比較)



(写真4) コンテンツと知的財産権に関する講話

デジタルコンテンツ「松島プロジェクションマッピング」を発信

普通科3学年「情報Ⅱ」の授業にて、生徒が制作した「プロジェクションマッピング(デジタルコンテンツ)」を、松島町内の円通院の御協力を得て、円通院敷地内のもみじ庵にて作品の投影を実施した。「松島の四季」をコンセプトにサイネージウィンドウ形式で表現した。松島町の秋の代表的な「円通院 紅葉ライトアップ」では、幻想的な境内の風景と三慧殿の近くのプロジェクションマッピングなども、拝観者の楽しみになっており、生徒が観光客に対してデジタルコンテンツのテーマや制作方法、そしてポイントを紹介した。多くの観光客が足を止めて、生徒に「頑張ったね」や「よくできている」との言葉を掛けていた。

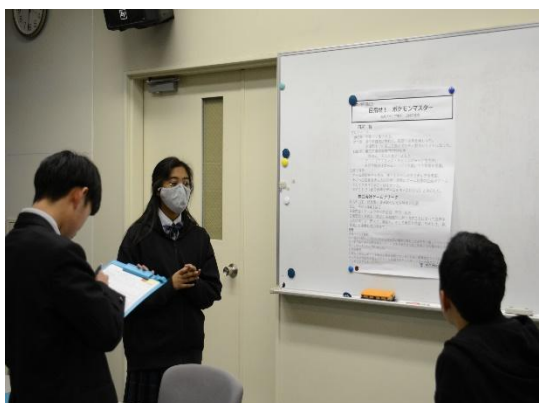


令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 04	学校名	東海大学付属市原望洋高等学校	担当教員名	和光誠司
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	身近な便利なグッズ（商品）から、知的財産を知ろう	高校 1 年生, 12-1 月	6,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	アイデア商品を提案しよう	高校 2 年生 12-1 月	1,3		<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	起業家精神を理解する	高校 3 年生 11-12 月	11		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知的財産教育についての研究		1,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤			以上		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	各学年とも知的財産教育にかかる時間が十分に確保できていない。知財に関する研修会にできるだけ先生方を派遣した。多くの先生方が自分ごととしてとらえさせるのに時間がかかると感じた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	①弁理士を招致して、知的財産についての講演を 1 年生対象に 1 回実施した。身近な知的財産に対する意識付けは良かった。 ②文具王を 2 年生で 1 回、起業家を 3 年生で 1 回招致、有志を対象に横浜税関を訪問することでアイデア商品開発に対する興味関心を高めた。 ③各学年とも知的財産教育にかかる時間は 5～6 時間程度となっている。2 学期期末試験前後の取り組みが多く、これまでのワークシートを繰り返し使用しているところがある。責任者が担任を持っていないこともあり、新しいことに挑戦させることができていなかった。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	④知的財産教育についての研究				
成果内容	①先進校（東海大札幌高校）への視察 ②横浜税関への視察、INPIT からの活動支援 ③「総合的な探求の時間」を含め、知的財産を深めるための勉強会に可能な限り参加した。				
生徒・学生に見られた変化	①日本弁理士会が発行している冊子やパテントコンテストの過去の入賞作品に触れ、知財に対するハードルを少し下げることができた。 ②横浜税関視察や、プレゼンテーションなどを通じ、学ぶから伝えることで、知的財産に対する意識が高まった。 ③弁理士、文具王、起業家を招致したことは、日頃は接することがない先生から課題発見や知的財産に関する情報を得ることにつながった。				
その根拠	①これまで、学年主導で進めていた知的財産教育について、学年を超えて話し合い、今後の方向性を検討することができたこと。 ②新しい取り組みを通じて、多くの生徒から“参加して良かった勉強になった”というコメントをもらった。 ③専門家の先生からの話を聞きながら、各学年で取り組んでいる課題（テーマ）に対し、前向きに取り組もうとする姿勢が見られた。				
課題・反省点	①本年度は、アドバイザーとの連携をはかることができなかった。これまでの報告会にオンライン参加や代理参加が多くなってしまった。 ②横浜税関への視察した際の生徒たちの反応がとてもよかった。まずは自分の目や耳から興味を抱かせることが大切だと感じた。 ③専門家の先生方のアドバイスを受けたあとは、各担任が授業を進めているが、先進校に学びながら、理解やワークシートなどを発展させていきたい。				
今後の展望	①研修会への参加を促すことで、これまで知財に関わってこなかった先生方も巻き込み、より実践的な取り組みにつなげていくこと。 ②知的財産につながるような、企業視察など、生徒の興味関心を高める視察先について、先進校や他の付属校との情報交換を重ねる。 ③先進校から持ち帰った資料をもとに、知的財産に関する生徒の探求活動を高める手法について、担当者が中心となって模索していく。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



起業家発表会（3年）



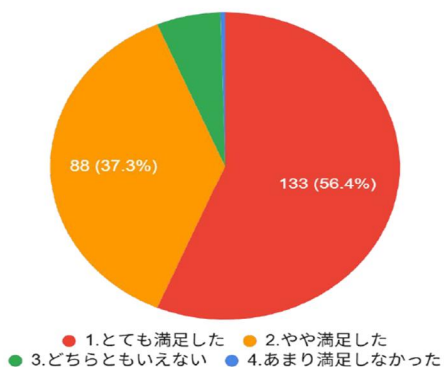
文具王による講演（2年）



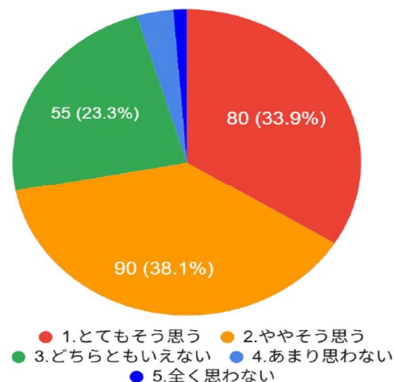
■授業満足度は9割以上の生徒が高い評価、継続受講への意欲も高い結果

9割以上の生徒が授業に対して満足度の高い評価をしており、極めて高評価を得た。また起業家講演の継続受講意欲でも約7割が肯定的に回答。起業家教育プログラムが学習者にとって価値ある学習体験となったことを示しており、継続的な教育効果への期待も高いことが確認された。

■今回の授業満足度を教えてください。



■起業家の講演をまた聞きたいですか？



起業家教育実施後のアンケートの一部（3年生）

横浜税関への視察 2025.08.28

昨年度に引き続き、知的財産教育を推進するうえで、生徒たちの興味・関心を引き出すには、現地視察が最も効果的であると感じた。今年度は、昨年度の特許庁訪問に続き、横浜税関を訪問した。夏休み最後のイベントとして実施したにもかかわらず、10名ちかくの生徒が参加してくれた。

事前に担当者と打ち合わせを行い、当日は横浜税関の歴史に加え、摘発した密輸の手口の再現、先端技術を導入した検査機器を活用した取締り方法、知的財産を侵害する偽ブランド品の見分け方や押収業務の内容などについて、専門的な説明を受けることができました。先生方からも「面白そうな企画だね」「自分も参加してみたかった」という声をいただくことができ、企画した側として非常にありがたく感じました。



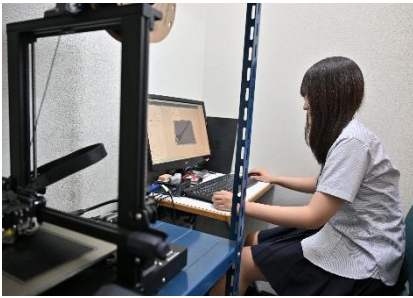
令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 05	学校名	学校法人玉川学園 玉川学園高等部	担当教員名	矢崎 貴紀
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産権についての理解を深める	4、8、12、3	1,6,7,9,11,12,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	知的財産権関連のコンテスト等への挑戦	7、8、9、10、12	1,2,3,9,10,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	探究活動において知的財産権についての活動を取り入れる	5、6、7	1,3,5,6,11		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④				保護	<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥					<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫					<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	目標の「知財活動を行う生徒 50%増」に対し、アンケートで「技術的工夫」への言及が 49.3%、「応用可能性」が 40.4%と過去最高を記録し、質・量ともに目標を達成できた。コンテスト参加数は目標の 2 倍に届かず 1.5 倍に留まったが、パテントコンテストで受賞を果たすなど成果の質的向上が確認された。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	本校の 3 年間の総単位数 98 単位中 20 単位（約 20%）で知財に関する話題を授業に導入し、日常的な意識化を図った。外部連携では、シンガポール南洋理工大学の佐藤教授による「サイボーグ昆虫」をテーマとした講演を中 3～高 2 の 505 名に対して実施し、さらに選抜された 17 名が同大学を訪問して最先端の研究体験を行った。結果、知財関連コンテストの応募数は昨年度比 1.5 倍に増加し、パテントコンテストでの受賞や、JSEC2025 でのテレビ朝日賞および ISEF2025（世界大会）への出場といった顕著な成果が得られた。生徒の意識面では、2025 年度のアンケートで「技術的工夫」への言及が 49.3%（2023 年度 25.4%からほぼ倍増）、「応用可能性」が 40.4%に達した。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	③				
成果内容	「人工眼球を用いたベンハムのコマの錯視現象の解明」の研究が日本代表として世界大会 ISEF2025 に出場、「The best way to preserve polyphenols using olives」が GLS2025 で Basic Science 分野 Creativity Award を受賞、パテントコンテストにて「文部科学省 科学技術・学術政策局長賞」を受賞				
生徒・学生に見られた変化	2024 年度から 2025 年度にかけて、知的財産に対する意識が高まり、生徒の探究活動における創造性と新規性が向上した。特に、パテントコンテストの受賞がきっかけで来年に向けて受賞を目指す生徒の人数も増加している。				
その根拠	3D プリンタの活用講座、工具の使い方・加工方法等の講義を実施したことで、生徒の技能が向上し、アイデアを形にできるようになった。				
課題・反省点	普通科における時間不足と、専門外教員の意識向上が課題である。2025 年度の分析では「技術的工夫」への言及が 49.3%と激増した一方で、「権利・制度」への言及は 2.5%に留まり、制度理解の定着が不十分であることが浮き彫りになった。また、コンテスト参加数も目標（2 倍）に対し 1.5 倍に留まった。				
今後の展望	弁理士等との連携を強化し、研究成果を「権利化」へ結びつける直接指導を拡充する。世界大会等の成果を学内で積極的に表彰して生徒の関心を高めるとともに、探究の振り返りに知財の要素を促す問いかけを導入することで、向上した技術力を権利意識へと繋げる指導を推進する。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 3Dプリンタ活用の様子



(写真2) 生徒が作成した3Dデータ

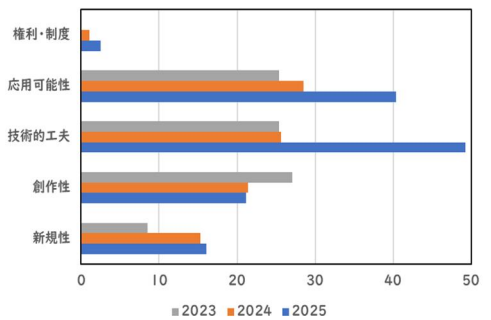


(写真3) 世界大会での発表

大会・研修名	受賞内容	参加した生徒のポスター・論文タイトル
東海フェスタ	奨励賞	Identification of Metallic Materials via Reflected Sound Analysis: Utilizing a Parametric Speaker
Global Link Singapore2025	BASIC SCIENCE分野 4th Prize	The effect of heat denaturation of protein on the number of soluble protein
	SOCIAL SCIENCE分野 FINE WORK PRIZE BASIC SCIENCE分野 Creativity Award	Eliguals' Brain Activity During First and Second Language Listening -A Preliminary Study in Japanese and English- The best way to preserve polyphenols using olives
Global Link Australia supported by Queensland (GLQ)2025	Bronze AWARD(第3位)	沖縄県の大規模白化から始まったサンゴの移植活動までの軌跡 ～海洋プラスチック汚染問題によるサンゴへの影響～
SSH生徒研究発表会	ポスター賞	人工眼球を用いたベンハムのコマの錯視現象の解明
高校生が考える「空き不動産活用」コンテスト 生活創造コンクール	日本賃貸住宅管理協会 会長賞	物語の力で地域を笑顔に！～児童文学を活用した地域活性化への挑戦～
	優秀賞	音響誘導システムの新たな可能性～パラメトリックスピーカーと従来の音響システムとの性能比較と結果的活用方法～
日本学生科学賞 (東京都大会)	最優秀賞	ドマの色と味の関係
	最優秀賞	カゼインプラスチックの可能性
	努力賞	健康に良いぬか漬を作るには
	努力賞	解熱ソフトを用いた軌道最適化
第1回エコテック調査研究発表会	優良賞	海洋プラスチック汚染問題によるサンゴへの影響～セタイノギンチャクを用いた研究～
	優秀賞	野菜の成分を効率的に摂取する方法
	優秀賞	貝殻の力で水を守る！貴金属吸着の新たな可能性
	環境省大臣官房 環境保健部 化学物質安全課 環境次官室長賞	健康に良いぬか漬を作るには
	優良賞	血管模型を用いた動脈硬化改善に向けた研究
	優良賞	野菜くずの活用によるペジプロスの効率的な成分抽出法の開発
	環境省大臣官房 環境保健部 化学物質安全課長賞	リボンベジタブルの効率化
	環境省大臣官房 環境保健部長賞	テンセグリティ構造と継ぎ手を利用したエコテックの作成
	優良入賞	アロエの成分分析
	優良入賞	リボンベジタブルの効率化
東京理科大学 坊っちゃん科学賞	入賞	水産養殖におけるアルテミア培養の新手法: 微細藻類 Dunaliella Salina の活用
	佳作	紙飛行機の設計と飛行性能評価～衛星からの感震計査への応用に向けて～
東京都高等学校理科研究発表会	優秀賞(物理部門)	種体細胞の光応答遺伝を構築した人工眼球による色の感覚メカニズムの研究
第11回全国ユース環境活動発表大会	高校生が選ぶ特別賞(第2位)	サンゴの未来を救う一歩に！サンゴ研究部の活動
	敢闘賞	野菜くずの活用によるペジプロスの効率的な成分抽出法の開発
	敢闘賞	野菜くずの活用によるペジプロスの効率的な成分抽出法の開発
	入選	オフグリッド海洋機関の開発に向けた研究
	テレビ朝日奨励賞	アカハライモリの皮膚自家移植および再切除における皮膚再生機構の解析
パテントコンテスト	文部科学省 科学技術・学術政策局長賞	人工眼球

(表1) 全国大会の受賞実績

新規性	新しい/新規/新た、独自、工夫・改善・改良、発見・発明・考案、アイデア・提案、開発
創造性	アート・作品、デザイン、広告・ポスター・ロゴ、イラスト・キャラ、映像・動画、音楽(作曲・演奏)、写真、blender・3DCG、創作・表現
技術的工夫	実験(装置)、測定、解析、設計、3Dプリンター、3DCG、加工、制御、Raspberry、AI
応用可能性	応用・実用・実用化、社会(課題解決)、商品、産業・経済・ビジネス、医療・環境・防災・教育
権利・制度理解	知財、特許、著作権、商標、意匠、特許、出願、先行、調査、権利、制度、弁理士、コンテスト、審査



(グラフ1) 知財の要素の伸び(年次変化)

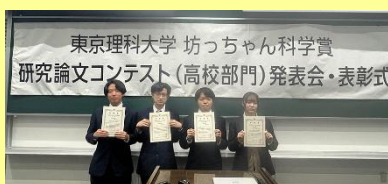
探究学習における3Dプリンタの活用に関する取り組み

3Dプリンタ活用による創造性の刺激と研究の深化

生徒が自身の独創的なアイデアを即座に具体化できるよう、3Dプリンタや工作機械を日常的に、かつ自由に活用できる環境を整備し、創造性を刺激する探究活動を推進しています。3DデータをPC上で設計する技術を習得し、試作と改良を高速で繰り返すプロセスは、生徒の発想を単なる思い付きに留めず、研究内容を飛躍的に深化させる原動力となっています。

2025年度において知財に関連する国内外のコンテストでの顕著な成果として結実しました。特に、独自の3Dモデルを用いて実験装置を構築した「人工眼球」は、パテントコンテストにおいて文部科学省 科学技術・学術政策局長賞を受賞し、その独創性が知的財産の観点から極めて高く評価されただけでなく、この装置を活用した研究活動では世界大会である ISEF 2025 において日本代表として出場という快挙を成し遂げました。

また、全国規模の大会においても、実用性の高い技術的工夫が数多く評価されています。具体的には、パラメトリックスピーカーを活用した「音響誘導システム」の研究が生活創造コンクールで優秀賞を受賞したほか、テンセグリティ構造と継ぎ手を工夫した「エコテック」の作成が環境省大臣官房 環境保健部長賞を受賞するなど、高度な構造設計や技術開発を伴う成果が相次いでいます。さらに、Global Link Australia 2025 における「Creativity Award」の受賞は、生徒たちが自由な環境で試行錯誤を繰り返す中で、国際的に通用する独創性を育てていることを証明しています。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 06	学校名	サレジアン国際学園高等学校	担当教員名	尾崎正靖
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産に関する講義	entrepreneur 養成講座生・ゼミ	1,3,6,7,11,12,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	沖縄・石垣島訪問	entrepreneur 養成講座生・ゼミ 合宿	1,4,6,7,8,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	知的財産に関する動画制作と上映	学園祭来場者・学園祭	1,2,3,5,7,9,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④					<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	やや不十分（5割以上）	その理由	entrepreneur 養成講座の所属生への教育効果（以下、取組の状況に記載）は実証できたが、コース生全体への理解波及については機会も少なく、効果検証が充分にできなかった。		
取組の状況	<p>具体的な数値を用いて記載をお願いします</p> <p>企業知財部による出張授業と沖縄・石垣島でのフィールドワークを組み合わせ、知財を「制度の理解」から「生活・社会との接続」へ広げる学習を実施した。効果は事前・授業（明治様）直後・訪問（沖縄・石垣島）後の3時点アンケートで測定し、特許理解（4件法）は2.29→3.57→3.71、商標理解（4件法）は1.71→3.71→3.71に上昇した。知財が日常に関係する認識（5件法）も3.71→4.35→4.71へ伸長した。さらに、学習の成果物として生徒が約3分の動画を制作し、特許・商標の要点や企業事例、模倣防止やブランド保護の意義を自分の言葉で整理して発信した。授業で得た知識を「説明できる形」に再構成する活動を通して理解の定着を図った。</p>				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	2 entrepreneur 養成講座による沖縄本島・石垣島訪問				
成果内容	<p>沖縄・石垣島訪問では、企業活動や地域の現場で「知財がどこにあり、何を守り、どう価値を生むか」を観察・言語化する学習を行った。授業で学んだ特許・商標の知識を、製品・サービス・表示・ブランドの具体物に結びつけ、模倣防止や信頼形成、研究開発投資の回収といった観点から整理した。訪問後は振り返りを通して、制度理解を社会課題や産業の文脈へ再配置し、知財を「身近で実用的な仕組み」として捉える段階へ進めた。</p>				
生徒・学生に見られた変化	<p>訪問後、生徒は知財を「用語」ではなく「身近な生活や社会の仕組み」として捉えるようになり、商品や地域の取り組みを見たときに商標・ブランドの意味を意識して説明する発言が増えた。また、研究開発の積み重ねが価値につながり、保護される意義があるという理解が具体化した。学習内容を自分の言葉で語る場面が増え、説明の根拠（事例）を挙げて話す姿が見られた。</p>				
その根拠	<p>3 時点アンケートで、知財が日常に関係する認識（5 件法）が 3.71→4.35→4.71 と、訪問後に追加的な上昇が確認できた。特許理解（4 件法）は 2.29→3.57→3.71、商標理解（4 件法）は 1.71→3.71→3.71 で、授業で得た制度知が訪問後も高水準で維持された。さらに自由記述・動画で、現地の具体例を根拠に知財の意義を説明する記述が見られ、理解の再構成が生じたと判断した。</p>				
課題・反省点	<p>今年度の実践は1年間の単発事例であり、学習効果が時間を置いても維持・発展するか（経年変化）を判断できていない。アンケートも平均値中心で、個人を追跡した縦断データや統計的検証が十分ではなかった。成果物（動画）についても、出典表示・許諾・AI利用申告などを明確な評価規準として固定できておらず、学習の「実行面」を測る指標が弱い点が反省である。</p>				
今後の展望	<p>次年度は、函館（函館市×北海道大学の連携）で地方創生と知財、札幌ではエスコンフィールドを題材に地方創生と知財を学ぶフィールドワークを実施し、学習転移を図る。評価は事前・事後に加え、一定期間後の追跡も組み込み、効果の継続性を検証する。さらに実践事例を学内で共有し、ゼミ生からコース生へ波及した度合い（参加者数、理解度・態度指標の変化等）を測定して改善につなげる。</p>				

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



知財講義の写真（明治様）



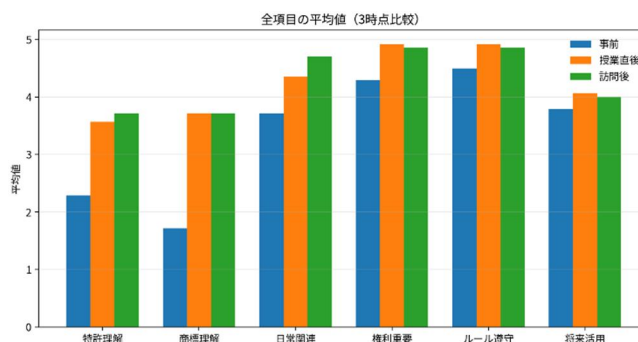
ユーグレナ様の工場視察



学園祭・知財動画の上映

- 導入：知的財産と学習目的
- 特許：取得条件（新規・工夫・有用）
- 特許：出願→審査→権利化の流れ
- 特許：模倣防止と独占の意義
- 特許：全取得不要（戦略的選択）
- 商標：定義
- 商標：役割（識別・出所・信頼・宣伝）
- 事例：明治ブランドで具体化

（表1）知財動画の内容



（グラフ1）指導前後の比較

OIST とユーグレナ様の見学について

entrepreneur 養成講座による沖縄本島・石垣島訪問

entrepreneur 養成講座生 14 名で沖縄本島（OIST）、石垣島（ユーグレナ様）を訪問・見学しました。OIST では、知的財産部門の方々から特別講義を実施していただき、研究と知財の関係性について、理解を深めることができました。ユーグレナ様には実際の生産工場を見学させていただきました。

OIST 見学で生徒の印象に残った内容が、「あえて特許申請しない」という事実でした。この話は、ユーグレナ様からも伺えたので、知財運用について深く理解する機会となりました。

校内で受講した知財講義の内容から派生し、実際にフィールドワークを実施したことで、より身近な問題として捉えることができました。実際に自分たちで取り組む前の段階として、フィールドワークは非常に有効だと感じました。



OIST での特別講義

<写真・図表等掲載欄>

レシピ（4人前）	
ジャガイモ（東京産）5個	
コンビーフ 1缶（80グラム）	
ピザ用チーズ 200グラム	
サラダ油 大さじ5	
黒こしょう・乾燥パセリ 適宜	

画像は生成AIで作成しました

(写真1)

生徒が作成したスライド ※一部改変
(生徒研修 (消費者教育))



(写真2)

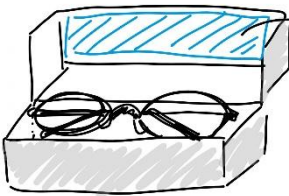
JPO/IPR研修 (IPトレーナーズコース)
(教員研修 (校内))



(写真3)

ミカン狩り
(生徒研修 (生産者教育))

鏡つきめがねケース



めがねをつける
時に、ケースに鏡を
つけることで、鏡で
鏡をひたさず、
身出しなみをチェック
できる。

(写真4)

生徒が書いたワークシート
(生産者教育④ (外化編))

「おままごと知財」寸劇を通じて課題抽出～社会課題の解決を「おままごと」で疑似体験～

大学4年生のチトセは2歳年上の恋人・トウヤと付き合って3年目。お互い結婚も意識していた交際だったのに、コミュニケーション不足がすれ違いを生み、いったん別れることに。自分の何がいけなかったのか考え込んでしまう二人。するとそこに謎の男が現れて……

⇒劇中の登場人物になったつもりで、カフェの新メニューを考案する課題に挑戦

メニュー Menu		課題	評価方針	配点
エスプレッソ	Espresso ¥500	オリジナルアイデア・	新たな調理器具・調理操作も材料も必要とせず、創意工夫がみられる	4点
カプチーノ	Cappuccino ¥550		新たな調理器具・調理操作も材料も必要としない	3点
カフェモカ	Cafe Mocha ¥600		新たな調理器具・調理操作または材料を必要とする	2点
アイスカフェラテ	Iced Cafe Latte ¥550		新たな調理器具・調理操作も材料も必要とする	1点
キャラメルマキアート	Caramel Macchiato ¥600			

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 08	学校名	聖学院中学校高等学校	担当教員名	山本周
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等		該当する要素の番号	知財学習の要素
①	3D プリンタ活用ワークショップ（クリッカー・ランタン制作）	中学生、希望者	1,3	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	高校生による中学生向け 3D プリンタ講座	中学生、希望者	2,10		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	最先端技術「プログラミング×3D プリンタ」	メインは高校生（一部中学生）、希望者	2,5		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	個人探究活動（自作キーボード等の制作）	高校生、希望者・有志、総合探究	4,5		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	学校行事と連携したものづくり（クリスマスオーナメント）	中学生、学校全体	3,6		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	専門家による「工学とデザインと知的財産」	高校生、総合探究	8,11		保護
⑦	企業連携講義「デジタル社会の著作権・肖像権」	高校 1 年生、120 名、情報 I	7,12	<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識	
⑧	セキュリティ×ものづくりワークショップ	メインは高校生（一部中学生）、希望者	8,12	<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力	
⑨	3D プリンター×海洋の社会実装	高校生、有志、外部活動	6,7	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解	
⑩	4DFF（学会）参加・発表	高校生、教員、総合探究	3,6,11	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪	サイエンスアゴラ 2025 出展（未来新聞・3D 展示）	高校生、有志、30 名	3,6		<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫	地域課題解決ワークショップ（FAB QUEST 連携）	高校生、有志、15 名	1,4	知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬	高大連携 3D スキャナ技術講座（大正大学）	高校生、有志、10 名	5,8		<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします 定期ワークショップの定着によりコアメンバーが約 30 名（当初比約 400%）に拡大し、全校生徒（中 1 全員）への普及も完了したため。さらに、サイエンスアゴラ出展（参加 30 名）や小学生指導（参加 23 名・講師 9 名）など、校内学習から「社会へのアウトプット」へと活動ステージを引き上げる生徒が多数現れており、目標達成は確実視される。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	活動の広がりや定着：4 月当初は 7～8 名であったファブラボ（ものづくり活動）のメンバーが、現在では約 30 名に増員した。3D プリンタ等を用いたワークショップには平均して 1 回あたり 10～20 名が参加し、複数回参加する生徒も多数見られるなど、校内での定着が進んでいる。 全校生徒への普及：クリスマスオーナメント制作では中学 1 年生全員が 1 人 1 個を作成したほか、全校生徒を対象にイベントを展開し、ものづくりの楽しさを広く共有した。 探究の深化と成果：プログラミング×3D プリンタの活動では、現在 10 名の生徒がプロトタイプ制作に着手しており、そのうち 8 名は既に改善フェーズへ移行している。また、生徒の個人活動が外部評価に繋がりが、「4DFF」学会において審査員特別賞を受賞するなど、高いレベルでの成果が生まれている。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑨ サイエンスアゴラ 2025 出展（未来新聞・3D 展示・ワークショップ）				
成果内容	生徒有志がブース運営を行い、来場した一般市民や親子連れに対して、自作の 3D 作品の解説や SF プロトタイピング（未来新聞）のワークショップを提供した。単なる展示に留まらず、科学や技術の楽しさを「伝える」活動を実践した。				
生徒・学生に見られた変化	教室内の制作では得られない「他者からの評価」に直面し、自分のアイデアを相手に伝える表現力（要素 3）と、社会の中での技術の役割（要素 6）を深く理解した。生徒たちは疲労を見せつつも高いモチベーションを維持し、自信を深める様子が見られた。				
その根拠	過去最大規模となる総勢約 30 名の生徒が運営に参加。終了後の振り返りでは、参加者の 9 割以上が「活動の手応え」と「継続意欲」を示した。また、来場者との対話数が数百件に及び、社会とのリアルな接点を数値として残すことができた。				
課題・反省点	活動参加者が当初の 7 名から約 30 名へと急増したことに伴い、生徒間の技術レベル（モデリング能力や著作権知識）に個人差が生じている。上級生が下級生を教えるメンター制度を導入しつつあるが、全員が知財保護の意識を均質に持てるような、体系的な講習機会の確保が課題である。				
今後の展望	今年度の FAB QUEST（地域課題解決）や大学連携（3D スキャン講座）の成果を活かし、次年度は「コンテスト応募」や「地域貢献」といった対外的なプロジェクト学習（PBL）を活動の中心に据える。また、今回の小学生向け講座のような「生徒が教える」機会を定例化し、技術と知財マインドが持続的に継承されるエコシステムを校内に構築する。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



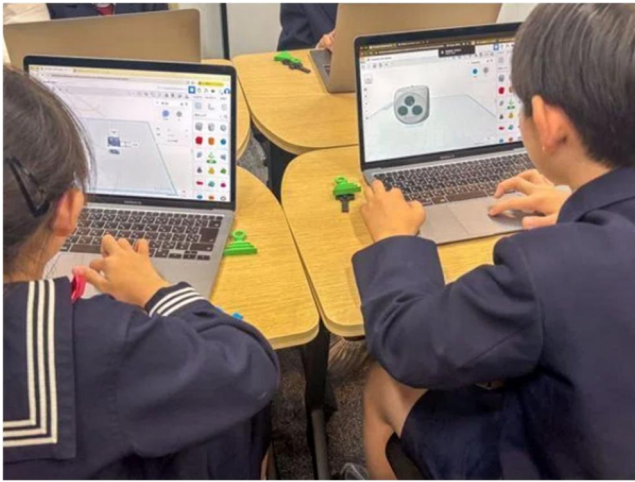
工学とデザインが知的財産で融合



プログラミング×3Dプリンタでものづくり



AI 未来新聞 WS



高校生が小学生をサポート



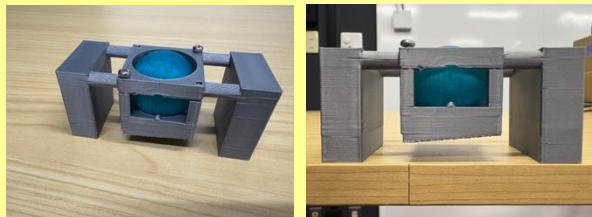
みんなでアイデアブレスト中

オリジナルデバイス（マウス）開発の取組について

「プログラミング×3Dプリンタ」によるオリジナルデバイス開発と、 開発プロセスへの知財情報の活用

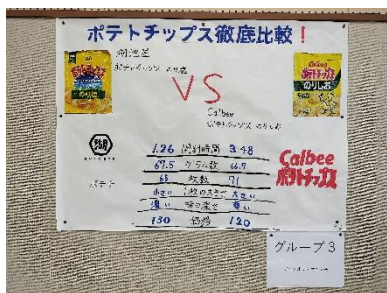
本校のファブラボ活動の集大成として、既製品では満足できない生徒たちが「自分だけの入力デバイス（マウス・キーボード）」の制作に挑戦した。Fusion360による筐体設計と、Arduino等を用いた電子回路制御を組み合わせた高度な探究活動である。

特筆すべきは、制作プロセスに「先行技術調査」を組み込んだ点である。生徒はアイデア段階でJ-PlatPatを使用し、類似する意匠や特許が存在しないかを調査。「自分たちのアイデアが新規性を持つか」を確認した上で設計に入った。写真は、生徒が手のひらのフィット感を追求して開発したオリジナルマウスである。現在、試作Ver3で3Dプリンターによる出力と修正を数十回繰り返している。そして、今も日々アップデートを行い、ユーザビリティの向上をしている。



オリジナルマウスを作成中（プロト ver3）

(写真1) 商品比較のポスター



(写真2) 商品比較のポスター



(写真3) 商品開発の中間ポスター



(写真4) 商品比較発表の様子



(写真5) 商品比較発表の様子



(写真6) 外部講師の講演



(写真7) 商品比較発表の様子



(写真8) 商品比較発表の様子



(特記すべき取組と成果)

現代文明の諸問題を解決するための商品開発について

今年度は、前期で実際にある商品（一部は映画などの著作権に関わるコンテンツも含む）に着目し、会社のロゴや商品名、あるいはバリエーションについて調べさせ、各メーカーがどのようにアイデアを絞り、自社製品をブランド化しているのかを探らせることを裏テーマとしていた。これにより後期の商品開発においては、生徒が自身のグループを架空の会社と定義し、どのようにして他社と差別化するのか、先行する既製品に対して商標権や意匠権を侵害させないように知恵を絞っていた。また、生徒が作成したイラストを生成AIを使って立体化し、スライサーアプリと3Dプリンターを活用して、グループのロゴをキーホルダーサイズに出力することができた。生徒は、製品そのものを実際に作ることでできなかった分、架空会社の一員として商品開発をしているイメージを持つことのできたのではと考えている。後期のテーマは、「現代文明の諸問題を解決する商品の開発」であったが、「問題点の洗い出し」、「アイデアの創出」、「商品のイメージ化」を進めることで、生徒の知的財産に関する興味・関心を高めることができたと思われる。今後は、高2での総合的な学習（探究）がスタートするため、段階を経て知的財産に関する知識の習得も進めていきたい。一方で、年度当初に、実際の企業にアポイントを取って、現地の様子や生徒が考えたアイデアを元に外注で作ってもらう計画案もあったが、本校の生徒数と準備の部分での問題も多く、実現するにはまだまだ工夫が必要であることが分かった。知的財産教育に関わる教員の数と教員自体の指導スキル向上はまだ発展途上である。

<写真・図表等掲載欄>



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9

たちばニヤンの商標登録プロジェクト

本校マスコット「たちばニヤン」の商標登録に関する取組は、文化祭において生徒のアイデアにより「たちばニヤン」のフレックシールを制作したことをきっかけに始まった。制作過程の中で、「これが真似されたらどうなるのか」「第三者に勝手に使われたら問題ではないか」といった疑問が自生まれ、身近な創作活動と知的財産との関係に対する関心が高まった。

そこで、マスコットキャラクターをどのように保護すべきかを考え、「商標として守る」という視点に至った。横浜弁理士事務所の佐々木弁理士を招いて知財教育セミナーを実施し、文化祭を舞台に「たちばニヤン vs たらばニヤソ」という架空の事例を用いながら、著作権と商標権の違いや、侵害が生じる考え方についてエンターテインメント性を持たせて学習した。

さらに、質疑応答を通して、商標権で保護できる範囲や、著作権の有効性をどのように証明するかといった制度の実際について理解を深めた。これらの取組を通じて、生徒は知的財産を単なる知識として学ぶのではなく、自分たちの創作物やアイデアを守るために活用する実践的な道具として捉えるようになった。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 11	学校名	福井県立高志高等学校	担当教員名	山崎 秀樹
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導體制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	分かりやすく説明しよう①	探究創造科 1 年・選択美術（4～9 月）	1,2,3,4,6,11	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	分かりやすく説明しよう②	探究創造科 1 年・選択美術（9 月）	2,3,6,7,9		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	知的財産権とは何か？	探究創造科 1 年・課題研究（9 月）	6,7,9,10,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知的財産権はどのように守られているか？	探究創造科 1 年・課題研究（9 月）	1,2,3		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	企業・研究機関研修	探究創造科 1 年, 理数創造科 2 年 ・校外研修（7 月）	4,5,6,8,11		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科教員や弁理士を中心とした知財学習の実施により、デザインパテントコンテスト応募者は 66 件、パテントコンテスト応募者は 5 件と計 71 件（R6・70 件）に上り、うち一次選考通過は 9 件（R6・5 件）、最終選考通過者は 4 件（R6・2 件）と、昨年度より増加した。また、コンテスト応募に向け、応募書類の文章力や作図等の表現の向上が見られた。 ・選択美術における弁理士による知財に関する講義後のアンケートでは、「講義内容を理解できた」と回答した者が 8 割以上であった。 ・課題研究の一環として、弁理士による知財学習を実施。事後アンケート等から「知財への理解が深まった」と回答した者が 9 割近くあった。また、「知財の重要性を理解できた」と回答した者は 7 割程度であった。 	
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<p>【探究創造科 1 年（66 人）・選択美術での取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術科教員によるアイデア発想授業、試作品づくり(4 月～7 月) ・J-Plat-Pat を活用した先行意匠・特許の調査、応募用紙の書き方授業、添削(5 月～9 月) ・弁理士による計 2 回(1 回目：5 月・写真 1、2 回目：9 月・写真 2)の講演会※ 1 回目の講師招聘は本事業外 ・作図のデジタル化への取り組み(本校では R7 年度より実施・写真 3) ・東京での表彰式および受賞者交流会への参加(3 月予定) <p>【探究創造科 1 年（236 人）・課題研究での取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁理士による講演を実施（9 月） <p>【探究創造科 1 年・理数創造科 2 年（計 31 人）・校外研修での取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学研究機構核融合科学研究所やトヨタ会館、名古屋大学にて、研究開発の概要と知財の取扱いについての講義を受講（7 月・写真 4） 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	3-1 分かりやすく説明しよう①				

成果内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以前は、コンテスト応募に記載する作図の9割以上が手描きであったが、本年度からすべての生徒がデジタル画面での作図に挑戦した。 ・美術選択者全員(66名)がデザインパテントコンテスト、うち5名がパテントコンテストにも応募した。 ・デザインパテントコンテストの一次選考通過者は7名、うち4名が優秀賞を受賞した。パテントコンテストの一次選考通過者は2名であった。
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の困り感を観察する視点の持ち方、新規性があり困り感を解消する方法のアイデア出し、自分のアイデアを他者に明確に伝える文書作成方法の重要性の理解が深まった。 ・応募に必要な書類に記載する作品の図では、デジタル作図移行後、作図スピードの向上や明瞭度の高まり、手直しのしやすさも向上した。
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の生徒の反応(発言や様子等)、弁理士による講評 ・知財講演の事後アンケートで、知財について概ね理解できた生徒の割合が85%。
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科及び2年次以降の課題研究での知財学習へつなげる取り組み体制の整備。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・解決したい困り感が決められない、自他の困り感を自覚したり、共感・想像したりすることに困難を示す生徒への手立ての充実化。 ・地域企業と連携した商品開発をテーマとした課題研究に取り組む2年生に特化した知財学習機会を設定する。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



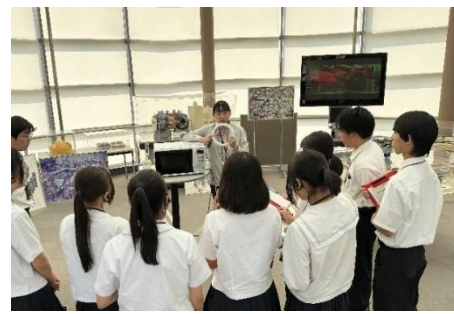
(写真1)弁理士による事前セミナー(5月)



(写真2)弁理士による知財講演(9月)



(写真3) タブレット端末による作図



(写真4)企業・研究機関研修(7月)

パテントコンテストへの作品応募への取組について

パテントコンテストへの挑戦

本校では例年、1年生の美術選択者を対象に、デザインパテントコンテスト、パテントコンテストへの作品応募に取り組んでいる。

美術教員によるアイデア発想授業やJ-Plat-Patを活用した先行意匠・特許の調査に加え、弁理士の方を講師に迎えたセミナーや講演会を行い、応募する作品の完成度を高めている。更に今年度は応募作品を説明する作図のデジタル化に挑戦し、作品完成までの効率アップにも取り組んだ。

その結果、デザインパテントコンテストにおいて4件が優秀賞を受賞した。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 12	学校名	三重県立津西高等学校	担当教員名	服部みふみ 高岡弘典
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知財入門講演会	1 年全員・総探 1 コマ	6・7・8・12・13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	プレゼン講演会	1 年全員・総探 2 コマ	1・2・3・4		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	「日経 STEAM2025 シンポジウム」への参加	探究サークル	1・2・3・4		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	「知財を知る」ための企業見学会	国際科学科 1 年全員・総探	6・7・8・11		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	事前(6 月)・事後(12 月) アンケート	国際科学科 1 年全員・総探	7		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	「パテントコンテスト」への応募	国際科学科 2 年有志・課題研究	1・2・3・8・11	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	弁理士と学ぶ「リーガルマインド」	国際科学科・普通科 2 年有志・課題研究	6・7・8・12・13		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	「ボードゲーム」で学ぶ知財の活用	国際科学科・普通科 2 年有志・課題研究	7・10・11		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	地元の技術系企業と連携した課題研究	国際科学科・普通科 2 年有志・課題研究	1・3・4・5・11	活用	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	地元企業との商品開発	国際科学科・普通科 2 年有志・課題研究	1・3・4・6・11		<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	上記の取組について、実施初年度ということもあり、やや表面的に終わった感も否めないが、計画したことについては、広範囲にわたり多様な形で概ね取り組めたから。	
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	INPIT 三重の担当者、弁理士、地元のラジオアナウンサーなどの外部講師の招聘（①・②・⑦）、日経 STEAM2025 シンポジウム、発明体験ワークショップ、パテントコンテストなど外部研修・コンテスト等への生徒参加（③・④・⑥・⑨・⑩）、「ヤマモリ」[LIXIL]「村田製作所」など地元の外部企業との連携（④・⑨・⑩）といった、本校の探究学習の特徴である「外部との連携」という強みを活かした取組が多様な形で実現できた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	④「知財を知る」ための企業見学				
成果内容	国際科学科 1 年全員について、12 月 15 日に貸切バスを使って、地元の知財に関わりのある企業 2 社（「ヤマモリ株式会社」「太陽化学株式会社」）を一日がかりで訪問し、知財に関する独自の技術（特許取得）やその権利保護などについて企業の担当者の方からご講演頂いた。実施 10 日前に 1 時間程度の事前学習を行ったこともあり、講演後の質疑応答では活発なやり取りがあった。				
生徒・学生に見られた変化	事後アンケートでは、参加生徒 78 名のうち、98%が今回の企業見学は自分にとって良い学習に機会になったと回答。また、「生活の中で、特許権・意匠権を意識することがあるか」という質問に対しては、6 月のアンケートでは「ある」が 20 人だったのに対し、今回は 39 人と全体の半数にまで増加した。				
その根拠	記述アンケートの中で、「特許権や、商標権などを認めてもらうための具体的な方法を知りたい」「ヤマモリさんの話を聞いて、特許の種類について、ものだけでなく、ものを作るプロセスも特許を取れることや、特許は会社を守るために取っていることを知り、興味を持ったから」など、知財についてもっと詳しく知りたいといった具体的な回答が（前回は見られなかったが）多く見られるようになったから。				
課題・反省点	知財については専門性が高いため、企業の方などに講演内容をお任せする割合が高くなりがちであったことにより、本校生徒の興味関心を充分引き出せたかは課題が残る。ただ、アンケートの記述内容から、知財学習への意欲を高めることができたようには感じるので、この高まりを 2 年次での課題研究に繋げていきたい。				
今後の展望	2 年次では課題研究に関わって、パテントコンテストやビジネスコンテストへの参加機会があるので、本年度より多くの生徒を参加させ、より質の高い成果を目指したい。特に本年度の知財に関わる研究を新 2 年生に継承発展させた形で取り組ませる工夫を増やしたい。1 年次では今年度の取組をよりブラッシュアップさせ、体系的に知財学習に取り組める体制を構築し、生徒の興味関心を高めたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



(写真1) 知財入門講演会



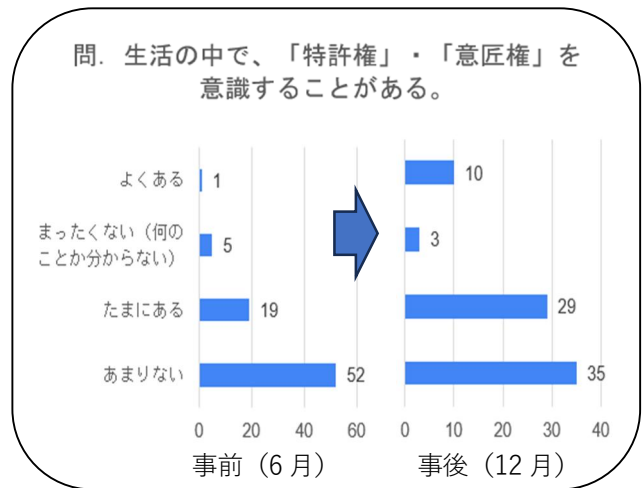
(写真2) プレゼン講演会



(写真3) バスでの企業見学会

取組内容	指導対象	生徒数	時間数
7/14 知財入門講演会	1年国際科学科・普通科	320	1時間
9/19 プレゼン講演会①	1年国際科学科・普通科	320	1時間
11/7 プレゼン講演会②	1年国際科学科・普通科	320	1時間
12/15 「知財を知る」ための企業見学会	1年国際科学科	80	1日

(表1) 1学年の知財学習の実績



(グラフ1) 知財学習の成果(指導前後の比較)

初めて知財学習を行う中で、最も重視し、成果のあった取組について

「知財を知る」ための企業見学会の開催

国際科学科1年全員について、12月15日に貸切バスを使って、地元の知財に関わりのある企業2社(「ヤマモリ株式会社」「太陽化学株式会社」)を一日がかりで訪問し、知財に関する独自の技術(特許取得)やその権利保護などについて企業の担当者の方からご講演頂いた。実施前に1時間程度の事前学習を行ったこともあり、講演後の質疑応答では活発なやり取りがあった。

記述アンケートの中で、「特許権や、商標権等を認めてもらうための具体的な方法を知りたい」「特許の種類について、ものだけでなく、ものを作るプロセスも特許を取れることや、特許は会社を守るために取っていることを知り、興味を持った」など、知財についてもっと詳しく知りたいといった具体的な回答が多く見られるようになった。



独自技術に関心を示す生徒

<写真・図表等掲載欄>



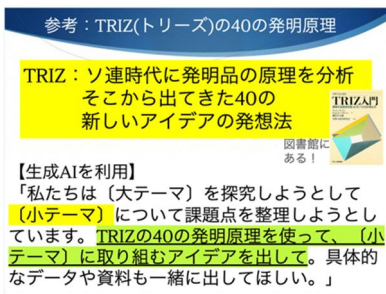
写真1 企業訪問（内山工業）



写真2-1 企業訪問（季譜の里）温泉街散策



写真2-2 企業訪問（季譜の里）散策結果プレゼンテーション



資料1 1年次生向け TRIZ 利用スライド（生成AI 利用）



写真3 山口大学講師による知的財産入門講座



写真4 南公民館での探究発表会

○企業の取組を知り、地域への理解を深める

今年度、企業訪問を2件企画し、実施することができた。

1件は自動車関連の部品を製造している企業の研究所の訪問であり、企業の知財部の人たちの働き方や企業が特許をどのように活用しているのかについて学んだ。もう1件は温泉旅館への訪問であり、地域の産物を商標登録することやそれをブランドとして地域活性化を進めている様子を学んだ。

普通科高校として、日々の学習は大学入試に関連するものが多くなる中で、大学進学のためのキャリアプランとして、理系の大学院を修了して研究職として企業の知財部で研究開発する姿や、大学卒業ののち企業に就職して地域活性化を進めていく姿などを見ることの意義が非常に大きいと感じている。探究的な学びが多くなる中で、自分の好きなことを突き詰めていくことができるため、好きなものの先に何かがあるのかを生徒が知る機会をどのようにつくるのかが、生徒の学習動機にもなり、志望に向けた取組として繋がっていると考えられる。

また、この取組は生徒の地域への理解を深める取組にもなっている。「地域にこんな取組をしている企業がある！」ということに気づき、将来はこんな取組をしたいと考える生徒が出てきている。3年次生は昨年からの知財力開発校支援事業に取組み始めているのだが、「知財についての学びを深めたい」「大学院への進学を考えたい」と大学入試の志望理由に企業訪問の内容を盛り込む生徒が出てきている。

地域への理解を深めて、大学進学。その先に、地域を活性化するような人材になってくれることを期待している。

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 14	学校名	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	担当教員名	平原 豪人
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知財面からの発想法ワークショップ	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	1,2,5,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	外部コンテスト参加_事前学習	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	7,9,10		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	同_オリエンテーション	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	7,9,10		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	同_デジタル工房を使用した試作	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	1,2,3,7		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	同_中間発表会/アイデアの練り直し	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	1,2,3,7		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	同_本製作/コンテスト応募書類準備	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	1,2,3,7	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	ノベルティグッズを作ろう_概要説明	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	6,7,8,10,11		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	同_製作物試作	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	2,3,4,6,7,8		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	同_中間報告会	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	2,3,4,6,7,8	<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解	活用
⑩	同_本製作	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	2,3,4,6,7,8	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力	
⑪	同_コンテスト	K-STEAM 類型 2 年・STEAM II	3,6,7,8,10,11	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解	知識
⑫				<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習	
⑬				<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識	
取組目標の達成見込	ほぼ達成 (9 割以上)	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	①において 9 割以上の生徒が「6 割以上の内容を理解できた」と回答した ②～⑥において、合計 62 名が外部コンテストに応募(全体の 9 割以上)した ⑦～⑪において、知財権を意識しながら製作を行った生徒が 8 割を超えた		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・今年度は外部コンテスト授業の⑤中間発表会と絡めて、①の講演を実施した。試作を行った自作品に対して J-PlatPat など用いながら、講演内容を元に改善案アイデア出しワークショップを行い、自作品のブラッシュアップを進めることができた。授業に参加した全生徒が、試作品から 1 か所以上の改善を加え、最終作品として仕上げる事ができた。さらに、目標を大幅に超える 62 名が、外部コンテストへの応募を行った。 ・「ノベルティグッズを作ろう」について、知財権を意識したものづくり（グッズ製作）を行う経験を、生徒に積ませることができた				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②～⑥ 外部コンテスト参加				
成果内容	・発明くふう展に 61 点、パテントコンテストに 1 点、合計 62 点の応募を行った(全生徒の 9 割以上、目標の 2 倍の数値) ・発明くふう展において 6 作品が入賞した。うち 1 点は全国展の審査中である。 ・8 割以上の生徒が「J-PlatPat を使用して作品アイデアの新規性について検証を行った」と回答した				
生徒・学生に見られた変化	・アイデアの新規性を確認する際に J-PlatPat を用いる手法を紹介したことで、8 割の生徒が実際に使用して自作品の検証を実施した ・作品の中間発表会時に①の講演会を実施し、知財学習を受けた上で改善案を出すワークショップを実施した。その結果、全生徒が試作を複数回実施し、改善によるクオリティの向上や知財面に配慮した変更もみられた				
その根拠	・事後アンケートの結果 ・発明くふう展の結果				
課題・反省点	2 年間実施してきた 2 年生の授業カリキュラムについては一定の成果を感じる事ができた。しかし、事業対象になっていない他学年に対しては、知財学習を授業カリキュラム内に十分に落とし込めていない。				
今後の展望	本校では 1 年生から 3 年生まで、デジタルファブリケーション機器を用いたものづくりを実施している。現在 2 年生で実施している知財学習を 1 年生から実施するカリキュラム構築を進める				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。


● 取組1 知財面からの発想法ワークショップ

		
外部講師講演会	改善アイデアワークショップ	生徒同士で改善提案

● 取組2 外部コンテスト参加

		
事前学習	製作時の様子	全生徒の作品

● 取組3 ノベルティグッズを作ろう

		
外部講師講演会	作品アイデア共有会	作品一例

取組2：外部コンテスト参加

5月から9月にかけて実施した本取組では、
 パテントコンテストや児童生徒発明くふう展など、
 ものづくりに関する外部コンテストへの参加を想定して
 授業を実施した。
 本校 K-STEAM 類型が誇る校内デジタル工場の機器を
 使用して、作品づくりを行うことを条件に加えている。

昨年度は、全体の約2割の生徒が外部コンテストに
 応募することができた。しかし初の試みということも
 あり、十分な知財学習を実施できなかった。
 昨年度の反省を活かし、今年度は授業カリキュラムの
 全面的な見直しを行ったことで、事前想定を超える
 成果を挙げることができた。
 知財学習の浸透、応募作品数の大幅増加、入賞作品数の
 増加、試作・改善・再製作の流れの確立など、授業
 カリキュラムとして完成したと考えている。



令和7年度 実践事例報告書

学校番号	普 15	学校名	野田学園中学・高等学校	担当教員名	井町吉寿
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	オンライン知財セミナー	希望生徒（4名）	6,7,8,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	出前講義「知財入門」	4・5年探究コース	1,6,7,8,11		<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	ものづくりDX探究塾	インフォメーションデザイン部 地域の小学生	1,3,7		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	発明体験ワークショップ	希望生徒（1名）	1,3,9,12		<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	DXスペース書架への知財学習コーナーの設置	全校生徒	1,6,7,11,12		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	出前講義「医療と知的財産」	4・5年医進コース	6,7,8,11	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	大学知的財産センター及び関連企業訪問	4・5年探究コース	6,7,8,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	初年度のため何もかもが手探り状態での実践となったが、「知財」を知り興味関心をもつということに関しては、およそ9割の生徒が目標に到達したと言える。一方で計画通りに実施できなかった取組もあり、次年度に向けて計画の再構築が必要である。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	①オンライン知財セミナー 4名参加 ②出前講義「知財入門」 山口大学の陳内先生の講義(写真2-①) およそ45%の生徒が知財に対して高い関心を示す ③ものづくりDX探究塾(写真1)地元の小学生25組が参加 インフォメーションデザイン部の生徒がものづくり指導 ④発明体験ワークショップ 1名参加 パテントコンテストに応募 ⑤DXスペース書架への知財学習コーナーの設置 20冊知財関連の書籍を購入 ⑥出前講義「医療と知的財産」 山口大学の足立先生の講義(写真2-②) ⑦大学知的財産センター及び関連企業訪問(写真3) およそ88%の生徒が知財に対して高い関心を示す(グラフ1)				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑦大学知的財産センター及び関連企業訪問				
成果内容	大学の知的財産センターにおいて、研究成果が知的財産として権利化され、社会実装や産学連携につながっていく流れを学んだ。さらに、関連企業（工場等）の見学を通して、技術やノウハウが競争力を支え、それを保護・活用することが製品や事業の価値に直結することを理解した。これらにより、知財が「現場で機能する仕組み」であることを具体的に捉える学習機会となった。				
生徒・学生に見られた変化	知財を「聞いたことのある用語」として捉える段階から、「研究・製造・事業の中で必要とされるもの」として具体的に理解する段階へと意識が進んだ。また、自分たちの探究活動や成果物についても、価値を守り活かす視点（著作権や権利処理、表現の工夫等）を意識して考える生徒が増え、知財への関心と学びの深まりが見られた。				
その根拠	訪問後の振り返りアンケートにおいて、知財への理解・関心に関する回答が高まっていることが確認できた。あわせて、探究学習で著作権等の知財を題材にした発表が行われるなど、学びがアウトプットに結び付いた事例も見られ、訪問で得た気づきが探究活動へ波及したことがうかがえる。				
課題・反省点	初年度の取組として、知財の基礎理解から現場体験（大学・企業見学）へつなぐ学習線は構築でき、生徒の意識変容を一定程度確認できた一方、取組の一部は十分に実施できなかった。また、学びを外部コンテスト応募等の挑戦へつなげる段階では、取組が個別の生徒の意欲に依存しやすく、横展開の仕組み（テーマ設定支援、伴走、応募までの工程化等）が十分に整っていない点も反省点として挙げられる。				
今後の展望	次年度は「入門（知財の基礎）→関心喚起（身近な知財・書籍・ワークショップ）→現場理解（大学・企業見学）→探究」の学習線を年間に位置付け、その中でパテントコンテスト等に複数名が挑戦できるように支援手順を整備する。具体的には、今年度生まれた応募の事例をモデルケースとして共有し、挑戦者の裾野を広げる。加えて、未実施となった取組については早期に関係機関と調整を開始し、実施時期の再配置により年度内実施を確実にする。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



デジタルものづくりについての説明を中高生が小学生に行う



作品作りをサポートしながら、知財についても説明する

(写真1) ものづくりDX探究塾



①「知財入門講座」
山口大学 陳内先生




②「医療と知的財産」
山口大学 足立先生

(写真2) 出前講義


UBE 株式会社
「U-Square」

企業の製品開発と知財保護について学ぶ



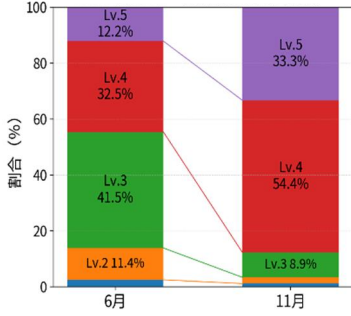
山口大学工学部
知財センター

大学における知財の保護や活用について学ぶ



(写真3) 大学知的財産センター及び関連企業訪問

総合スコア到達レベル分布 (6月→11月)



到達レベル	6月 (%)	11月 (%)
Lv.5	12.2%	33.3%
Lv.4	32.5%	54.4%
Lv.3	41.5%	3.9%
Lv.2	11.4%	0%

6月(知財入門講座後)アンケートと11月(大学・企業訪問後)アンケートを比較すると、知財に関する興味関心や知識理解の到達レベル「4」以上の割合は44.7%から87.8%へ増加した。講義・見学等の学習を通して、知財への関心・理解が全体として高まり、肯定的な回答が増加したことが数値から示された。

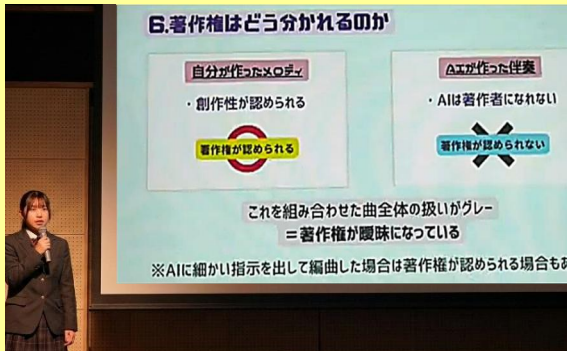
(グラフ1) 生徒の変容 (探究コース4・5年 6月→11月)

探究学習発表会の取組について

次年度へのブレイクスルーとなるか

今年度、発明体験ワークショップに参加した生徒が、自身のアイデアを具体化し、パテントコンテストへ応募した。さらに探究学習では、生成AIが作る音楽と著作権の関係をテーマに、AIが付加する伴奏部分の扱いや作品全体の権利の考え方を整理し、発表としてまとめ上げた。この成果は校内の探究学習発表会において最優秀発表者賞「探究大賞」の受賞につながり、知財の学びが「知る段階」から「考え、創り、発信する段階」へ展開し得ることを示した象徴的な事例となった。初年度は手探りの実践であったが、講義・体験・探究・発表が一つの線として結び付いたことで、生徒が知財を現実の課題として捉える可能性が開けたと言える。次年度はこの事例を起点に、知財に興味を持つ生徒の新たな挑戦が複数生まれるよう、支援の仕組みを整え、挑戦者の裾野を広げていきたい。

6.著作権はどう分かれるのか

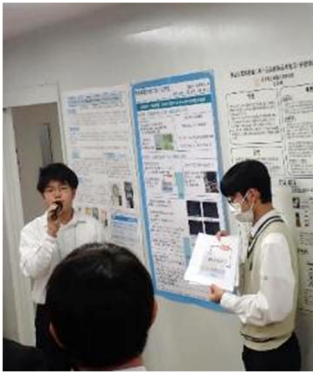


自分で作ったメロディ
・創作性が認められる
著作権が認められる

AIで作った伴奏
・AIは作者にされない
著作権が認められない

これを組み合わせた曲全体の扱いがグレー
＝著作権が曖昧になっている

※AIに細かい指示を出して編曲した場合は著作権が認められる場合もあり



発表風景理数探究



理数探究での実験の様子

サイエンスメンタープログラムとは

中学生・高校生（メンティ）が、自分自身で研究を進めていく過程で、大学教員などの専門家（メンター）の助言を受けることができるプログラムです。メンティは、このプログラムを通して科学研究の進め方を初歩から学びます。

“サイエンスメンター”とは
 “リエンスメンター”とは、日本科学協会が、本プログラムのためにつくった名称です。
 メンター（Mentor）とは、成長途中の人に指導や助言を与える経験豊かな人のことで、メンティ（Mentee）とは、指導や助言を受ける側の人を指します。

サイエンスメンタープログラムの活用

雨滴発電の実用性と応用性

徳島市立高等学校 2年 益田 幸英 乙部 優貴 加藤 龍之介
 中川 歩磨 松香 尚貴 志内 駿介

研究目的 - 雨滴発電による再生可能エネルギー分野での可能性の追求

研究背景 - 雨滴発電装置への注目・太陽光発電との併用

先行研究ではPIHを励起させた10電極で構成、異なる物質が接触した際の電荷の移動である電位差を利用し発電。

太陽光発電×雨滴発電
 ↓
 天候に左右されない発電装置
 ↓
 アタッチメントのような形での雨滴発電装置
 ↓
 あるものを活かして、新しい力を加える

研究方法 - 雨滴発電装置の作成・電流電圧の測定

①0ガラスをPI0ガラス兼着されたPTE層と塩水スプレーによるコーティングに置き換え装置を作成

②二種類の実験装置に水道水をA①②ののせせせせに落下
 マシロスコップを用いて電流と電圧の波形・数値を測定

結果

①導電性の粘着剤を使用した装置
 電流電圧ともに測定出来なかった

②非導電性の粘着剤を使用した装置
 ・A①に落下
 電流電圧ともに測定出来なかった
 ・A②に落下
 一液ずつ落下すると0.6V(Fig.1) 4~5μA(Fig.2)
 連続で落下すると0.4V(Fig.3) 2μA(Fig.4)

考察

①塩水スプレーとPTEの違い
 →先行研究ではPIH層が絶縁層として機能していたが、本実験では塩水スプレーの層が絶縁に薄く絶縁層として機能していない可能性があると考えられる。

②電極の粘着剤の違いによる影響
 →考察①よりA①の粘着剤の違いが①A②の電流の増加に直接影響を与えたと考えられる。

③発電メカニズムの違い
 →考察①②から先行研究とは異なる発電メカニズムが働いている可能性があると考えた。

④前方法による電圧・電流の低下
 →連続で落下すると電圧に水滴がかかることで回路の動作を妨げていると考えた。また実際の雨では連続的な落下によるため課題になると考えられる。

今後の展望・目的の達成のために

- 発電メカニズムの解明、それをもとに発電装置の設計・改良
- シリコン系太陽光発電や有機フッ素系太陽電池との併用実験

先行研究
 A droplet-based electricity generator with high instantaneous power density

雨滴発電の発表ポスター（指導前後の比較）

学校キャラクターの作成（dwarfと産学連携）

産官学連携の3年目。東京でキャラクターとアニメーションを作るスタジオであるdwarfさんと一緒に探究をしていただけることになりました。テーマは、学校キャラクターです。キャラクターができる過程やその手法をオンラインベースではありますが、週1回ご指導いただきました。



キャラクター案↓



徳島 innovation の取組について

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	普 17	学校名	長崎総合科学大学附属高等学校	担当教員名	松林 修一郎
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産セミナー（講演会）	全校生徒	12, 13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	教職員研修・環境整備	全校生徒、全教職員	12, 13		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	道の駅弁当試作	文理ハイブリッドコース2・3年生52名	1, 2, 3, 6, 7		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	高校生ビジネスプラン・グランプリ応募	地域ビジネスコース1・2年生39名	1, 2, 3, 6, 7		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	三和酒類株式会社に学ぶ、企業見学・知財学習セミナー	地域ビジネスコース1・2年生39名	4, 8, 11, 12, 13		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト応募	美術部員・科学技術部員 68名	1, 2, 3, 6, 7	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	文化祭でのオリジナルキーホルダー等製作・販売	美術部員・科学技術部員 68名	1, 2, 3, 6, 7		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	ロボコン大会に向けて部品製作	科学技術部員 30名	1, 2, 3, 6, 7		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	情報教育コンテスト応募	科学技術部員 30名	1, 2, 3, 6, 7	活用	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・①の講演会后アンケートにおいて、講演会に満足と感じた生徒が 98%、知的財産権を理解できたと感じた生徒が 88%、知的財産を大切にしようと感じた生徒が 77%であった。 ・各コースならびに各部活動において、知的財産について積極的に学習・調査しながら、本校オリジナルの実践活動へとつなげることができた。	
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・弁理士を招聘して知財セミナーを開催し、生徒の身近に存在する「文房具（KOKUYO）」に関する知財について理解できた。（写真1） ・全校生徒 421名のうち、延べ 189名（45%）が各コース・各部活動において、本校オリジナルの活動に積極的に取り組んだ。 ・③に活動において、弁当の内容のみならず、弁当箱を 3Dプリンタ等で製作する過程を通じて、意匠権・商標権について実践的に学んだ。（写真2） ・⑥の活動において、8/1長崎出島メッセでの発明体験ワークショップに参加し、2名がパテントコンテストに応募した。（写真3） ・⑦において、オリジナルキーホルダー等を立案・製作・販売と一連の流れを体験する過程を通じて、知財について実践的に学んだ。（写真4）				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	③ 道の駅弁当試作				
成果内容	・商品名やパッケージ・容器のデザインなどを考案・決定する試作プロセスを通じて、商標権や意匠権の基礎知識を習得することができた。 また、その知識を反映させたオリジナリティ高い試作品を製作することができた。 ・成果のプレゼンテーションを実施し、単に知識を得るだけでなく、互いのアイデアの価値を認識・共有することができた。				
生徒・学生に見られた変化	・取り組みを通じて、社会において商標権・意匠権が活用されている実態（商品名や弁当箱のデザインなど）を広く調べるようになった。 ・プレゼン力の向上とともに、各グループのアイデアの価値を尊重し、学びを深め合う共創的な態度へと変化が見られた。				
その根拠	・事後アンケートにおいて、「知的財産権の理解」に対して、「非常に理解できた」と 25%、「理解できた」と 56%の生徒が回答し、また「他人のアイデアや作品（知的財産）への意識向上」に対して、「非常に高まった」と 37%、「高まった」と 54%の生徒が回答した。				
課題・反省点	・全校生徒対象の知財セミナー、教職員対象の研修、地域ビジネスコースの企業見学をそれぞれ 1回ずつしか実施できなかった。 ・ビジネスプラン・グランプリならびにパテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの応募数が少なくなってしまった。 ・教職員への周知等が遅れたため、年度当初から活動できず、2学期に本格的な活動となってしまったため、より計画的に実施すべきだった。				
今後の展望	・知財セミナー、教職員研修、企業見学を複数回実施し、知財に対して様々な視点を持てるように促していきたい。 ・今年度中から次年度のパテントコンテスト・デザインパテントコンテストに向けて取り組み、応募数を増加させたい。 ・今年度中に次年度の知財学習を計画し、より充実したオリジナリティのある活動を展開する。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



↑ (写真1) 知財学習セミナー

演題「知的財産権について～生み出す人? 真似る人? あなたの未来を変える 知的財産のルール～」



↑ (写真2) 道の駅弁当試作
最終プレゼン

← (写真2) 道の駅弁当試作



↑ (写真3) 発明体験ワークショップ

パテントコンテスト応募



(写真4) 文化祭におけるオリジナルキーホルダー等製作・販売↑

三和酒類株式会社に学ぶ、↑
企業見学・知財学習セミナー

「道の駅弁当試作」の取組について

道の駅弁当の試作開発を通じた知的財産権の理解と共創的態度の育成

本取組では、地域資源を活用した「道の駅弁当」の試作開発を題材に、商品開発における知的財産権（商標権・意匠権）の重要性を実践的に学ぶことを目的とした。生徒は、商品名の考案やパッケージ・容器のデザインを行うプロセスの中で、既存の権利を侵害しないための基礎知識を習得。その知識を反映させながら、独自性の高いコンセプトを持つ試作品の製作に取り組んだ。

単なる座学ではなく、商品名やパッケージデザインを決定する実務に近いプロセスを通じたことで、商標権や意匠権が身近なものとして定着した。結果として、法的な視点と創造性を両立させた、オリジナリティの高い試作品を完成させることができた。また、完成した試作品のプレゼンテーションを実施したことで、自身のアイデアを論理的に説明する力が向上した。また、他グループの発表を聴講することで、互いのアイデアの価値を認め合い、学びを深め合った。

本活動を通じて、社会で活用されている知的財産について自発的に調査する姿勢とともに、他者の独創的な視点を尊重し、相互に高め合おうとする「共創的態度」へと変化が見られた。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	農 01	学校名	北海道更別農業高等学校	担当教員名	菊池 直樹
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	スペルト小麦の栽培と加工特性の研究	農業科、生活科学科 2,3 年生・課題研究	(1)(3)(8)(12)(13)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	食の学校祭参加	農業科、生活科学科 2,3 年生・課題研究	(1)(3)(8)(12)(13)		<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	知的財産の基礎・基本を理解する	農業科、生活科学科 3 年生・食品流通	(12)(13)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	発明とは何か、パテントコンテストとは何かを理解させる	農業科、生活科学科 1,2 年生、農業情報処理	(12)(13)		<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	三菱みらい育成財団主催高校生 M I R A I 万博の参加と知財教育	農業科、生活科学科 2,3 年生・課題研究	(12)(13)		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	大地の力コンペにて知財学習の内容をまとめたものをプレゼン発表した。	農業科、生活科学科 2,3 年生・課題研究	(12)(13)	保護	<input type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				<input type="checkbox"/> (9)手続の理解	
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）		その理由	具体的な数値を用いて記載をお願いします パテントコンテスト応募以外のものは、一部内容は変更したがすべて計画通り実施することができた。視察先の都合により1月8日より視察研究を実施する。	
取組の状況	具体的な数値を用いて記載をお願いします ・弁理士を招聘して知財学習会を開催（写真1）。身近に存在する知財について理解させることができた ・宮城県工業高等学校若松英治氏を招聘し知財学習会を開催（写真2）。パテントコンテスト、発明とは何かを理解させることができた。事前アンケートでは知財学習に興味があると回答した生徒が1年生では25%、2年生では28%であったが、事後アンケートでは興味があると回答した生徒が1年生52%、2年生46%と知財学習の意義を理解させることができた。 ・帯広畜産大学教授 大西 一光氏と連携しスペルト小麦の栽培と加工特性や種子法について理解させることができた。（写真3） ・令和6年度パテントコンテストに入賞した内容をまとめたものを、三菱みらい育成財団主催高校生 M I R A I 万博（写真4）、石屋製菓主催食の学校祭（写真5）、一般社団法人美来農業創造研究会主催大地の力コンペにて発表をした。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	三菱みらい育成財団主催高校生 M I R A I 万博の参加と知財教育				
成果内容	プロジェクト学習の充実と知財学習の深化を図るでは、令和6年度地域資源活用班がパテントコンテストに応募し優秀賞に入賞、特許出願書類の申請を行った。これらの内容をまとめたものを、三菱みらい育成財団高校生 M I R A I 万博に応募したところ最優秀賞を受賞したため、7月31日に大阪万博2000人収容のメインホールでプレゼン発表を行った。発表内容は多言語で表記されたため、知的財産に係わる研究内容を、全世界に伝えることができた。				
生徒・学生に見られた変化	・プレゼン資料の作成を通して、プロジェクト学習で取り組んでいる研究内容を生徒自身が見直すきっかけとなった。 ・創作者・権利者の視点を体験することができた。 ・多言語での発表を行ったため、全世界からプレゼン内容についての反応が寄せられた。日本の知財学習のレベルの高さを知ることができた。				
その根拠	・大阪万博で発表を視聴された方から日本語、英語、ギリシャ語、インドネシア語などで137の意見を頂いた。特許出願に関する反応も多かったことから生徒自身が日本の知財学習のレベルの高さを認識することができた。また、質疑応答では、明確に受け答えを行っていることから、特許出願を行った研究内容について生徒の理解が深化していることを知ることができた。				

課題・反省点	<p>令和6年度パテントコンテストで入賞した研究内容を、令和7年7月大阪万博で発表した。パテントコンテストへの応募を通して、知財学習の深化を図ることができることは認識していたが、令和7年度パテントコンテストに応募出来なかった。次年度出願を目指して、令和7年11月つじのか国際商標事務所杉田基子氏、12月宮城県工業高等学校若松英治氏を招いて講演会を行った。</p> <p>知財学習会の中で、パテントコンテストに関する内容を教えて頂いた。今後もパテントコンテストへの応募を促していきたい。</p>
今後の展望	<p>パテントコンテストの応募を通して、知財学習の基礎・基本を学習できると認識している。生徒の意欲向上を図るため、次年度は発明体験ワークショップへの参加を促していきたい。</p>

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財学習会



(写真2) 知財学習会



(写真3) 小麦学習会



(写真4) 三菱MIRAI万博での発表



(写真5) 食の学校祭での発表

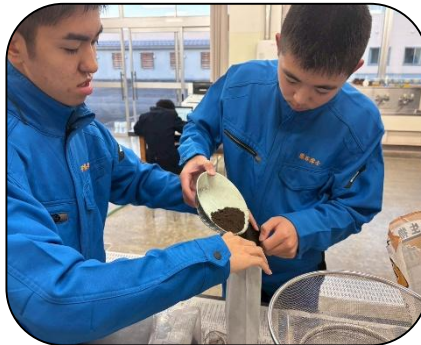
(特記すべき取組と成果) 三菱みらい育成財団主催高校生MIRAI万博の参加と知財学習について

高校生MIRAI万博の参加と知財学習について

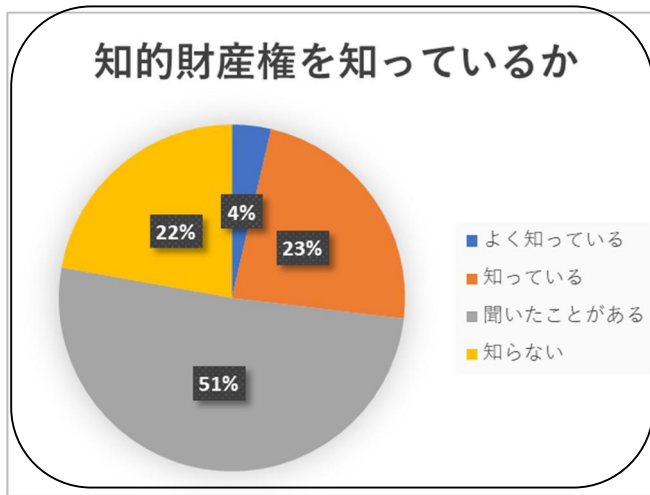
令和6年度パテントコンテストで入賞した内容を、大阪万博2000人収容のメインホールで発表をした。令和6年度発明体験ワークショップにて応募書類を事前準備し、かつ調査内容や先行技術との違いなどの記載方法を丁寧に教えて頂いたため、プレゼン内容の整理をスムーズに行うことができた。しかし、大阪万博での発表が決定した4月の中旬から、発表当日の7月31日までの準備日程は苦労の連続であった。毎月2回行われる、ZOOMでの会議では、プレゼン内容の確認、事前資料の提出、発表内容のブラッシュアップ、多言語に対応した取組など、生徒にとってはかなりハードな内容のものが多かった。特に、参加する学校との会議では、本校の発表内容がパテントコンテスト入賞、特許出願など、注目される内容も多く、質問に窮する場面もあり、事前準備に時間を要した。しかし、これらの体験を通して、生徒一人一人が、自分たちの研究内容のどの部分が特許出願に至ったのか等、研究の振り返りを行うなど真剣に知財学習に向き合うきっかけとなった。残念ながら、今年度は大阪万博準備に多くの時間を費したため、パテントコンテストの応募は見送ったが、生徒にとって貴重な時間であった。



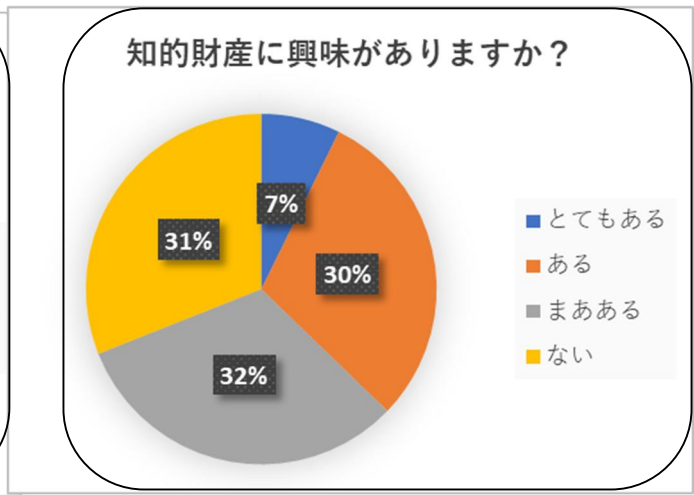
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 外部講師による講話 (写真2) フェルチバックの制作風景 (写真3) 完成したフェルチバック



(グラフ1) 知的財産の認知【274名】



(グラフ2) 知的財産に対する興味【274名】

(知的財産学習の取組について)

身近にある知的財産権 (講義・演習)

知的財産学習アドバイザーの秋田県立男鹿海洋高等学校、大高英俊先生に来校していただき、知的財産権に関する授業を実施した。

対象クラスは2年生農業科学科66名で、90分の講義と演習を行った。目的は、あらゆる商品や社会とのつながりを理解させ、保護・尊重する意識を養うこととした。大高先生からは身近にある文房具やペットボトル、食品容器について考えさせ、観察力や情報収集力の向上を図っていただいた。



<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財セミナー



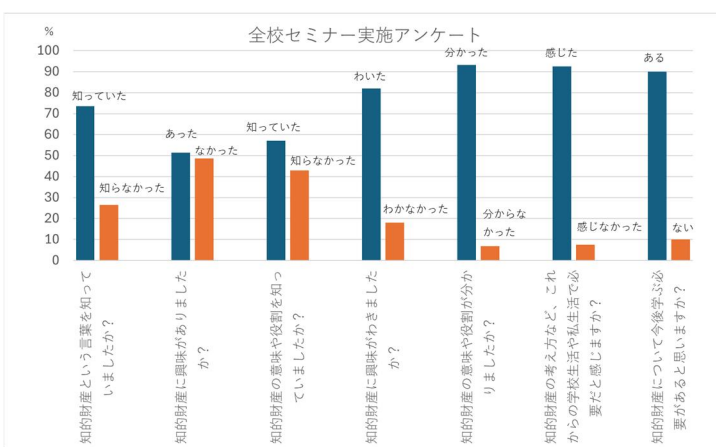
(写真2) 大阪府立農芸高での研修



(写真3) 弁理士による研修



(写真4) 全校セミナー



(グラフ1) 全校セミナー実施前と後の意識調査

全校生徒を対象とした知財セミナーの開催と1年生全学科を対象とした知財セミナー開催の取組

知財セミナーの開催

本年度は事業採択2年目となる。本校は7つの専門科を有しており、1年目の取組では4学科にて知財の取組を行ったことから、本年度は全ての学科にて取組を行うこととし、全校集会を開催して全ての生徒が知財セミナーを受講した。また、昨年度同様に1年生を対象に外部講師による知財セミナーを全学科にて行い、知財学習に必要な「創造」する力を育み、さらなる「知財マインドの醸成」をはかった。

<講師>

- 山口大学研究推進機構知的財産センター 准教授 陳内秀樹 先生
全校集会 生物工学科担当
- 宮城県工業高等学校 教諭 若松英治 先生
動物科学科、環境科学科担当
(本事業の本校アドバイザー)
- 大阪府立農芸高等学校 首席 烏谷直宏 先生
園芸科学科、森林科学科担当
- 岐阜県立飛騨高山高等学校 教頭 中野輝良 先生
流通科学科、食品科学科担当



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	農 04	学校名	大阪府立農芸高等学校	担当教員名	岡 康秀
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	商品のレシピ考案と商品化	ハイテク農芸科生徒・食品加工科製菓食品専攻生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	岐阜農林高校との知的財産学習勉強会	知財開発研究部、岐阜農林高校有志生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	日々の授業での知的財産学習の必要性	ハイテク農芸科生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知財開発研究部での活動と成果報告カード・チラシの作成	知財開発研究部	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	企業の訪問	知財開発研究部	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	当初予定していた本校の全学科での知的財産学習に取り組むという活動においてハイテク農芸科以外の学科にも普及するという観点において食品加工科にも普及することができた。しかし資源動物科には普及できなかったためこのような見込みとなった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	今まで知的財産学習に力を入れて取り組んでいなかった学科へも知的財産学習の重要性を普及し、今年度に関しては、新たに 40 人の生徒に知的財産の重要性や日々の実習や課題研究の中で知的財産を意識する習慣が身についた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	①・商品のレシピ考案と商品化				
成果内容	本校ハイテク農芸科、食品加工科製菓食品専攻の生徒にて本校の食材を活用した新商品スイーツのレシピ考案と商品化を地元企業の協力の元行なった。その際に、今まであまり知的財産権に触れてこなかった生徒にも知的財産について向き合う時間を作ることができ、学校全体での知的教育の遂行の架け橋となった。				
生徒・学生に見られた変化	生徒に見られた変化としては、特に商標を考える際にその他の商品の侵害になっていないかを意識したり、会話の中で知的財産学習を意識した会話が増えていった。意識について変化のアンケートを数値化できてはいないものの定性的に意識に変化があったことがわかる。				

その根拠	意識について変化のアンケートを数値化できてはいないものの定性的に意識に変化があったことがわかる。
課題・反省点	今後アンケートを取る時間などを設けられていなかったのでしっかりと定量的な数値データをとる。
今後の展望	このまま大阪府立農芸高等学校全体で知的財産教育が定着していけばいいと考えた。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
 本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 企業訪問での打ち合わせの様子



(写真2) 試食後のすり合わせの様子



(写真3) 商品化された商品の写真



農業高校での新商品開発と知的財産学習について

新商品開発に付随する知的財産学習について

今年度は、ハイテク農芸科だけでなく、食品加工科製菓食品専攻の生徒とともに知的財産学習について力を入れて取り組んだ。その際、製造特許や商標、意匠権について学んだそれ以外にも他の知的財産学習やアイデア創出の手法についても学びながら新商品の開発を行なった。

実際に試作を繰り返し新商品を形にしていった。特にエシカルチーズケーキ専門店 Seed 様や株式会社フランシーズ様の協力を得て商品化するまでに至った。その際に何度か企業を訪問し、経営で大事にしているところ等を伺いアントプレナーシップ教育も同時に行なった。

そして、生徒たちが考案、商品化したものは実際に高島屋泉北店での「おやつマルシェ」にて販売された。その際も現地を視察し、購入されるお客様に対して自分たちが大切にしている部分であったり、製作秘話などを話し、知的財産の大切さを再認識した。



完成した商品のお披露目の様子

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 外部講師を招いた
知財セミナー



(写真2) 牛肉の6次産業化
に向けた検討会



(写真3) 畜産に生きる会議
での畜産の現状と課題



(写真4) 地理的表示 (GI) 登録
褐毛和種の価値や知財権活用事例発表



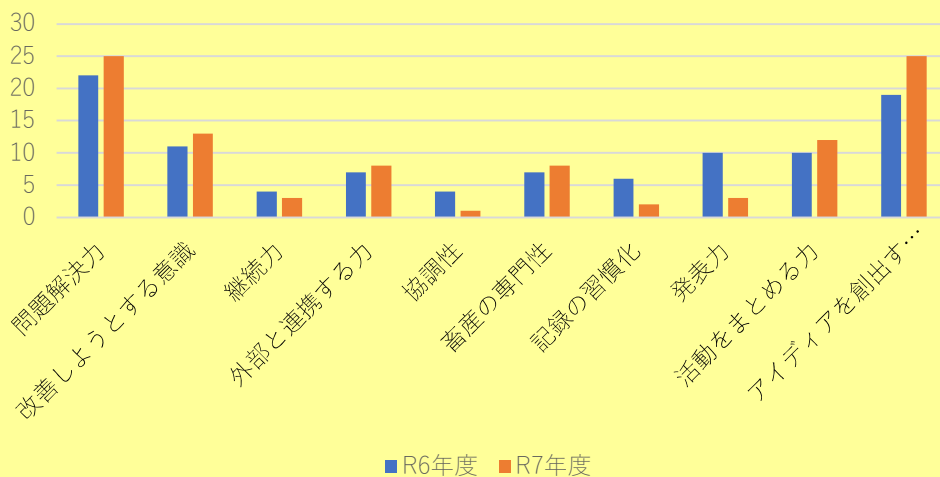
(写真5) 本校産生乳を使った
6次産業化の検討

令和6年度及び令和7年度における生徒の変容

生徒の意識調査の結果から、知財学習を取り入れた「課題研究」の展開により、問題解決力やアイデア創出力の向上が見られた。

「課題研究」において生徒が身に付いた力 (R6年度,R7年度比)

知財学習を取り入れた課題研究の実践において
最も身に付いた力とは (1つ選択)



<写真・図表等掲載欄>



写真1 学科間連携による棚製作

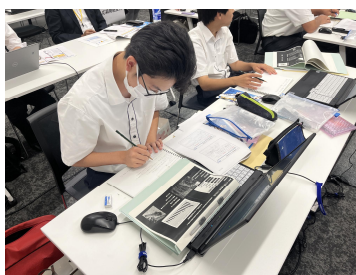


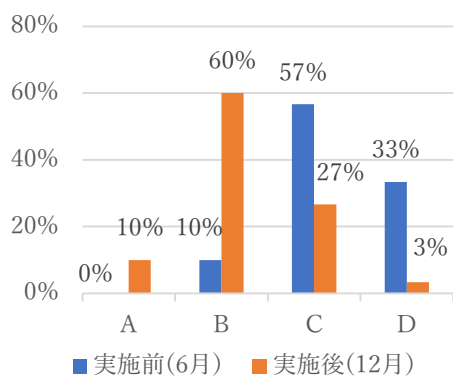
写真2 発明体験ワークショップ



写真3 ブランド化に向けた栽培方法調査

創作活動において知財を意識している

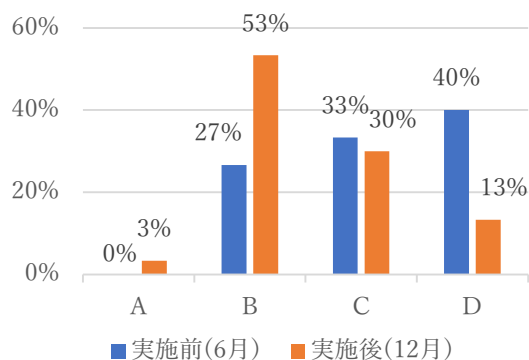
A、常に意識している B、意識している
C、ほとんどしていない D、全くしていない



グラフ1 創作活動中の意識（実施前後の比較）

知的財産について理解している

A、とてもそう思う B、そう思う
C、そう思わない D、まったく思わない



グラフ2 知財に関する理解度（実施前後の比較）

ブランディングとラベルによるPR活動

本校で栽培する生製品のブランド化を目的に、ラベル等の商標デザイン作成に取り組み、知的財産に関する理解を深めた。また栽培方法に基づいたネーミングを考える過程で商標権について学習した。

自分のアイデアによって商品の価値が高まることで自己肯定感が

日出の箱入りきのことパッケージ

高まるとともに、品質を維持し、消費者の信頼を裏切っては

ならないという責任感も強まった。アイデアを形にする実践的

活動において商標権等の知的財産の重要性を学ぶことができた。



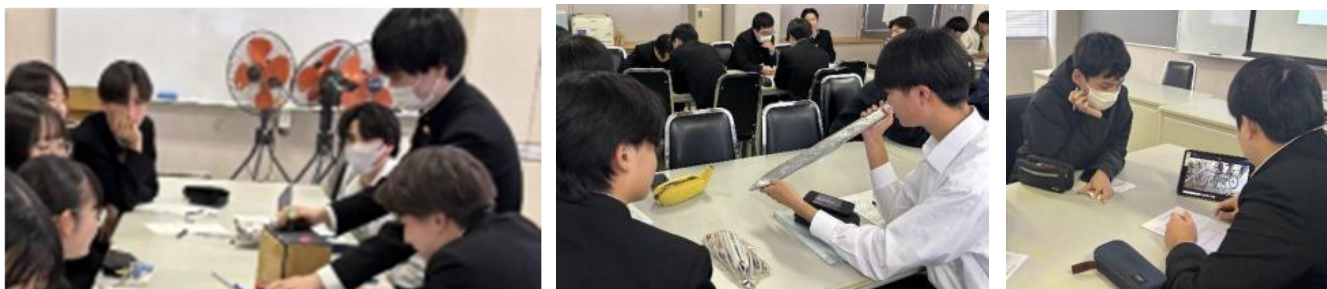
令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 01	学校名	宮城県工業高等学校	担当教員名	若松英治
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ アントレプレナーシップ（起業家精神）教育との連携 ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	日常生活の「困った」を自分の課題とする、明確な課題意識の育成	機械科（3年生） 情報技術科（全学年） 化学工業科（2年生）	1-1 1-2	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	アイデア創出（発想）訓練 商品開発秘話（活用と保護を学ぶ）	情報技術科（全学年）	1-3		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	学校司書との連携 技術的な新聞記事の紹介 プレゼンテーション力向上を目指した特別授業	全校生徒 3学年全員	1-4		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	DX（宮城県が抱える問題点の解決） QRコードを用いたソリューション提案 スマート農業から学ぶ情報技術の活用方法 AIを活用したソリューション提案	情報技術科（1学年） 情報技術科（2学年） 情報技術科（3学年）	1-5		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	J-Platpat 検索	情報技術科（3学年）	1-6		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	発明体験ワークショップ参加 パテントコンテスト応募	情報技術科（3学年）	1-7	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	先進技術講話	情報技術科（1学年）	2-1		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	ものづくり（課題研究）	全校生徒	3-1		<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	ものづくり・研究（部活動）	全校生徒	3-2	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解	
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	「目の前の問題を“自分ごと”としてとらえる意識の涵養」を目指し、講話を行い、アンケートを実施した。その結果、「新たなものを創り出してみたい」という質問に対し、1年生では講義前で50%を下回っていたが、講義後で90%を超えた。また、「新たなものをつくるためのアイデアが思いつきそうにない」という回答が講義前は60%以上あったが、講義後のアンケートでは「新たなものをつくり出すためのアイデアを思いつきそう」という回答が90%を超えた。また、実施予定の学習内容（9項目）は、ほぼ計画どおりに実施することができ、計画にない知財学習も加えることができた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> ・知財講話を行う上で「目の前の問題を“自分ごと”としてとらえる意識の涵養」を目指し、アンケートを実施した。その結果、たとえば「新たなものを創り出してみたい」という質問に対し、1年生では講義前で50%を下回っていたが、講義後で90%を超えた。また、「新たなものをつくるためのアイデアが思いつきそうにない」という回答が講義前で70%以上あったが、講義後のアンケートでは「新たなものをつくり出すためのアイデアを思いつきそうだ」という回答が90%を超えた。 ・全校生徒への技術的な新聞記事の紹介を行った。 ・パテントコンテスト応募に向けて生徒が発明体験ワークショップへの参加し、パテントコンテスト応募につながった。 ・デンソーウェーブの牛嶋氏より、先生方向けの知財セミナーと生徒向けの講話を実施した。 ・QRコードを用いて社会課題を解決するソリューション提案を実施した。 ・スマート農業の実践事例から情報技術の活用方法を学ぶ講話を実施した。 ・地元企業と連携し「人工知能を活用した社会課題の解決」を目指し、出張講義を4回実施した。 ・国語科と図書司書の協力のもと、「プレゼンテーション力の向上」を図るための特別授業を3学年全員に実施した。 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	③学校司書との連携 「プレゼンテーション力向上を目指した特別授業」				

成果内容	<p>3年生の論理国語の授業(2コマ)で他学科と合同で実施した。夏休み前には自分の進学先や就職先の調査をし、グループ内で発表した。12月には自分たちの課題研究を題材にし、プレゼンを行った。これまで時間かけて取り組んできた課題研究が題材であったこと、相手を意識して他学科の生徒には専門的な知識がないために言葉を選びながら内容をわかりやすく伝えるよう努め、写真や動画、実物を持参しての説明や声のトーンや大きさにも注意を払いながら真剣に取り組む姿勢があった。他学科の生徒の研究に触れ、前のめりになって聞いていた生徒が多く、「すごい!」「こんなこともできるの?!」と感心され、照れながらも更に熱を込めてプレゼンしていたのが印象的であった。この授業を通じて生徒はプレゼンテーション能力を高めるとともに自分に自信を持つことができ、何よりプレゼンテーションへの苦手意識を払拭できた生徒も多かった。</p> <p>一方、教員は授業を進めていた方が授業の見通しが立ちやすいことから、結果の見えない授業は避ける傾向がある中で今回のような「生徒の動き次第で結果が大きく変わる授業」を3学年の全学科の生徒にできたことと、教員の授業スキルの向上にもつながったことから非常に意味のある取り組みであったと言える。</p>
生徒・学生に見られた変化	<p>生徒のプレゼンテーション能力向上、自分に自信を持つことができたこと、プレゼンテーションへの苦手意識を払拭できた(教員の授業スキルの向上にもつながった)</p>
その根拠	<p>アンケートにより「一生懸命に伝えようとするれば、相手も一生懸命聞いてくれることが分かり、プレゼンテーションへの苦手意識をなくすことができた」「自分の研究に自信を持つことができた」などという振り返りが多かった。また、「他学科との合同という授業がほとんどなく不安もあったが、結果やってよかった」という意見が多数あった。</p>
課題・反省点	<p>パテントコンテスト応募のためクラス全員でアイデア創出を行い、パテントコンテストへの応募を目指したが、クラス単位でのアイデア創出、応募までもっていく時間と労力を確保できなかった。来年度はクラス単位とはいかないまでも、より多くの生徒に機会を与えたい。</p>
今後の展望	<p>全学科で知財講話を実施し、生徒にも教員にも興味関心を持ってもらい、単なるものづくりをするのではなく、新たなものを生み出せるエンジニアとなれるよう意識を涵養したい。クラス全体でのパテントコンテスト応募に向けた取り組みは、計画的に時間的な余裕をもって実施したい。</p>

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



他学科との課題研究 合同プレゼンテーションの様子

(特記すべき取組と成果)

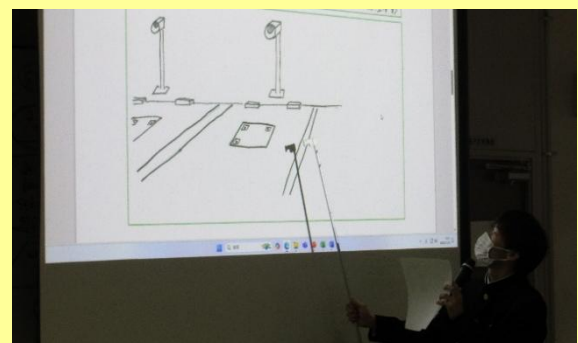
情報技術科における「ソリューション提案」への挑戦

情報技術科では1学年で「QRコードを用いたソリューション提案」、2学年で「スマート農業から学ぶ情報技術の活用法」、3学年で「AIを活用したソリューション提案」と、いずれも第一線で活躍している外部講師を招聘して実施した。

QRやAIを活用してどんな課題を解決できるか、という設定の中、生徒は時間をかけて自ら課題を探し、どのようなデータを用いて、QRコードをどう活用すれば課題を解決できるかを真剣に考えた。

この講義を通じて“答えのない課題”に対する苦手意識や抵抗感が和らぎ、生徒一人一人が「困難な課題に対しても考え抜くことの大切さ」を学び、講義を通じて「目の前の課題に向き合う」ことができたことも成果であった。

3年生の成果として、あるグループから出されたソリューションに対して講師から「権利化(特許)を目指せるレベルの素晴らしいアイデアが出た」として高く評価していただいた班があり、大きな学習成果であった。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 02	学校名	秋田県立湯沢翔北高等学校	担当教員名	渡邊 義典
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	新しい製品の設計や試作・評価(福祉機器)	専攻科学生 2 年	1,2,3	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	地域資源を活用した新製品の開発	専攻科学生 1 年	1,2,3		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	新しい製品の設計や試作・評価(パテントコンテスト)	専攻科学生 1 年・2 年	1,2,3		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	弁理士を招いた特別授業Ⅰ(制度の理解)	専攻科学生 1 年・2 年、教員	6,7,12		<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	弁理士を招いた特別授業Ⅱ(J-PP,パテントコンテスト)	専攻科学生 1 年・2 年、教員	1,2,3,9		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	「知的財産権教員研修」教室の外で学ぶ知的財産	専攻科生産技術科教員	6,7,12	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	ほぼ達成 (9 割以上)	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・学生および教員 100%が、知的財産に関わる学習活動、試作、評価、出品等に参画 ・創作活動を通して「まだないものを見つける力」「身の回りのあらゆる事象をヒントにする姿勢」「最後まであきらめずに取り組む態度」を身に付けることができた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・新しい製品の設計・試作・評価（福祉機器）：専攻科 2 年生が取り組み、2 点出品 ・地域資源を活用した新製品の開発：専攻科 1 年生が取り組み、3 点製作 ・新しい製品の設計・試作・評価（パテントコンテスト）：専攻科 1・2 年生が取り組み、5 点出品 ・弁理士を招いた特別授業ⅡⅡ：専攻科 1・2 年生および教員が参加（各 11 名） ・「知的財産権教員研修」教室の外で学ぶ知的財産：専攻科生産技術科教員 4 名全員が参加 ・昨年度に引き続き、パテントコンテストで優秀賞 1 点を受賞				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑤弁理士を招いた特別授業Ⅱ（J-PP、パテントコンテスト）				
成果内容	・弁理士の指導のもと、パテントコンテスト出品に向けて、アイデアの調査、3D-CAD による設計、出品書類の作成に取り組んだ。 ・アイデアの検討、設計、再検討、3D プリンタによる試作を通して、調べる力、設計する力、課題を見つけ改善する力を養うことができた。				
生徒・学生に見られた変化	・正解が用意されていない課題に対して、自ら考え、調べ、試行錯誤しながら解決しようとする主体的な姿勢が見られるようになった。 ・失敗を前向きに捉え、改善を重ねながら取り組む粘り強さが向上した。				
その根拠	・通常の実習では解決方法が確立しているのに対し、パテントコンテストに向けた設計・試作では試行錯誤が多く、教員の助言も必ずしも最短の解決策とはならない。その中で学生は、自ら情報を調べ、仲間と話し合い、失敗を重ねながら課題解決に取り組み、結果としてより多くの実践的な経験を積むことができた。				
課題・反省点	・パテントコンテスト出品に向けた「お題」を教員側で設定したが、学生が身近な不便さを見つけることが想定以上に難しく、テーマ設定に時間を要した。 ・年間カレンダーの影響により授業時数の確保が難しく、知的財産特別授業の実施時期が後ろ倒しとなった。その結果、パテントコンテスト出品に向けた検討・設計・試作の時間を十分に確保できなかった。				
今後の展望	・アイデア発想の初期段階で、事例紹介やワークシート等を活用し、発想を促す指導方法を工夫する。 ・年間計画の段階で知的財産特別授業の時期を早期に確定し、パテントコンテスト出品に向けた活動時間を十分に確保する。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

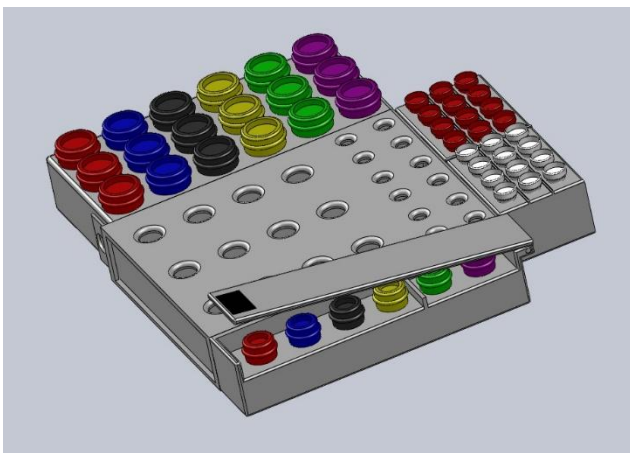
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



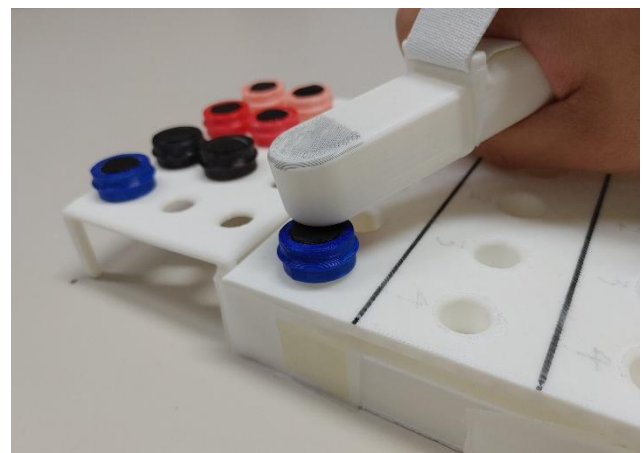
(写真1) 弁理士を招いた特別授業Ⅰ(制度の理解)



(写真2) 「知的財産権教員研修」教室の外で学ぶ知的財産



(写真3) 新しい製品の設計(福祉機器)



(写真4) 新しい製品の試作・評価(福祉機器)

新しい製品の設計や試作・評価(パテントコンテスト)

今年度のパテントコンテストに向けた取組では、各自のアイデアについてJ-PPによる先行技術調査を行い、先行発明が確認されなかったものについては、3DCADによる設計、3Dプリンタや工作機械を用いた試作を実施した。CAD/CAM実習や機械加工実習で学んだ知識・技術を活用し、試作品を実際に動かすことで設計上の課題や改善点を把握し、改良につなげることができた。

本校で実施しているRP実習(ラピッドプロトタイプ)と本取組は親和性が高く、設計・試作・改良を繰り返す実践的な学習となり、専攻科の学習内容と深く結び付いた取組となった。

また、通常の実習とは異なり、解決方法が定まっていない課題に取り組む中で、学生は教員の助言に頼るだけでなく、自ら調べ、話し合い、失敗を重ねながら問題解決に取り組んだ。

その過程で得られた経験は大きく、主体的に考え、粘り強く改善を続ける力の育成につながった。



(写真5) 試作品の評価を実施

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 03	学校名	山形県立鶴岡工業高等学校	担当教員名	土田 慎
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	自動養蚕工場の研究	情報通信科 3 年・課題研究	1,3,4,5,6,10,11	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	知的財産についての理解を深める	全校生徒、教員・全校集会	1,2,3,4,5,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	発明体験ワークショップ参加	情報通信科 3 年・課題研究	1～13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	学校オリジナルロゴデザインの制作	生徒会執行部、有志生徒	1～9、12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知的財産についての全校集会を開催したことにより、知的財産権について理解できた生徒の割合が 87%になり、知財に関して更に学んでみたい生徒の割合が 68.2%となった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動において生まれた自分達のアイデアを J-PlatPat を用いて先行出願等を確認。また、先行事例を参考に多くの考え方に触れる。 弁理士を招聘して知財セミナーを生徒向けに 1 回、教員向けに 1 回の合計 2 回開催。ものづくりにおける知財の重要性を理解。 発明体験ワークショップに参加し、制度の学習を行いパテントコンテストへ 5 件応募。 専門家の指導を受けながら学校オリジナルロゴの創作活動を行い、先行出願等や Web 検索により著作権の侵害について学びながら取組む。 アドバイザーを招聘し、意匠・商標申請手続きについてのアドバイスを受ける。 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	④ 学校オリジナルロゴデザインの制作				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> アイデアの創出からデザインとして表現する手法、創作物を知的財産権として守る重要性まで、一連の流れを体系的に体験できた。 制作したデザインを商標として出願し、手続きについて理解を深めることができた。 				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> アイデアの創出方法を体得し、積極的に様々なアイデアを創出できるようになった。 自分達が考えたものについて、J-PlatPat や Web サイトで検索し確認するようになった。 創作物が知的財産権によって守られていることを知り、今後社会で働く上で、アイデアを大切に扱っていきたく意識するようになった。 				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちのアイデアにより、学校オリジナルロゴを完成させることができ、デザインについては著作権の侵害に当たらないよう調査を繰り返しながら行い、商標出願申請までできたこと。 				
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 事業初年度のため、事業計画や予算の組み方が不十分だったため、計画書提出後に変更する場面があった。 生徒評価について、取組み後のアンケートのみ実施のため、どの程度の意識変化があったのかを図ることができなかった。 				
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 先進校視察で得た情報を参考に、本校の授業（総合的な探究の時間・工業技術基礎）に、知的財産の学習内容を取り入れること。 本校での成果を他校に広げながらも、事業参加校との交流を促進し情報収集を行い、知財学習をより充実したものにしていきたい。 				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 発明体験ワークショップ (仙台)



(写真2) 知的財産権の講話

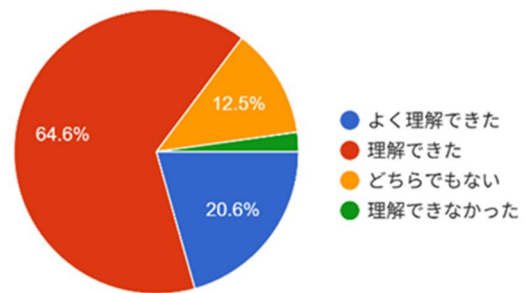


(写真3) 自動養蚕工場の研究



(図1) 完成した学校オリジナルロゴデザイン

2 講演会で知的財産を理解できましたか
407件の回答



(グラフ1) 知的財産権講話の成果

専門家・企業との連携の重要性について

本事業における学校オリジナルロゴデザインの制作では、専門家（ディレクター・デザイナー）や地元企業の方を招聘した。デザインの展開方法やターゲティングに関する専門的な指導を受け、実務的な知識を学びながら進めることができた。

専門家の方には、生徒から出されたアイデアを効果的にとりまとめ、完成度の高いデザインを生み出していただいた。また、提案されたデザインが既存の物でないか検索・確認い

ただくなど、実際の商品開発の現場におけるプロセスを理解する機会にもなった。なお、本事業とは別の予算での取組みになるが、完成したオリジナルロゴを商標として申請し、スカーフの制作も行った。生徒達にとって、企画開発から製品化、さらには知的財の申請までの一連の流れを体験できたことは、非常に大きな経験となった。



協力企業での捺染（プリント）作業

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 04	学校名	群馬県立前橋工業高等学校	担当教員名	松井 良介
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	「工業情報数理」、「工業技術基礎」での授業	機械科 1 学年 (40 名)	(1),(2),(3),(4),(6),(7)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	J-PlatPat (特許情報プラットフォーム)を活用した講習	機械科 2 学年 (40 名) 機械科 3 学年 (37 名)	(2),(3),(6),(7),(8),(12)		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	弁理士や知財に携わる方による特別授業	機械科 2 学年 (40 名) 機械科 3 学年 (37 名)	(1),(2),(3),(6),(7),(9),(12)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	製品作りのいろはを学ぶ	機械科 2 学年 (40 名) 機械科 3 学年課題研究班 (5 名)	(1),(2),(3),(4),(5),(6),(10),(11)	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	社会における知財の現状について学ぶ	機械科 2 学年 (40 名) 機械科 3 学年 (37 名)	(6),(11)		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	建築研究部員への知財活用の意識づけ	建築研究部員 (7 名)	(1),(2),(3),(5),(6)	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
					<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
					<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成 (7 割以上)	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の選定が遅れ、予定通りに実施できなかった。 年間の見通しが甘く指導時間を予定の 7 割程度しか確保できなかった。 知的財産について実施クラスの 80%の生徒が理解を深めることができた。 		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> INPIT で配布されているテキストを配布し学習のテキストとして使用した。 外部講師を招聘して、創造力向上のセミナーを実施し 8 割を超える生徒が振り返りにおいて、世に出ていないもの・ことを考えることが楽しいと回答している。 プロダクトデザインコンテスト、パテントコンテスト等に応募する作品を創る上で先行事例の調査やデザイン思考、TRIZ などの思考法について学ぶことができた。 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	④ 製品作りのいろはを学ぶ				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> 真空管アンプやスピーカに関する知財を学習しながら、専門家に指導してもらい製作を行うことができた。 大学による出前授業を活用し、プロダクトデザインの概要を学び、活用しながら作品制作を行うことができた。 発明体験ワークショップに参加し、専門家から J-PlatPat の活用の仕方や、パテントコンテストに出展するための書類作成について指導を受け、作品を提出できた。 				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> プロダクトコンテストへの応募作品を創作する経験をしたことで、社会課題解決の視点とユーザーの立場に立って考える習慣を身に付けた。 知財に関する知識が増えたことで、発表資料の作成やレポート提出において権利の侵害にあたらぬかを検討するようになった。 				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの感想で記述している生徒が多かった。 自分が考えたものに対して、J-PlatPat を活用しながらアイデアを深めることができるようになった。 				
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画が甘く、知財に使える時間を捻出できなかった。 アイデア出しの段階で多くの時間を費やしてしまい、先行事例調査や製作にかかる時間を十分に取れなかった。 				
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 通常授業に知財学習を組み入れられるよう教材研究を行う。 思考法について説明し、アイデア出しの機会をより多く設けることで思考力の向上を図る。 弁理士会に相談し、早めに外部講師を検討する。 				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

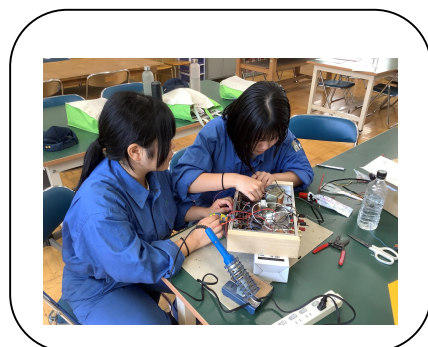
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 東京税関 見学



(写真2) 特許庁にて審査官より説明を受ける

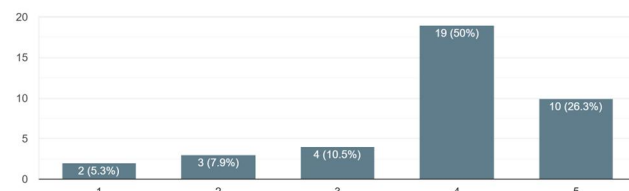


(写真3) 真空管アンプ製作

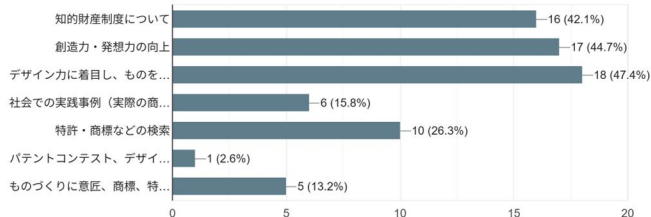


(写真4) 発明体験ワークショップへの参加

今回のワークショップを受けて知的財産に関する理解が深まったと思いますか
38件の回答



知的財産の学習で、興味のある分野を選んでください（複数回答可）
38件の回答



(グラフ) 弁理士による特別授業の成果

(例：特記すべき取組と成果) 外部機関との連携授業の実施について

連携による相乗効果

教科の学習内容に関連する企業の方に専門的な講義を頂き、付随する知財についても教示頂くことができた。事前の打ち合わせにおいて、こちらの意図を伝え、議論を重ね授業計画を立てていくことで、教科の学習、知財学習、キャリア教育、各々が相互に作用する授業を展開できたことが今年度の一番の収穫である。

来年度は、年度当初より招致の計画を立て、打ち合わせのための時間を十分に確保し、より効果的な授業展開について模索していく。



IKEA スタッフによる授業



三菱鉛筆(株) 佐藤弁理士による授業



中村弁理士による授業

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 05	学校名	長野県佐久平総合技術高等学校	担当教員名	宮下亮太
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知財の基礎知識習得講座	3年生全員・課題研究授業内	12・7・13・10	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	連携先企業訪問 1	対象 3 年生・課題研究授業内	11・2・5・6・8		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	連携先企業訪問 2	対象 3 年生・課題研究授業内	11・2・5・6・8		<input type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	技術交流会・競技会への参加	対象 3 年生・課題研究授業内	1・4・3		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	課題研究における研究開発	対象 3 年生・課題研究授業内	1・2・3・5・7・10		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・ INPIT 長野県知財総合支援窓口と連携したセミナーの開催ができた ・ 年間の見通しが甘く企業との継続した連携が進まなかった。 ・ J-PlatPat 等を活用した研究開発を推進した。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・ 年度当初課題研究に取り組む 3 年生 55 名に INPIT 長野県知財総合支援窓口と連携した知財セミナーを実施し知財の基礎知識や研究開発における J-PlatPat の活用法について学習し、年間を通じてアイデア出しやその後の創造において活用し、知財の意識付けをおこなった。 ・ 連携先地域企業へ訪問し 1 社目は企業活動と知財の関わり、製品開発のプロセスを学び研究開発に生かした。また 2 社目では開発中の製品について専門家視点でのアドバイスを受けよりよい製品の製作に役立てた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑤ 課題研究における研究開発				
成果内容	・ 地元企業 2 社との連携をおこない、製品開発プロセスや開発者の視点を体験することができた。 ・ Ene-1SUZUKA Challenge KV-MOTO への参加を通じて生徒自身が設計・製作した電動バイクにより総合 11 位・高校生部門 5 位を達成した。				
生徒・学生に見られた変化	・ 地元企業との連携の中で専門的な用語を駆使した懇談や、活発な議論をおこなう様子が見られた。 ・ アイデア出しなどでは J-PlatPat を自ら活用しアイデアを深めている様子が見られた。				
その根拠	・ 授業後の活動記録において記述内容の充実が見られた。 ・ J-PlatPat の利用方法について質問をする生徒が増え利用する様子が見られた。				
課題・反省点	・ 連携先企業の選定に時間がかかり、計画にゆとりを持てなかった。				
今後の展望	・ 前年度末から連携先企業との打ち合わせを進め事業開始とともに連携を実施できる環境を整えたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財の基礎知識習得講座



(写真2) EVバイクの制作風景1



(写真3) 企業訪問1の様子



(写真4) 企業訪問2の様子



(写真5) EVバイクの制作風景2



(写真6) 大会本番走行の様子

Ene-1 SUZUKA Challenge への挑戦

課題研究における取り組みとして Ene-1 SUZUKA Challenge KV-MOTO クラスへの出場をおこなった。Ene-1 SUZUKA Challenge KV-MOTO クラスとは充電式単三電池 40 本を動力とした自作の二輪車両を製作し鈴鹿サーキット国際レーシングコースを 3 周した合計タイムを競う競技である。また参加チームは社会人・大学・高専・短大・高校・中学校と全国の幅広い年代のチームが参加している。

本年度は昨年出場した際の結果から改善点の検討をはじめ、「限られたエネルギーを効率よく伝達する機構」「電気エネルギーを高効率で動力へと変換するモーターの製作」等の問題点を導き出し、解決方法について検討をおこなった。また地元企業 2 社への訪問を通じて問題解決に向けたアプローチ方法や、研究開発における知財活用例などを伺い製作に生かすことができた。また製作においては J-PlatPat における先行技術の検索、必要情報の絞り込みなどに活用する姿が見られた。

大会当日は生憎の雨天となったが自らが製作した車両によりコースを完走することができ以下の結果を残すことができた。

出走台数 42 台 (内高校生 14 台) J-PlatPat
総 合 11 位
高校生クラス 5 位



写真1 大会走行の様子



写真2 技術交流

会場では参加している企業や他の高校のチーム等と技術交流をおこない、大会結果から導き出した課題に対する解決策の検討や新たな発想へつなげることができた。

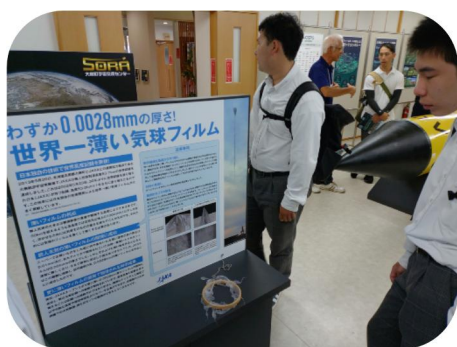
令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 06	学校名	岐阜県立岐阜工業高等学校	担当教員名	増井 勇一郎 山口 剛正
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 研究倫理 ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	企業見学の実施	5~12	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	岐阜県のみならず全国の成長・雇用戦略を知る。優良企業の取組を理解する。	5	1,2,3,5,6,7,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	ヒット商品はこうして生まれた（岐阜版）の取材	5~12	1,2,3,5,6,7,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの参加・応募	5~9	1,2,3,9,10,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	知的財産権や起業などに関する講演会	5~12	1,2,3,4,6,7,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	モノづくり教室、ワークショップの実施	8,12	1,2,3,4,5,6,7	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	校種間連携と技術的ブレイクスルーをテーマとした新規マーケティング参入	5~11	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	コンテスト出場	5~2	1,2,3,4,5,6,7,10,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	小論文講習会の実施	7~9	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	教材開発準備	5~12	1,2,3,4,5	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
					知識
				<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習	
				<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識	
取組目標の達成見込	ほぼ達成（9割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	4年間の事業の中で、新技術と新製品に触れる機会や知財学習を継続実施することで、知的財産権に興味を持つ生徒の割合や、概ね理解できた生徒の割合を30%まで向上させることができた。要因は、身近な事例などから、総合的な興味関心を引き出す事や、様々なケースを例示しながら授業も展開し続けたことが挙げられる。ワークショップ等の参加者ならびに生徒の満足度が90%を超える結果となった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	本事業において、企業120社と大学・専門学校35校からアンケートを回収した結果、すべての回答が「生徒の興味・関心、知識・技術が向上し、変化が見られた」および「研究内容や取組について評価できる」となった。これらのアンケートは「生徒研究発表会（ワークショップ・ブース形式）」に参加した後に行われたもので、参加生徒や職員が企業や教育機関と直接コミュニケーションを取った結果である。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	1-2「ヒット商品はこうして生まれた（岐阜版）」				
成果内容	本取組を社内報に掲載していただき、社内で話題になったと、企業様から連絡をいただいた。また、他企業様からも、オファーがあった事や、県の商工労働部の方にも紹介することができた。				
生徒・学生に見られた変化	商品の取材をすることで、生徒の地元企業に対する捉え方が、変化した。商品が少しのヒントで生まれたことなどのヒストリー、就職先の企業として候補となった事と、生徒自らが他企業の商品等を自主的に調査するようになった。				
その根拠	生徒、講師の方からの評価とアンケート、授業等の取組から評価した。				
課題・反省点	一部の生徒のみが参加するため、例えばインターンシップのように学年単位で実施し、各分野業種で取材ができると、もっと学習成果が生徒の力にもなると感じた。反省としては、多くの企業様からお声がけいただけるが、対応できる企業数が限られてしまう点が挙げられる。				
今後の展望	「自走化」→「地域連携」→「独自モデル化」というような形で、この取り組みをはじめ、研究倫理を含めた知的財産権の取組を水平展開していきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 大樹町宇宙交流センター SORA



(写真2) LEGO 創造実習

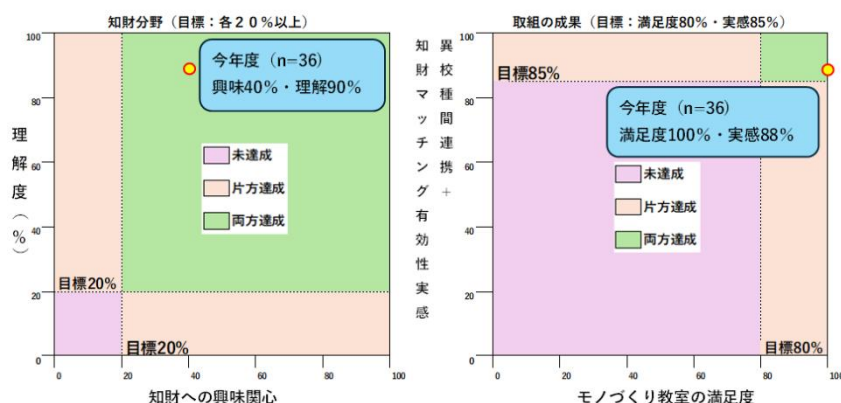


(写真3) ヒット商品(株)岡本取材

(表1) 知財教育ロードマップ (支援事業終了後)

フェーズ	方向性	具体的施策	期待効果
短期 (1~2年)	知財教育の 自走化	<ul style="list-style-type: none"> ・特許庁/INPIT教材を授業に組み込み ・校内で「知財研究会」や課外活動を継続 ・コンテスト参加を推奨 	支援事業終了後も知財教育が途切れず、学習習慣を維持
中期 (3~5年)	地域産業連 携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業・大学との共同研究 ・インターンシップで知財活用体験 ・IoT・AI・防災技術と知財教育を融合 	生徒が「地域課題解決型の知財人材」として育成される
長期 (5年以上)	独自モデル 校化	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域課題×知財教育」の独自カリキュラム確立 ・知財教育を核にした地域防災・産業振興プロジェクト ・OBOGネットワークを活用した知財教育支援 	岐阜工業高校独自モデルの認知により、産学官の知財連携が加速する

(グラフ1) 知的財産権の取組成果(クロスグラフ)



ヒット商品はこうして生まれた (岐阜版) Gifu Technical High. presents

～商品開発ヒストリーについて紐解く～

「総合的な探究の時間 (課題研究)」で知的財産権について学ぶ中で、岐阜県内にも、世界トップを誇る技術を有する企業が数多くあり、企業が保有する技術を活かし、BtoCの商品化に取り組む企業も少なくないことが分かった。

そこで、高校生が記者となり、県内のヒット商品をハンドブック化する取組を実践した。この取組により、地域産業を理解することはもちろん、進路決定の一助とするとともに、郷土愛も育む絶好の機会となることを期待している。現在の目標は、複数企業の取材内容をハンドブック化し、県内の小中学生に配布することを実現する事を夢見ており、最終的には、取材の中で、岐阜県内企業が求める「知財スキル一覧」を作って、それを教育に組み込むロードマップをさらに具体化し、地域連携等でより充実したカリキュラム開発を実践していく。

※初取材の企業は、1560年に創業した(株)岡本様 (鋳造業) で、所有する技術力を活かし、薪ストーブを開発。「AGNI-HUTTE」が、2016年にグッドデザイン賞ベスト100に選出、中小企業庁長官賞「ものづくりデザイン賞」を受賞し、本格的な販売がスタート。ヒット商品となった要因や、商品化までのドラマチックなヒストリーを工業高校生が高校生の目線から取材を重ねさせて頂いた。武者震いするような内容の情報を余す事なく頂け、テクノロジストとして、「super update」させて頂き、確かな手ごたえを感じた。



写真1 特許証を手にする生徒



写真2 (株)岡本 薪ストーブ「AGNI-HUTTE」

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 07	学校名	岐阜県立岐南工業高等学校	担当教員名	石井 正人
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	企業で活用されている知的財産の講演	自動車工学科 3 年、課題研究	6,7,8,9,10,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	パテコン・デザインパテコンへの取組	電気研究会 1 - 3 年、部活動	1,2,3,4,5,10,12		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	商品化への取組	電気研究会 1 - 3 年、部活動	6,7,8,9,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	学科エンブレムの作成	自動車工学科 3 年、課題研究	1,3,4,7,9,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫					<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬				知識	<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	「企業で活用されている知的財産の講演」は全学科での実施を目標としましたが、結果は 2/6 学科に留まりました。しかし、パテコン・デザインパテコンで優秀賞 5 作品、うち特別賞 2 作品を獲得したり、学科エンブレムも完成するなど、知的財産教育の推進において大きな成果を挙げました。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	①企業で活用されている知的財産の講演：全 6 学科実施目標でスタートしたが、各種行事との調整が難しく 2 学科での実施に留まった。 ②パテコン・デザインパテコンへの取組：パテコン・デザインパテコン各 4 作品応募し、優秀賞 5 作品、うち特別賞 2 作品を獲得した。 ③商品化への取組：パテコン等の応募前に商品化を目標としたアイデア出しを実施。また、意匠権の権利譲渡についての講話も実施した。 ④学科エンブレムの作成：自動車工学科でデザインプログラムを実施したが、8 名全員の満足度も高く、学科エンブレムも完成できた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	② パテコン・デザインパテコンへの取組				
成果内容	今年度は、パテコン・デザインパテコンに計 8 作品を応募し、優秀賞 5 作品、特別賞 2 作品という過去最高レベルの成果を挙げました。具体的には、パテコンで「卵片手割り補助具」「目玉焼き成型器」、デザインパテコンでは「皮むき器」「歯ブラシスタンド」「調味料形成具」が優秀賞を獲得しました。さらに、特別賞として、日本弁理士会会長賞と独立行政法人工業所有権情報・研修館理事長賞を受賞しました。				
生徒・学生に見られた変化	・試作品製作を通じて、技術力と創造力が大きく向上しました。特に、応募前に商品化を意識したアイデア出しを行うことで、実用性を重視した発想が定着しました。 ・受賞実績が続いたことで、生徒のモチベーションが高まり、知的財産に対する関心が深まりました。学科内での取り組みが活発化し、異なる学科間でもアイデア共有が進むなど、協働的な学びの姿勢が見られました。				
その根拠	・本事業開始前は、数年で数作品が優秀賞を受賞する程度でしたが、事業開始後は飛躍的に成果が向上しました。 ・試作・検証を重視したプロセス等が定着し、作品の質が年々向上していることが、受賞数増加という形で裏付けられています。				
課題・反省点	講演は全 6 学科での実施を目標としたが、行事調整の難しさから 2 学科に留まった。コンテストへの応募学科も偏りがあり、指導ノウハウが属人化している点が課題。指導体制の標準化や「知財教育」の認知も不十分で、非参加学科への理解が進みにくい。さらに、知財教育が単発講演にとどまり、体系化が不足しているため、継続的な学びに繋がる仕組みが必要である。				
今後の展望	今後は、パテコン・デザインパテコンへの継続応募が可能な体制を確立し、学科を超えたノウハウ共有を進めます。指導パッケージやメンター制度を整備し、応募準備の標準化を図りたいです。また、企業による講演を継続できる関係構築を行い、オンライン配信や学科横断型イベントを導入することで、全学科で知財教育を定着させ、商品化や地域連携へ発展させる計画です。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



企業で活用されている
知的財産の講演



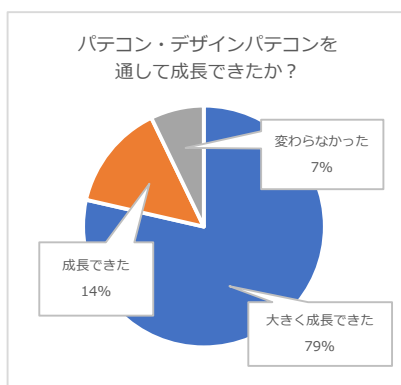
学科エンブレムの作成
～トヨタ博物館見学～



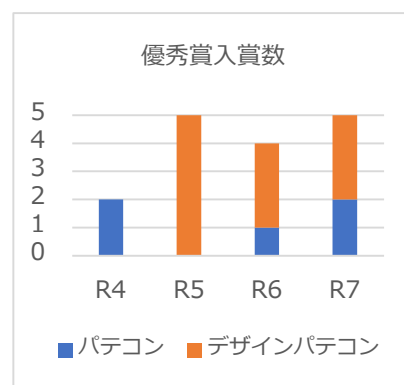
学科エンブレムの作成
～制作したエンブレム～



学科エンブレムの作成
～デザイン事務所訪問～



パテコン・デザインパテコンへの取組
アンケート結果



パテコン・デザインパテコン
コンテスト実績 (4年間)

パテコン・デザインパテコンへの取組

本事業の支援を受ける前にもパテコンには毎年参加していたが、数年で数作品が優秀賞を受賞する程度の結果であった。その様な中、本事業1年目のR4年度にはパテコンで優秀賞2作品、特別賞として日本弁理士会会長賞を受賞、R5年度にはデザインパテコンで優秀賞5作品、特別賞として INPIT 理事長賞を受賞、R6年度はパテコンで優秀賞1作品、特別賞として選考委員長特別賞を、デザインパテコンで優秀賞3作品、特別賞として WIPO (世界知的所有権機関) 賞を受賞してきた。

本事業最後の R7 年度はパテコンで優秀賞2作品 (卵片手割り補助具、目玉焼き成型器)、デザインパテコンで優秀賞3作品 (皮むき器、歯ブラシスタンド、調味料形成具)、特別賞として日本弁理士会会長賞と独立行政法人工業所有権情報・研修館理事長賞を受賞することができました。

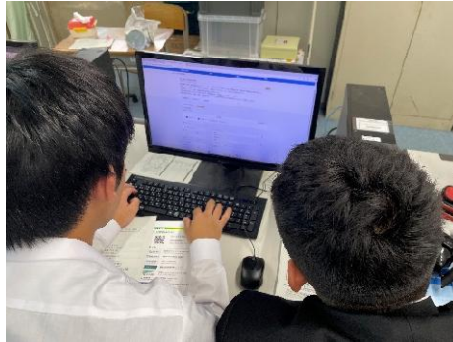
本校では本事業を通じて、パテコン・デザインパテコンでの成果は飛躍的に向上し、4年間の取り組みで、単なるアイデアから「知的財産として評価される作品」へと進化する方法を学べたと考えている。特に、試作・検証を重視したプロセスや、特許情報検索の活用が成果に直結した。今後は、生徒の知財教育の体系化、企業連携による実用化の推進を目指すことで、さらに価値ある取り組みに発展できると期待です。



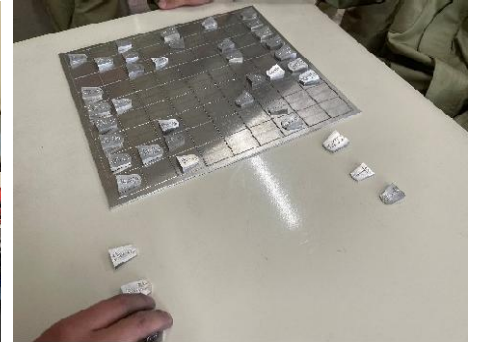
パテコン・デザインパテコン応募に向けて



(写真1) 三重県産業支援センター
の出前授業 (1)



(写真2) 三重県産業支援センター
の出前授業 (2)



(写真3) 製作した課題
課題研究・アルミ将棋駒



(写真4) 製作課題の発表
名古屋びりィション (1)



(写真5) 製作課題の発表
名古屋びりィション (2)



(写真6) 製作した課題
機械研究部・アルミ連射輪ゴム銃

特記すべき取組と成果：機械研究部の課題製作について

知的財産権を意識した課題の製作

私たち三重県立津工業高校では、ゼロハンカー（50ccエンジン搭載のバギーカー）競技およびKV-40（単三乾電池40本を動力としたEVカー）競技の参加を続けながら常に新しい課題製作に励んでいます。これまでの製作物は自作実働2ストロークエンジン、自作実働ロータリーエンジン、ナンバー取得済の軽カーゴトラー、削り出しミニカーなど多岐に渡ります。いずれもイベント等に展示、工業高校の魅力発信に努めています。

今年度より本事業に参加し、従来あまり重要視していなかった知財力の視点からモノづくりに挑戦ができました。また、新たにJ-PlatPatの活用方法を身に付けることもできました。今年度の製作課題は連射輪ゴム鉄砲でしたが、構造や技術的な面だけでなく、“他者の知的財産を侵害していないか”、“発表資料に配慮が足りない点はないか”などより製品開発に近いモノづくりが実現できました。

次年度以降も多様な活動を通して将来のモノづくりを担う人材育成に励みます。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 09	学校名	大阪府立東淀工業高等学校	担当教員名	福武 貴里子
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産制度の意義についての学習	全 1 学年	(1) (3) (6) (7)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	企業技術者による講演会	全 2 学年	(1) (2) (6) (11)		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	弁理士による校内セミナー	全 3 年生	(2) (7) (9) (11)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	特許申請や商標登録を視野に入れた試作品の製作	有志生徒	(1) (3) (7)		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	知的財産管理技能検定の受検	有志生徒	(8) (12) (13)		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	CUBIS を使用しての知財学習	有志生徒	(5) (7) (9)	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	教員の知的財産に関わる各種研修会への参加	教員	(4) (13)		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫					<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	初年度ではあるが各セミナーにおいて知的財産についての知識が深まったと回答している生徒が各学年8割以上であった。またセミナーを通じて知的財産に興味を持った生徒がビジネスアイデアコンテストに参加した。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<p>1 年生では知的財産に関する理解が深まった（5段階評価）と回答した生徒が「3～5」が 94%であった。自由記述でも「自分のアイデアやデザインが権利で守られることの重要性に気づいた」、「自分の発想力・考える力に気づいた、難しかったが発想する体験ができた」との回答があり、ほとんどの生徒が興味・関心を示す結果となった。</p> <p>2 年生ではセミナー受講前のアンケートで「新しいアイデアを出すことに自信がありますか」の質問に対し「全くない・あまりない」と回答した生徒が 81%であったが、セミナー受講後アンケートでは「アイデアを出す自信がついた・少し自信がついた」と回答した生徒が 51%とセミナー受講によってアイデアを出す自信のついた生徒が増加した。</p> <p>3 年生ではアンケートの「知的財産制度の意義や役割」は「よく理解できた」「だいたい理解できた」が 97%、「発明や発見のプロセスについての理解」は「よく理解できた」「だいたい理解できた」が 96%であった。自由記述でも「自分で考えてデザインする時間が面白かった」、「新しい発想を世の中に出せるのが良いと感じた」など、ほとんどの生徒が創造活動を肯定的に捉えている。また、教員研修により知的財産管理技能検定 3 級を 2 名合格している。</p>				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②企業技術者による講演会				
成果内容	講義では、身近な事例を挙げながら分かりやすく知的財産について学習できた。また、自作教材のカードゲームを用いたワークショップでは、新規性や進歩性を考えながら技術開発の疑似体験を行い、商品や社会とのつながりの理解を深めた。				
生徒・学生に見られた変化	セミナー受講前アンケートで「新しいアイデアを出すことに自信がありますか」の質問に対し「全くない・あまりない」と回答した生徒が 81%であったが、セミナー受講後アンケートでは「アイデアを出す自信がついた・少し自信がついた」と回答した生徒が 51%とセミナー受講によってアイデアを出すことに自信のついた生徒が増加した。				
その根拠	かるたのようなカードゲーム方式の教材の考案・作成をしていただき、生徒が楽しんで知的財産について学習することができたから				
課題・反省点	各セミナーでの学習内容が多く、1回のセミナーでは説明が駆け足になり生徒の理解度を確認しながら進めることができなかった。				
今後の展望	長期的に複数回に分けてセミナー開催することにより生徒の理解度をさらに深めていきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1)

1年生セミナーの様子



(写真2)

2年生セミナーの様子



(写真3)

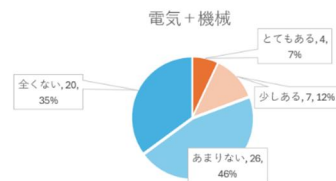
3年生セミナーの様子

あなたは「新しいアイデアを出す」ことに自信がありますか？

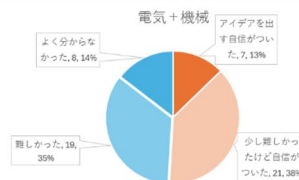


(写真4)

山口大学知的財産センター



2. チームで「技術」と「課題」を組み合わせてアイデアを出す自信ができましたか？



(写真5)

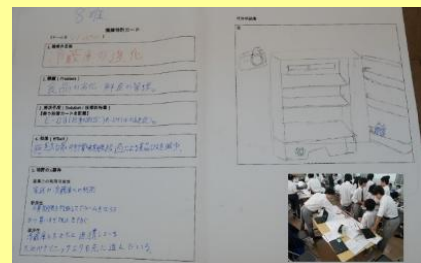
セミナー受講前後アンケート

全学年を対象とした工業高校の知財学習

本校では、1～3年生の全学年を対象に、系統的な知財教育プログラムを年間通じて実施した。1年生には知的財産制度の基礎と意義を学ぶ授業、2年生には企業技術者による講演とカードゲーム型ワークショップを通じた創造体験、3年生には弁理士によるセミナーによる制度理解と発明プロセスの学習を行い、学年進行に応じて学びを深めた。



(写真8) CUBISを用いた学習



(写真7) 2年生セミナー発表資料

さらに、有志生徒による特許・商標を視野に入れた試作品制作や知的財産管理技能検定への挑戦、CUBISを用いた学習を展開し、教員研修も並行して実施することで、生徒と教員が一体となって知財リテラシー向上に取り組んでいた。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 外部講師による講義「知的財産入門」



(写真2) パソコンを見据えての作品制作



(写真3) 大阪府立東淀工業高等学校との交流授業



(写真4) 課題研究での幼稚園へ提供する教具制作例

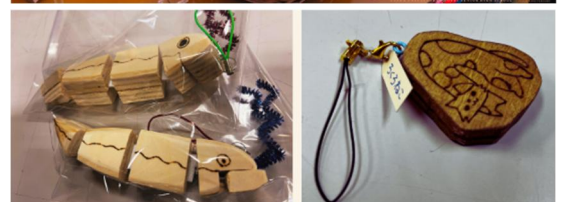


(写真5) 関西・大阪万博への参加

(特記すべき取組と成果) AKINDO SPARKLE 株式会社商品制作の取組について

AKINDO SPARKLE 株式会社

AKINDO SPARKLE 株式会社は、大阪府立高校4校の高校生による全国初の合同株式会社である。府立淀商業高校開催の今年度の「淀翔モール」では、オリジナルの手作り雑貨の企画・制作を行った。生徒は自らのデザインが商品として世に出る喜びを体験し、購入されたことで大きな達成感と自信を得た。一方で、制作工程・時間に対する価格設定の「採算性」の確保は難しく、ビジネスとして成立させることの厳しさを認識する結果となった。今後は知財学習を糧に「権利を保護し、経済的価値に変換できる」次世代クリエイターの育成をめざしていく。



<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 弁理士の講演会



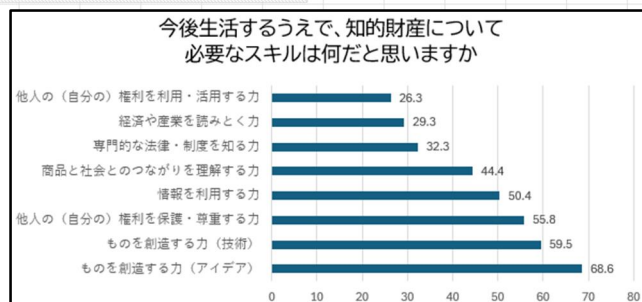
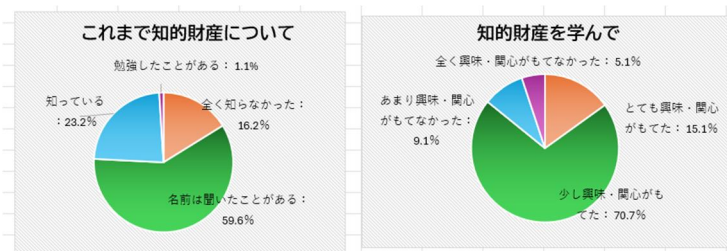
(写真2) 教員研修



(写真3) 大学教授の講演会



(写真4) 大学 LAB の見学



(表1) アンケート結果

製作実習の取組について

3D プリンタを活用した知的財産教育の実践事例

総合的な探究の時間において、2年生全員がミニ四駆のオリジナルパーツ製作に取り組んだ。

まず、グループワークでどのようなものを作りたいかアイデア出しを行った。「オリジナルホイール」「パーツを量産する型」「カメラを取り付ける」など想像以上に様々なアイデアがでてきた。

次に、3DCAD を用いて作りたいものを

設計し、そのデータを3Dプリンタで造形していく。(写真5)

今後、各工程で知的財産についての考察を

行い、完成したもので試走会を行う。



(写真5) 3D プリンタを用いたパーツ製作取組の様子

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

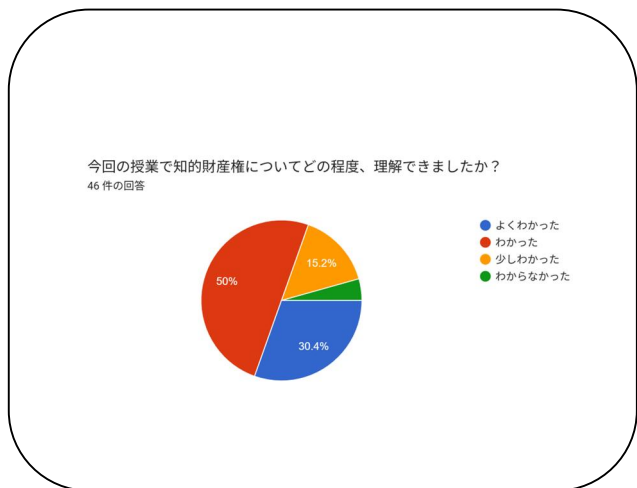
<写真・図表等掲載欄>



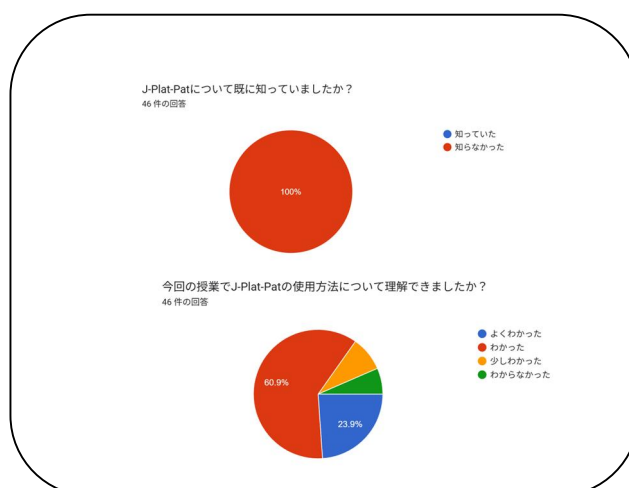
(写真1) 知財教育活動風景



(写真2) 特許検索画面



(グラフ1) 知財学習の授業アンケート



(グラフ2) J-PlatPat 活用のアンケート

J-PlatPat の活用方法

本校では全科（4科）の1年生を対象に J-PlatPat の簡単な活用ができるように授業を行ってきました。現在では、本校の全生徒が経験したことになり、アンケート結果も例年、概ね良好です。

また、例年、機械制御科の2年生は夏休みの課題としてデザインパテントコンテストに応募しており、その際に J-PlatPat を活用しています。1年時に経験しているため、スムーズに検索することができ、ある程度定着している様子が見て取れます。

今後は他の科や授業でも関連付けて取り入れられるように様々な方とも協力して進めたいと思っています。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 13	学校名	山口県立徳山商工高等学校	担当教員名	松田 祐輔
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		実施月	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産の基礎	6月以降	4,6,7,8,9,10,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	TRIZ の活用法	6月以降	1,2,3,4,8,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	地域・学校に必要なものづくり（課題研究）	4月以降	1,2,3,4,5,9		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	地域産業の研究・企業連携（課題研究）	4月以降	1,2,3,4,5,8		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	ものづくりと関連付けた知財学習（課研）	4月以降	1,2,3,4,5,8		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	J-PlatPat の使い方	7月以降	2,3,4,6,7,8,9,10,11,12	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	知財創造実践甲子園事前講習会参加	6月	1,2,3,5,6,7,8,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	ねりキャンによる創造実践とアイデアの言語化	10月	1,2,3,5,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	MakerFair 研修に参加	10月	1,2,3,4,5,6,8,10,11		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	パテントコンテスト参加	9月	1,2,3,4,5,6,7,9,10,11,12	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪	知財文庫の設置	9月以降	2,5,6,7,9,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫	外部講師講演会（マツダ株式会社様）	12月	1,2,3,5,6,7,10,11	知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬	チームで創作（プレスト）【予定】	2月	1,2,3,7		<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	ほぼ達成（9割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知財に関する知識レベルと知財は日本にとって必要であるかのアンケートを実施した結果、学習前後で意識が大幅に変化した。（下記参照）		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<p>機械科 1・2 年生 70 名を対象に、知的財産権の基礎および J-PlatPat の使用方法、さらにパテントコンテスト書類の作成方法について指導を行った。夏休みの課題としてデザインパテコンの応募資料作成に取り組ませた。生徒はアイデアを考案した段階で担当教員との個別面談を行い、アイデアのブラッシュアップや新規性の確認、提出書類の簡易チェックを受けた。その後、Word を用いて正式な応募書類を作成し、知財リーダー研修を受講している 3 年生が内容の適切性や新規性の有無について再度確認を行った。</p> <p>最終的に、1 年生 14 作品、2 年生 10 作品をコンテストに応募し、2 年生の 3 作品が一次審査を通過した。</p>				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑩デザインパテントコンテスト参加				
成果内容	<p>参加したほとんどの生徒が、J-PlatPat で検索ができるようになった。書類作成の体験をすることができた。3 年生の強化型指導を行った生徒は、1・2 年生の書類の点検を行うことができた。意匠権について理解を深めることができた。</p>				
生徒・学生に見られた変化	<p>夏休みの課題とすることで、納期を意識して提出できる責任感を身につけた。書類提出の際ディスカッションをして表現の仕方やアイデアをブラッシュアップすることができた。自らのアイデアを「なんとなく」ではなく、言葉で表現できるようになった。</p>				
その根拠	<p>デザインパテントコンテストへの出品数は昨年よりも少なく 24 作品（昨年は 27 作品）となったが 1 次通過作品が増加した。アンケートの結果、意匠権、J-PlatPat の知識のレベルが特に上がっている。1 年生の意匠権については、0.14 点から 2.12 点。J-PlatPat については、0.08 点から 2.80 点に上昇。</p>				
課題・反省点	<p>アンケートでは知識レベルも知財に対する意識も上昇しているが、実際にものづくりをした際、多くの生徒が早い段階で考えることをやめ、すでにあるものを模倣してしまうことが⑧ねりキャンを用いた学習の際に分かった。</p>				
今後の展望	<p>ブレインストーミングや TRIZ を丁寧に行うこと。教室内パテコン（5 分でアイデアを作り、3 人組で説明、助言）等で創造や言語化の訓練を行う。簡単なものづくりの回数を増やす。知財を意識したものづくりであることをこまめに伝える。</p>				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>

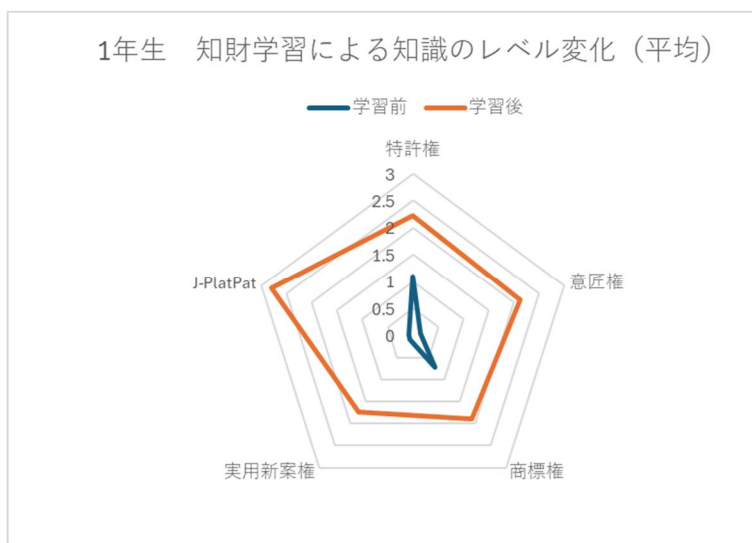


図1 知財学習による知識のレベル変化 (1年生)

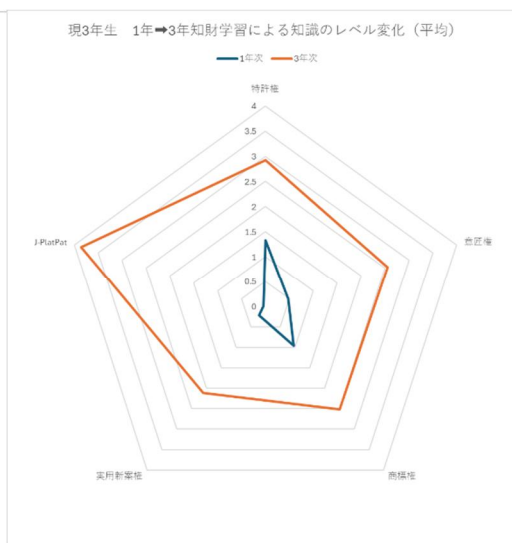


図2 知財学習による知識レベルの変化 (3年間)

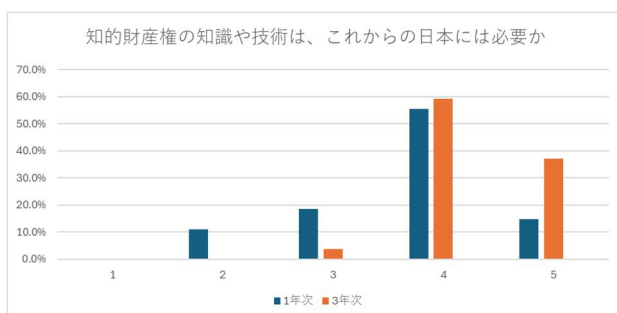


図3 知財の知識や技術は日本に必要か (3年間の変化)

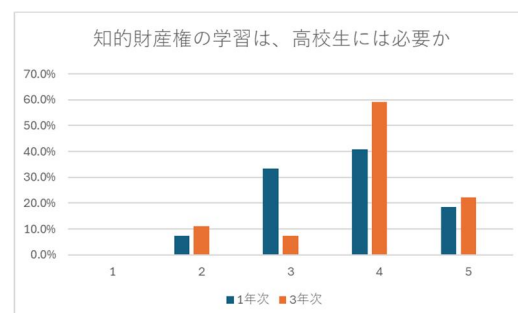


図4 知財学習は高校生に必要か (3年間の変化)

ねりキャン学習で得られた気づき

INPIT 夏の研究会において「ねりキャン」を用いた知財学習を体験した教員が、その学びを持ち帰り、本校3年生を対象に2回に分けて授業を実施した。1回目は、ねりキャンを用いた創作活動とその作品の撮影を行い、2回目では撮影した作品を基に口頭説明を行わせた。本活動は、①創造力・表現力の育成、②情報の言語化力の強化、の2点を目的として位置付けた。

3年生はこれまで2年間にわたり知財学習に取り組んできており、知的財産への意識やアイデア創出の基礎を学んでいる。しかし、実際に15分間でモデル製作を行わせたところ、多くの生徒が独創的な発想を出し切れず、パッケージの作例や既存のものを模倣する形にとどまった。また、作品説明においても、短い言葉で効果的に伝えることが難しく、聞き手が作品を十分に想像できないケースが多かった。

これまで本校では、知財教育を「創造力の育成」「知財への意識・知識の習得」などを基盤に、実践に役立つ能力として指導してきた。しかし今回の取り組みを通して、生徒にとっては他教科同様、表面的で一時的な知識に留まっていた可能性があることに気付かされた。結果としては課題が多かったものの、従来の指導方法を見直す必要性を明確に認識できた点は大きな成果であった。

今後は、生徒が自分の考えを深め、その根拠を問い直す機会をより多く設けるなど、「考え続ける力」を育む学習設計が求められる。なお、すべての生徒が模倣的な作品に終始したわけではなく、日頃から自分の意見を表現できる生徒や好きな分野をもつ生徒は、オリジナリティのある作品を製作し、堂々と説明する姿が見られた。

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 14	学校名	香川県立多度津高等学校	担当教員名	吉本剛志
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産基礎と発想力を鍛える（紙で高いタワーを創り発想力を高める訓練）	7	(4)(6)(10)(12)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	競技用ロボットや小型船舶等製作とその技術を活用した便利器具の考案	6、9、10、11、12	(1)(2)(3)(4)(5)(12)		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	企業講師による銅材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創造セミナー（創造作品製作）	6	(1)(2)(4)(7)(11)(12)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	問題発見・改善シート活用による地域貢献できる装置・器具の発想（アイデア作品の開発）	9、10、11	(1)(3)(7)(10)		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成（探究と知財の関係）	12	(1)(2)(3)(4)(7)		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由	校内に知的財産推進委員会を設置し、各教科の担当教員による知財に関する特別授業を実施。これによって、知財に関心を持つ生徒の割合が 41%から 71%に（図 1、図 2）向上した。デザインパテントコンテストやパテントコンテストの応募に向けて、J-Plat-Pat による先行文献調査や出願関係書類の作成機会が増加し、知財に対する興味関心が向上した。		
取組の状況	独自に作成した知財資料を活用して、産業財産権制度の学習や競技用ロボットや小型船舶等製作とその技術を活用した便利器具の考案で実施した。デザインパテントコンテストに 1 件、パテントコンテストに 1 件応募し、優秀賞を 1 件受賞した。問題発見・改善シート活用による地域貢献できる装置・器具の発想を実施し、様々な学習をした。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②競技用ロボットや小型船舶等製作とその技術を活用した便利器具の考案				
成果内容	ロボットや船舶、知財に関する知識や技能習得への興味や関心が強まり、その中で、時間短縮や品質向上、安全作業について学ぶことができ、アイデアを発想して便利な器具などを生徒自ら製作できるようになった。				
生徒・学生に見られた変化	デザインパテントコンテストやパテントコンテストの応募に向けて、J-Plat-Pat を用いた検索をすることで、既存の権利との関係を確認することができるようになった。ものづくりへの意識と興味が向上し、将来ものづくりをして社会で販売するときの知財との関連性を理解できるようになった。				
その根拠	デザインパテントコンテストやパテントコンテストの応募に向けて生徒が積極的に行動し、旋盤や溶接、フライス盤、図面の見方、組み立て方法などを習得しようとして、講師の先生の技をじっくり観察したり、友達同士で技術や技能、知財について教え合おうとする態度を育成できた。				
課題・反省点	知財に関する授業時間が十分に確保できなかったため、知財学習の内容が創造の領域にとどまることが多くなってしまい、知的財産の保護、活用領域については、触れる機会が多くとれなかった。				
今後の展望	一部の教員のみならず、大勢の教職員による知財学習に関する取り組みを実施する機会を設けたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>

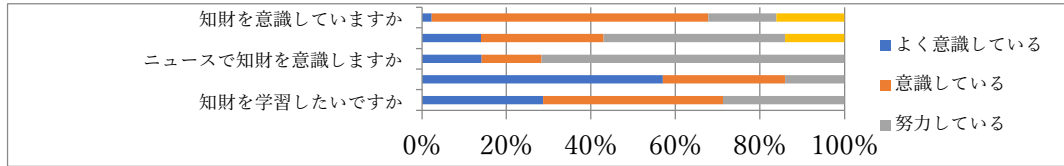


図1 「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成について授業前アンケート結果

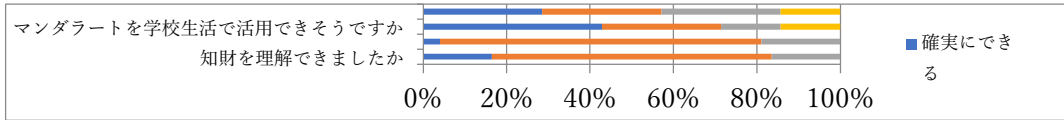


図2 「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成について授業後アンケート結果



写真1 J-Plat-Pat を用いた検索実習



写真2 船舶模型1号機の試作



写真3 海洋ごみ回収船1号機の試験



写真4 四国地区高校生溶接技術競技会出場



写真5 被覆アーク個人優勝



写真6 ものづくりコンテスト全国大会作品(表から)



写真7 作品 (裏から)



写真8 ものづくりコンテスト全国大会 第8位

②競技用ロボットや小型船舶等製作とその技術を活用した便利器具の考案を行った成果



写真9 海浜環境の調査



写真10 海洋ごみ回収船2号機の試作



写真11 製作風景



写真12 装置の試運転



写真13 制御装置



写真14 海洋ごみ回収船2号機の実験

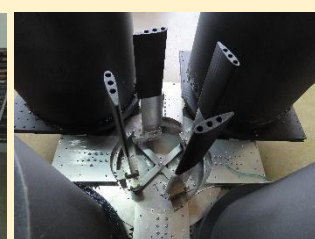


写真15 パテントコンテストへ応募し入賞

(海洋ごみ回収船1号機)

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 15	学校名	開新高等学校	担当教員名	竹下 裕基
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産権についての理解を図る	機械科 1 年・工業技術基礎	2,6,7,9,12,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	マシニングセンタの基礎知識	機械科 3 年・課題研究（選択者）	1,3,5		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	アーム付タイヤ型ロボットの制作	機械科 3 年・課題研究（選択者）	1,3,5,		<input type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	校内の傘かけ製作	機械科 3 年・課題研究（選択者）	1,3,4,5,		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・外部講師による技術指導で、樹脂に文字をエンドミル工具にて切削することができた。 ・3D-CAD でロボット部品のモデリングにおいて、7割の生徒が時間内に課題を達成できた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・機械科 1 年生(74 名)対象の工場見学・知的財産に関する講義を実施。 ・外部講師による出張授業を 5 回実施。担当教師も実習に参加する形で指導力向上ができた。 ・3D-CAD でモデリングし、3D プリンタで出力したロボット部品を用いて組み立てたロボットをオープンスクールや出前授業で展示。 ・校内の体制整備として知財推進委員会（メンバー7名）を組織した。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	② マシニングセンタの基礎知識				
成果内容	・企業の方が来校されての実習だったので、特に安全第一で作業に取り組む大事さを学び、徹底して作業中の怪我等がないよう取り組めた。 ・企業の製造現場でも時間をかけて確認作業を行っていることを学び、企業の創作物は法律で守られていることを工場見学により理解できた。 ・マシニングセンタに関する知識を深めるにつれて、正確にプログラミングすることの重要性を実感し、製品 1 つ 1 つに対する取り組み方に変化が見られた。				
生徒・学生に見られた変化	・ものづくりの楽しさを実感できた。また、1 つの製品が出来上がるまでに、いくつもの工程を踏むことの大変さを経験できた。 ・生徒間で教え合いながら作業を進めることができ、協力することの大切さの意識が高まった。 ・企業の方が来校して教えていただくことで、現場の技術力の高さを実感できた。				
その根拠	・レポートを ・全員で 1 枚の樹脂材にそれぞれ座標値をずらして文字を切削した際に、達成感を味わった生徒が多かった。				
課題・反省点	・外部講師の技術指導の時間が少なかったことで、作品に関する知財教育まで結びつけることが出来なかった。 ・知財推進委員を設置したが、教員の知財に関する知識が不十分で、指導不足を痛感した。 ・外部講師の企業へ、高校生ならではのアイデアを提供し、製品づくりへの貢献ができなかった。				
今後の展望	・知財推進委員への研修機会を設け、知財学習の礎を築きたい。 ・企業と協力して、高校生ならではのアイデア・デザイン等を採用してもらえるような製品づくりに力をいれたい。 ・課題研究での作品で地域貢献できるような計画を立てていきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

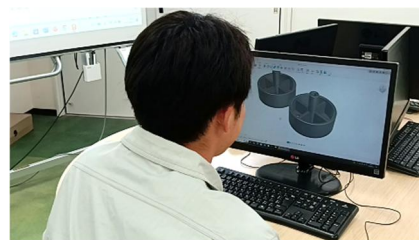
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 出前授業の風景



(写真2) 傘立ての改良風景



(写真3) モデリングの様子



(写真4) 知財講話の風景



(写真5) 3Dプリンタによるロボット部品の製作

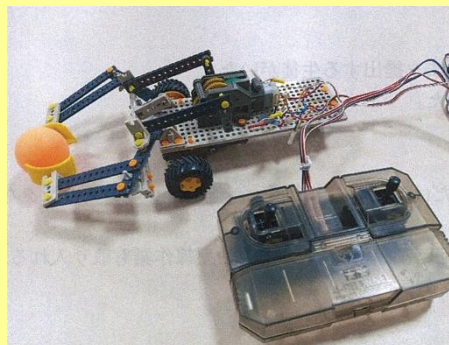
(例：特記すべき取組と成果) ○○○○○○○○○○の取組について

アーム付きタイヤ型ロボットの製作

開新高等学校機械科では、「幅広い分野で活躍できる人材の育成」を目標に、ものづくりの楽しさを体験し、実習・工場見学などを通して知識・技術を学びます。そして将来は、高校で学んだことを活かして、社会貢献できる技術者の育成に取り組んでいます。

知財や安全について学習し、技術を磨き、3年次の課題研究ではテーマごとにデザインやアイデアを出し合って、作品完成に向けて取り組んでいます。

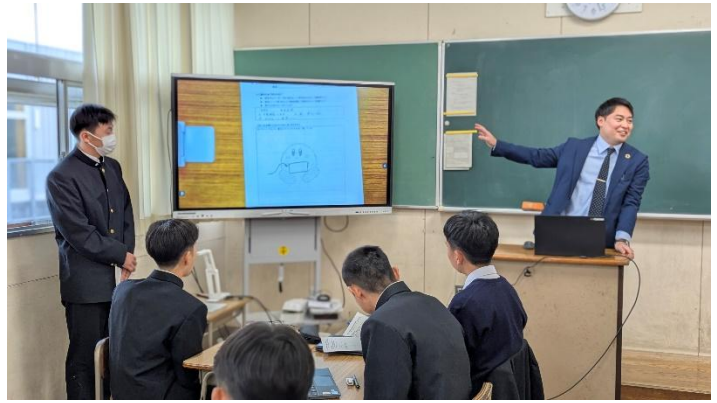
写真は今年度の課題研究のロボット製作班の完成写真です。3Dプリンタで出力した部品を用いて組み立てています。この作品は体験入学や出前授業でも好評で、さらに改良を加えていく予定です。



ロボットの完成写真 (R7年度版)



(写真1) ③大阪工業大学大学院村川教授による書類作成について説明する様子



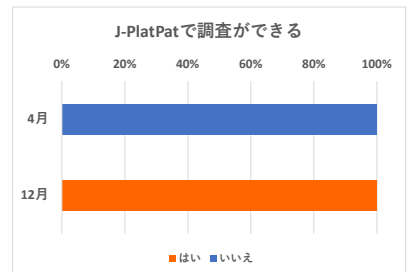
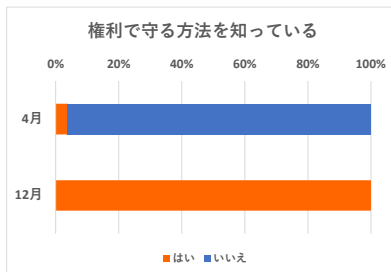
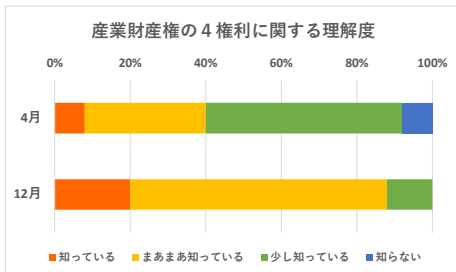
(写真2) ①(株)アラオの荒尾氏によるスマホスタンド設計書に対する指導助言の様子



(写真3) ④(株)フィールドワークスの古家氏による商標について説明する様子



(写真4) ⑤熊本農業高校の吉永指導教諭による身近な話題についてペアで協議を促している様子



(グラフ1) 成果 (導入対象生徒の指導前後の比較)

創造的思考の社会実装と“価値の最大化”の実践

情報システム科では、パテントコンテストへの応募指導を核に、J-PlatPatを用いた先行技術調査やSCAMPER法による発想支援手法を導入しました。このプロセスを体現したのが、ロボットアイデア甲子園において熊本県代表として全国大会進出を果たした「トルコアイスロボット」の提案です。

特許出願の「実施形態の説明」を意識した指導により、ロボットの力制御やセンサーによる安全確保を論理的に説明する力が養われ、審査員から「Sler的な論理的フロー」として高く評価されました。

単なるコンテスト入賞を目指すのではなく、「自らのアイデアに価値を見出し、それを社会に提案する」という知財の視点は、生徒の当事者意識を劇的に変容させました。この成功事例は、建築科によるパテントデザインコンテストへの初挑戦など、他学科へも「知財ミックス」の重要性を波及させる大きな契機となりました。



ロボットアイデア甲子園県大会での表彰の様子

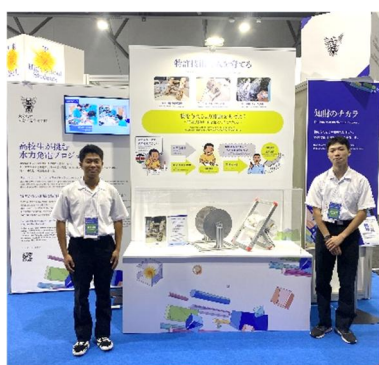
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 講評を受ける生徒 (6月万博)



(写真2) 準グランプリ受賞の様子 (6月万博)



(写真3) ブースにて (10月万博)



(写真4) 発表会場 (10月万博)



(写真5) 来場者へ説明 (10月万博)

DAIKO 水車プロジェクトにおける研究成果の社会発信と知財活用

DAIKO 水車プロジェクトでは、ハイブリッド発電装置の研究を継続的に行い、設計・試作・改良を重ねながら、研究成果の社会的価値を高める取組を進めてきた。これらの研究活動で得られた成果を基に、各種大会や公的機関において発表・実演を行い、研究成果を社会に向けて発信する取組を本年度の重点事項として位置付けた。

6月には、「にっぽんの宝物」主催ジュニアグランプリに参加し、これまでの研究成果とその有用性を発表した結果、準グランプリを獲得することができた。この経験を通して、生徒は研究成果が第三者から評価される意義を実感するとともに、技術を分かりやすく伝える力の重要性を学んだ。

さらに10月には、水車に関する特許取得を経て、特許庁より「知財のチカラ」をテーマとした講演・実演の依頼を受け、研究成果と知的財産の考え方を結び付けた発表を行った。これにより、生徒は自らの技術が知的財産として社会に活用される可能性を実体験的に理解し、技術を守り、活かす意識を高めることができた。

これらの一連の取組を通して、研究活動、成果発信、知財活用を結び付けた実践的な学びを実現し、工業高校における探究的な学習の深化につなげることができた。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 18	学校名	大分県立鶴崎工業高等学校	担当教員名	林田大誠
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産についての学習	機械科 3 年課題研究	1.2.6.12.	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	農作物栽培	機械科 3 年課題研究	1.2.4		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	校内講演会	機械科 1.2 年生	10.11.12.13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	無人販売所作成(移動式)	機械科 3 年課題研究	1.3.5		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	盗難防止装置作成	機械科 3 年課題研究	1.3.5		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	無人販売	機械科 3 年課題研究	6.9	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	課題研究発表会	機械科全体	2.3		<input type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成 (7 割以上)	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・知財に関わってこなかった生徒達に、講演会や授業で知財に触れる機会を増やした。知的財産に興味がある・少しあると答えた生徒が 56%。 ・知財について学んだことで主体的に考え行動できる力が身に付いた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・初めに知的財産について学習しており、J-PlatPat や AI の活用等も学習し自分たちで考えたり調べたりできるようになった。その中で、無人販売所で人や動物による金品の盗難が発生している現状を知り、低コスト購入でき電気などエネルギーを必要としない盗難防止装置を作ることになった。ガチャガチャの機構を元に試作機を作成(写真 4)。特許申請を目指して試行錯誤中。 ・校内講演会では、山口大学の陳内准教授が機械科 1.2 年生約 160 名に知的財産について講義を行った。生徒の興味関心が向上しグラフ 1 にあるように 56%が知的財産に肯定的な意見であった。知的財産についての学習は、1.2 年生は今回の講義が初めてであったので半分以上が肯定的であったのは本校において知財活動における大きな一歩になったと思われる。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	5				
成果内容	・ J-PlatPat による特許検索が行えるようになった。 ・ ガチャガチャの機構から試作機を作成した ・ マシニングセンターの使い方を学び加工方法が分かった。				
生徒・学生に見られた変化	・ 自分たちで考え行動し J-PlatPat や AI の力を借りながら作成に向けチャレンジした。 ・ マシニングセンターを使えるようになった。				
その根拠	・ J-PlatPat による特許検索が行えるようになり自分たちで今までにないものを作り出そうとしていた。 ・ ガチャガチャの機構から試作機を作成し AI の力を借りながら試行錯誤していた。 ・ マシニングセンターの使い方を学び材質によっては加工方法を変えたり、材質を変えたりし作成に向けチャレンジした。				
課題・反省点	・ 初めの導入時に生徒達に知的財産とは何かについてしっかり説明をしておけばスムーズに活動ができたのではないかと感じた。 ・ マシニングセンターで廃材を加工した際に、加工がうまくいかず進捗が遅れた。				
今後の展望	・ 今後は学校内で知的財産についての授業や講演会を増やし、教員向けの研修会も行いたい。 ・ 来年度は大学や企業と連携し生徒が社会や地域とつながりが持てるような活動を展開していきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



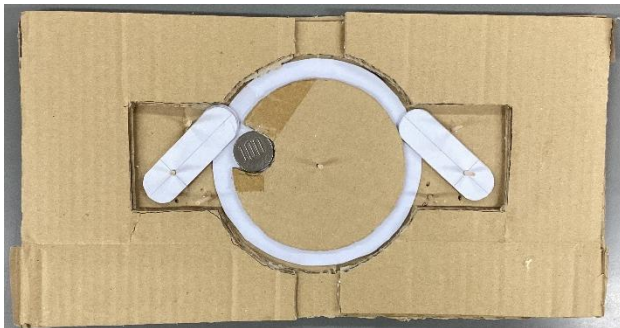
(写真1) ②農作物栽培



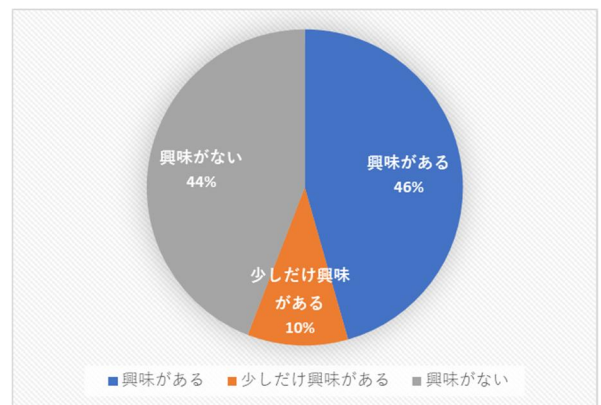
(写真2) ④無人販売所の作成



(写真3) ⑥無人販売



(写真4) 盗難防止装置 試作器



(グラフ1) 知的財産について興味の有無アンケート

佐賀関火災 復興の手助けに

令和7年11月18日夕方時に大分県大分市佐賀関で10日間にわたり約180棟が全焼の大規模火災が発生。大分県立鶴崎工業高等学校から20kmしか離れていない場所でのことであった。翌日、生徒達も登校時に動揺を隠しきれていなかった。

そんな中、課題研究中にある生徒が「佐賀関が大変やけど俺らにできる事ってあるかな」と発言し他の班員も一緒に考えだした。どこかフワッとしていた課題研究班であったが、この時は真剣に物事を捉えどうにか助けになることがしたいと考えていた。そこで、本校の「JRC」というボランティアを行っている部活と協力し課題研究の無人販売で得たお金を募金することになった。

今年度は初めて知財を取り入れた課題研究を行ったが、生徒が自分で考え J-PlatPat や AI の力を借りながら成長する姿が見られ効果があったと感じた。最後に、自分たちが続けてきたことがボランティアによって誰かの役に立ったことに生徒達は誇らしそうであった。



(写真5) JRC 部へ募金 募金されたお金は佐賀関へ



(写真6) 佐賀関へエールを送る生徒

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 19	学校名	大分県立中津東高等学校	担当教員名	日隈 一朋
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（アイデア発見、創造性の育成）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	課題の設定	生産システム・機械科3年課題研究	4	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	アイデア出し	生産システム・機械科3年課題研究	1.2.3		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	試作品の製作	生産システム・機械科3年課題研究	3.4.5		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	部品の改良	生産システム・機械科3年課題研究	4.5.7		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	部品の製作	生産システム・機械科3年課題研究	4.5.7		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	大会への参加	生産システム3年課題研究	6.7.8	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	まとめ	生産システム・機械科3年課題研究	1.2.3.4.5.6.7.8		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	事前学習	生産システム科2年座学4コマ	1.2.3.4.5.6.7.8		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	TRIZを用いてのアイデア発想	生産システム科2年実習3コマ	1.2.3.4.5.6.7.8	活用	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	外部講師招聘	教員 生産システム科108名	11.13		<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫					<input type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	校内授業アンケート自分の考えを表現、発表することができた」4段階中4「とてもそう思う」62.2%、3「そう思う」32.7%		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<p>製品の不具合箇所、改善箇所を考え改良を実施。</p> <p>実験により考察・研究。発生する事象と理論のズレの理由を考え原因の追究。</p> <p>地域社会が抱える問題や状況を理解し工業高校生として解決できる方策を模索する。</p> <p>地元こども園との連携。困りごと解決アイデア創造の尊さを実感し、実生活の中でいかに活用されているかを考えるため、イメージの具現化を行うきっかけをつくる。（課題研究 活動報告会を1/26に実施）</p> <p>最新の産業技術に触れる事で自身の進路意識を確立する。外部講師招聘4件、外部教育機関との連携行事2回</p> <p>「知的財産教育研究会 in 九州」の開催令和6年12月22日</p>				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑩外部講師招聘				
成果内容	先輩を招いての講演会や自動車会社主催で講師招聘を行った。内容を活かしながら座学（学校設定科目）や実習の1ショップを活用し発想を行うよう促した。				
生徒・学生に見られた変化	主体的に考える姿がみられた。班活動を行う際も積極的に活動していた。また単に答えを求めめるのではなく、話し合いの場面から適切な解答を導き出そうとする姿が見られるようになった。				
その根拠	校内授業アンケート自分の考えを表現、発表することができた」4段階中4「とてもそう思う」62.2%（昨年度53.4%）				
課題・反省点	教材のブラッシュアップ。				
今後の展望	知財教育を行うと身構えるのではなく、日ごろの教育の中に知財教育が見え隠れするような体制の確立				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

完成図



橋を考える (地域産業技術)

△ 土台 1000円×2
□ 板 500円×3

合計 3500 円

・工夫点
なるべく橋と車が平行になるよう設計した。
土台を三角にするのではなく四角にすることで支える面積が増え、より強度が増した。

・乗った車の数 2



TRIZによる発明原理 (実習)



廃油再生プロジェクト (からエネ)



地域の困りごとと解決 (課題研究)



外部講師による出前講座

知的財産教育研究会 in 九州

本研究会は、九州各校の実践共有や悩み、困りごとの共有が
でき有意義な時間を過ごす事が出来ました。
また、山口大学の太島先生の講義には「NotebookLM」の
活用方法について実践的な内容を紹介して頂きました。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	工 20	学校名	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	担当教員名	小 菌 真 介
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	工業技術基礎	4～10月	(1), (2), (6), (7), (12)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	知的財産教育出前授業（写真1）	10月	(1), (3), (4)		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	知的財産教育講演会（写真2）	10月	(6), (7), (8), (11), (12), (13)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	課題研究での取り組み（写真3）	4～1月	(1), (2), (3), (4), (7)		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	パテントコンテストへの挑戦（写真4）	8～9月	(1), (2), (3), (4), (5), (7)		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	技術アイデアコンテストへの応募（写真5）	9～12月	(1), (2), (3), (4), (5), (7)	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	ロボット競技大会へ参加（写真6）	4～11月	(1), (3), (4)		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	ほぼ達成（9割以上）		その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> 各コンテストや競技大会において、上位入賞を果たし、創造性・主体性・表現力等の能力育成が行えた。 生徒の感想文、アンケートより、知的財産についての理解度では93パーセントの生徒が、とてもわかりやすかった、だいたい分かったと回答。 	
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> 工業技術基礎で、J-PlatPatを用いて先行技術調査を行った。 企業から知財担当者や研究開発者を招聘して知的財産教育講演会を開催。身近に存在する特許、意匠、商標について、その重要性について理解することができた。 発明体験ワークショップに参加し、パテントコンテストには5件応募できた。 全国高等学校ロボット競技大会に参加しアイデア賞を受賞することができた。 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	企業と連携した知財学習「②知的財産教育出前授業、③知的財産教育講演会」				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> 東罐興業株式会社様では生活に欠かせない食品用紙製容器を題材に知財学習を行った。1人に1つずつ容器が配られ、リバースエンジニアリングを用いてグループワークを行った。 株式会社明治様の商品（菓子、飲料、プロテイン等）を例に、身近なものには人々の知恵や工夫（知的な財産）がたくさんつまっていることや、企業では生み出した知的財産は、知的財産権で守っているということを学習した。 				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものにも、人々の知恵や工夫（知的な財産）がたくさんつまっていることや、企業では、生み出した知的な財産は、特許権や商標権といった知的財産権で守っていることを学ぶことができた。 				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の感想文、アンケートより、上記の感想が多数みられた。 知的財産（特許・意匠・商標）についての理解度では339人中93パーセントの316人が、とてもわかりやすかった、だいたい分かったと回答。身の回りにはもちろんのこと、目に見えない部分にも沢山の権利があることを知ることができた。 				
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> よりよい授業になるように、Zoom等を利用し企業側と打合せを重ね、生徒に分かりやすく効果的な授業展開を検討できた。 				
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産講演会を聴いた1年生は、2年次より専門性の高い学科（系）へ進級する。実習や課題研究を学習していく際に、知的財産の視点をもってものづくりに取り組んでほしい。 				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



写真1 知的財産教育出前授業
(東罐興業株式会社)



写真2 知的財産教育講演会
(株式会社明治)



写真3 課題研究での取り組み



写真4 発明体験ワークショップ
(8月：東京)



写真5 技術アイデアコンテストへの応募



写真6 ロボット競技全国大会
アイデア賞受賞
(10月：福島県郡山市)

2 知財学習協力企業との連携

INPIT より、今年度から提供された「知財学習協力企業リスト」を活用し、知的財産教育講演会を実施した。生徒たちが身近で一番興味関心がありそうなテーマ検討した結果、お菓子や飲料でお馴染みの「株式会社明治」に決定した。

研究本部知的財産部特許グループの村上里香様に御講演いただき、きのこの山や明治おいしい牛乳、SAVAS 等、生徒たちが日頃から親しみのある製品をテーマに「身近なものにも、人々の知恵や工夫（知的な財産）がたくさんつまっていること。」「企業では、生み出した知的な財産は、特許権や商標権といった知的財産権で守っているということ。」、逆に「本当に秘密にしたいノウハウは企業秘密として特許権をもらわない。」といったことを生徒たちは学ぶことができました。



写真7 講演会の様子



写真8 「きのこの山」
立体意匠について

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 「デザインの心構え」講義



(写真2) 「商標権とは」講義



(写真3) 「商標権の申請」講義



(写真4) ジグソー活動



(写真5) クライアントヘインタビュー



(写真6) 6次産業化商品

(生徒の感想一部抜粋)

- ①商標をとった先生からお話を聞くことができうちの学校でもできるかもしれない、とより現実的に感じる事ができました。手続きにはやるべきことが多かったり、審査が通るか通らないかなど時間がかかることを知りました。商標は将来的にも知ってた方が得だと思うのでこれからそういう場面になったら上手く活用していきたいです。
- ②自分たちはこれから大産商店のためにやれることは少ないけれども、これまで手伝ってきた経験を生かして、プレゼンすることはできるかなと感じました。大々的に活動することは後輩に任せて、自分たちはまず大産商店の名前の株を上げることに専念した方が良いと思いました。
- ③大産商店の強みや、作られた理由が学科が違っても一つの目的に向かって取り組むことができること、三学科連携ということを知りました。確かにうちの学校ならではだと思えます。新鮮な野菜などが安く買えることなど、より多くの人に知ってもらって親しみやすい事業になればいいなと思えます。

(特記すべき取組と成果)

「大産商店」の商標取得に向けて

本校は、令和5年4月に、旧宮城県大河原商業高校と旧宮城県柴田農林高校が再編統合し、宮城県南部地区職業教育拠点高として開校した高校である。開校から3年が経ち、農業科と商業科が共に、協働しながらこれまで学校を創ってきました。開校当初から、学科間連携の目玉である「大産商店」を開設し、農業科で育てた野菜や果樹、加工品等の販売してきた。商業科は、販売と企画を行い、特に商業科の企画デザイン科では、商品のパッケージデザインやネーミング、商品開発等を行ってきた。また、地域から期待の声も多くあり、少しずつではあるが、「大産商店」の屋号も広まりつつある。今後も学科間での連携、地域との関わりをこれまで以上に強固にするために今回、「大産商店」の商標を取得するため知財学習を進めてきた。今後は、「大産商店」のブランディング化を進めていき、地域、学校の発展に尽力していきたい。

令和 7 年度 実践事例報告書

0 学校番号	商 02	学校名	宮城県南三陸高等学校	担当教員名	小野 圭一
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	J-Plat Pat における献策について	4 月	(2)(7)(8)(9)(10)(12)	創造	<input type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	アイデア創出訓練（地域学）	4 月～	(1)(3)(4)(5)		<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	アイデア創出訓練（地域探究学）	4 月～	(1)(3)(4)(5)		<input type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	ものづくり（部活動）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	ものづくり（地域学）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	ものづくり（地域探究学）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)	保護	<input type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	地域の産業について（地域学）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	地域のイベントへの参加（部活動）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	イベントへの参加（地域探究学）	12・1 月	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	商品開発（地域探究学）	4 月～	(1)(2)(3)(6)(11)	活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪	成果発表会（地域学・地域探究学）	2 月	(1)(2)(3)(6)(11)		<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	様々な企業と連携し、授業へ参画していただきながら商品開発やイベントへの参加が実現できた。その結果、3 年「地域探究学」履修生徒を対象にした自己評価を実施したところ概ね達成できたと思う。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> 情報ビジネス科で企業と連携して商品開発を行い、実際にイベントで販売会を実施することができた。 学校設定科目「地域学」「地域探究学」で、地域の企業と連携した授業の取り組みを行い、20 回以上連携した授業を行うことができた。 商業部の活動として、町のイベントで販売するための商品開発を行った。 南三陸 F S C®親善大使に任命していただき、様々な企業や団体と連携することで生徒主体の学びを実現することができた。 				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑩商品開発				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業と連携した取り組みを実施することができ、2 つのグループでそれぞれ商品を開発、販売することができた。 多くの企業や団体と連携した授業実践の取り組みを実施することができた。 				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> 「地域創生」「地域活性化」への関心度の向上 「表現力」「独創性」「マーケティング技法」「課題発見力」の向上 				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> 2 年普通科地域創造系地域学受講の生徒へのアンケート調査の実施 3 年普通科地域創造系地域探究学受講の生徒へのアンケート調査の実施 				
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 2 年目の知財学習であったが、企業との連携の面では 1 年目以上に充実した取り組みができたが、生徒全員が参加できるまでに至らなかった。 今年度の課題を生かして来年度の取り組みを新たに考えていきたい。 				
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の知財学習で学んだ内容を生かして、来年度の生徒にはより一層多くの生徒が取り組めるように計画していきたい。 校内指導体制の構築をより一層進めていきたい。 				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 商業部の活動



(写真2) 2年地域学の活動



(写真3) 商業部ラジオ収録



(写真4) 地域探究学 海鮮キムチ販売会



(写真5) 情報ビジネス科 アナゴラー油販売会

(特記すべき取組と成果)

南三陸産旨辛アナゴラー油の共同開発と販売会の取組について

「南三陸産旨辛アナゴラー油」は、本校情報ビジネス科3年生が、地域課題の解決を目的に、地元の水産加工会社と共同で企画・開発した商品です。南三陸町で水揚げされながら、骨が多く加工が難しいことから十分に活用されてこなかった未利用魚「クロアナゴ」に着目し、その価値を高めることを目指しました。



クロアナゴを丁寧に下処理し、旨味を生かしたフレーク状に加工しています。そこに唐辛子や香味野菜、ごま油などを加え、辛さの中にもコクと深い味わいを感じられるラー油に仕上げました。白いご飯はもちろん、麺類や炒め物、冷奴など幅広い料理に使える万能調味料です。高校生の学びと地域の食資源、持続可能な水産業への思いが詰まった、南三陸ならではの商品となりました。

商品のパッケージデザインも生徒が行い、生徒たちの思いが詰まった商品が完成しました。完成後は、南三陸町内外で販売実習を行いました。生徒たちは3年生ということもあり、これまでの培ったコミュニケーション能力を最大限に発揮して、商品のストーリーを伝えることを意識しながら接客し、商品は瞬間に完売しました。また、この商品化に向けて、商品の製造元である株式会社カネタ・ツーワン(株式会社ケーエスフーズ)様、国分東北株式会社様、k h b 東日本放送様と連携し、課題解決型学習のなかで多様な学びの機会をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 03	学校名	山形県立天童高等学校	担当教員名	今野健一郎
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	アドバイザーによる出前講座	教員研修	6,7,8,10,11	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	先進校視察	教員研修	1,2,3,6,10,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	スクールキャラクターの創作	ビジネス総合系列 3 年・課題研究	1,3,4,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	INPIT 山形担当者による講話と相談	ビジネス総合系列・福祉総合系列 3 年・課題研究	2,6,7,9,10,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	米粉食品の開発	福祉総合系列 3 年	1,3,6		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知的財産権についての理解度について、職員は昨年度の数値を超えるものではなく、ほぼ横ばいだったが、生徒の理解度は高まった（生徒：よく理解できた 59.3%、理解できた 40.7%、職員：よく理解できた 50%、理解できた 50%）。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	①アドバイザーによる出前講座を実施。 ②先進校 2 校における商品開発による事業を展開する上での知的財産権の活用と保護、スクールキャラクターの活用を中心に視察。 ③東北芸術工科大学から講師を招聘した特別講座によるスクールキャラクターの創作。 ④INPIT 山形担当者による知的財産権の登録の仕方に関する講話と過年度実施のちえりみんとスクールキャラクターの商標登録についての相談。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	③スクールキャラクターの創作				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> 東北芸術工科大学から講師を招聘した特別講座によるスクールキャラクターを創作し、創作者・権利者の視点を体験することができた。 J-PlatPat による商標情報検索が行えるようになった。 商標登録の方法について、どのように注意を払い願書等様式を整えればよいか理解を深めることができた。 				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> 知財制度・各種権利に関する実践的な理解が向上した。 社会でブランドや商標権が活用されている実態を知ることで、これらを自分事として捉える生徒が増えた。 アイデアや技術を文章・図面で表現することや、J-PlatPat を用いて文字商標や図形表彰の検索をすることができるようになった。 				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、知財制度への理解度（よく理解していた・理解していた）が 66.6%から 100%に向上（グラフ 1）。 ④の振り返りシートの回答から、J-PlatPat による商標情報検索を行うことでどのように登録がなされ権利が保護されているかを実感できた生徒が増えていることが分かった。 				
課題・反省点	11 月 4 日からインフルエンザが蔓延したため 2 つの年次で閉鎖を行った。このことから、予定していた計画から変更せざるを得なく、生徒が取り組む時間が少なくなりました。やむを得ないところがあるが、キャラクターの創作そのものだけでなく、創作後の権利の在り方についてももう少し考える時間を取れると良かった。				
今後の展望	今回の一連の取り組みを学校全体のものとするため、系列の授業だけでなく「総合的な探究の時間」で取り組めるようにしていきたい。特に、キャラクターの創作について、外部講師によるワークショップ後に権利の在り方や活用や保護について、重要性を感じ取れるようにしていきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
 本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



取組内容① (写真1)
 アドバイザーによる出前講義



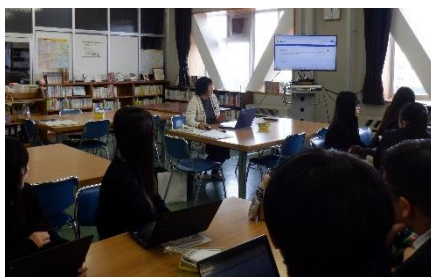
取組内容② (写真2) 先進校視察
 淀商モールに向けた取り組み



取組内容③ (写真3) スクールキャラクターの創作(講座)



取組内容③ (写真4・5) スクールキャラクターの創作(生徒作品)

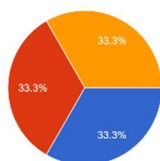


取組内容④ (写真6) INPIT 山形担当者による講話と相談



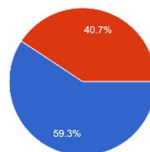
取組内容⑤ (写真7)
 米粉食品の開発

講義前の知的財産権についての理解度はどの程度でしたか。
 27件の回答



● よく理解していた
 ● 理解していた
 ● あまり理解していなかった
 ● 全く理解していなかった

講義後の知的財産権についての理解度はどの程度でしたか。
 27件の回答



● よく理解していた
 ● 理解していた
 ● あまり理解していなかった
 ● 全く理解していなかった

(グラフ1・2)

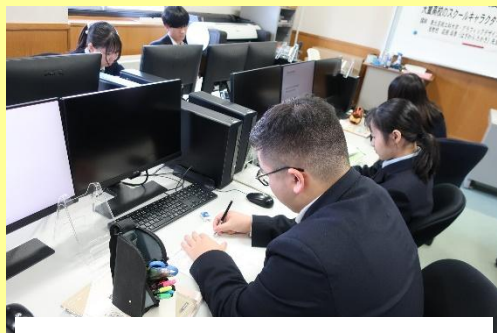
取組内容①～④の成果 (指導前後の比較)

スクールキャラクターの創作について

先進校2校におけるスクールキャラクター等の活用を踏まえ、東北芸術工科大学の特別講座を実施。感染症による年次閉鎖があって予定を変更して行うことになったが、講義中心の2時間(12/9)と実習中心の2時間(12/6)、計4時間で3年次ビジネス総合系列の生徒25人を対象に実施した。キャラクターを創作するポイントや活用する際の意味づけなど実例を交えながら行っていただいた。

<生徒の感想・振り返り>

- ・キャラクターだけでなく、商品の形そのものが商標登録されており、名前にも商標登録がされていることが分かった。また、キャラクターの表情を変えずに使うほうが商品を見る人に対してわかりやすくなることも分かった。
- ・目的によって商品登録する所が異なるのが面白いと思った。商品をよりよくしていくためにどの部分を商品登録するかをきちんと考えてく必要があると思った。



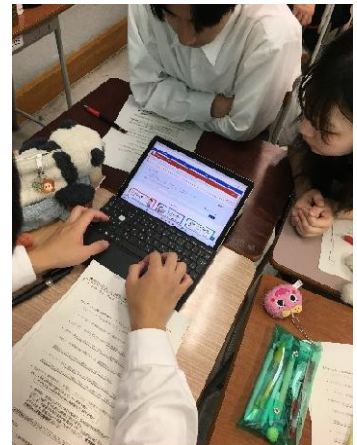
生徒による取り組みの様子 (写真)



(写真1, 2) 株式会社明治様による講演



製品パッケージから「商標」を探す生徒



(写真3～5) 親泊アドバイザーによる知的財産権、J-PlatPat の活用方法に関する講演



(写真6) 商標登録についての調査報告



(写真7) 本校校長から登録についてのヒアリング

(特記すべき取組と成果) 企業事例に学ぶに産業財産権の活用についての講演

教科書の内容への理解が深まった

3年生の選択科目である「商品開発と流通」及び「ビジネス法規」には、どちらも産業財産権に関する単元がある。

株式会社明治様の講演を2科目合同で聴き、普段とは違う環境の中で、事例を基づく授業が行われ積極的に参加している生徒が多く見受けられた。



(写真) 質問する生徒の様子

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 05	学校名	東京都立第五商業高等学校	担当教員名	藤井宏之
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） 発想法				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産教育学習	4月	6,7,8,10,11	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	発想法を学んでワークショップ	5月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	発想法を学んでワークショップ	6月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	発想法を学んでワークショップ	6月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	発想法を学んでワークショップ	6月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	発想法を学んでワークショップ	10月	1,2,3,4	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	発想法を学んでワークショップ	10月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	発想法を学んでワークショップ	11月	1,2,3,4		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	知的財産教育学習	11月	6,7,8,10,11		<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	発表会	2月	1,2,3,4,5	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	アンケート：授業（高校生ビジネス・グランプリ、SDGs QUEST みらい甲子園）や講演会を通して、自分ならではのアイデアの発想や着眼点を養うことができた割合（すごく思う）26%、（思う）51%、77%であった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	アンケート：授業（高校生ビジネス・グランプリ、SDGs QUEST みらい甲子園）や講演会を通して、企業や地域の取り組みについて理解することができた割合（すごく思う）28%、（思う）57%で、85%であった。また、アンケート：高校生ビジネス・グランプリ、SDGs QUEST みらい甲子園を考える上で知的財産権の視点が重要または必要であることが理解できた割合（すごく思う）39%（思う）45%で、84%で高い成果が見られた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	① ⑨ 知的財産教育学習				
成果内容	①知的財産権を理解する：知的財産の基礎学習（特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権）の理解をして、実用新案権の事例を探す。 ②本物と偽物の見分け方：知的財産の紹介動画を視聴して、映像の内容のポイントと新たな発見を書き出す。 ③ものの見方・考え方 観察力を磨く：知的財産の重要性を知り発想法の考え方を理解する。				
生徒・学生に見られた変化	知的財産の基礎学習を行うことで、ビジネスアイデアを考える上で知的財産権の視点が重要または必要であることが理解でき、アイデアの発想や着眼点を養うことができた。				
その根拠	授業後アンケート：知的財産権と観察力の関係について（よくわかった）30%、（だいたいわかった）61%、91%、ものの見方・考え方が変わった（変わった）35%、（ちょっと変わった）54%、89%であった。				
課題・反省点	知財学習の要素：創造（1）創造性を鍛える、（2）情報を利用する能力、（3）発想・技術を表現する能力 を養うことを目標としていたが、アンケート：アイデアを創造できるについては（できる）16%、（できると思う）60%、76%であった。（できる）が1～2割程度にとどまっていることから、創造的活動や知的財産に関する学習が、体験としては理解されていても知識や技能として定着しきれていない可能性がある。				
今後の展望	今後は、単なる知識や技術の習得にとどまらず、具体的なビジネス事例や身近な商品・サービスを用いた年間を通した段階的な演習を導入し、知的財産権を実際に活用する力を育成し、ビジネスアイデアを考える上で実践的な学習活動の充実を図る。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



「知的財産権を理解する」講演会



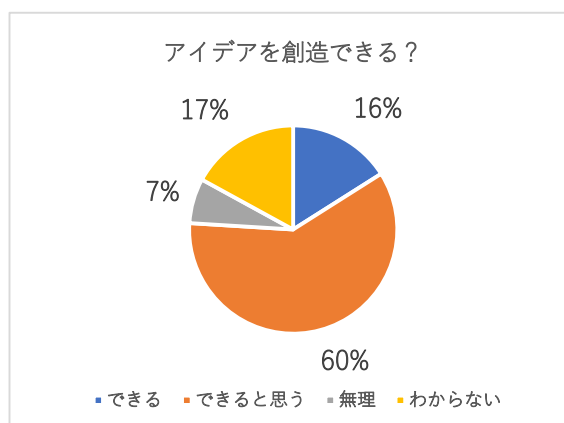
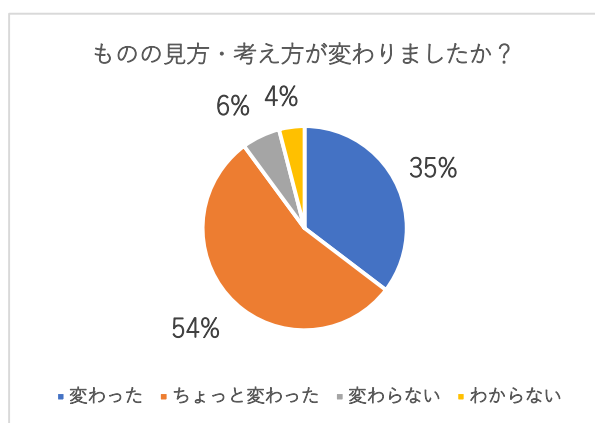
「ものの見方・考え方 観察力を磨こう」講演会



「農業で婚活 都市農業」講演会



アンケート：ビジネスをおこなう上で、どんなスキルが必要だと思いますか。(21%)の生徒が発想力と回答



「ものの見方・考え方 観察力を磨こう！！」講演会后アンケート

学校設定科目 *1「ビジネスアイデア」

*1「ビジネスアイデア」：東京都教育委員会が、2年次に、企業などに関する課題解決学習を通して、マーケティングに関する専門的な知識と技術を習得させ、ビジネスについて創造的に考える能力と態度を育てることをねらいとした学校設定科目「ビジネスアイデア」を設定している。

具体的な計画

- ・タイトル：「発想法を学んでワークショップで実践」
- ・取組詳細・狙い：「会社経営等の視点から商品・サービスについてアイデアを学ぶ」
「高校生ならではの豊かな発想や着眼点を養う」
- ・期待する成果：人々の生活や世の中の仕組みの改善、地域・社会に貢献できるオリジナルでアイデアに満ちたプランについて主体的に取り組むことで、実際ビジネス活動を体験する機会の拡大を図ることができる。また、**企業や商店街等との連携**をすることで地域貢献および地域活性化を図ることができる。



立川法人会との連携

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



取組①オリジナルキャラクターの作成



取組①小田原市へのプレゼン発表



取組②パッケージデザインの考察



取組④オリジナルカレー作り



取組⑤DTMを通して知財について考察



取組⑥地域伝統工芸の新たな価値の創造

Well being を踏まえたパッケージデザインの考察

課題研究「地域活性化と貢献活動」の生徒を対象に産業能率大学 情報マネジメント学部の中野先生とゼミ生の皆さんをお招きし、パッケージデザインから学ぶ表現力「Well being×色彩科学を応用したパッケージデザイン」についての体験型の講義が行われました。身近なグリコのお菓子を題材とし、商品の魅力やコンセプトが消費者に伝わるように、パッケージの色や形、キャッチコピーにどのような工夫が凝らされているかを分かりやすく解説していただきました。その後、生徒たちはグループに分かれ、「自身が考える Well being を踏まえたパッケージデザイン」を考えるワークショップに挑戦しました。大学生からアドバイスをもらいながら、ターゲット層や商品の特徴を熱心に議論し、ユニークなアイデアを次々と発表する姿が見られました。その後の授業では J-PlatPat を活用し、グリコのパッケージの意匠などを確認し、普段目にはしていない商品には様々な権利があり、それが価格に転嫁されていることを確認する良い機会となりました。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 07	学校名	大阪府立淀商業高等学校	担当教員名	秋月麻衣
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	商品開発と知的財産権アドバイザーによる特別授業	3年流通コース「商品開発」 選択者	5,6,7,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	デザイン思考ワークショップ	1年～3年商業科 有志	1,2,3,4,5		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	アイデア発想ワークショップ デザインパテントコンテスト応募	1年・2年商業科 有志	1,2,3,7,8,9,12		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知的財産権について学ぶ「日本の発明・身近な発明」	3年全生徒「ビジネス法規」	5,6,7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	小学生のための自由研究「チャレンジキャンプ24」	3年課題研究「株式会社」 「SC」「メタバース」選択者	1,3		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	「淀翔モール」オリジナル商品開発	3年課題研究「株式会社」 3年流通コース「商品開発」	1,3,6,7,10,11	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	メタバース淀翔モール空間の構築と 全国産業教育フェア福島県大会での発表	3年課題研究「メタバースデザイン」代表者	5,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	万博への参加とアイデア技術コンテストの応募	3年情報コース	3,5,6,8,10,11		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	ココヨの知財～知財に関わるシゴト～	2年全生徒「総合的な探究」	6,7,8,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	教員研修・意匠権出願相談	商業科全教員	6,7,8,9,11		<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪	あそびまなび場ワークショップ（万博）	1年～3年 有志生徒	1,3	活用	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫	AIで作る音楽作成	1年～3年 全生徒	1,2,3,4,5,8		<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬	カップラーメン発明記念館 社会見学	1年～3年 有志生徒	6,7,11	知識	<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	ほぼ達成（9割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知的財産権についての理解が深まったが45%から89%へ増加。大阪府内の商業科教職員向けの講演会を企画し、知財教育の理解を深めてもらうことができた。総合的な探究の時間に組み入れることができた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<p>①すべての学年の授業に知的財産について学習する機会を与え、知財マインドを醸成することができた。（1年ビジネス基礎・情報処理/2年マーケティング・総合的な探究の時間/3年ビジネス法規・商品開発・ネットワーク管理・課題研究・アントレプレナーチャレンジII）</p> <p>②6月に「ダブルEXプロジェクト」の開催。全国から高校生200名を集め、大阪工業大学にてデザイン思考ワークショップを開催した。</p> <p>③万博にて「あそびまなび場体験広場」の開催（万博会場にて創作体験の実施）</p> <p>④万博会場で開催された「明日を変える知財のチカラ」イベントに参加し、新しい技術体験を行い、ビジネス技術アイデアコンテストに応募。</p> <p>⑤小学生のための自由研究「チャレンジキャンプ24」（夏休みにアイデアを創出する楽しさを伝えるイベントの開催）</p> <p>⑥岡山県で開催された発明体験ワークショップに参加。パテントコンテストにはじめて応募した。</p> <p>⑦全国産業教育フェア福島県大会出場（10月25日・26日に、知財活動の周知を展示発表で行った。また、本校のオリジナル作成「メタバース淀翔モール」の空間披露も行った。）</p> <p>⑧第11回淀翔モールの開催（12月13日（土）開催。来場者数約1600人。淀翔モールオリジナル商品の販売も実施。工芸高等学校・東淀工業高等学校と合同で知財活動の周知を行った）</p> <p>⑨大阪府内の商業高校教員向けの研修会「大阪府商業教育研究発表会」にて、知的教育の必要性について講演を企画することができた。</p> <p>⑩ココヨ株式会社のリスクマネジメント本部知的財産ユニットの方に来校いただきキャリア教育と絡めて講演をいただいた。</p> <p>⑪東淀工業高等学校と合同で、カップラーメン発明記念館へ社会見学に行き、興味関心を高めることができた。</p>				

年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について	
取組番号・内容	②ダブル EX プロジェクト「全国の高校生とデザイン思考ワークショップ」
成果内容	本イベントでは、全国から集まった200名の高校生が、デザイン思考を用いたワークショップを行い知的財産の大切な要素である「創作」について学び体験することができた。特に、学校や地域、学科の枠を超えた交流を通して、多様な価値観や考え方に触れる機会となり、生徒にとって視野を広げる貴重な体験となった。
生徒・学生に見られた変化	自分の意見を積極的に発言しようとする姿や他社の意見を尊重しながら議論する態度、情報収集しそれをアイデアにまとめる力などを身につけることができた。全国の高校生と協働した経験から、挑戦することの楽しさを知ることができた。
その根拠	アンケート結果から参加生徒の90%以上が本イベントに満足したと回答し、非常に好評な取り組みだったと実感した。
課題・反省点	会場の大きさに限りがあったため、参加生徒が一部の生徒に限られていた点が課題として挙げられる。また、時間的制約もあり、知的財産権の制度や具体的な活用事例まで十分に理解を深めるには至らなかった。
今後の展望	全国の高校生と共に知的財産権を学ぶことの大きな可能性を感じることもできた。学校や地域の枠を超えた協働学習は、生徒の視野を広げるだけでなく、知的財産権を「身近なもの」として捉えるきっかけとなる。今後は産業教育フェア全国大会において協働発表を行うことや複数校が連携した商品開発プロジェクトなどを企画していきたい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



「ダブル EX プロジェクト」全国から集まった高校生とデザイン思考ワークショップを実施。



大阪関西万博で開催された「明日を変える知財のチカラ」イベント
最新XR技術体験をおこない知的財産権について学ぶ。



全国産業教育フェア福島県大会にて自ら構築したメタバース空間の説明を生徒自身が行う。知財学習の成果も発表。



小学生向け自由研究イベント
「チャレンジキャンプ24」
ペーパータワーチャレンジに
参加してもらう



1年生がはじめてパテントコンテストに応募した。



コクヨ株式会社
社内の知的財産権についてだけでなく、弁理士や知的財産にかかわる仕事の紹介を講義いただいた。



東淀工業高校と合同で、チキンラーメン発明記念館へ社会見学
交流しながら知的財産権について学ぶことができた。

AKINDO SPARKLE 株式会社【商業×工芸×工業】

令和6年2月2日に高校生が運営するホンモノの株式会社「AKINDO SPARKLE 株式会社」を登記した。この株式会社の特徴は、本校定商業高等学校だけでなく、大阪府立住吉商業高等学校、工芸高等学校、東淀工業高等学校と連携し運営している。12月第2週目土曜日に開催する「淀翔モール」で、新商品の発表を行っている。

この度、AKINDO SPARKLE 株式会社の商標登録に向かって準備を進めている。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 08	学校名	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校	担当教員名	末澤 篤
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	IP ePlat を利用した e ラーニング	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,6,7,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	担当教員研修	教員・グローバル経済	1,2,6,7,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	発想体験ワーク	GB 科 3 年・グローバル経済	1,3,4,7		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知的財産教育学習	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	SocialDreamContest への取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	日本弁理士会主催 ビジネスコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	関西 NBC B-hack High school ビジネスコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	知財特別講義→アドバイザーを招いて	GB 科 3 年・グローバル経済	4,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	特許庁→大阪大学教授を招いての講義	GB 科 3 年・グローバル経済	4,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	パテントコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・プレゼンテーション技法	1,2,3,6,7,8,9		<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫					<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬		※GB（グローバルビジネス）		知識	<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）		その理由	・教員、生徒ともに知財についての観点、知識がほぼ皆無の状況から初年度にも関わらず知財の必要性を感じる担当教員の割合が 50%から83%に向上 。 生徒に関しては知財に関心を持つ生徒の割合が約 30%から87%に向上 。 ・ビジネスコンテスト応募に取り組みの中で、商品や社会とのつながり理解が深まり、アイデアを保護、尊重する意識の変化が見られた。	
取組の状況	具体的な数値を用いて記載をお願いします		・INPITの「MIRAIをつくる」教材を用いた、アイデア創出体験、構想力・観察力・突破力・共感力の向上トレーニングを実施。 ・アドバイザー、弁理士（特許庁から大阪大学へ出向）を招いての知財特別講義を2回、計3時間実施。商品や社会とのつながりや産業や経済との関係性、アイデアを保護・尊重する意識などを学んだ。（写真1） ・4つのビジネスコンテストへのエントリーを実施。そのうちB-hack High schoolではグランプリおよび特別賞を受賞した。（写真4）		
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑦関西 NBC B-hack High school ビジネスコンテストへの取り組み				
成果内容	・大阪・関西万博会場にて実施され、全国から選抜された本選出場者21名のうち4名が選出された。そのうち2名は グランプリ と 特別賞 を受賞することができた。プレゼン技術はもちろん、知財の観点を学んだことにより既出ではないアイデアを創出し、その創造性を評価していただいた。 ・知財学習についての「授業計画」「授業スライド」を作成し6クラスで展開。次年度も引き続きこれらをもとに授業を展開される予定であり、知財学習の継続性と土台作りが進んでいる。				
生徒・学生に見られた変化	・ビジネスコンテストへエントリーする中で、アイデアを保護・尊重する意識が向上した。 ・プレゼン発表原稿の中に、知財の観点が盛り込まれる生徒も少数ではあるが見られるようになった。				
その根拠	・知財に関心を持つ生徒の割合が約30%から87%に向上した。（グラフ1）				
課題・反省点	・本事業に採用された時点ですでに各科目年間の取り組みが組まれており、授業時間が十分に確保できたかった。そのため、知財に関する知識がまだまだ定着したとは言えず、ビジネスアイデア等で創造領域に触れることはできたが、保護、活用領域については不十分であった。 ・知財に関する授業に取り組んでもらった指導教員の知財に関する知識がまだまだ未熟であるため、まずは必要性を理解してもらう必要がある。				
今後の展望	・授業担当者以外の商業科教員全体への理解を促進し、科全体で取り組む体制の構築をめざしたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財特別講義の様子



(写真2) アイデア創出授業風景



(写真3) ビジコン応募作品

さっきの注文、どんな気持ちで購入しましたか

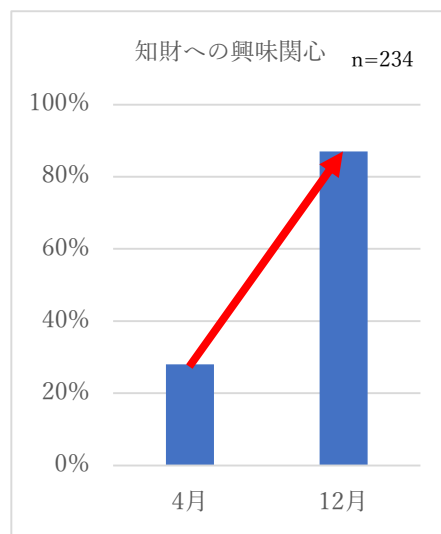
- 「締め切り・テストで時間が無くて急いでいた」
経験：時間的余裕が無く(疲労)時短を考えた可能性
- 「寝れていて手間を省きたかった」
経験：疲労による利便性選択(疲労=消耗系)
- 「友達・相手に合わせた/薦められた」
経験：社交的要素(本人の単独意思ではない場合あり)
- 「特に理由はなく何となく(その他)」(+自由記入)
経験：予測が難しい(フリ/フリ+テストで深慮?)

1 かな、急いでたと思う。

record

money + emotion

(写真4) ビジコン応募内容 (グランプリおよび特別賞)



(グラフ1) 知財に関心を持つ生徒の割合

(特記すべき取組と成果) 日本弁理士会主催 ビジネス/技術アイデアコンテストへの取組および

各ビジネスコンテストでの成果について

本校の取り組む「ビジネスアイデア創出」「各種コンペへのエントリー」「グループワークによるコミュニケーション、ピッチ能力の向上」と知財学習とをどのように授業の中へ落とし込み、体系的に授業計画を構築するのか、ここに焦点を当てて取り組みを開始した。

INPIT 学習教材を複数使用し、授業・自主学習の中で知財についての知識を深めた。

その中で、日本弁理士会主催のビジコンでは、大阪・関西万博会場で技術体験会を行い、その体験をもとに新しい『ビジネス/技術アイデア』創出に取り組んだ。各グループに1名の弁理士がアドバイザーとして帯同していただき、当日のワークショップから後日のオンラインミーティングまで関わりが継続。生徒はこの体験を通し、知財に関して多くの知見を得る機会に恵まれた。また、知財学習に取り組んだことで、現存しないアイデアを創出することにつながり、多くの審査員から評価していただいた。今後は、アイデア創出に留まらず、特許や商標への出願も視野に入れて授業の構築を図っていきたいと考えている。



万博会場内未来の技術体験会の様子



各コンテストで受賞

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 0 9	学校名	兵庫県立長田商業高等学校	担当教員名	魚谷明広
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導體制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	自動水やり装置と水耕栽培を利用した自立型農園の開発	創造ビジネス科 生徒 7 名	(2),(8),(11),(13)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	弁理士 産業財産権の講義と商標登録	創造ビジネス科 生徒 10 名	(6),(9),(12),(13)		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	商品開発	創造ビジネス科 生徒 5 名	(1),(3),(7),(10),(12)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	企業訪問	創造ビジネス科 生徒 6 名	(6),(7),(8),(10),(11)		<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	ほぼ達成（9割以上）		その理由	企業訪問、特許庁訪問、弁理士の講演をへて、実際に商標の登録に至った。続いて実用新案権の登録にも取りかかる予定であり、調査、準備、登録という流れが作れた。	
取組の状況	1 水耕栽培装置を使用し野菜の栽培ができるまでになった。2 INPI の協力を得て知的財産権についての講演と商標権取得のための書類作成の方法を学んだ。3 商標については申請をするに至った。4 企業訪問と特許庁の訪問をした。 2 2 項目について 4 月 - 9 月で生徒の自己評価をしている。自主性 +0.47 最も評価が伸びている。自分で考え、行動する機会が増え、その成果を実感している可能性が高い。課題解決力 +0.34 困難な状況に対して、情報を集め、解決策を実行する能力が向上したと感じているようである。チームワーク +0.33 他者と協力して目標を達成する経験が増え、集団の中での役割や貢献に自信を持ってたと考えられる。対外関係調整力 +0.27 他者との関係を円滑に進める、調整する能力が伸びた。チームワークと合わせて、対人関係能力が向上していると見られる。計画遂行力 +0.20 目標に向けて計画を立て、実行に移す力、あるいはそれを最後までやり切る力に自信が来たようである。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	④企業訪問				
成果内容	著作権の概要や保護、特許取得の方法、競合他社との技術力の比較、独自性の持たせ方を訪問を通して学んだ。訪問で学んだことを活かして、現在の事業が知的財産権の侵害になっていないかを検討するとともに、キャラクタービジネスや地域ブランディングなどを企画した際の知的財産権の保護に役立てる知識を得た。				
生徒・学生に見られた変化	視点の変化と意識の向上:製品を使う側から、製品を構成している細かな部品や技術に目を向けるようになり、私自身が見ていた視点がまた少し変わって、気になるようになったと述べている。知的財産という専門分野が、身近な製品やエンターテイメントにも深く関わっていることを知り、社会への関心が深まった。				
その根拠	事前アンケート、事後アンケートの生徒感想より評価した。				
課題・反省点	専門性の高い内容の難解さ:特許庁や富士電機での話は、やっぱり難しいなと感じたという率直な意見があり、専門性の高い分野の理解には時間がかかることが示唆された。知的財産権の侵害で実際に裁判になっているという事実には驚きつつも、法律や裁判の仕組みなど、さらに専門的な側面を理解するには、より丁寧な解説や学習が必要である。				
今後の展望	学びを深める意欲:難しい話でも、審判廷の役割や会社設立のお話が丁寧に分かりやすく解説されたことへの喜びから、今後も専門家からの直接的指導や解説の機会があれば、さらに知識を深めたいという意欲がある。関心の対象の拡大:普段使うものへのありがたさを実感したことで、今後は単に製品を使うだけでなく、製品の裏側にある技術や特許に意識を向け、探求していく姿勢が期待される。「だれでも簡単に始められる」起業や社会貢献の活動にも興味を持っており、知的財産の知識を活かした新しい挑戦につながる可能性がある。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>

		
写真1 自動水やり装置と水耕栽培	写真2 弁理士 産業財産権の講義	写真3 商品開発 放置竹林の伐採
		
写真4 商品開発 工業技術センター	写真5 特許庁訪問	写真6 企業訪問（富士電機）

株式会社NAGAZON

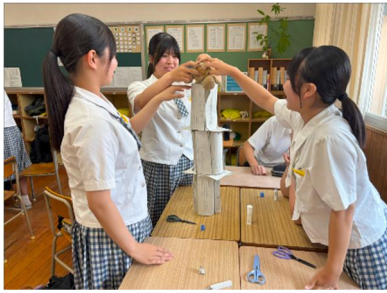
本校は兵庫県神戸市長田区にある定時制商業高等学校です。2022年2月に生徒が中心となり株式会社を設立しました。その名も株式会社NAGAZON（ナガゾン）。本事業の支援を受ける2年目は①自動水やり装置と水耕栽培を利用した自立型農園の開発②産業財産権の講義と商標登録③商品開発④企業訪問に取り組みました。年間を通して22項目にわたって生徒の成長を評価しており、この期間に「自主性」、「課題解決力」、「チームワーク」といった、自己管理と協働に関するスキルを大きく向上させています。「自主性」が最も大きく向上しており、生徒が自主的に学習や活動に取り組む能力が大きく成長したことを示唆しています。



	4月	9月	増減
表現力	3.07	3.20	0.13
発表力	3.00	3.13	0.13
傾聴力	3.93	4.00	0.07
情報理解活用力	3.33	3.07	-0.26
ICT活用力	3.40	3.47	0.07
創造力	3.20	2.93	-0.27
自主性	3.53	4.00	0.47
継続力	3.87	3.93	0.06
チームワーク	3.00	3.33	0.33
リーダーシップ	2.47	2.33	-0.14
責任感	3.53	3.53	0.00
計画遂行力	2.60	2.80	0.20
リスクテイク	3.13	3.00	-0.13
キャリア設計力	3.13	3.13	0.00
課題発見力	2.93	2.93	0.00
課題解決力	2.53	2.87	0.34
メタ認知	3.33	3.20	-0.13
柔軟性	3.07	3.20	0.13
モラル&マナー	3.27	3.20	-0.07
対外関係調整力	2.93	3.20	0.27
地域貢献意識	2.67	2.80	0.13
グローバルな視野	2.53	2.47	-0.06

5：とても力がついた4：力がついた3：どちらでもない2：あまり力がつかなかった1：全く力がつかなかった

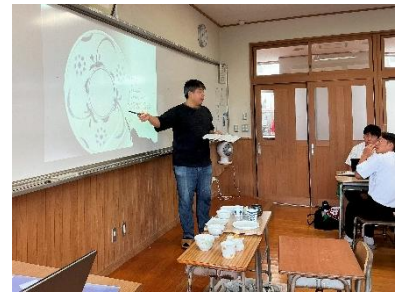
<写真・図表等掲載欄>



(写真 1) ペーパータワーの作成



(写真 2) J-Platpat の活用



(写真 3-1) 協力企業の講演会



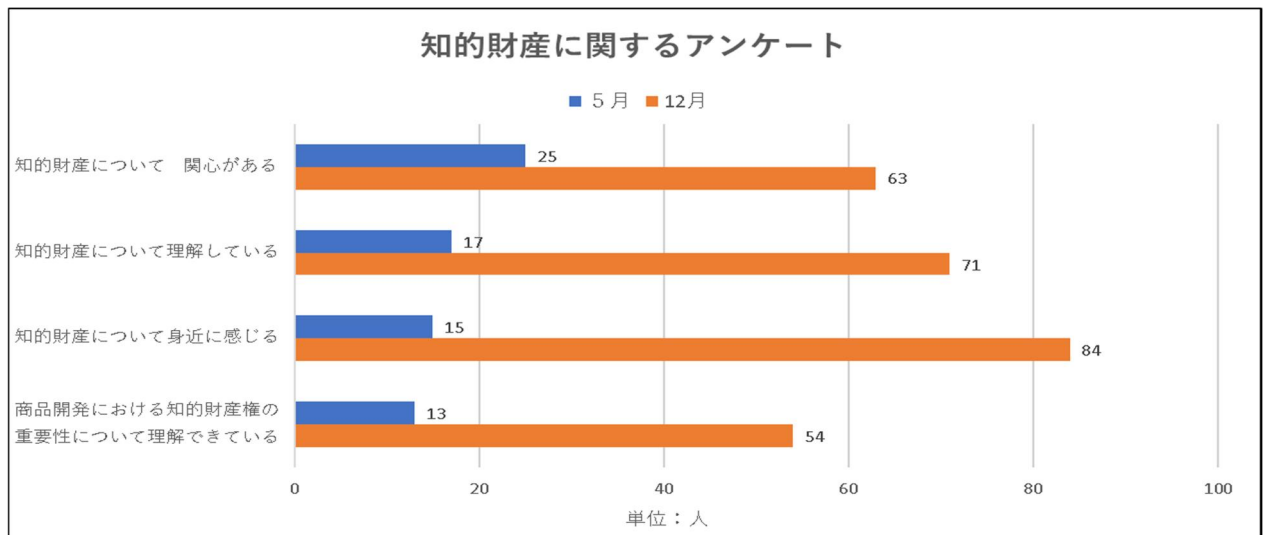
(写真 3-2) 協力企業の講演会



(写真 4-1) 開発商品の販売



(写真 4-2) 開発商品の販売



(グラフ) ※流通経済科2年生(112名)対象。数値は、各設問に「はい」と回答した生徒の人数。

(特記すべき取組と成果) ヒット商品の誕生から知財の重要性を学ぶ

知財学習の導入として、世界知的所有権機関日本事務所が発行している知財学習教材「アイデアを伸ばそう」を活用した学習活動を実施した。この教材はインスタントラーメンという身近な商品を題材に取り上げており、創造的思考やアイデア尊重について学ぶことができた。現在では当たり前のように食べられているインスタントラーメンがどのように開発され、普及してきたのか、そしてその課程における知的財産の役割やそれらを保護することの重要性について理解を深めることができた。

この学習活動を通して、それまで知的財産に関心であった多くの生徒が、知的財産を身近なものとして捉え、関心を示すようになったと考えられる。また、生徒が想像以上に意欲的に活動に取り組んでいたことから、知財学習の導入として成功であったと評価できる。今後は、より実社会と結びついた知財学習を展開していくことで、生徒が「創る側」として社会に参画する意識を高められるよう、努めていきたい。

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	水 01	学校名	兵庫県立香住高等学校	担当教員名	篠原 健悟
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容	対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素		
① 知的財産に関する出前授業	1、3年生海洋科学科・水産海洋情報、水産海洋基礎、総合実習	1,2,3,6,7,8,11,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/>	(1)創造性を鍛える
② 知的財産に関する基礎学習	1、3年生海洋科学科生徒 水産海洋基礎・水産海洋情報	2,5,6,8,10,11		<input checked="" type="checkbox"/>	(2)情報を利用する能力
③ 研究活動・未利用低利用水産物の商品開発	3年生海洋科学科生徒・課題研究、2年生海洋科学科シーフードコース・総合実習	1,2,3,4,5,6,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/>	(3)発想・技術を表現する能力
④ 研究活動・海洋資源の開発	1年生海洋科学科・水産海洋基礎、2年生海洋科学科オーシャンコース、職員研修	1,2,3,4,5,6,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/>	(4)観察力を鍛える
⑤ 研究活動・漁具の開発	2年生海洋科学科アクア、シーフードコース	1,2,3,4,5,6,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/>	(5)技術を体系的に把握する能力
⑥			保護	<input checked="" type="checkbox"/>	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦				<input checked="" type="checkbox"/>	(7)保護・尊重する意識
⑧				<input checked="" type="checkbox"/>	(8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				<input type="checkbox"/>	(9)手続の理解
⑩			活用	<input checked="" type="checkbox"/>	(10)権利を活用する能力
⑪				<input checked="" type="checkbox"/>	(11)産業や経済との関係性の理解
⑫			知識	<input checked="" type="checkbox"/>	(12)制度の学習
⑬				<input checked="" type="checkbox"/>	(13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由	商品の発明、開発に興味がある割合とこれから商品の発明、開発に取り組みたい割合が66%から100%に向上。 職員研修として研修会への参加や知財の校外学習への引率を通して、多くの職員に知財学習の意義が伝わった。		
取組の状況	1年生に対しては基礎的な内容、2年生に対しては実践的な内容、3年生に対しては実践的な内容に加えて課題研究等で主体的に知財学習に取り組む能力の育成という観点に重点を置いて知財学習を実施した。校外学習として昨年と今年度で合計4か所の企業、施設を訪問し知財学習を実施した。3年生は昨年に引き続きの知財学習となり、アンケート調査の結果最終的に95%の生徒が知財学習の意義を理解したと答えていた。また、3年生ではJ-PlatPatの活用の仕方単に教員からの指示で検索するだけでなく、自分で興味がある部分やより知りたいと感じた部分ではJ-PlatPatの機能を使ってより詳細な検索を主体的に行う生徒が増加した。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	研究活動				
成果内容	釣り具メーカーの株式会社ハヤブサの見学（写真1）では、実際に釣り具の特許や商品の販売に関わる特許など、生徒は普段の実習では何気なく使っている漁具にも多くの知財が含まれていることを知り、知財学習の意義について学習することができた。アジフライを製造している「角屋食品」の見学（写真2）では実際の製造工程を見学し、普段の製造実習では単に製造して販売することが中心の実習のイメージだったが、商品の開発から製造販売には知財戦略が必要であると生徒、職員ともに認識することができた。（写真3）海洋資源の開発では実習船で海洋資源調査の実習の中に組み込んで知財学習を実施することで、調査対象生物のみならず、調査器材等に含まれる知財について視野を広げた知財学習を展開することができた。				
生徒・学生に見られた変化	学校内で普段行っている実習と社会の中で活用されている知財との関係について理解できるようになった。知財は生徒にとって自分とは遠い存在、あるいは難しく理解しがたい存在から身近な存在として興味・関心を抱く生徒が増えた。				

その根拠	事後アンケートの結果ほぼ100%の生徒は知財に興味を示し、75%の生徒がこれから商品の発明、開発に取り組んでみたいと思うようになった。(グラフ1、2) 通常の実習でも主体的にインターネット等を活用して新商品の知財について調べ、活用しようとする姿勢が見られるようになった。
課題・反省点	事前、事後学習が短時間になってしまったので、事前、事後指導の時間を十分に確保した形で校外学習を実施できるように計画したい。 校外での学習と校内で実習の結び付け方について検討し、実習内容の一部として定着できるように教育内容や教材を検討していく必要がある。
今後の展望	上記に関連して知財学習を通常の水産系実習のカリキュラムの一部として定着させたい。さらに多くの職員を巻き込んだ形で実習や授業の中に知財学習を取り入れることができるような運営方法を検討したい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



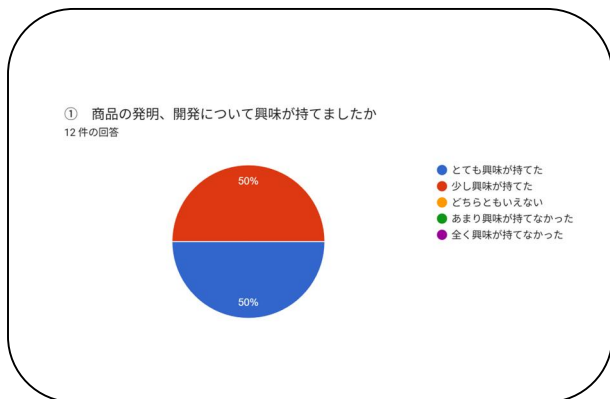
(写真1) ハヤブサの見学



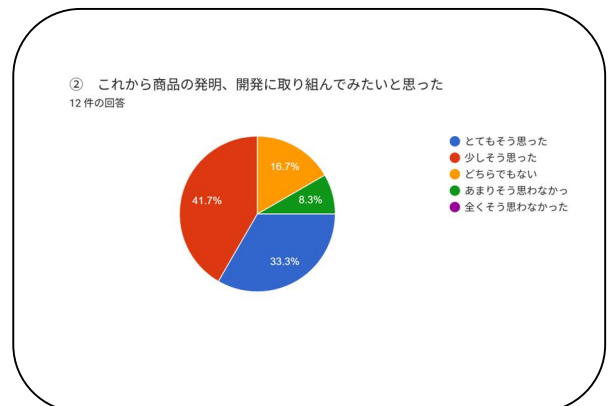
(写真2) 角屋食品の見学



(写真3) 開発商品の写真



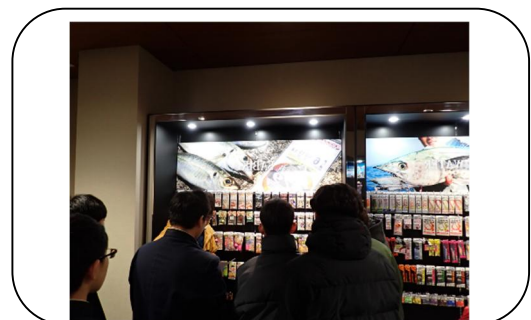
(グラフ1) 知財への興味・関心 (知財学習後)



(グラフ2) 今後の知財学習へ意欲 (知財学習後)

(特記すべき取組と成果) 校外における知財学習

海洋科学科の2、3年生は昨年度と今年度ですべての生徒が校外の企業や施設を訪問し知財学習を行った。日頃の実習や授業での学習がどのように社会の中で活かされているか、またその中で知財がどのように活用されているかを知る機会となった。これらの活動を機に知財に対する生徒の学習意欲が格段に向上した。



(写真4) ハヤブサで商品説明

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財講演会



(写真2) 商品開発研究



(写真3) 学習成果発表会



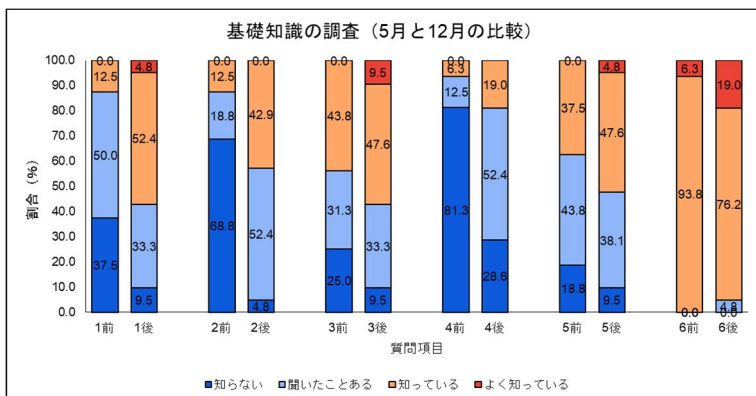
(写真4) デザイン講座



(写真5) 紙タワーチャレンジ



(写真6) 長崎視察研修



【質問項目】

- 1 知的財産権を知っているか
- 2 産業財産権を知っているか
- 3 特許を知っているか
- 4 意匠を知っているか
- 5 商標を知っているか
- 6 著作権を知っているか

(グラフ1) 知的財産権に関する基礎知識の有無

長崎市視察研修

商品開発に関する実践的な学習の一環として、長崎市視察研修を実施した。はじめに、長崎県庁において知的財産に関する講座を受講した。講師には、青森県でカキ養殖事業を立ち上げた起業家（水産高校出身）を迎え、特許や商標等の知的財産を活用することで、水産物の付加価値を高める取組について学んだ。その後、県庁1階に展示されている県内特産品を見学し、商標やブランド名、パッケージデザインが商品の魅力や信頼性を高めている点に着目した。

長崎駅かもめ市場を視察し、多様なお土産品をとおして、パッケージデザインやネーミング、価格設定が消費者の購買意欲に与える影響を学んだ。

さらに長崎市水産センターでは、「ゆうこうシマアジ」のブランド化の取組について学び、ブランド化前後における価格や販売数量の変化をもとに、増収を計算する活動を行った。

これらの学習をとおして、知的財産の活用が、商品開発や地域水産業の持続的発展に大きく寄与することを具体的に理解する機会となった。

令和 7 年度 実践事例報告書

5 学校番号	家 01	学校名	千葉県立佐倉東高等学校	担当教員名	仁平 知恵利
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input checked="" type="checkbox"/> その他（著作権 ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	著作権講習会	服飾デザイン科 3 年・ファッションデザイン	2,7,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	衣装の検討	服飾デザイン科 3 年・課題研究	1,3,7		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	ショー構成の発案・課題検討	服飾デザイン科 3 年・ファッションデザイン	2,4,10		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	成果発表（ファッションショー）①	文化祭・校外行事	3,6,11		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	知的財産権講習会	服飾デザイン科 12 年・ファッションデザイン	9,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	商品開発	服飾デザイン科 1 年・生活産業基礎	1,3,7	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	商品の検討・試作および製作	服飾デザイン科 2 年・ファッションデザイン	3,5,7		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	成果発表（小物販売）②	文化祭・校外行事	2,6,11		<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・専門家による著作権講習会や、知的財産権講習会を実施。講習を受けた多くの生徒が著作権や知的財産について関心を持つことが出来た。 ・講習を受けた後、動画配信や商品開発、成果発表を行ったが、学習した内容を生かして行うことが出来た。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・動画配信の専門家を招いて著作権講習会を実施し、音楽等についての著作権を学んだ。 ・衣装の検討をし、デザイン等に関する著作権を意識しながら学習した。 ・ファッションショーを開催し、著作権・肖像権等を配慮しながら、動画配信を行った。 ・弁理士を招聘して知的財産権講習会を開催した。 ・小物の商品開発では著作権等を念頭に検討し、試作の後、製作を行った。 ・製作した小物を文化祭や校外のイベントで販売した。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	1 ファッションショーの成果発表				
成果内容	ファッションショーを行う為に、衣装の製作だけでなく、ショーの構成、音響、照明まで、生徒自らが発案・検討し、知的財産権を考慮しながら文化祭や校外のイベント等で、その成果を発表し、動画配信を行った。				
生徒・学生に見られた変化	ファッションショーの衣装のデザインや構成等を検討する中で、始めは自分たちで好きなように決めていたが、知的財産権について学び、校外で発表する事や動画配信を行う事を考慮し、知的財産権について常に念頭に置いて検討を重ねることが出来た。				
その根拠	年度当初、配信のプロの業者の方をお招きし、著作権等の知的財産権について学び、場合によっては勝手に音楽等を使用してしまうと罰金を科せられたり、動画配信の際は、配信が止められてしまうことがあることがわかった為、常に意識して検討を進められるようになった。（グラフ 1）				
課題・反省点	プロの方からお話を伺うことが出来たので、生徒もきちんと考えることが出来るようになったが、校内行事で発表する際には特に問題になることがないため、今後もその問題を教員がうまく伝えていくことが出来るかが課題である。				
今後の展望	ファッションショーを企画し、検討し、発表を行う事は、生徒たちが協同し、試行錯誤しながら意欲的に学び、大きな成果を得ることが出来る為、学習の成果は大きい。また校外行事での発表や動画配信を行う事で、知的財産権に関する学習が生きてくるので、今後も継続していきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

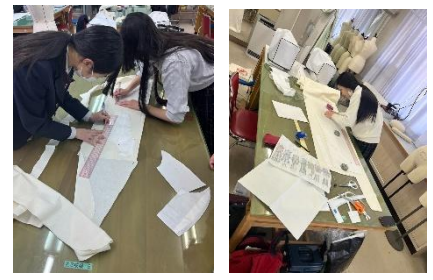
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 著作権講習会



(写真2) 知的財産権講習会



(写真3) 製作風景



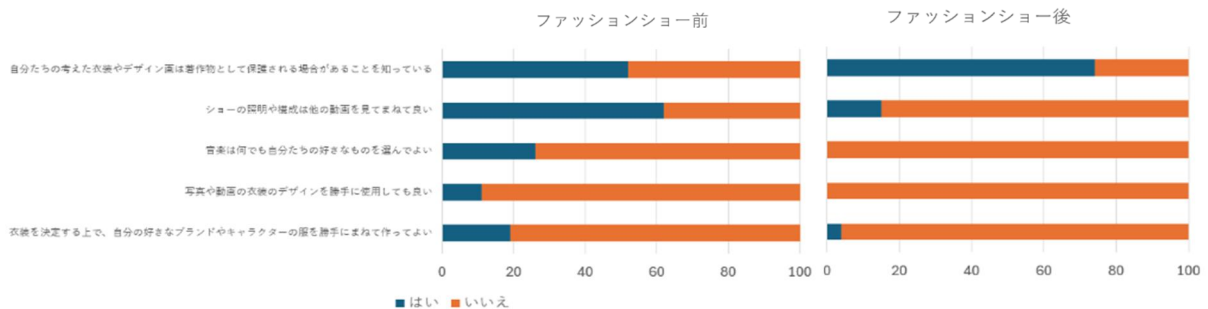
(写真4) 配信機材のセッティング



(写真5) ファッションショー



(写真6) 小物販売



(グラフ1) 成果 (指導前後の比較)

ファッションショーにおける取組について

ファッションショーを実施するまでの具体的な取り組みは、①著作権講習会②衣装の検討③ショー構成の発案・課題検討④成果発表である。まず著作権講習会では、配信のプロの講師を招いて著作権について学習することで、ファッションショーで使用する音楽も知的財産で保護されることを知り、知的財産の概念を理解し身近な存在にすることができた。衣装の検討については、衣装のアイデアが、知識・経験や材料の組み合わせで生み出すことができるものであり、日常生活で経験したことのすべてがアイデアのきっかけになることを知ることに繋がった。ショー構成の発案については、音楽や衣装構成、照明構成をグループで検討する中で、自分で考えたアイデアが既存のものでないか、情報の収集、整理・分析を行うことで自ら学ぶ良い機会となった。成果発表ではファッションショーを開催し、ライブ配信を行った。実際に自分たちのショーをライブで配信することで、意識が高まり、良い学習の場となった。その後もショーの反省を生かし、今後も著作権等の知的財産を意識していくとともに、創意工夫をもって様々な活動に臨む意欲を持つことが出来ることになった。



	・選択科目『服飾手芸』で予定していた医療帽子開発が未実施となり、来年度に向け授業計画の再構築が課題である。
今後の展望	・本校では、魅力ある学校づくりに向けてカリキュラム全体の見直しを進めている。来年度以降は、地域資源を生かした本校独自の学校設定科目や特色ある授業の創設に向け、シラバスの開発を検討している。その中に、これまで培ってきた知財教育の視点を組み込み、家庭科を主体とした先進的な開発授業を体系的に位置付けることで、本校でしか学べない学習環境の構築を目指す。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



田辺市商工会青年部との商談会（写真1）



フェーズフリー商品『寝袋』の開発（写真2）



10/10 関西万博で発表、準グランプリ受賞（写真3）



天王寺 MIO に AED シート 24 個を納品（写真4）



白浜温泉旅館組合に麦わらストローを納品（写真5）



NHK 和歌山による麦わらストローの取材（写真6）

（特記すべき取組と成果）AED ハートフルシート TM～旅客機設置に向けて～

12月18日（木）、文部科学省総合教育政策局男女共同参画社会学習・安全課の安全教育調査官が、本校のAED ハートフルシート製作活動を視察された。令和6年3月発行の指導参考資料集『実践的な防災教育の手引き 中学校・高等学校編』164ページに「女性に安心して使える『AEDシート』の開発と普及」として本校の授業案が掲載されたこと、さらに兵庫県主催「1.17 防災未来賞ぼうさい甲子園」において10年連続受賞を続けていることが契機となり、来校が実現したものである。当日は生徒による製作の様子を参観いただき、懇談の中で本取組の意義について意見交換を行った。その結果、旅客機内への設置に向けた協力を得られることとなり、活動の社会的広がりが一層期待される成果となった。



今後の展望

今回は企業とのコラボレーションに挑戦したが、実現には多くの課題があることが明らかとなった。次回は、長期間使用しても破損しにくいグッズの設計に焦点を当て、既存製品がどのような構造や工程で制作されているのかを観察・分析する活動を取り入れたい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>

取組2 先人の知恵を知る！BASICゲームを作ってペーマガに応募しよう！



中身のゲームだけでなく PC も再現



作成したゲームは雑誌風にまとめ上げた



名前や普段使用している SNS を掲載し、名刺のデザインでも自分らしさをアピール

取組3 生成 AI 時代の"創作"を問い直す！それは"模倣か？創造か？"



生成 AI の特徴を比較できるシステムを構築した。

取組1 さらにパワーアップ！
デザインの力で千葉県の銭湯を救え！

「街の風呂屋」である一般公衆浴場（いわゆる銭湯）は年々数を減らしている現状がある。そこで、昨年度のより、千葉県公衆浴場業生活衛生業組合との共同企画として、銭湯の来場者数増加を目標とし、対象の銭湯の数を大幅に増やし、今年もイベントを開催しました。柏の葉高校情報理数科3年生の選択授業である「情報デザイン」において、関東近郊の銭湯マニアを千葉県の銭湯に集結させるべく、「ちょっと不思議なノベルティグッズ制作」をテーマに、巷でよくみるものとは少し違ったノベルティグッズの企画・制作を行ないました。



▲ 実際のイベントポスター

コラボがスタートする前に、松戸市の中央福祉センターへコラボ企画の説明グッズをご紹介しに伺い、併せて広報面でのご協力もいただきました。一人一人、自分の銭湯グッズを一生懸命プレゼンしました。

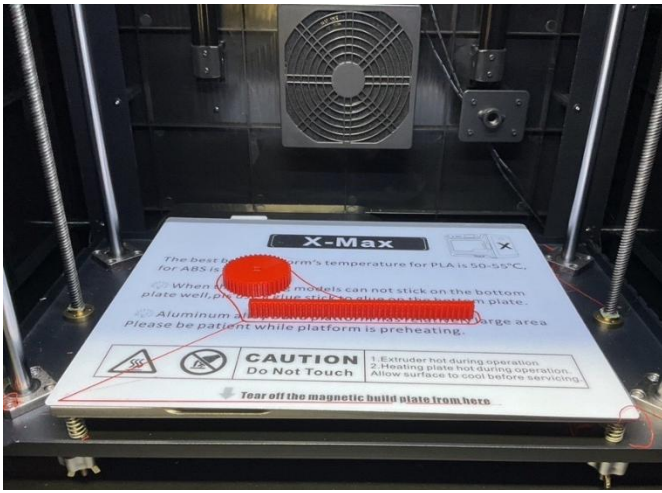


令和 7 年度 実践事例報告書

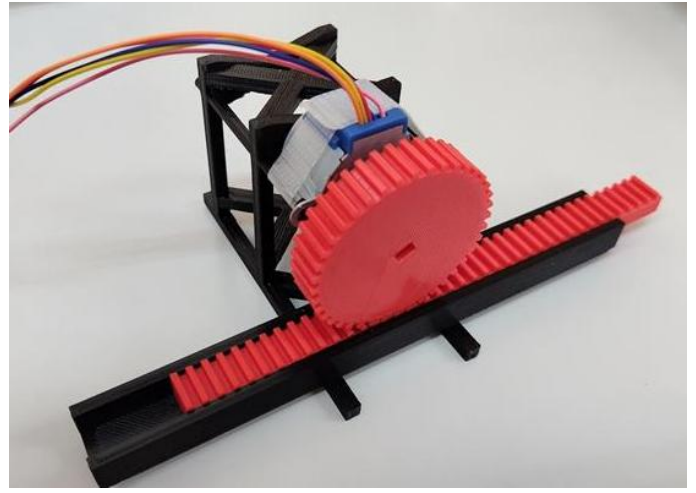
学校番号	情 02	学校名	千葉県立袖ヶ浦高等学校	担当教員名	阿部 俊人
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	3D プリンタで印刷するグッズを作製	情報科コミュニケーション科 3年・情報実習	1,3,7,8,10,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②					<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③					<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④					<input type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				<input type="checkbox"/> (9)手続の理解	
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	やや不十分（5割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・本来であれば実践事例が2つあったが、1つしか実践できなかったため。 ・IPePlatのサイトを参考に、動画を見せながら授業を行ったことで、意匠権に関心を持つ生徒の割合が26%から47%に向上。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・「自分の作品はオリジナルであるか」を考えるようになり、創作物に権利が付随することを理解し、他者のデータやデザインを無断で使うことが問題になることを認識するようになった。アンケートから、意匠権の内容を理解できなかった生徒が当初の14名から4名にまで減少した。 ・ネット上の3Dモデルや素材を利用する際、ライセンスや利用条件を確認する習慣が身についた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	①3Dプリンタで印刷するグッズを作製				
成果内容	・実際にモデリングデータを作成して出力する体験により、著作権や意匠権といった権利の対象が具体的にイメージできた。 ・3Dプリンタで造形した、立体物のデザインが法的に守られる対象であることを実感できた。				
生徒・学生に見られた変化	・多くの生徒は著作権や特許は知っていても、製品の形状やデザインが保護される「意匠権」については認識が薄かったが、3Dプリンタで造形した、立体物のデザインが法的に守られる対象であることを実感できた。 ・「ネットで見つけたデータは自由に使える」という認識が変わり、ライセンス確認の習慣が身についた。				
その根拠	・アンケートの結果や自由記述による生徒意見				
課題・反省点	・知財教育は専門性が高く、教員自身が知的財産権に関する知識を十分に持っていない場合が多いため、外部に頼ることが前提になってしまう。				
今後の展望	・教員向けに知財教育の基礎知識や指導法を学ぶ研修を実施し、現場での指導力を高め、継続的な専門機関との連携を目指し最新の知財情報を共有する仕組みを構築する。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

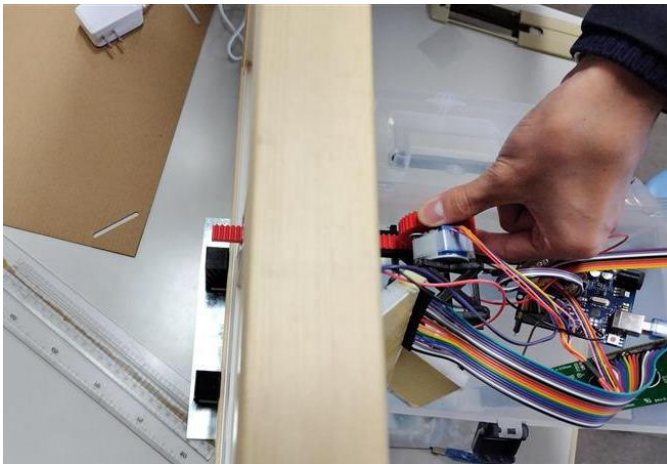
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



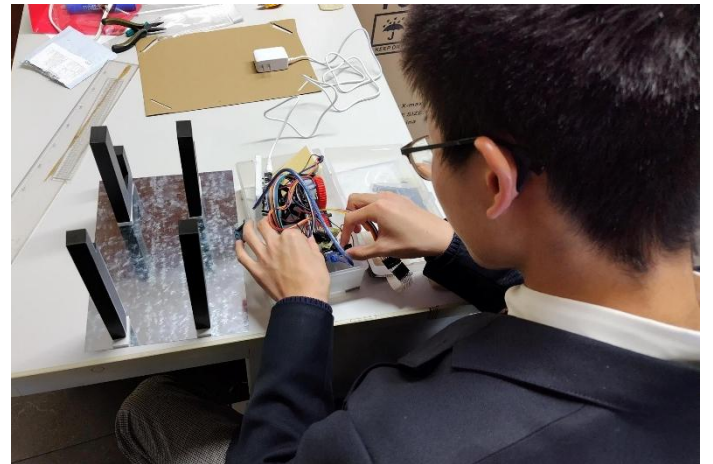
3D プリンタの制作風景



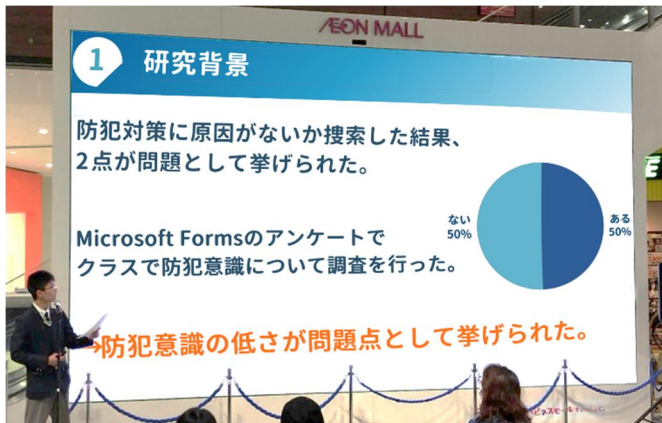
完成した作品



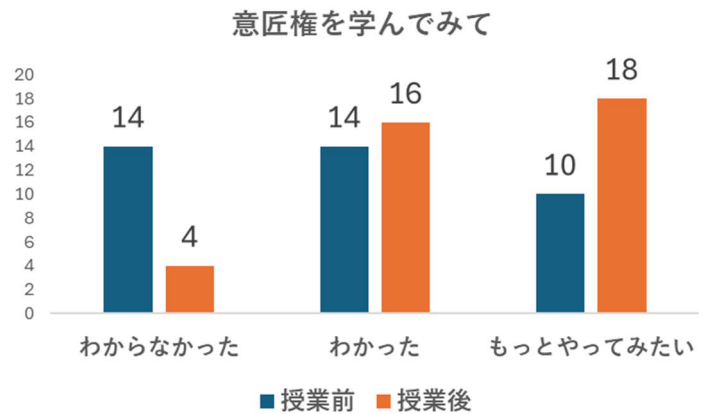
作品を扉の模型に接続



開錠システムとの接続



イオンモールでの発表



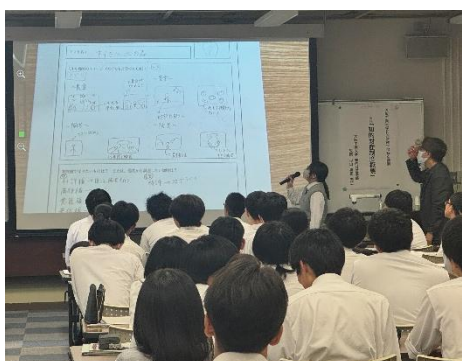
授業前・授業後のアンケート結果

作品制作から課題解決へと発展した

本校には「情報コミュニケーション科」という専門学科があり、毎年3年生による課題研究発表会を実施しています。今回の発表では、オリジナルデザイン制作から発展し、自らのデザインを活用した教室の施錠システムを開発した生徒もおり、非常に有意義な活動となりました。本年度は意匠権を中心に学習しましたが、特許権や商標権にも関心を持つ生徒が増えてきています。今後は、こうした生徒に向けて知的財産権全般を扱う授業をさらに充実させていきたいと考えています。



課題研究発表会での発表の様子



(写真1) ワークショップ風景



(写真2) 中学吹奏楽とのコラボ風景

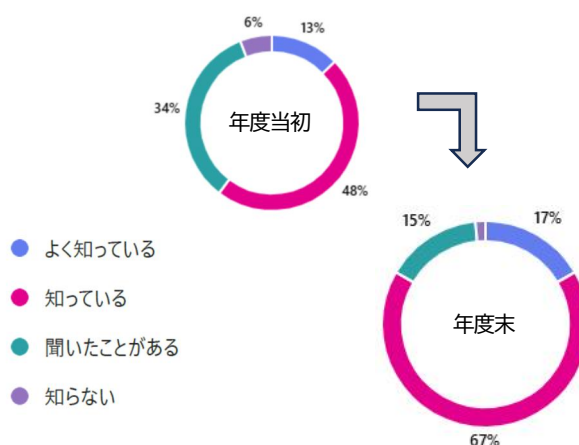


(写真3) 天下一品コラボパッケージ

知的財産とは	知財とビジネス
知財の役割と必要な知識	ビジネスの目的
知的財産とは何か?	画期的な製品・サービス
知的財産の対象は多岐にわたる	過去の「発明と事業」
分野ごとに知的財産は存在する	現代の「発明と事業」
知的財産による保護の必要性	知的財産権と活用モデル
無形財産は簡単に盗まれてしまう	知財活用モデル②(クリエイター視点)
知的財産が保護されていないと	企業の場合: 戦略的マネジメント
知財権の種類(保護対象と保護期間)	企業と知財戦略
知的財産の全体像	ビジネスの目的を成功へ導く知財
知的財産を法律で保護する理由	今回のまとめ
特許制度の目的	ワークに取り組んでみましょう
知財権を取得すると何が出来るか?	
知的財産がもたらす効果	
知財活用モデル①(知的創造サイクル)	

(表1) 講演「知的財産制度概要」の指導内容

知的財産権を知っていますか?



(グラフ1) 知財に対する認知状況の変化

ドローンショー開催に向けての取組について

ドローンショーは最新のテクノロジーと芸術表現を融合させた新しいエンターテインメントである。今回200台のドローンをプログラムにより制御した。光と動きで夜空に描かれる映像は、空中に広がるデジタルアートといえる。本取組は、技術と創造性の可能性を探究する中で、知的財産権について学習した。今後、観光や地域活性化への応用だけでなく、未来のイ演出やベント演出や空間表現の研究につなげていく予定である。

複数のドローンを同期させて描く光の軌跡や飛行プログラムは、新たな著作物としての可能性を秘めている。本取組でドローンをプログラミングで制御し、技術的な取組と共に、運用にかかわる法的課題としてプログラムの特許および著作物性を探究した。



令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	情 04	学校名	大分県立情報科学高等学校	担当教員名	中尾翔太郎
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	大分県版かりゆしウェアの開発	未来創造部	1,3,6,7	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	大分県の魅力発信や学校マスコットのグッズ開発	デジタル創造科 2年生	1,2,3,4,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	大人対象生成 AI 体験講座	デジタル創造科 3年生	7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	工業技術基礎「知財学習」	デジタル創造科 1年生	1,2,3,5,6,7,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥					<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨				活用	<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩					<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	計画した7つの取組みのうち、4つは実行することができた。また、その活動の中で計画段階では想定していなかった、大分県のグッズ製作や生成 AI 体験講座など、あらたな活動にも挑戦することができたため。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	今年度は、大分県版かりゆしウェア（写真1）をデザイン違いで3着、生成 AI 体験講座の教材、大分県の魅力発信グッズを6種類（写真2）、デジタル絵本（写真3）はSDGsをテーマとした5冊、アイデア保護をテーマとした1冊の計6冊を現在制作中である。これらの活動では、外部での発表、大人との交流など、アウトプットを意識した。生徒の意欲面に大きな変化があり、参加生徒26名全員が授業時間外にも自主的に活動へ取り組み、現在では指示を待つのではなく、生徒同士の意見交換や役割分担など、主体的に学習を進める姿が定着している。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	③大人対象生成 AI 体験講座				
成果内容	生成 AI パイロット校で学んだことを生かし、大人を対象に生成 AI 体験講座「はじめまして、生成 AI」（写真4・5）を生徒が計画・実施した。1回90分の講座を2回実施し、延べ20名の参加があった。前半40分は生成 AI の概要や高校生の活用方法を説明し、後半は画像生成体験、対話型生成 AI を用いて旅行行程の作成、参加者の要望に沿った体験を実施した。生成 AI の体験のみでなく、危険性や著作権についても説明した。				
生徒・学生に見られた変化	教材を作成するにあたり、意見交流や情報収集、対象に合わせた内容を検討する力が身に付いた。事前に教員に実施して内容を確認する、事後のふりかえりをどのようにするかなど、前後の活動も踏まえて実施することができた。生成 AI の著作権については、事例も少ないため理解するのが難しいが、文化庁の資料などを参考にしながら準備を進め、出力されたもの・与えるデータそれぞれの著作権について考えることができた。				
その根拠	実施後のアンケート結果（グラフ1）を見ると「内容が理解できた」95%、「今後、生成 AI を使ってみる」95%という回答が得られ、自由記述の内容も「生徒の説明が分かりやすかった」「危険性や著作権についても考えることができた」といった記述が見られた。これは生徒が意欲的に活動に取り組み、内容を理解した上で教材準備・講座の実施ができていたためと考えられる。				
課題・反省点	生成 AI に関する著作権などの権利については担当教員の理解も未熟であり、非の打ち所がない内容であるかという自信がない。実際の講座でも、踏み込んだ内容までは伝えられなかった。学校内でも内容を共有して相談をしたが、どの教員も確信までには至っていないようである。生成 AI に関する権利については動向を伺いながら、事例や判例を参考にし、有識者からも意見をもらう必要があると考えられる。				
今後の展望	アンケート以外にも「また参加したい」「知人を連れていきたい」「話を聞いて私も参加したい」という連絡が学校にあり、社会のニーズがあることが確認された。生成 AI の普及が進む中で権利を意識せずに利用する人も増えていくと予想できる。そのため、教員に向けた講座を開催し、生成 AI の活用や権利について学んだ先生が授業を行い、子どもたちが権利を考えながら生成 AI を利活用できるようにしていきたい。				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) きちょくれウェア



(写真2) 大分県魅力発信グッズ案

『やぎのゆうびん屋さん』
内容：SDGs16番目の平和と公正を
全ての人の目標について
工夫：絶滅危惧種の動物たちに
焦点を当てた内容。

『空との約束』
内容：SDGs13番目の気候変動に
具体的な対策について
工夫：小さい子どもに親しみを
持ってもらうための絵

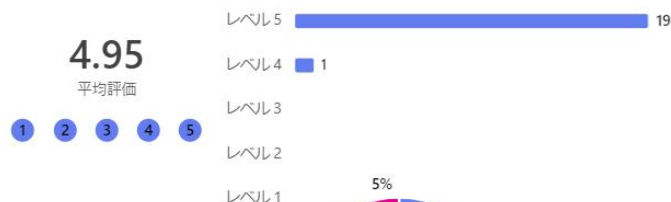
『アイデアの誕生日』
内容：アイデア出すことで人や社会
をよくすることができる
工夫：子どもがアイデアを出そう、
大切にしようとする物語

(写真3) 製作中のデジタル絵本



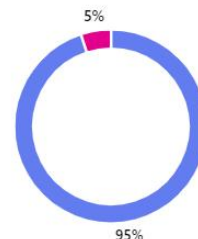
(写真4) 「はじめまして、生成AI」の様子

4. 高校生の説明や体験内容はわかりやすかったですか？



5. 今後、生成AIを使ってみますか？

- すぐにも使ってみようと思う 19
- 機会があれば使おうと思う 1
- 使おうとは思わない 0
- 絶対に使わない 0



(グラフ1) アンケート結果

(特記すべき取組と成果) 大人向け生成AI体験講座について

高校生が大人を相手に授業、「はじめまして、生成AI」を実施

大分県立情報科学高等学校は生成AIパイロット校の認定を受けており、学校活動全般で生成AIを活用している。本校で学んだことを生かし、大人を対象にした生成AI体験講座「はじめまして、生成AI」を生徒が計画・実施した。広報活動用のチラシや動画を作成し、学校のHPや公式Instagramに掲載して広報活動を行った。また、先生方の力も借りて、大分合同新聞や近隣の公民館などでも宣伝を行った。

当日は20名が参加し、講座は2回に分けて実施した。講座は「生成AIを楽しく、かつ安全に活用できるようになること」を目標とした。前半40分で生成AIの仕組みや注意すべき危険性について解説し、後半50分では生成AIの体験活動を行う、計90分の構成とした。生成AIの使い方のみではなく、著作権などについても情報を収集・整理し、文化庁の資料を参考にしながら内容を確認した上でまとめ、説明をした。体験活動では、参加者一人ひとりの「やってみたいこと」や興味・関心に寄り添い、高校生がサポートする形で進めた。アンケートでは「楽しかった」という感想が多く寄せられ、参加者が生成AIを活用するきっかけとなる講習会を実施できたと考えられる。



(写真5) 生成AIと著作権について説明をする生徒

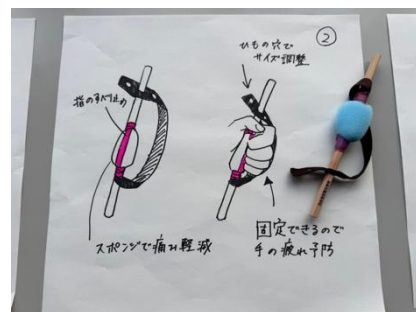
1.1 「知的財産法」とは何か？

- ・「知的財産」 = 「形のないもの(無体物)」
(⇔ 「形のあるもの(有体物)」)
- ・「物」には「形のあるもの」と「形のないもの」がある
⇔ 「形のあるもの」という側面と、「形のないもの」という側面がある
... ということか？
- ・「知的財産法」は、このような「知的財産」を守るための制度である
... なぜこのような制度が必要なのか？ (→1.5)

(写真1) 知財学習セミナー

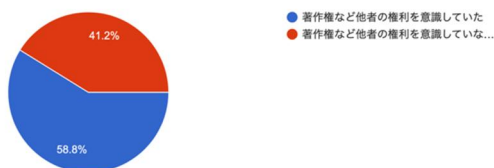


(写真2) 知財学習セミナー

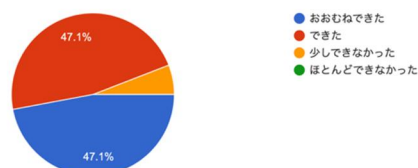


(写真3・4・5) ユニバーサルデザインワークショップ

知財学習実施前 「知的財産」という言葉を知っているかにかかわらず他者の権利を意識していたか
17件の回答



知財学習実施後 知的財産について理解することができたか
17件の回答



自助具制作を通して、創造することの楽しさを感じたか
17件の回答



自助具制作を通して、創造することの楽しさを感じたか
17件の回答



(図) 事前・事後アンケートより一部抜粋

ユニバーサルデザインを考える・作る

シリコンテープを活用した自助具制作のワークショップを開催。実施にあたり、ニッシリ株式会社に協力を依頼した。介護実習を通して気づいた課題についてグループで共有し、どんな自助具があったらよいかアイデアを出し合い、ユニバーサルテープを使って制作をした。既製品の自助具と違い、本当にその人に合った自助具にできることで、より自立支援や生活の質の向上につながる。ICTや介護DXなどデジタル化が進むなかで、アナログの良さを実感することができた。また、介護職員の創意・工夫で利用者の生活の質を高めることができることを体験的に学ぶことができたことが特に良かった。



(写真) ユニバーサルで制作した自助具を実際に利用者が使用



ブランディングの基本講座の様子

<写真・図表等掲載欄>



フレイル予防体操の実践の様子

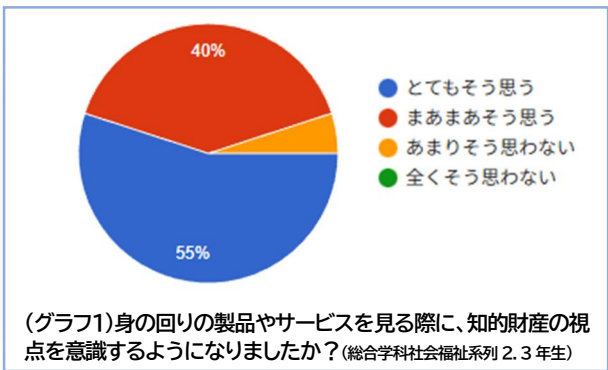


側面

フレイル予防体操継続のための、
動機づけ支援の制作物



作成した歌詞（一部）



【生徒の感想】

- ・介護の魅力発信動画作成や、作詞・作曲、フレイル予防体操を通し、私たちに知財があり、作り出せることについて改めて理解することができた。
- ・知的財産はあまり身の回りにはないと感じていたが、人々の知的創造活動の成果物はすべて知的財産であると言う事を知ったので、身の回りの知財を探してみたいと思った。また、自分も知財の創造者になれるように日々の気づきを大切にしたいと感じた。

(特記すべき取組と成果) 「フレイル予防体操の歌」の作詞作曲とそれを用いたの取組について

「フレイル予防体操の歌～TSURUOKA～」

総合学科社会福祉系列では、「いきいき高齢者元気アッププロジェクト」として、高校生と地域と一緒に介護予防体操の研究・普及活動を行っています。平成27年度に「介護予防体操の歌～TSURUOKA～」を作詞作曲し、その歌に合わせて体操を考え、実践活動を引き継いでいます。令和7年度は、音楽健康指導士の指導を仰ぎながら鶴岡の魅力の詰まった新たな歌を作詞、作曲しました。

フレイル予防は、日々の積み重ねと継続が大切です。動機づけ支援のために何ができるか考え、トイレットペーパーの包み紙やポケットティッシュにデザインし、モチベーションを維持できるよう制作しました。高校生と一緒に体操した後、家庭での体操を継続していただくとよう声掛けを行いました。

トイレは毎日使用する場所です。目にとまりやすくモチベーション向上に好評です。制作の依頼先は生徒の介護実習施設でもある障がい福祉サービス事業所です。



音楽健康指導士による講座

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	専 01	学校名	一関工業高等専門学校	担当教員名	八戸 俊貴
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産管理技能検定 3 級対策講座の実施	全学生、放課後に全 6 回実施	(10),(12),(13)	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	パテントコンテスト応募支援	未来創造工学科 5 年・実践技術 II (授業)	(1),(3),(4),(7),(9)		<input type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	知財講演会の実施	未来創造工学科 3 年・特別活動	(7),(8),(9),(10)		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④					<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤					<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知的財産管理技能検定 3 級に関して試験の実施は問題なかったが、受験者数が昨年度の数値程度である 13 名であった。本来であれば大幅増を期待していたがそれが実現できなかった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	知的財産管理技能検定 3 級対策講座については滞りなく実施することができたが、対面で実施した際には多くても 8 名程度というような状況であった。メールなどを利用して再三学生には周知していたが思ったほど受験者数が増えなかった。さらに公式テキストの貸し出しについても 5 名程度であった。 パテントコンテスト応募支援については、最終的な応募件数は 8 件になった。昨年度は 7 件応募であったことから応募件数は微増である。昨年度は受賞無しであったが、今年度は 1 件受賞することができた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②				
成果内容	パテントコンテストに関して、応募数は昨年度から微増（昨年度は 7 件、今年度は 8 件）であったが、事前審査通過が 3 件（昨年度は 1 件のみ）あり、さらにその中から 1 件受賞することができた。これらの結果から、学生のコンテスト参加における意欲向上があったと推察している。そして意欲が向上することにより、創造性や発想・技術を表現する能力、観察力が養われたと考えている。				
生徒・学生に見られた変化	パテントコンテスト参加に対する意識向上				
その根拠	パテントコンテストへ応募するグループの選抜は提出書類の内容をチェックした上で教員が選定している。基本的には書類の完成度を目安としているが、昨年度よりも 1 件のみではあるが応募可能なレベルの内容が増加した。さらに事前審査の通過件数も増加した。（昨年度は 1 件であったが今年度は 3 件）				
課題・反省点	過去には 10 件以上応募したこともあり、複数件受賞した年もあった。また事前審査に 3 件通過したにもかかわらず、最終的な受賞は 1 件にとどまったことから、あと一歩届かなかったという内容が 2 件あったと判断できる。そのため、書類作成に関する指導をもっと充実させれば複数件の受賞につながったのではないかと考えている。				
今後の展望	書類作成に関する指導方法や指導内容の見直し				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

パテントコンテスト応募支援について

となる（これは首周りの寸法ではなく服の寸法である）。

表1 UNIQLOの商品サイズ[1] (単位:cm)

	XS	S	M	L
着丈	67	69	71	73
桁丈	45	46.5	48.5	50.5
肩幅	44.5	46	47.5	49
身幅	51	54	57	60
袖丈	23	23.5	25	26
首周り	39.5		41.5	43.5

	XL	XXL	3XL	4XL
着丈	76	77	78	79
桁丈	52.5	53.5	54.5	56
肩幅	51	53	55	57
身幅	64	68	72	76
袖丈	27		27.5	
首周り	45.5	47.5	49.5	51.5

次に類似の発明品との違い、新規性などの検討を行う。

図1の類似品は金属製でハネを用いることでハンガーの肩の部分曲げることが可能となり衣服の褶ぐりを伸ばさずに出し入れすることができる発明品である。この発明品はハネを用いているが、金属の特性上曲げすぎると完全には元に戻らなくなることや、衣服の中から出すときに操作が面倒で、両手を使わないとハンガーを曲げられないという欠点がある。この発明品と今回 30 班が発明したハンガーを比べると、ハンガーを曲げる方向などは類似性があるが曲げるための機構などに新規性があると考える。

図1 特開 2025-081952 [2]
2 / 11

図2の類似品はハンガーアームを握ることでハンガーの横幅が狭くなり衣服から出し入れしやすくなるという発明である。この発明は身長が低い女性や子どもが使用する場合、物干し竿にかかった状態、つまり自分の背より高いところにハンガーがかかっている場合にそのままの状態ではハンガーを握って折り曲げることが難しく、一度物干し竿から取り外してから折り曲げる必要があるため使用しづらいといった問題点がある。さらにハンガーの材料によっては握力が弱いとそもそも折り曲げられないという欠点がある。

図2 特開 2016-165430 [3]

図3の類似品は、アームの左右の開閉を連動させ、加えてアームプレート(折りたたむための軸)の回転と移動を連動させることによってコンパクトに収納することを可能とした発明である。このハンガーは、コンパクトに収納することに重点が置かれているため、ハンガーを折りたたんでいる状態からハンガーを掛ける場合、褶ぐりハンガーを入れてから開く時の動作がしづらいと考える。

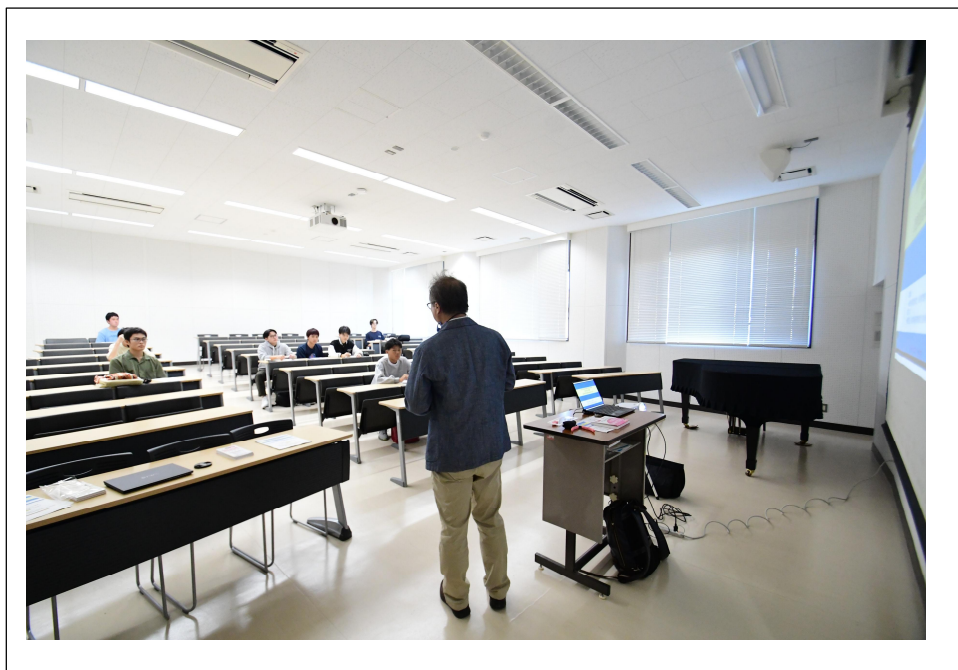
図3 特開 2024-034996[4]

図4の類似品はフック部を持ち上げる（操作部 300 をスライドすることによってハンガーアームが内側に折りたたまれ横幅が狭くなるという発明である。この発明は洗濯物の重みによって物干し竿にかけた際にフックが引かれ勝手にアームが折りたたまれ衣服が落ちてしまう可能性がある。またフックを引く際片手でフックを引き片手でそれ以外の部分を持つ必要があり両手が塞がってしまううまく洗濯物をとれない可能性も考えられる。

3 / 11

パテントコンテスト発明提出書抜粋（受賞したグループのもの）（図1）

知的財産管理技能検定 3級試験対策講座について



知的財産管理技能検定 3級試験対策講座第1回の様相（写真1）

令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	専 02	学校名	富山高等専門学校	担当教員名	
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）		<input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 学校の特徴や専門性の強化・生徒募集		
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	キャリアビジョン・キャリアプラン・知的財産を学ぶ講演会(2回)	第2学年学生・講演会実施	3,4,6,7,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	第13回高校生ビジネスプラングランプリへのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の2チーム	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	第12回マイナビキャリア甲子園へのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の4名	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	第3回高専起業家サミットへのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の2チーム（うち1チームは他高専との連携）	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	課題発見型インターンシップの調整	4年生の学生対象	1,3,5,6,8		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	学生の参画を多く進めることができたため。 一部のテーマについては調査段階でとどまったため、概ね達成とした。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	(1) 2年生向けのセミナーについては全学科240名の参加 (2) 同行人等の活動については、20名の学生が参画 (3) 課題発見型インターンシップについては企業側との調整にとどまったが、北九州および大分高専との連携についても調整を進めた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	①				
成果内容	・2学年では夏季に1回、冬季に1回の講演会(学習会)を開催し、キャリアプラン、アントレプレナーシップ、知財に関する基本的な知識に関して連続性のある内容で指導を行ったことで、これらの内容に対する学生の関心を高めることができた。 ・起業時点では、何か独自のモノやサービスが手元にあるということだが、それらを知的財産で守るという認識の重要性や、キャリアの考え方として「攻めと守りの適切なバランス」についての気づきを促す機会、および、既存カリキュラム内では提供しきれない知識を学ぶ機会を創出できた。				
生徒・学生に見られた変化	・高専で学ぶことを社会で活用し、今後いかに個々のビジネススキルとして発展行かすべきか、またそのプランのもち方について関心を高めた学生が多かった。特に知財やスタートアップに関して関心が高まった。				
その根拠	・事後アンケート（5件法及び自由記述）の分析により、上記の傾向が観察された。 〈夏季/n=161〉アンケート結果まとめ（下図2参照） 〈冬季/n=124〉 3割強の学生（n=46）が、主体的なキャリア形成をしていく中での知的財産の重要性を再認識し、学生生活・研究活動を行っていくうえで、決して他人ごとではなく、日頃から研究ノートやアイデアノート、議事録などの些細な記録を適切に行うことや、各種ビジネスプランコンテストなど、外部に自分のアイデアを無防備に出すことのリスクを考慮しておくことの必要性和重要性に気づけたと回答していた。 また、講演内容に、①企業にも「アントレプレナー」と「イントレプレナー」があるということ、②年間の起業件数は15万社ということ、③仕事とは「興味関心>好きなこと>得意なこと」という自身のバイアスを認知しながら、その内の「好きなことや得意なこと、社会の誰かの役に立つこと・人の心を動かすこと」の重なる部分、という内容を受け、一見他人事に思える「起業」、それに伴う知的財産の管理ノウハウなど、自分もいずれは当事者になるかもしれないということがわかり、これからの進路について、あらゆる可能性を模索しながら考えていきたいと考えている学生が半数以上見られた。				
課題・反省点	・単年度で数回の取り組みでは、特にキャリアビジョンの形成に関して十分であるとは言えず、複数年で学年や習熟段階に応じた系統的な指導を可能とするカリキュラムの形成が必要である。				

今後の展望

・5年間の教育課程の中でキャリア教育、アントレプレナーシップ教育、知的財産に関わる教育がなされるよう、学年ごとに実施内容を系統的に配置したカリキュラムや指導計画を作成したい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 2学年講演会の写真 (写真2) ベスト100選出の学生チーム (写真3) 校長先生へのプレゼン



(写真4) コンテスト応募指導の様子 (図1) 高専起業家サミット提出プラン事例

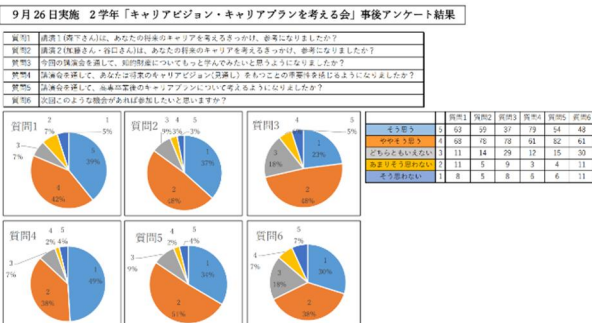
知的財産とスタートアップ人材・コンテスト応募の取り組み

近年全国高専では、スタートアップ人材の創出を目指したアントレプレナーシップを行っているが、技術的な課題に関連する特許にとどまらず、商標や実用新案等、種々の知的財産の仕組みを理解することも重要である。また特許明細などの構造を参考にしたアイデアの構造化も重要なスキルである。

そこで本年度は上記目的達成の環境整備を目指して、以下の取り組みをおこなった。

- (1) スタートアップ人材によるキャリアセミナー
- (2) 種々のコンテスト応募チャレンジ
- (3) 課題発見型インターンシップ

これらの取り組みについて、卒業生でスタートアップを起業している人材のサポートをいただきつつ、いくつかのコンテストで上位入賞を果たした。



(図2) 夏季キャリア講演会アンケート結果まとめ

Ⅲ. 令和7年度 年間活動概要

参加校(65校)の取組内容は以下のとおり。

- (1) 予め「取組計画書」を作成し、同計画に基づき、下記項目(2) のような活動を行った。
- (2) 知財マインドをもち、知財人材の育成に重点を置いた取組の内容は、各参加校においてそれぞれ策定したが、指導内容の例として次の項目が挙げられる。
 - a) 課題解決の体験(創作活動・課題研究・商品開発)
 - b) 外部講師を招聘して知的財産に関する講演会・セミナーを開催
 - c) 研究活動による創作内容に関する知的財産情報の活用、権利化への試み等、知的財産権手続に関するプロセスの体験
 - d) 知的財産の尊重の学習
 - e) 各地域において、地元企業・諸団体・他校と連携して、取組の支援を受け、また、知的財産を普及・活用する活動
 - f) 学習用資料を用いた指導活動
- (3) 参加校相互の連絡・情報交換の場として、さらには成果発表の場として、事業説明会、研究会、年次報告会を行った。

1-1. 年間活動概要

令和7年度の活動概要は以下のとおりである。

令和7年度の活動概要

事業活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	取組計画書提出	●	●										
2	支出計画書提出	●	●										
3	事業説明会(ハイブリッドにて開催)	●											
4	研究会開催(ハイブリッドにて開催)					●							
5	(次年度参加校の公募)							●	●				
6	年間指導・実践事例報告書提出									●	●		
7	年次報告会(ハイブリッドにて開催) アンケート提出										●		
8	会計帳簿提出										●	●	
9	活動終了												●

1-2. 第1回事業運営連絡会

【実施概要】

第1回事業運営連絡会の実施概要は以下の通り。

概要:事業説明会の実施内容及び事業全体を踏まえた意見交換、その他

日時/場所:

日時:令和7年4月6日(日)10:00~11:50

場所:WEBを利用したオンライン開催

【参加者】

◆アドバイザー（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授
2	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
3	アドバイザー 大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授
4	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橋高等学校 副校長
5	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立大分工業高等学校 教諭
6	アドバイザー 成富 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
7	アドバイザー 野口 大輔	東海大学付属高輪台高等学校教諭
8	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校教諭
9	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭

以上9名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	遠藤 秀明	人材開発統括監
2	吉田 知美	知財人材部長
3	蓮池 睦人	知財人材部部長代理(人材育成環境整備担当)
4	大野 瑛子	知財人材部主査(人材育成環境整備担当)
5	土村 真理子	知財人材部(人材育成環境整備担当)

以上5名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会]（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	武田 一彦	調査研究グループ参事
2	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
3	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム

以上3名

令和7年度「知財力開発校支援事業」第1回事業運営連絡会

次 第

1. 日時:令和7年4月6日(日)10:30~11:50

2. 場所:WEBを利用したリモート開催

3. 議事

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| (1)開会挨拶 | 10:00~10:05 (5分) |
| 独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 遠藤 秀明 | |
| (2)令和7年度アドバイザーのご紹介・ご挨拶 | 10:05~10:15 (10分) |
| (3)今年度の事業概要と方針について | 10:15~10:35 (20分) |
| 独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美 | |
| (4)事業説明会の進め方及び担当制について | 10:35~11:15 (40分) |
| (5)その他 | 11:15~11:45 (30分) |
| 独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人 | |
| (6)閉会挨拶 | 11:45~11:50 (5分) |
| 独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美 | |

1-3. 事業説明会

【実施概要】

事業説明会の実施概要は以下の通り。

概要: 知財力開発支援事業の開始に当たり、参加校全65校を対象とした事業説明会を開催した。

本事業説明会では、本事業の説明を行うと共に、参加校による知財学習計画について発表や情報交換を行った。

日時/場所/参加校:

日時 : 令和7年4月22日(月)10:30~16:35

場所 : 東京国際フォーラム+WEBを利用したオンライン開催

参加校数: 48校

【参加者】

◆アドバイザー (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授
2	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
3	アドバイザー 大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授
4	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立中津東高等学校 指導教諭
5	アドバイザー 成畠 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
6	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校 教諭
7	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭
8	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橘高等学校 副校長
9	アドバイザー 野口 大輔	東海大学附属高輪台高等学校 教諭

以上9名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館 (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	渡辺 治	理事長
2	遠藤 秀明	人材開発統括監
3	吉田 知美	知財人材部長
4	蓮池 睦人	知財人材部 部長代理(人材育成環境整備担当)
5	大野 瑛子	知財人材部 主査(人材育成環境整備担当)
6	土村 真理子	知財人材部(人材育成環境整備担当)

以上6名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会] (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	小山 和美	知的財産情報サービスグループ部長
2	武田 一彦	調査研究グループ参事
3	寺倉 琢也	調査研究グループ調査支援チーム課長
4	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
5	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム課長補佐
6	赤井 寛子	知的財産情報サービスグループ研修チーム課長補佐
7	内田 圭太	総務グループ総務チーム主事
8	熊谷 安純	総務グループ総務チーム職員
9	伊藤 桃寧	知的財産情報サービスグループ研修チーム職員
10	餘吾 美夏生	調査研究グループ調査支援チーム職員

以上10名

令和7年度「知財力開発校支援事業」事業説明会

次 第

1. 日時:令和7年4月22日(月)10:30~16:35

2. 場所:東京国際フォーラム+WEBを利用したオンライン開催

3. 議事

全体会(1)

- | | |
|---|------------------|
| (1)開会挨拶 | 10:30~10:40 (10) |
| 独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 渡辺治 様 | |
| (2)来賓挨拶 | 10:40~10:45 (5) |
| 文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官
辻本 智加子 氏 | |
| (3)事業概要説明・今年度の方針について | 10:45~11:05 (20) |
| 独立行政法人 工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美
部長代理 蓮池 睦人 | |
| (4)本事業アドバイザーのご紹介 | 11:05~11:20 (15) |
| (5)満丸統括アドバイザー講演(全体向け講演) | 11:20~11:50 (30) |
| 統括アドバイザー:都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授 満丸 浩 氏 | |
| (6)閉会挨拶 | 11:50~11:55 (5) |
| 独立行政法人 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 遠藤秀明 | |

分科会(グループ別で実施)

- | | |
|---------------|-------------------|
| (7)グループ別 計画発表 | 14:55~16:35 (210) |
|---------------|-------------------|

1-4. 研究会事前調整会議

【実施概要】

研究会事前調整会議の実施概要は以下の通り。

概要:研究会の実施内容に関する意見交換、その他

日時/場所:

日時 :令和7年 6月28日(土)10:00~12:00

場所 :独立行政法人工業所有権情報・研修館 本部 会議室+WEBを利用したオンライン開催

【参加者】

◆アドバイザー (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授
2	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
3	アドバイザー 大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授
4	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立中津東高等学校 指導教諭
5	アドバイザー 成畠 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
6	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校 教諭
7	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭
8	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橘高等学校 副校長
9	アドバイザー 野口 大輔	東海大学付属高輪台高等学校 教諭

以上9名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館 (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	遠藤 秀明	人材開発統括監
2	吉田 知美	知財人材部長
3	蓮池 睦人	知財人材部 部長代理(人材育成環境整備担当)
4	大野 瑛子	知財人材部 主査(人材育成環境整備担当)
5	土村 真理子	知財人材部(人材育成環境整備担当)

以上5名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会] (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	武田 一彦	調査研究グループ参事
2	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
3	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム

以上3名

令和7年度「知財力開発校支援事業」第2回事業運営連絡会

次 第

1. 日時:令和7年6月28日(土)10:00~12:00

2. 場所:独立行政法人工業所有権情報・研修館 本部 会議室+WEBを利用したオンライン開催

3. 議事

(1)開会挨拶 10:00~10:05 (5分)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 遠藤 秀明

(2)研究会の進め方及び内容について 10:05~11:45 (100分)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人

(3)事務連絡 11:45~11:55 (10分)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人

(4)閉会挨拶 11:55~12:00 (5分)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美

1-5. 研究会

【実施概要】

研究会の実施概要は以下の通り。

概要:各校での日頃の知財学習の取組方法等について、情報交換・意見交換を行うとともに、この取組を通じて、知的財産の保護・権利の活用についての知識や、他校の取組を自校の知財学習へと活かす契機とすることを目的に、模擬授業やテーマ別、グループ別による討議を行った。なお、研究会の分科会では、参加校への助言をより充実したものとするため、担当アドバイザーの下でのグループ討議及び意見交換を行った。

日時/場所:

日時 :令和7年 8月 27日(水)10:20~17:00

場所 :東京国際フォーラム+WEBを利用したオンライン開催

参加校数:65校

【参加者】

◆アドバイザー（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授
2	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
3	アドバイザー 大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授
4	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立中津東高等学校 指導教諭
5	アドバイザー 成富 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
6	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校 教諭
7	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭
8	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橘高等学校 副校長
9	アドバイザー 野口 大輔	東海大学付属高輪台高等学校 教諭

以上9名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	渡辺 治	理事長
2	福田 聡	人材開発統括監
3	吉田 知美	知財人材部長
4	蓮池 睦人	知財人材部 部長代理(人材育成環境整備担当)
5	出口 昇	知財人材部 主査(人材育成環境整備担当)
6	土村 真理子	知財人材部(人材育成環境整備担当)

以上6名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会]（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	小山 和美	知的財産情報サービスグループ部長
2	武田 一彦	調査研究グループ参事
3	寺倉 琢也	調査研究グループ調査支援チーム課長
4	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
5	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム課長補佐
6	餘吾 美夏生	調査研究グループ調査支援チーム職員
7	赤井 寛子	知的財産情報サービスグループ研修チーム課長補佐
8	伊藤 桃寧	知的財産情報サービスグループ研修チーム職員
9	内田 圭太	総務グループ総務チーム主事

以上9名

令和7年度「知財力開発校支援事業」研究会

次 第

1. 日時:令和7年 8 月 27 日(火)10:20~17:00

2. 場所:ビジョンセンター品川アネックス+WEBを利用したオンライン開催

3. 議事

午前の部

(1)開会挨拶 10:20~10:30 (10)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 渡辺 治

(2)来賓挨拶 10:30~10:35 (5)
文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官
辻本 智加子 氏

(3)特別講演① 著作権関連セミナー 10:35~12:05 (90)
高樹町法律事務所 弁護士 小林 利明 氏

(昼休憩) 12:05~13:05 (60)

(4)特別講演② 企業講演 13:05~13:55 (30)
コクヨ株式会社 リスクマネジメント本部 法務部知的財産ユニット ユニット長 弁理士
黒田 智子 氏

(5)閉会挨拶 13:55~14:00 (5分)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 福田 聡

分科会

(6)テーマ別分科会 14:15~15:05 (50)
(A) 発知財学習を全学科の生徒へ!
(B) 生成 AI を活用した知財学習のヒント
(C) J-PlatPat の活用
(D) ブランディングと商標

(休憩・移動) 15:05~15:20 (15)

(7)ユニット別分科会 15:20~16:20 (60)

交流会

(8)交流会 16:30~17:00 (30)

1-6. 年次報告会事前調整会議

【実施概要】

事前調整会議の実施概要は以下の通り。

概要：年次報告会の実施内容に関する意見交換、その他

日時／場所：

日時：①令和7年11月17日(月)13:00～14:30

②令和7年11月22日(土)10:30～12:00

場所：WEBを利用したオンライン開催

【参加者】

◆アドバイザー（敬称略）

①令和7年11月17日(月)

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授

以上1名

②令和7年11月22日(土)

	氏名	所属・役職
1	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
2	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橘高等学校 副校長
3	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立中津東高等学校 指導教諭
4	アドバイザー 成富 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
5	アドバイザー 野口 大輔	東海大学付属高輪台高等学校 教諭
6	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校 教諭
7	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭

以上7名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略） ※両日程とも同じ参加者

	氏名	所属・役職
1	吉田 知美	知財人材部長
2	蓮池 睦人	知財人材部 部長代理（人材育成環境整備担当）
3	出口 昇	知財人材部 主査（人材育成環境整備担当）
4	土村 真理子	知財人材部（人材育成環境整備担当）

以上4名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会]（敬称略） ※両日程とも同じ参加者

	氏名	所属・役職
1	武田 一彦	調査研究グループ参事
2	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
3	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム課長補佐

以上3名

令和7年度「知財力開発校支援事業」年次報告会事前調整会議

次 第

1. 日時:①令和7年11月17日(月)13:00~14:30
②令和7年11月22日(土)10:30~12:00

2. 場所:WEBを利用したオンライン開催

3. 議事

- (1)開会挨拶 (5分)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美
- (2)年次報告会の進め方及び内容について (60分)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人
- 年次報告会の議事次第についてのご説明
 - 分科会の進め方についてのご相談
- (2)事務連絡 (20分)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人
- (3)閉会挨拶 (5分)
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 吉田 知美

1-7. 年次報告会

【実施概要】

年次報告会の実施概要は以下の通り。

概要:令和7年1月23日に年次報告会をWEBを併用した対面方式にて開催し、参加校の1年間の知財学習の取組について報告して発表を行った。

分科会では、各アドバイザーが進行役となり、各校から年間の取組についての状況(知的財産学習についての取組や、活動全体を総括しての成果、知的財産への理解)等をまとめたスライドを用いて報告が行われた。

分科会終了後の全体会では、閉会挨拶として満丸統括アドバイザーの進行により各アドバイザーからコメントが述べられた。

日時/場所:

日時 : 令和7年1月23日(金)10:30~17:00

場所 : ビジョンセンター品川アネックス+WEBを利用したオンライン開催

参加校数:65校

【参加者】

◆アドバイザー (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	統括アドバイザー 満丸 浩	都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授
2	アドバイザー 大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
3	アドバイザー 大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授
4	アドバイザー 佐藤 新太郎	大分県立中津東高等学校 指導教諭
5	アドバイザー 成富 雅人	茨城県立那珂湊高等学校 教諭
6	アドバイザー 藤田 祐二	静岡県立浜松工業高等学校 教諭
7	アドバイザー 若松 英治	宮城県工業高等学校 教諭
8	アドバイザー 親泊 寛昌	東京都立橘高等学校 副校長
9	アドバイザー 野口 大輔	東海大学付属高輪台高等学校 教諭

以上9名

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館 (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	渡辺 治	理事長
2	福田 聡	人材開発統括監
3	吉田 知美	知財人材部長
4	蓮池 睦人	知財人材部 部長代理(人材育成環境整備担当)
5	出口 昇	知財人材部 主査(人材育成環境整備担当)
6	土村 真理子	知財人材部(人材育成環境整備担当)

以上6名

◆運営事業者[一般社団法人発明推進協会] (敬称略)

	氏名	所属・役職
1	小山 和美	知的財産情報サービスグループ部長
2	武田 一彦	調査研究グループ参事
3	寺倉 琢也	調査研究グループ調査支援チーム課長
4	友繁 大	調査研究グループ調査支援チーム副長
5	真家 馨	調査研究グループ調査支援チーム課長補佐
6	餘吾 美夏生	調査研究グループ調査支援チーム職員
7	太田 百合子	知的財産情報サービスグループ研修チーム課長補佐
8	伊藤 桃寧	知的財産情報サービスグループ研修チーム職員
9	内田 圭太	総務グループ総務チーム主事

以上9名

令和7年度「知財力開発校支援事業」年次報告会

次 第

1. 日時:令和7年1月21日(火)10:30~16:05

2. 場所:東京国際フォーラム+WEBを利用したオンライン開催

3. 議事

全体会(1)

(1)開会挨拶 10:30~10:35 (5)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 渡辺 治

(2)来賓挨拶 10:35~10:40 (5)

文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官

辻本 智加子 氏

(3)事務連絡 10:40~11:00 (20)

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 部長代理 蓮池 睦人

分科会(グループ別で実施)

(5)グループ別討議 11:15~16:30 (315)

参加校からの年次報告

(内、昼休憩・途中休憩:80分間)

全体会(2)

(6)閉会挨拶 16:40~17:00 (20)

統括アドバイザー:都築教育学園 第一工科大学 工学部長・教授 満丸 浩 氏

